末日聖徒イエス・キリスト教会・2011年5月号

リアホナ

総大会の説教

75周年を迎える
教会福祉プログラム

3つの新しい神殿が
発表される

2011年5月20日発行（毎月1回20日発行）第13巻第5号　昭和42年12月18日第3種郵便物認可　ISSN 1344-8595

「わたしにあるものをあげよう」 ウォルター・レーン画

「生れながら足のきかない男が……毎日……宮の門のところに，置かれていた……。
彼は，ペテロとヨハネとが，宮にはいって行こうとしているのを見て，施しをこうた。……
ペテロが言った，『金銀はわたしには無い。しかし，わたしにあるものをあげよう。
ナザレ人イエス・キリストの名によって歩きなさい。』
こう言って〔ペテロはその足のきかない男の〕右手を取って起してやると，
足と，くるぶしとが，立ちどころに強く〔なった。〕」（使徒 3：2－3，6－7）

リアホナ 2011年5月号

Volume 13 • Number 5

第181回 年次総大会の概要

2011年4月2日土曜午前，一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——アラン・F・パッカー長老。閉会の祈り——デール・G・レンランド長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーグ，ライアン・マーフィー；オルガニスト——クレー・クリスチャンセン。「喜べ，主を」『賛美歌』32番；「神に栄え」『賛美歌』33番；"We Listen to a Prophet's Voice," *Hymns*, 22番，マーフィー編曲，未刊；「主は生けりと知る」『賛美歌』75番；"I Know That My Savior Loves Me," クレーマー／ベル作曲，マーフィー編曲，未刊；「山の上に」『賛美歌』2番，ウィルバーグ編曲，未刊

2011年4月2日土曜午後，一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ディーター・F・ウークトドルフ管長。開会の祈り——ケビン・W・ピアソン長老。閉会の祈り——マイケル・T・リングウッド長老。音楽——ブリガム・ヤング大学アイダホ校合同聖歌隊；指揮——エダ・アシュビー，ランドール・ケンプトン；オルガニスト——ボニー・グッドリフ。「主のみ言葉は」『賛美歌』46番，アシュビー編曲，未刊；「高きに満ちたる」『賛美歌』112番；"Press Forward, Saints," *Hymns*, 81番；"Let Zion in Her Beauty Rise," *Hymns*, 41番，ケンプトン編曲，未刊

2011年4月2日土曜夜，神権部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ラファエル・E・ピノ長老。閉会の祈り——ジョセフ・W・シターティ長老。音楽——ユタ州オグデンおよびユタ州ローガンのインスティテュート神権者聖歌隊；指揮——ジェラルド・F・サイモン，J・ナイルズ・サルモンド，アラン・T・サンダーズ；オルガニスト——アンドリュー・アンズワース。"See the Mighty Priesthood Gathered," *Hymns*, 325番；「主よ，導きたまえや」『賛美歌』56番，アンズワース編曲，未刊；「イスラエルの救い主」『賛美歌』4番；「山の強さのため」『賛美歌』23番，ダーラム編曲，ジャックマン刊

2011年4月3日 日曜午前，一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ゲーリー・E・スティーブンソン長老。閉会の祈り——タッド・R・カリスター長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーグ；オルガニスト——リチャード・エリオット，アンドリュー・アンズワース。「力強き主よ」『賛美歌』164番；"Sabbath Day," *Hymns*, 148番；「天よりの声聞け」『賛美歌』166番，ウィルバーグ編曲，未刊；"Let Us All Press On," *Hymns*, 243番；「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137番，ザブリスキー編曲，プラム刊；「主のみたまは火のごと燃え」『賛美歌』3番，ウィルバーグ編曲

2011年4月3日 日曜午後，一般部会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——ヘンリー・B・アイリング管長。開会の祈り——ジョセ・A・ティシェラ長老。閉会の祈り——ケント・D・ワトソン長老。音楽——タバナクル合唱団；指揮——マック・ウィルバーグ，ライアン・マーフィー；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ，ボニー・グッドリフ。"I Saw a Mighty Angel Fly," *Hymns*, 15番，ウィルバーグ編曲，未刊；「イエス様のように」『子供の歌集』40－41，ブラッドフォード編曲，ネーチャー・シングズ刊；「来たれ，主の子ら」『賛美歌』31番；「さらに聖くなお努めん」『賛美歌』74番，ステーリー編曲，ジャックマン刊

2011年3月26日土曜夜，中央若い女性集会

管理——トーマス・S・モンソン大管長。司会——イレイン・S・ダルトン。開会の祈り——エミリー・ルイス。閉会の祈り——ベサニー・ライト。音楽——ソルトレーク・シティー地域のステークの若い女性による聖歌隊；指揮——メリリー・ウェッブ；オルガニスト——リンダ・マーゲッツ，ボニー・グッドリフ。「山の上に」『賛美歌』2番；"Guardians of Virtue," *Strength of Youth Media 2011: We Believe*, 未刊（チェロ演奏——ジェシカ・ハント）；「主は生けりと知る」『賛美歌』75番，リヨン編曲，ジャックマン刊（ハープ演奏——ハンナ・コープ）；「主のみ言葉は」『賛美歌』46番，ウィルバーグ編曲，未刊

総大会の説教の入手

総大会の説教を様々な言語で聞くことができます。インターネットでconference.lds.orgを開いて言語を選択してください。大会説教のCDは通常，大会後2か月以内に配送センターから入手できるようになります。

ホームティーチングおよび家庭訪問

ホームティーチングまたは家庭訪問用のメッセージとして，訪問する会員の必要に最も適した総大会説教を一つ選んでください。

表紙

表紙——写真／ウェストン・コルトン。裏表紙——写真／レス・ニルソン

大会の写真

総大会の写真は以下のカメラマンによって撮影されました。

ソルトレーク・シティー——クレーグ・ダイモンド，ウェルデン・C・アンダーセン，ジョン・ルーク，マシュー・ライアー，クリスティーナ・スミス，コディー・ベル，レス・ニルソン，ウエストン・コルトン，サラ・ジェンセン，デレク・イスラエルセン。アルゼンチン——マルセリノ・トッセン。ブラジル——ラウレニ・フォチェット，アナ・クラウディア・ソーザ・デ・オリベイラ，ベルスカ・オリベイラ。エクアドル——アレックス・ロムニー。ドイツ——ミルコ・クベ。ジャマイカ——アレクシア・ポメルス。メキシコ——エリカ・ゴンザレス・ラジェ。フィリピン——ウィルモア・ラ・トレ。ポルトガル——ジュリアナ・オリベイラ。ルーマニア——マテイ・フロリン。スロベニア——イバン・マジク。南アフリカ——ケビン・クーニー。ウクライナ——マリナ・ルカチ。アメリカ合衆国メリーランド州——サーシャ・ローズ。ザンビア——タワンダ・マルザ

リアホナ　2011年5月号
第13巻5号（09685 300）
末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌（日本語版）

●定期購読は，「『リアホナ』注文用紙」でお申し込みになるか，郵便振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会　振込口座番号／00100-6-41512）にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ，直接郵送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057 東京都江戸川区西小岩5-8-6／末日聖徒イエス・キリスト教会　管理本部配送センター　電話：03-5668-3391
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30
電話　03-3440-2351
定　価　年間予約／海外予約　1,000円（送料共）
普通号／大会号　150円

『リアホナ』へのご投稿およびご質問は下記の連絡先にお送りください。
Rm. 2420, 50 E. North Temple St.,
Salt Lake City, UT 84150-0024, USA
電子メール：liahona@ldschurch.org

『リアホナ』（モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意）は，以下の言語で出版されています。
アルバニア語，アルメニア語，ビスラマ語，ブルガリア語，カンボジア語，セブアノ語，中国語，クロアチア語，チェコ語，デンマーク語，オランダ語，英語，エストニア語，フィジー語，フィンランド語，フランス語，ドイツ語，ギリシャ語，ハンガリー語，アイスランド語，インドネシア語，イタリア語，日本語，キリバス語，韓国語，ラトビア語，リトアニア語，マダガスカル語，マーシャル語，モンゴル語，ノルウェー語，ポーランド語，ポルトガル語，ルーマニア語，ロシア語，サモア語，スロベニア語，スペイン語，スウェーデン語，タガログ語，タヒチ語，タイ語，トンガ語，ウクライナ語，ウルドゥー語，ベトナム語（発行頻度は言語により異なります。）

For Readers in the United States and Canada: May 2011 Vol. 35 No. 5. LIAHONA (USPS 311-480) English (ISSN 1080-9554) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 E. North Temple St., Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is $10.00 per year; Canada, $12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Poste Information: Publication Agreement #40017431)
POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, P.O. Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

話者リスト（50音順）

テーマ別索引

トーマス・S・モンソン大管長

再び大会に集い

福音に対する皆さんの信仰と献身，互いへの愛と関心，……皆さんの奉仕に感謝しています。

この建物を設計したとき，わたしたちはこの会場が満席になることは絶対にないだろうと思っていました。しかし今，この会場を見てください。

愛する兄弟姉妹の皆さん，末日聖徒イエス・キリスト教会，第181回年次総大会を開会するに当たり，皆さんと再びともに集えるのはすばらしいことです。

この6か月間は矢のように過ぎ去りました。わたしは多くの責任に多忙を極めていました。この期間に頂いたすばらしい祝福の一つは，ハワイ州ライエの美しい神殿を再奉献することでした。ハワイ州ライエ神殿は2年近くの間，大規模な改修工事を行っていました。わたしはヘンリー・B・アイリング管長夫妻，クエンティン・L・クック長老夫妻，そしてウィリアム・R・ワーカー長老夫妻を伴って行きました。11月に行われた再奉献式の前夜は，神殿地区の2,000人の若者がBYUハワイ校のキャノン・アクティビティー・センターを埋め尽くし，出し物を披露してくれました。「集合の地」と題したこの出し物は，地元の教会と神殿の歴史を創造性豊かに，また見事に描いたものでした。この上なくすばらしい夕べでした。

翌日は3つの部会に分かれて神殿が再奉献され，霊的に満たされました。主の御霊（みたま）がわたしたちに豊かに注がれていました。

わたしたちはこれからも神殿を建設し続けます。今朝，新たに3つの神殿の建設計画について発表できることをうれしく思います。現在，用地の買収を行っており，これからの年月をかけて神殿が建設される場所は，コロラド州のフォートコリンズ，アイダホ州のメリディアン，そしてカナダ・マニトバ州のウィニペグです。これらの神殿は，その地域に住む会員にとって祝福となるに違いないでしょう。

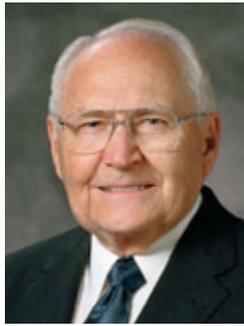
毎年，何百万という儀式が神殿で執り行われます。わたしたちがそれらの儀式を自分自身のためだけでなく，世を去った愛する人々のためにも，引き続き忠実に行うことができますように。彼らは自分自身では儀式を受けられないからです。

教会は引き続き災害時の人道支援を提供しています。最近では，日本において壊滅的な地震と津波が発生し，原子力の問題が起きています。わたしたちは日本の人々を心配し，援助の手を差し伸べています。教会は，食糧，水，毛布，寝具，衛生用品，衣服，燃料を含む，70トン以上の物資を送りました。教会のヤングシングルアダルトたちは自分の時間をささげ，インターネットやソーシャルメディア，そのほかの通信技術を使って会員の安否

を確認しました。会員たちは，車で行くことが困難な地域には，教会が用意したスクーターを使って支援を提供しています。衛生キットや清掃キットを作る奉仕プロジェクトが東京，名古屋，大阪の多くのステークやワードで行われています。これまでに4,000人以上のボランティアによって，4万時間以上の奉仕が行われてきました。日本や助けを必要とする地域に対する支援は今後も継続されます。

兄弟姉妹の皆さん，福音に対する皆さんの信仰と献身，互いへの愛と関心，ワードや支部，ステークや地方部における皆さんの奉仕に感謝しています。また，什分の一と献金を忠実に納め，教会の他の基金へも惜しみなく献金してくれる皆さんに感謝しています。

2010年末現在で，世界中の340の伝道部で5万2,225人の宣教師が奉仕しています。伝道活動は神の王国にとって欠かせないものです。もし可能であれば，教会の中央宣教師基金に献金することを考えるよう提案します。

さて，兄弟姉妹の皆さん，わたしたちは今日と明日伝えられるメッセージを心待ちにしています。話者は天の助けと導きを求めながらメッセージを用意しました。話に耳を傾け，学ぶときに，主の御霊に満たされ，高められ，霊感を受けることができるようお祈りします。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

十二使徒定員会
L・トム・ペリー長老

安息日と聖餐

皆さんが安息日を一日中尊び，その霊的な祝福を1週間を通して経験することにより，家族に愛があふれるようにしてください。

世界中の兄弟姉妹，わたしたちは今朝，預言者の声に耳を傾けるために集まっています。先ほど聞いたトーマス・S・モンソン大管長の声が地上における神の生ける預言者の声であることを証します。モンソン大管長の教えと模範によってわたしたちはどれほど大きな恵みを受けていることでしょうか。

わたしたちは今年，日曜学校で新約聖書から預言者たちの言葉を勉強する機会を得ています。旧約聖書では預言者たちと一つの民について研究しますが，新約聖書はただ一人の御方の生涯とその御方のお与えになった影響が中心となっています。その御方こそ，天と地の二つの市民権を持ってこの世に来られた救い主，贖い主イエス・キリストです。

今日の世の中は人の教えであふれているため，救い主の生涯と教えという何よりも大切な記述である新約聖書を人々は容易に忘れ，信仰を失っています。救い主御自身がわたしたちの生活の中心におられるのと同様に，この神聖な書物は聖文の歴史の中心に位置するものです。わたしたちは新約聖書を研究し，大切にする決意を新たにしなければなりません。

新約聖書の研究によって知恵というかけがえのない真珠を見いだすことができます。わたしは，各地を巡って救い主の教会を組織したパウロの物語，特にテモテに与えた教えを読むのが好きです。パウロがテモテにあてた第一の手紙の第4章にはこう記されています。「これらの事を命じ，また教えなさい。あなたは，……言葉にも，行状にも，愛にも，信仰にも，純潔にも，信者の模範になりなさい。」[1] 信者の模範となり，それを続けるために，安息日を守ること以上に優れた方法を考えることができません。

世界が創造されたときから，ほかの日と区別された一日がありました。「神はその第七日を祝福して，これを聖別された。」[2] 神は自らこの日に働きを休み，わたしたちにも同じようにすることを求めておられます。そして，イスラエルの子らに次の戒めをお与えになりました。

「安息日を覚えて，これを聖とせよ。

六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。

七日目はあなたの神，主の安息である……。

それで主は安息日を祝福して聖とされた。」[3]

安息日の遵守という規範には，必ず礼拝を含めなければなりません。アダムとエバは死すべき状態になった後，「御父の……独り子の犠牲のひながた」として「主なる彼らの神を礼拝し，主へのささげ物として群れの初子をささげるようにと」命じられました。[4] 動物の犠牲は，神の小羊であるイエス・キリストがいつかわたしたちのために御自分を犠牲としてささげら

れることを，アダムの子孫に思い起こさせるものとなりました。

救い主は生涯を通じてその犠牲について話されました。[5] 御言葉が成就し始めたのは，主が十字架につけられる前の晩のことでした。主は世の喧噪から離れた２階の部屋に弟子たちを集めて，主の晩餐の聖餐を定められました。

「一同が食事をしているとき，イエスはパンを取り，祝福してこれをさき，弟子たちに与えて言われた，『取って食べよ，これはわたしのからだである。』

また杯を取り，感謝して彼らに与えて言われた，『みな，この杯から飲め。

これは，罪のゆるしを得させるようにと，多くの人のために流すわたしの契約の血である。』」[6]

救い主の贖罪はそのときから大いなる最後の犠牲となりました。復活後にアメリカ大陸を訪れた救い主は弟子たちに神権を与え，聖餐を定めてこう言われました。

「またあなたがたは，わたしがしたように，すなわち，わたしがパンを裂いて祝福し，それをあなたがたに与えたように，いつもこれを行うように努めなさい。

……それは，あなたがたがいつもわたしを覚えているということを，父に示す証となるであろう。そして，あなたがたは，いつもわたしを覚えているならば，わたしの御霊を受けるであろう。」[7]

背教の暗黒時代にも安息日の礼拝と聖餐の規範や様式が様々な形で引き続き守られたことは驚きに値します。

福音が回復されたとき，救い主から最初に聖餐を受けた３人の使徒ペテロ，ヤコブ，ヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリを訪れました。この３人の指示の下で，イエス・キリストの教会の会員たちに聖餐を執行するために必要な神権の権能が回復されました。[8]

救い主から預言者と使徒たちに，そして彼らからわたしたちに授けられたその神権の権能は現在まで地上に存続しています。世界中の若い神権者は熱心に戒めを守り福音の標準に従うことによって，神権の力を行使するふさわしさを保っています。これらの青少年は霊的に清い手と純真な心をもって，2,000年以上前に定められた救い主の方法により聖餐を準備し，祝福しているのです。

聖餐を受けることは，安息日を守るうえで核となるものです。主は教義と聖約の中でわたしたち皆にこう命じておられます。

「また，あなたは，世の汚れに染まらずに自らをさらに十分に清く保つために，わたしの聖日に祈りの家に行って，聖式をささげなければならない。

まことに，この日は，あなたがたの労苦

を解かれて休み，いと高き方に礼拝をささげるように定められた日だからである。……

また，この日には，あなたはほかに何事もしないようにしなければならない。」[9]

わたしたちの生活の中で安息日と聖餐の規範について考えてみると，主は３つのことを求めておられることが分かります。第１は世の汚れに染まらないことです。第２は祈りの家に行って聖式をささげることです。第３は労苦を解かれて休むことです。

クリスチャンであること，キリストの真の弟子として生活することはすばらしいことです。主はわたしたちについて「わたしが世のものでないように，彼らも世のものではありません」と言われました。[10] わたしたちが世の汚れに染まらないようにするため，安息日に仕事やレクリエーション施設といった俗世的なものに注意をそらされないようにすることを主は求めておられます。

主はわたしたちがふさわしい衣服を身に着けるよう望んでおられると思います。若い人たちは「日曜日には晴れ着を着る」という昔からの言い習わしが時代遅れだと考えるかもしれません。日曜日に普段着を着るようになると，心構えや行動も同じようになっていきます。もちろん子供たちは，朝から晩まで正装したまま日曜日を過ごす必要はありません。けれどもわたしたちは奨励する服装，計画する活動を通して，子供たちが聖餐に向けて準備し，一日中その祝福にあずかるよう助けているのです。

主に聖式をささげるとはどういう意味でしょうか。わたしたちはだれでも間違いを犯します。天の御父や傷つけたかもしれない相手に対して，罪や過ちを告白し，それらを捨てる必要があります。安息日はこれらの自分の聖式を主にささげる絶好の機会となります。主はこう言われました。「この主の日に，あなたはいと高き方にあなたの供え物と聖式をささげ，また兄弟たちと主の前にあなたの罪を告白しなければならないことを覚えておきなさい。」[11]

メルビン・J・バラード長老は次のように勧告しました。「わたしたちはすべての末日聖徒にこの聖餐の席に着いてほしいと思っています。そこは自己を調査する場であり，自己を点検する場だからです。そこで進路を修正し，生活を正し，教会の教えや兄弟姉妹と調和していくことを学ぶのです。」[12]

わたしたちはふさわしく聖餐を受けることによって，主の御霊を受けられるように進んで救い主の御名を受け，主の戒めを守り，いつも主を覚えることを証明します。このようにしてバプテスマの聖約を新たにするのです。主は弟子たちに「これを行う度に，あなたがたは，わたしがあなたがたとともにいたこの時を思い起こすであろう」と言われました。[13]

労苦を解かれて休むことを，畑の農機具

を稼動しないことや，店のドアに「閉店」と表示することだけを指すと考えることが時折あります。今日の世界において，労苦には日常の様々な活動も含まれます。つまり，家を離れてする経済活動，スポーツ競技などがそうだと言えます。安息日の礼拝を妨げ，人々に仕えたり教え導いたりする機会を奪うことになるからです。

主は初期の時代の聖徒に対して「神聖なものを軽んじないようにしなさい」[14]と言われましたが，それは「安息日は人のためにあるもので，人が安息日のためにあるのではない」[15]と弟子たちに言われたことをわたしたちに再確認しておられるように思います。

兄弟姉妹，わたしたちが救い主との約束をおろそかにし，新約聖書をはじめとする聖文の教えを無視し，主に従わなくなるとき，敵対する者はこの終わりの時に勝利を収めるのです。両親の皆さん，今こそ，聖餐会に出席することによって信者の模範になるよう子供たちに教えましょう。日曜の朝が来たら，子供たちが十分な睡眠を取っていて，ふさわしい服装ができるよう助けてください。聖餐の象徴を受け，人を啓発し，教化し，高揚する聖霊の力を受けるための霊的な準備ができているように助けてください。皆さんが安息日を一日中尊び，その霊的な祝福を１週間を通して経験することにより，家族に愛があふれるようにしてください。皆さんの息子娘が安息日を守ることにより「立って光を放ち」，「〔彼らの〕光がもろもろの国民のための旗となる」[16]ように促しましょう。

歳月を重ねるにつれて，わたしは自分の少年期，青年期の安息日を絶えず思い返すようになっています。執事として初めて聖餐を配った日のこと，ワードの会員たちにパスしたガラス製の小さなカップのことを今も覚えています。何年か前に故郷の教会の建物が建て直されることになりました。説教壇の下の物入れは扉が開かないように封じられていました。扉を開けると，長年しまい込まれていたあのガラス製の小さなカップが幾つか出てきました。その一つを思い出の品として受け取りました。

また，合衆国海兵隊にいたときにいつも緑色の小型トランクを携行していたことを覚えています。その中に木製のトレーと聖餐カップの箱が入っていました。戦闘中や絶望感に襲われたときでも，わたしたちは主の晩餐によって平安と希望を取り戻すことができました。

青少年時代に使った聖餐のカップ，また，少年時代を過ごした山あいの地で使ったカップ，太平洋のはるかかなたで使った聖餐のカップについて思い巡らすとき，世の救い主がわたしのために喜んで「苦い杯」[17]から飲んでくださったことへの感謝の念で満たされます。わたしは救い主のおかげで，詩篇の作者とともに，主の無限無窮の贖罪の祝福により「わたしの杯はあふれます」[18]と言うことができます。

安息日を前にした今日（きょう），このすばらしい大会を始めるに当たって，わたしたちがそれぞれのワードや支部で毎週聖餐会に出席して受ける祝福と機会を思い起こしましょう。わたしたちや家族に約束されているこれらの祝福を祈り求められるように，安息日に向けて準備し，行動しましょう。この世で受ける最大の喜びは救い主に従うことにあることを心から証します。主の聖なる日を聖（きよ）くすることによって戒めを守ることができるよう，イエス・キリストの御名により祈ります，アーメン。■

注

1. １テモテ４：11 － 12
2. 創世２：３
3. 出エジプト20：８ － 11
4. モーセ５：５，７
5. 例として，マルコ10：32 － 34；ヨハネ２：19；10：17；12：32参照
6. マタイ26：26 － 28
7. ３ニーファイ18：６ － ７
8. ジョセフ・スミス―歴史１：68 － 69，72。教義と聖約27：12 － 13も参照
9. 教義と聖約59：９ － 10，13
10. ヨハネ17：16
11. 教義と聖約59：12
12. ブライアント・S・ヒンクレー，Sermons and Missionary Services of Melvin Joseph Ballard（1949年），150
13. ジョセフ・スミス訳マルコ14：21，末日聖徒版聖書付録
14. 教義と聖約６：12
15. マルコ２：27
16. 教義と聖約115：５
17. ３ニーファイ11：11
18. 詩篇23：５

ウクライナ・キエフ

中央初等協会会長会第一顧問
ジーン・A・スティーブンス

幼子のようになる

学ぶ心と子供たちの模範に従う意志を持つならば，彼らの神聖な特質はわたしたち自身の霊的な成長を促す鍵となるでしょう。

偉大な知恵と愛を持つ天の御父は，霊の息子娘を子供の姿で地上へ送られます。彼らは神聖な特質と行く末を持つ，貴い贈り物として家族のもとに来ます。天の御父は，わたしたちが御自身のようになるのを助けるうえで子供が鍵となることを御存じです。わたしたちは子供からとても多くのことを学べます。

何年も前，この大切な真理は，ある七十人が香港に赴いたときにも示されました。この七十人は，会員の必要を満たせず多くのことに苦闘するとても貧しいワードを訪問しました。ビショップが現状を説明していると，その中央幹部は会員に什分の一を納めてもらうべきだという印象を受けました。会員の困窮した状況を知っていたビショップは，勧告をどのように実行したらよいか悩みました。思案の末，彼はワードで特に信仰の強い会員に話し，什分の一を納めるよう勧めることにしました。次の日曜日，ビショップは初等協会に行きました。主の什分の一の律法について子供たちに教え，自分たちが得た収入の什分の一を納めるように勧めました。子供たちは承諾し，什分の一を納めました。

ビショップは後にワードの成人会員たちのところへ行き，過去6か月間ワードの忠実な子供たちが什分の一を納めてきたことを伝えました。そして，子供たちの模範に倣って，彼らも進んで什分の一を納めるように勧めました。人々は子供たちが喜んで犠牲を払ったことに深い感銘を受けて，什分の一を納めるために必要なことをしました。すると，天の窓が開かれました。忠実な子供たちの模範のおかげで，ワードの会員の従順さと証が増したのです。

イエス・キリスト御自身，子供たちを模範として仰ぐように教えられました。新約聖書には，天国で最も偉いのはだれかと使徒たちが議論しているときに主が何とお答えになったかが記されています。イエスはちょっとした，しかしとても有効な具体例を挙げて教えられました。幼い子供を呼び寄せ，彼らの真ん中に立ち，このようにおっしゃいました。

「心をいれかえて幼な子のようにならなければ，天国にはいることはできないであろう。

この幼な子のように自分を低くする者が，天国でいちばん偉いのである。」（マタイ18：3－4）

わたしたちが子供から学ぶべきことは何でしょうか。子供が持つどのような属性が，またどのような模範が，わたしたちの霊的な成長を助けるのでしょうか。

これらの貴い神の子供たちは信じる心を持ってわたしたちのもとに来ます。彼らは信仰にあふれ，御霊への感受性が強いのです。子供は謙遜，従順，愛の模範です。多くの場合，彼らは学ぶに早く赦すに早いのです。

キリストのような特質を示す，子供の純真で力強い模範がわたしたちの生活にどのような祝福をもたらすか，幾つかの経験を紹介します。

わずか2歳のトッドという男の子は，最近母親と一緒に，救い主が描かれた特別展覧会の美しい絵を見に，美術館へ出かけました。母親は主の神聖な御姿を見て回りながら，息子が敬虔な様子で「イエスさま」と口にするのを聞きました。トッドに目を向けると，彼は絵を見ながら，腕を組み，頭を下げていました。わたしたちはトッドから，主への謙遜さ，敬虔さ，愛の姿勢について何か学べるのではないでしょうか。

昨年の秋，わたしはアルメニアで10歳の少年の模範を見ました。聖餐会の開会を待っていると，少年は，支部で最年長の会員が到着したのに気づきました。彼は即座にその姉妹の傍らに行き，しっかり歩けるように腕を差し出しました。彼女が話を聞けるように，礼拝堂の最前列の席に案内しました。彼のささいな親切から，主の王国でいちばん偉い人は，ほかの人に仕える機会を探す人々であることが分かるのではないでしょうか。

初等協会に集うケーティーから，家族に与える影響力について学ぶことができます。ケーティーは初等協会に出席して，福音の教えに心を引かれました。ケーティーは強まる信仰と証をもって，両親の枕もとに手紙を置きました。ケーティーは福音の真理が自分の心に根付いていること，また，天の御父に近づき，主の戒めを守りたいこと，そして神殿で家族の結び固めを受けたいと強く望んでいることをつづりました。かわいい娘の簡潔な証は，両親の心を強く動かしました。ケーティーと家族は，家族を永遠に結ぶ神聖な神殿の儀式を受けました。ケーティーの信じる心と信仰の模範は，家族に永遠の祝福をもたらす助けとなりました。彼女の心からの証と主に従いたいという望みは，わたし

たちが最も大切なものをはっきりと見据えられるよう助けを与えてくれるのではないでしょうか。

わたしたち家族は，親戚で6歳のリアムから様々なことを学んでいます。この1年，彼は悪性の脳腫瘍と闘ってきました。難しい手術を2回受けた後，放射線治療も必要だということになりました。放射線治療の間，リアムは独りきりで，じっと横たわっていなければなりませんでした。鎮静剤を打つと気分が悪くなるので，リアムは鎮静剤を断りました。インターホン越しに父親の声が聞こえれば，鎮静剤がなくてもじっとしていられると心に決めていました。

不安の中，父親は愛と励ましの言葉で語りかけました。「リアム，父さんが見えなくてもここにいるからね。君ならできるさ。愛しているよ。」 リアムはまったく動かずに33回の必要な放射線治療を受けました。鎮静剤を打たなければ，幼い彼には不可能なことだと医師は思っていました。何か月にもわたる苦しく困難な時期に，リアムの楽観的な態度は，希望とさらには幸福をもって逆境に向き合う力強い模範となりました。彼の勇気によって医師や看護師，そのほかの大勢の人々が感銘を受けました。

わたしたちは皆リアムから大切なことを学んでいます。それは信仰を選び，主を信頼することです。天の御父を見ることはできませんが，リアムのように，御父の声を聞き，人生のチャレンジに堪え忍ぶために必要な強さを得られます。

リアムの模範から，子供のように従順で，柔和で，謙遜で，忍耐強く，愛にあふれた者となるというベニヤミン王の言葉をよりよく理解することができるのではないでしょうか（モーサヤ3：19参照）。

子供たちは，わたしたちが天の王国に入るために身に付ける，または再発見する必要のある幼子のような特質の模範を示しています。子供は世に染まっていない，輝く霊であり，教えを受け入れやすく，信仰にあふれています。救い主が幼い子供たちに特別な愛と価値を見いだしておられることに何の不思議もありません。

救い主がアメリカ大陸を訪れたときの驚くべき出来事の中でも，子供たちを優しくお教えになった場面は特に際立っています。主は胸を打つような方法で一人一人の子供に手を差し伸べられました。

「イエスは幼い子供たちを一人一人抱いて祝福し，彼らのために御父に祈られた。

そして，イエスはこれを終えると，……涙を流された。

また，イエスは群集に語って，『あなたがたの幼い子供たちを見なさい』と言われた。」（3ニーファイ17：21－24）

M・ラッセル・バラード長老は，「あなたがたの幼い子供たちを見なさい」という救い主の戒めの大切さについて，次のように教えています。「このときに主が『少しだけ見なさい』とか『気の向いたときに見なさい』とか，あるいは『彼らの全体的な動きを時々ちょっとだけ見なさい』など

と言われなかった点に注意してください。主は『子供たちを*見なさい*』と仰せになったのです。わたしにとってこれは，目と心をもって子供たちを見なければならないという意味であり，彼らを神聖な特質を備えた天の御父の霊の子供としてありのままに見つめ，理解しなければならないという意味です。」（「汝らの子供たちを見よ」『聖徒の道』1994年10月号，40。強調付加）

「子供たちを見る」のに，家庭以上に最適な場所はありません。家庭は皆がともに学び，成長できるところです。初等協会の美しい歌の一つは，この真理を教えています。

「主の御心に
かなう人になるため
主が下さった
すてきな家族」
（「神様からの家族」『フレンド』2008年10月号，F12－F13）

わたしたちが神の霊の子供としての神聖な属性をいっそう身近に見て，理解できるのは，愛あふれる環境，すなわち家庭の中です。わたしたちの心が和らげられ，幼子のようになろうと謙遜に望めるのは，家庭の中です。このプロセスによりキリストのようになることができます。

人生の経験から，かつて持っていた信じる心や幼子のような信仰をなくしてしまっていないでしょうか。そうであるなら，あなたの周りの子供たちについて考えてみてください。そして再度注意を向けてください。あなたの家族，近所，あるいはワードの初等協会の子供たちが思い浮かんだことでしょう。学ぶ心と子供たちの模範に従う意志を持つならば，彼らの神聖な特質はわたしたち自身の霊的な成長を促す鍵となるでしょう。

わたし自身の子供たちの祝福にいつも感謝しています。一人一人がわたしに必要なことを教えてくれました。わたしは子供たちの助けにより，より善い人へと変わりました。

イエスがキリストであられることを慎んで，また確かに証します。主は完全な御子であられ，従順で，柔和で，謙遜で，忍耐強く，大きな愛に満ちておられます。わたしたちが主の模範に従い，幼い子供のようになり，天の家へ戻ることができますように，イエス・キリストの御名によりお祈りします，アーメン。■

七十人会長会
ウォルター・F・ゴンサレス長老

キリストに従う人々

キリストに従う人々は救い主に倣って生活し，光の中を歩きます。

昨年の10月，妻とわたしはニール・L・アンダーセン長老夫妻とともにアルゼンチン・コルドバ神殿の鍬入れ式に出席しました。式が終わると，いつものように記者会見が開かれました。教会の会員ではないある女性記者が，教会の男性たちが妻を非常に大切にしている様子を見かけたと言いました。それから彼女は，ふいに「あれはほんとうの姿なのですか。それとも見せかけですか」と質問しました。その記者はそこにいた会員の振る舞いを見て何か特別なものを感じたのでしょう。彼女はキリストに従いたいという会員たちの望みに気づいたのかもしれません。全世界の教会員がそのような望みを抱いています。同じように，教会の会員ではない非常に多くの人々も，主に従いたいという望みを抱いています。

最近，妻とわたしは，ガーナとナイジェリアの人々を見て感銘を受けました。それらの国の大多数の人は，この教会の会員ではありません。彼らが会話の中で頻繁に，キリストに従いたいという望みを表しているのを目にし，うれしく思いました。その望みは，自宅や車の中で，また，壁や看板に表されていました。これほど多くのキリスト教の教会が林立しているのを見たことはありませんでした。

末日聖徒であるわたしたちには，このような大勢の人々に対し，この教会に来て，すでに彼らが持っている良いものに加えられるものがあることを知っていただくよう招く義務があります。どのような大陸，気候，文化圏の人であっても，預言者ジョセフ・スミスが示現の中で御父と御子にまみえたことを自分自身で知ることができます。また，天の使者が神権を回復したことや，モルモン書がイエス・キリストのもう一つの証であることを知ることができます。エノクの言葉どおり「……天から義〔が下り〕，地から真理〔が出て〕，〔御父〕の独り子……について証〔する〕」[1]のです。

救い主は次のように約束されました。「わたしに従って来る者は，やみのうちを歩くことがなく，命の光をもつであろう。」[2]キリストに従う人々は救い主に倣って生活し，光の中を歩きます。どれほど救い主に従っているかを見極めるのに役立つ，二つの特質があります。第1に，キリストに従う人々は愛情深い人々です。第2に，キリストに従う人々は聖約を交わして守ります。

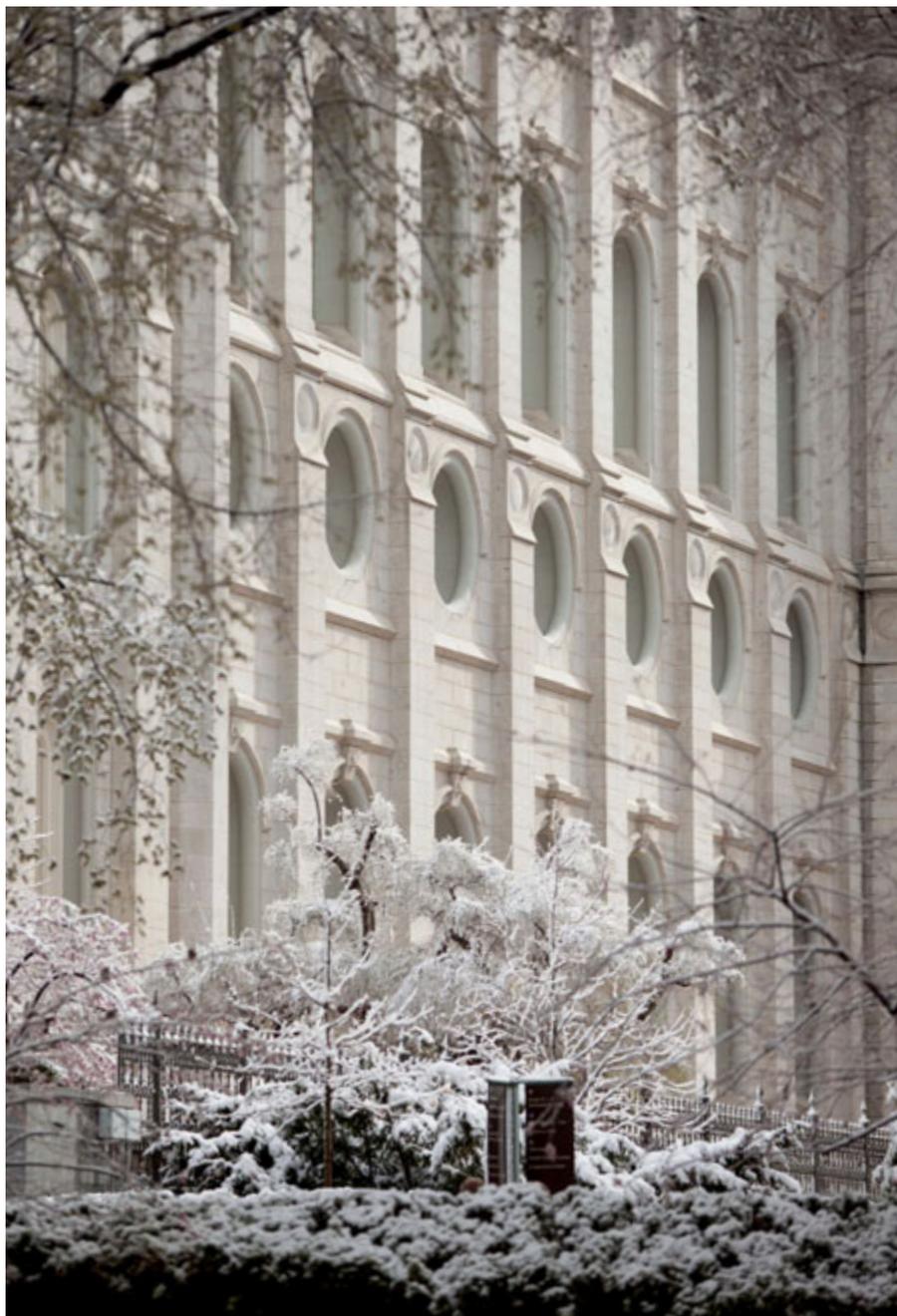
第1の特質である愛情深さは，恐らくコルドバの記者が教会員の中に見いだしたものの一つでしょう。わたしたちがキリストに従うのは，キリストを愛しているからです。わたしたちが愛のゆえに贖い主に従うとき，主御自身の模範に倣っているのです。救い主はその愛のために，どのような状況にあっても御父の御心に従われました。わたしたちの救い主は，肉体的，精神的に激しい苦痛のさなかでさえ従順であられました。鞭打たれ，あざけられても，敵に苦しめられ，友に見捨てられても，従順であられました。救い主固有の使命である贖いの犠牲は，最も大いなる愛の表現です。「彼はみずから懲らしめをうけて，われわれに平安を与え，その打たれた傷によって，われわれはいやされたのだ。」[3]

キリストがどのような状況でも御父に従われたように，わたしたちも御子に従うべきです。そうすれば，どのような迫害や苦しみ，悲しみ，肉体のとげ[4]を経験しようとも問題ありません。わたしたちは孤独ではありません。キリストは必ずわたしたちを助けてくださいます。いかなる状況にあっても，わたしたちは主の深い憐れみにより強められます。[5]

キリストに従うとは，モアブの女性ルツのように，大切なものを捨てることを意味します。改宗者であるルツは，神とナオミへの愛ゆえにすべてを捨てて信仰に生きようとしました。[6]

それは，試練と誘惑に抵抗することも意味します。ヨセフは若いころ，奴隷として売られました。彼は愛するすべてのものから引き離されました。後に純潔を破るよう誘惑されたとき，それを拒んで，「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって，神に罪を犯すことができましょう」[7]と言いました。彼はどのような試練や誘惑にも屈しないほど神を愛していました。

今日世界中に現代のルツとヨセフがいます。エクアドルのグアヤキルに住むジミー・オルベラ兄弟が伝道の召しを受けたとき，彼の家族は大きな試練を受けていました。彼が家を離れる日，家から外に出たら家族の縁を切ると言われました。心が痛みましたが，彼は家を出ました。伝道の召しを果たしていると，母親から，家族はとても多くの祝福を受けているから，もっと長く任地にとどまってほしいという便りが届きました。現在，オルベラ兄弟はステーク祝福師です。

実に，愛にあふれたキリストは，わたしたちが主に従うことができるよう，必要な力を授けてくださいます。主御自身がこのことを示されたのは，ペテロに3度「わたしを愛するか」とお尋ねになったときでした。ペテロが主を愛していることを再びはっき

りと明言した後，主はペテロにこれから起こる苦難について話しました。それから，「わたしに従ってきなさい」とお招きになりました。「わたしを愛するか」という，ペテロに対する救い主の問いかけは，わたしたちに対する問いかけでもあります。続いて，行動するよう呼びかけておられます。「わたしに従ってきなさい。」[8]

従順になろうと努力するうえで，愛は強い影響力を及ぼします。救い主に対する愛は，主の戒めを守るようわたしたちを鼓舞してくれます。母親，父親，伴侶への愛もまた，福音の原則に従うようわたしたちを鼓舞してくれます。ほかの人々にどのように接するかは，わたしたちがどれほど救い主に倣って互いに愛し合っているかを映し出します。[9] 主が模範を示されたように，わたしたちが立ち止まって人々を助けるとき，「すべてのことについてまったく正直でまっすぐで」[10] あるとき，聖約を交わし，守るときに，わたしたちは主への愛を表しているのです。

キリストに従う人々の第2の特質は，主がなさったように聖約を交わして守るということです。モロナイはこう指摘しています。「キリストの血が流されたのは，あなたがたの罪の赦しのために御父が聖約されたことによるものであり，それによってあなたがたは染みのない清い者となるのである。」[11]

預言者ジョセフ・スミスは，この地球が組織される前にすでに天で聖約が交わされていたと教えました。[12] 古代の預言者や祝福師も聖約を交わしました。

救い主御自身が模範を示しておられます。主はすべての義を成就するために，正しい権能を持つ人物からバプテスマをお受けになりました。バプテスマを通じて，救い主は御父のすべての戒めを従順に守ることを御父に証明されたのです。[13] 昔も現在も，キリストに従い，神権の儀式を通して聖約を交わします。

聖約を交わすことは，この教会の会員でない大勢の人々が，すでに自分たちの持っている非常に良いものに加えることが可能な事柄です。聖約を交わすことは，愛を表すことです。それは，「はい，わたしはあなたに従います」と，主に伝える一つの方法なのです。

聖約には「…… 永遠の命」の約束が含まれています。[14] 聖約を覚えていれば，万事があなたがたの益となるようにともに働くでしょう。[15] 聖約に含まれる約束を完全に受けるには，聖約を交わして守らなければなりません。救い主を愛し聖約を覚えることは，聖約を守る手助けとなります。聖餐を受けることは，聖約を覚えておく一つの方法です。[16] もう一つの方法は，頻繁に神殿に参入することです。ある南米の若い夫婦のことを思い出します。彼らは夫婦仲が良くないために離婚を望んでいました。賢明な神権指導者がこの夫婦に，神殿に参入し，そこで交わされる聖約の言葉と約束に特別な注意を払うよう勧告しました。夫婦はそのとおりに行い，彼らは離婚の危機から守られました。聖約の力は，わたしたちが直面するどのような試練よりも強力です。

福音に積極的でない会員の皆さん，どうぞ戻って来てください。聖餐と神殿参入により聖約を覚え更新することによって得

られる祝福を感じてください。積極的になることは，愛を示すことであり，キリストに真に従う者となりたいという意志を表明することです。そうすれば，約束されたあらゆる祝福を受ける資格を得ることができるのです。

教会の会員でない皆さん，信仰を働かせ，悔い改め，末日聖徒イエス・キリスト教会でバプテスマの聖約を受けるための資格を得るようお勧めします。それにより，皆さんは天の御父への愛とキリストに従いたいという意志を表明できるのです。

イエス・キリストの福音の教えに従うときに，わたしたちはさらに幸福になれることを証します。主に従おうと努力するならば，天の祝福がもたらされます。聖約を交わして守り，キリストに真に従う者となるときに主の約束が果たされることを知っています。主がわたしたち一人一人を深く愛しておられることを，イエス・キリストの御名により証します，アーメン。■

注

1. モーセ7：62
2. ヨハネ8：12
3. イザヤ53：5
4. 2コリント12：7
5. 1ニーファイ1：20参照
6. ルツ1：16参照
7. 創世39：7－9参照
8. ヨハネ21：15－19参照
9. ヨハネ13：35参照
10. アルマ27：27
11. モロナイ10：33
12. 『歴代大管長の教え──ジョセフ・スミス』42参照。スペンサー・W・キンボール，“Be Ye Therefore Perfect”（1975年1月10日にユタ大学で行われたLDSインスティテュートのディボーショナルにおける説教）──「わたしたちは，この死すべき世に来る前に神聖な誓いをしました。……わたしたちは聖約を交わしました。わたしたちは，この地上に住む身分を受け入れる前に聖約を交わしました。」も参照
13. 2ニーファイ31：5－7参照
14. アブラハム2：11。ジョン・A・ウイッツォー，“Temple Worship”（1920年10月12日にソルトレーク・シティーのアッセンブリーホールで行われた講義），10も参照──「聖約により真理に生命が吹き込まれ，知識を……正しく用いるすべての人に報いとして祝福が授け

七十人

ケント・F・リチャーズ長老

贖罪はすべての苦痛を癒す

わたしたち個人にとって現世での大きなチャレンジは，「キリストの贖罪により……聖徒」になることです。

わたしは外科医であったとき，勤務時間のかなりを痛みの問題に対応していることに気づきました。必要に迫られて，ほとんど毎日，手術によって痛みを与え，そして，その痛みを抑え，緩和するために多くの努力を払いました。

わたしは苦痛の目的についてじっくり考えてみました。苦痛を経験しない人はだれ一人としていません。人々を見ると，苦痛への対処はそれぞれ大きく異なります。怒って神から離れ去る人もいれば，苦しむことで神にもっと近づく人もいます。

皆さんと同じように，わたしも苦痛を経験しました。痛みは癒しの過程を知るのに役立つとともに，しばしば忍耐することを教えてくれます。病人を指す英語の“*patient*”には，忍耐という意味が含まれています。

オーソン・F・ホイットニー長老はこう述べています。「わたしたちの味わう苦痛，経験する試練はどれ一つとして無駄なものはない。それによってわたしたちは訓練され，忍耐力や信仰，不屈の精神，謙遜などの特質が養われるのである。

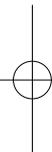
悲しみや苦痛，試練，艱難によって

ロバート・D・ヘイルズ長老も同様のことを述べています。

「痛みによって謙遜になり，思いを深められるようになります。耐え抜くことができたこの経験に感謝しています。……

肉体に痛みを感じ，大手術を受けた後に得る肉体への癒しは，霊に苦痛を覚え，悔い改めの過程を経て得る霊の癒しと酷似していると気づきました。」[2]

苦しみの多くは必ずしも自分の過ちによるものではありません。予期せぬ出来事，期待とは逆の状況や失望を招く状況，日常生活を阻害する病気，また死さえもわたしたちに付きまとい，わたしたちの現世の経験に影響を与えます。そのほかに，ほかの人々の行為がもとで苦難を受けることがあります。[3] ヤコブは「兄たちが乱暴なために……つらい思いをした」と，リーハイは述べています。[4] 天の御父の幸福の計画の一部として，相反するものがあります。わたしたちは皆，逆境に遭うと，御父の愛と，救い主による助けの必要性に気づかされるのです。

救い主はただ黙って見ている御方ではありません。救い主はわたしたちが経験する苦痛を個人としてよく御存じです。

ての苦痛を受けられる。」[5]

「だから，わたしたちは，あわれみを受け，また，恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために，はばかることなく恵みの御座に近づこうではないか。」[6]

わたしたちは時折ひどい苦痛の中で，「ギレアデに乳香がないのか。そこには医者がいないのか」と問う誘惑に駆られます。[7] わたしは証します。確かに医者はいます。イエス・キリストの贖罪は，現世におけるこれらの状況と目的をすべて包み込むのです。

もう1種類の苦しみについては，わたしたちに責任が***あります***。霊的な苦痛はわたしたちに重くのしかかり，消え去ることがないように感じられます。実に，「言いようのない恐怖に責めさいなまれた」と，アルマが述べているとおりです。[8] それは自分の罪深い行為と悔い改めの欠如から生じます。この苦痛に対しても，万能の絶対的な治療法があります。それは，悔い改めに必要なことをすべて進んで行う一人一人のために，御子を通して御父から与えられます。キリストはおっしゃいました。「わたしがあなたがたを癒すことができるように，今あなたがたはわたしに立ち返り，……心を改めようとしているか。」[9]

キリストはこう教えておられます。

「父は，わたしが十字架に上げられるようにと，わたしを遣わされた。十字架に上げられた***後で***，わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。……

このために，わたしは上げられたのである。それで，父の***力***によってすべての人をわたしのもとに引き寄せ……るのである。」[10]

恐らく主の最も重要な業は，引き続きわたしたち一人一人に個人的に働きかけて，わたしたちを引き上げ，祝福し，強め，支え，導き，赦しを与えることでしょう。

ニーファイが示現で見たように，現世におけるキリストの務めの多くは，あらゆる種類の病気，すなわち，肉体的，情緒的，また霊的な病にかかっている病人を祝福し癒すことに費やされました。「病気の人々や，様々な患いに苦しんでいる人々……の群れが見えた。……これらの人々は神の小羊の力によって癒され……た。」[11]

アルマもこう預言しました。「神の御子は，あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。……神の御子は御自分の民の苦痛と病を身に受けられる……。

……***御自分***の心が憐れみで満たされるように，また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように……。」[12]

わたしはある夜遅く，このときは医者ではなく患者として病院のベッドに横たわり，何度も繰り返しこれらの聖句を読んで，つくづくと考えました。「どのように行われるのだろうか。だれのためだろうか。資格は何だろうか。罪の赦しと同じだろうか。御子の愛と助けを得る努力が必要だろうか。」 考えていたときに，現世の生涯でキリストがわたしたちのことを理解するために苦痛と苦難を経験することを***お選びになった***ことが分かりました。恐らくわたしたちも，キリストについて，またわたしたちの永遠の目的について理解するために現世の困難を経験する必要があるのです。[13]

ヘンリー・B・アイリング管長はこう述べています。「苦悩の中で，救い主が約束された助けを待たなくてはならないとき，主は御自身の経験からわたしたちを癒し助ける方法を御存じだという事実は，わたしたちに慰めを与えてくれます。……この力を信じるなら，わたしたちは忍耐強く祈り，働き，助けを待ち望むことができます。主は，わたしたちを救う方法を単に啓示によって知ることもおできになったでしょうが，***御自身の経験を通して学ぶことをお選びになりました***。」[14]

わたしはその夜，主の愛の腕に抱かれているのを感じ，[15] 枕を感謝の涙でぬらしました。後に，マタイによる福音書でキリストの地上における務めについて読み，もう一つの発見をしました。「人々は……大ぜい，みもとに連れてきたので，イエスは……病人を***ことごとく***おいやしになった。」[16] イエスはみもとに来た人々を***ことごとく***癒されました。追い払われた人はだれもいませんでした。

ダリン・H・オークス長老は述べています。「癒しの祝福は様々な形でもたらされます。わたしたちのことを最も深く愛しておられる御方が御存じのままに，それぞれの必要に合わせてもたらされるのです。時に，『癒し』は病気を治し，重荷を軽くしてくれます。しかし，時には，託された重荷に耐えられるだけの力や理解力，忍耐力が与えられることによって『癒される』こともあります。」[17] みもとに来る人はすべて，

エクアドル・グアヤキル

「イエスの腕の中にしっかり抱き締められる」でしょう。[18] すべての人が主の力による癒しを得られます。すべての苦痛が和らげられます。主によって「魂に休みが与えられる」でしょう。[19] わたしたちの現世の状況はすぐには変わらないかもしれませんが，苦痛や心配，苦難，恐れは，主の平安と癒しの乳香に包み込まれるのです。

わたしは子供たちの方がしばしば苦痛や苦しみを自然に受け入れるということに気づきました。謙遜に，また柔和な気持ちで静かに堪え忍びます。わたしは幼い子供たちが麗しく快い雰囲気に取り巻かれているのを感じてきました。

13歳のシェリーは脊髄（せきずい）の腫瘍（しゅよう）のために14時間の手術を受けました。彼女は集中治療室で意識を回復すると，こう言いました。「お父さん，シェリルおばさんがここにいるわ。……ノーマンおじいちゃんと……ブラウンおばあちゃんが……いるわ。お父さん，そばにいる人はだれ？……お父さんに似ているけど，背はもっと高いわ。……兄弟のジミーだって言ってる。」 彼女のおじ，ジミーは13歳のときに嚢胞性（のうほうせい）線維症（せんいしょう）で亡くなっていました。

「およそ1時間，シェリーは来訪者について……語りましたが，その全員がすでに亡くなっている家族でした。その後，彼女は疲れ切って眠りに落ちました。」

彼女は，後に父親にこう語りました。「お父さん，この集中治療室にいる子供たちの全員に，助ける天使たちがいるのよ」と。[20]

わたしたち全員に，救い主はこう述べておられます。

「見よ，あなたがたは幼い子供であり，今はすべてのことに耐えることはできない。あなたがたは恵みと真理の知識とにおいて，成長しなければならない。

幼い子供たちよ，恐れてはならない。あなたがたはわたしのものであ……るからである。

それゆえ，わたしはあなたがたの中にいる。わたしは良い羊飼い……である。」[21]

わたしたち個人にとって現世での大きなチャレンジは，「キリストの贖罪により……聖徒」になることです。[22] 皆さんもわたしも，苦痛を経験するときに，最もよくこの過程を踏めるかもしれません。大きな苦難の中にあって，わたしたちは，肉体と霊の癒しのために，心を幼子（おさなご）のようにし，へりくだり，忍耐強く「祈り，働き，助けを待ち望む」ことができます。[23] そして，ヨブのように，試練によって精錬された後，「金のように出て来る」のです。[24]

わたしは証します。主はわたしたちの贖（あがな）い主，友，弁護者，大いなる医者，優れた治療者です。へりくだった心で主のみもとに来さえすれば，わたしたちは苦痛と罪の中で，また苦痛と罪から，主によって平安と慰めを得ることができます。主の「恵みは……十分」[25] です。イエス・キリストの御名（みな）により，アーメン。■

注

1. オーソン・F・ホイットニーの言葉，スペンサー・W・キンボール，*Faith Precedes the Miracle*（1972年），98で引用
2. ロバート・D・ヘイルズ「霊と肉体の癒し」『リアホナ』1999年1月号，15
3. アルマ31：31，33参照
4. 2ニーファイ2：1
5. 2ニーファイ9：21
6. ヘブル4：16。パウロは，「弱り果てて意気そそうしないために，罪人らの……反抗」に対処する模範として救い主を見るようにわたしたちに教えている（ヘブル12：3）。
7. エレミヤ8：22
8. アルマ36：14
9. 3ニーファイ9：13
10. 3ニーファイ27：14－15，強調付加
11. 1ニーファイ11：31
12. アルマ7：11－12，強調付加
13. ジョン・テーラー，*Mediation and Atonement*（1882年），97。テーラー大管長は人類の贖いの達成のために前世の会議において御父と御子の間で「聖約」が交わされたと述べている。御子は，園と十字架での苦しみのほかに，生涯における苦しみも自発的に引き受けられた（モーサヤ3：5－8参照）。
14. ヘンリー・B・アイリング「逆境」『リアホナ』2009年5月号，24，強調付加
15. 教義と聖約6：20参照
16. マタイ8：16，強調付加
17. ダリン・H・オークス「主は重荷を負っている人を癒される」『リアホナ』2006年11月号，7－8
18. モルモン5：11
19. マタイ11：29
20. マイケル・R・モリス，"Sherrie's Shield of Faith," *Ensign*, 1995年6月号，46参照
21. 教義と聖約50：40－41，44
22. モーサヤ3：19
23. ヘンリー・B・アイリング「逆境」『リアホナ』2009年5月号，24
24. ヨブ23：10
25. 2コリント12：9；エテル12：26－27；教義と聖約18：31も参照

十二使徒定員会
クエンティン・L・クック長老

末日聖徒の女性はすばらしい

教会で成し遂げられることの多くは，女性の無私の奉仕によるものです。

作家であり歴史学者であるウォレス・ステグナーは，ソルトレーク盆地へのモルモンの移住と集合について本を書いています。わたしたちの宗教を受け入れることはなく，批判的な意見の多かった人物ですが，初期の教会員，特に，女性の献身と勇気には感銘を受け，次のように述べています。「この教会の女性はすばらしい。」[1] わたしも今日，同じ気持ちです。末日聖徒の女性はすばらしいです。

神は，女性に強さ，徳，愛，次の世代を担う神の霊の子供たちを喜んで養う犠牲的精神という神聖な特質を植え付けられました。

合衆国における最近の研究によれば，信仰を持つ女性は皆，信仰を持つ男性よりも「より熱心に神を信じ」，より多くの宗教行事に参加し，「ほとんどあらゆる点において，より宗教的である」[2] ことが明示されています。

当然の結果だと思いました。わたしたちの信仰において家族と女性が果たす卓越した役割を考えるとなおさらそう感じます。わたしたちの教義は明解です。女性は天の御父の愛する娘です。妻と夫の関係は対等です。結婚生活には完全なパートナーシップが必要であり，夫と妻は家族の必要を満たすためにともに働きます。[3]

確かに，福音に従った生活を送ろうと努力する女性を含めて，女性には多くのチャレンジがあります。

開拓者の姉妹たちからの受け継ぎ

開拓者時代の先祖の生活において，何と言っても特徴的なのは姉妹たちの信仰です。神から授かった特質のゆえに，女性は家の手入れや子供の世話，家庭やその他の場所における養いに関してより大きな賜物と責任を与えられています。このようなことについて考えると，喜んで家を後にし，未知の世界を目指して大平原を横断した姉妹たちの信仰にわたしたちは感動します。そのような姉妹たちの最も重要な特質は何かと尋ねられたら，主イエス・キリストの回復された福音に対する揺らぐことのない信仰と答えるでしょう。

開拓者時代の女性が，大平原を横断するときに，何を犠牲にし，何を成し遂げたかについての奮闘の記録は，教会にとって貴重な遺産です。わたしはエリザベス・ジャクソンの記録に感銘を覚えます。彼女の夫アロンは，マーティン手車隊とともにプラット川を最後に渡った後で亡くなっています。彼女はこう書いています。

「このような厳しい状況で，子供３人を抱えた寡婦となった今，自分の思いについて語ろうとは思わない。……福音のゆえに受けるわたしの苦しみは，……きっと……わたしの聖めとなり，益となることだろう。……

わたしは主に〔懇願した〕，……寡婦の保護者，親をなくした子供の父になると約束された御方に。わたしが主に懇願すると，主はわたしを助けに来てくださった。」[4]

エリザベスは，同じような苦難を味わっている人々に代わって，また，子孫が進んで苦難を引き受け神の王国のためにあらゆるものを犠牲にするようにと願って記録を書いていると述べています。[5]

今日の教会の女性たちは，強く，勇敢である

今日においても，教会の女性は，そのような試練に立ち向かい，まったく同じように力強く忠実であるとわたしは信じています。教会の指導者は，あらゆる面で，姉妹たちの奉仕，犠牲，決意，貢献を認め感謝しています。

教会で成し遂げられることの多くは，女性の無私の奉仕によるものです。教会であれ，家庭であれ，神権者と扶助協会の姉妹が完全な調和の下に働く姿を見るのはすばらしいことです。そのような関係は，息の合ったオーケストラのようで，結果としてもたらされるシンフォニーはわたしたち全員を鼓舞します。

最近，カリフォルニア州ミッションビエホステークの大会に出席するよう割り当てを受けたとき，そこで開かれた４ステーク合同の大みそかユース・ダンスパーティーに関する記事に感銘を受けました。ダンスパーティーの後で，外から見たらだれのものか分からないハンドバッグが見つかりました。ラグナニゲルステークの若い女性会長モニカ・セドウィック姉妹の記録から少し紹介します。「わたしたちはぶしつけに中をのぞき込みたいとは思いませんでした。だれかの私物でしたから。そこで慎重にバッグを開け，いちばん上にあるものをさっとつかみ取りました。それで持ち主が分かればと思ったのです。実際，分かりました。……

しかし，名前が分かったわけではありません。『若人の強さのために』が出てきたのです。……感心しました。それで持ち主のことが少し分かりました。それから，もう一度手を入れると，次の持ち物が出てきました。小さなノートでした。……それできっと持ち主が分かると確信しました。しかし，これもまた期待したようなものではありませんでした。最初のページは……お気に入りの聖文のリストでした。……あとの５ページには丁寧に書かれた聖文と個人的なメモが記されていました。」

姉妹たちはすぐにこのバッグの持ち主である忠実な若い女性に会いたくなりました。持ち主を突き止めるために，もう一度バッグを調べました。ミントキャンディ，石けん，ローション，それからブラシが出てきました。姉妹たちのコメントがすてきです。「彼女は，さわやかな息をしていて，手が清潔できれい。それから，自分を大切にしている。」

姉妹たちは，はやる思いで次の宝物を待ち構えました。出てきたのは，ジュースの紙パックで作った小さな手作りの小銭入れでした。ファスナー付きのポケットには少しお金が入っていました。彼らは大声で叫びました。「ああそうか，創造的で用意のいい人なのね。」 皆，クリスマスの朝の小さな子供のような気持ちになりました。次に取り出したものには，さらに驚かされました。ブラックフォレスト・チョコレートケーキのレシピ，それと友人の誕生日にケーキを作るというメモでした。姉妹たちはほとんど絶叫しそうでした。「家事も得意なんだわ，思いやりと奉仕の精神もあるのね。」 その後，ようやく持ち主を特定する幾つかの情報が得られました。若い女性の指導者は「福音に従って生活している若い女性の静かな模範を目の当たりにすることができ」，大きな祝福を感じたと語っています。[6]

この話には，教会の標準に対する若い女性の決意がよく表れています。[7] 思いやりにあふれ，好奇心旺盛(おうせい)で献身的な，世界中で奉仕する若い女性の指導者の模範でもあります。彼女たちは実にすばらしいです。

姉妹たちは教会や家庭生活において，また天の御父の計画に不可欠な個人として，非常に重要な役割を担っています。これらの責任の多くは経済的な見返りがありません。しかし，満足感を与え，永遠にわたって重要な影響を及ぼします。最近，新聞の編集部にいる，感じのよい大変有能な女性から，教会における女性の役割について説明を求められました。わたしは，教会で働く指導者は*無報酬*であることを説明しました。彼女は途中で話を遮り，興味が著しくうせたと言いました。こう言ったのです。「女性に*無報酬*の仕事はもう必要ないというのがわたしの信念です。」

わたしたちはこの地上で最も大切な組織は家族であり，そこで「父親と母親は対等のパートナー」であることを指摘しました。[8] どちらも報酬を得ることはありませんが，表現できないほどの祝福を受けます。もちろん，女性の会長によって導かれる扶助協会，若い女性，初等協会といった組織があることも話しました。教会の最も初期の時代から，最も神聖な集会である聖餐(せいさん)会であっても，男性も女性もともに祈り，音楽を奏し，説教をし，聖歌隊で歌ってきたことにも触れました。

最近出版され高い評価を受けている『アメリカの恵み』（*American Grace*）という本は，様々な宗教を奉ずる女性たちについて報告しています。そこには，教会の指導者として自分に与えられている役割に計り知れないほど満足しているという点で，末日聖徒の女性は特異な存在であると述べられています。[9] さらに，研究対象となった宗教の中で，末日聖徒は全体的に，男性も女性も，宗教に対する愛着が最も深いと述べられています。[10]

末日聖徒の女性がすばらしいのは，人生の困難をうまく避けてきたからではありません。まったく逆です。人生の様々な試練に立ち向かう姿勢のゆえにすばらしいのです。結婚生活や独身生活，子供が選択する事柄，健康上の制限，機会の不足，そのほかの様々な問題を通して人生がもたらす試練や試しがあっても，いつも驚くほど強く，確固としていて，信仰を守り抜きます。教会の姉妹たちは，世界中で，弱い者を助け，垂れている手を上げ，

弱くなったひざを強めています。[11]

ある扶助協会会長は，姉妹たちのこれらの卓越した奉仕に感謝した後，次のように言いました。「姉妹たちは奉仕しているときでさえ，『もっと多くのことができたらいいのに』と考えているのです。」 完全ではありませんし，それぞれが皆，苦しみに直面してはいますが，愛にあふれる天の御父に対する信仰，救い主の贖いの犠牲が確かであることに対する信仰は，生活の隅々にまで浸透しています。

教会における姉妹たちの役割

過去3年にわたり，大管長会および十二使徒定員会は，神権指導者や補助組織指導者と協議し，新しい『手引き』に取り組む中で，導きと霊感，そして啓示を求めてきました。その過程で，わたしは，既婚か独身かを問わず，姉妹たちが過去から現在まで，家庭および教会で重要な役割を果たしてきたことに対し，圧倒されるほどの感謝の思いを覚えました。

イエス・キリストの教会に属する会員は皆，「人々の霊の救いのために主のぶどう園で働く」必要があります。[12]「この救いの業には，会員伝道活動，改宗者の定着，あまり活発でない会員の活発化，神殿・家族歴史活動，福音を教えることが含まれ」ます。[13] また，「貧しい人や助けの必要な人を世話する」ことも含まれます。[14] こういった活動は，おもにワード評議会によって管理されます。[15]

特に，新しい『手引き』は，ビショップが，現在求められていることに心を配りながら，より多くの責任を委任できるようにという趣旨の下に作成されました。会員は，ビショップが委任するよう指導を受けていることを理解する必要があります。また，ビショップがこの助言に従うときに，彼を支持し援助する必要があります。こうすることで，ビショップはより多くの時間を若人，ヤングシングルアダルト，自分の家族と過ごすことができるようになります。ビショップはほかの大切な責任を神権指導者，補助組織の会長，個々の男性や女性に委任します。教会では，家庭における女性の役割をきわめて尊重しています。[16] 母親が相当な時間を要する教会の召しを受けた場合，家族生活でバランスを維持するために，通常，その夫にはあまり負担となる召しを与えないようにします。

数年前に，わたしはトンガで開かれたステーク大会に出席しました。日曜日の朝，礼拝堂の前3列は26歳から35歳の男性でいっぱいだったので，てっきり男性の聖歌隊なのだろうと思っていました。しかし，大会で管理業務が執り行われたとき，合計63人の男性が一人一人名前を呼ばれ，起立しました。メルキゼデク神権への聖任のために支持されたのです。わたしは喜ぶと同時にあ然としました。

部会の後で，わたしはステーク会長のマテアキ会長に，その奇跡がどのようにして起こったのか聞きました。ステーク評議会で再活発化が議題に上がったとのことでした。ステーク扶助協会会長のレイナタ・バエヌク姉妹が発言してよいか尋ねました。彼女が話したとき，ステーク会長は，提案されていることが真実だという御霊の確認を受けました。彼女は，ステークには伝道に出た経験のない20代，30代のすばらしい若者が大勢いると述べました。彼女の話では，それらの若者の多くが，伝道に出るように一生懸命励ましてくれたビショップや神権指導者の期待を裏切ったと思い込んでおり，自分のことを二流の会員のように感じているということでした。これらの若者は伝道に出る年齢を過ぎていることを指摘したうえで，彼女はそのような若者たちに対する愛と関心を伝えました。彼らはまだ救いの儀式をすべて受けられる状態にあると述べ，神権への聖任と神殿の儀式に焦点を当てるべきだと語ったのです。また，これらの若者のうち何人かはまだ独身だけれども，大半はすでにすばらしい女性と結婚していること，結婚相手の女性たちの中には，活発な人もいれば，活発でない人，会員ではない人もいるということに言及しました。

ステーク評議会で徹底的に話し合った結果，神権者と扶助協会の姉妹たちがこれらの男性と妻を救出するために手を差し伸べ，ビショップはもっと多くの時間をワードの若い男性や女性と過ごすことが決まりました。救出に携わる人は，対象者をまず神権，永遠の結婚，神殿の救いの儀式に備えさせることに焦点を当てたのです。わたしが出席したステーク大会でメルキゼデク神権に支持された63人の男性のほとんどが，その後2年の間に，神殿でエンダウメントを受け，伴侶と結び固められました。今話したことは，姉妹たちがワードおよびステークにおける救いの業にどれほど重要な意味を持っているか，また，特に，教会の評議会で，姉妹た

ウクライナ・キエフ

ちのおかげでどのように啓示が受けやすくなるかを示すほんの一例です。[17]

家庭における姉妹たちの役割

わたしたちは女性や家族に対する巨大な反対勢力があることを理解しています。最近の研究で，結婚や結婚生活に重点を置こうという気持ちが薄れ，結婚している成人の数が減少していることが分かっています。[18] 結婚と家族は，「社会を組織する中心的な原則というよりはむしろメニューのように自由に選べるもの」[19] となってきています。女性は多くの選択に直面しており，どのように選択するか，その選択が家族にどのような影響を及ぼすか，よく祈って考える必要があります。

昨年ニュージーランドに滞在したとき，オークランドの新聞で，わたしたちと宗教は異なりますが，同じような問題に苦しんでいる女性についての記事を読みました。ある母親は，仕事をするべきか家にとどまるべきかの選択は，彼女の場合，さほど必要ではない新しいカーペットや２台目の車を購入するかどうかの選択に等しいことが分かったと語っていました。一方，「幸せな家庭生活の最大の敵は，仕事ではなく，テレビだ」と感じる女性もいました。彼女は，テレビを見る時間が多い家族は，互いに触れ合う時間が少ないと語っていました。[20]

これらは非常に感情的で個人的な決断ですが，いつも心に留めておくべき原則が二つあります。第１に，どの女性も，子供を養い育てることに最大の努力を注いでいるからといって，謝らなければならないと感じたり，大した貢献ができていないと感じたりするべきではないということです。天の御父の計画にあって，それほど大切なことはないからです。第２に，家庭の外で働く決断を下す姉妹はあまり雄々しくないなどと，だれも裁いたり決めつけたりしないように注意するべきだということです。他人が置かれた状況を理解したり，正しく評価したりすることは，ほとんどできないことだからです。夫と妻は，自分たちが決めたことについて神に報告する義務があるということを理解し，よく祈って話し合うべきです。

理由は何であれ，独りで子供を育てている献身的な姉妹の皆さん，わたしたちは皆さんに心から感謝しています。預言者は次のことを明らかにしてきました。「皆さんを助けたいと思っている人がたくさんいます。主は皆さんを忘れてはおられません。もちろん，主の教会も皆さんを忘れてはいません。」[21] 親としての責任を有する男性や女性にとってさらに包容力があり働きやすい職場環境を，末日聖徒が率先して作り出すように願っています。

雄々しく忠実な独身の姉妹の皆さん，わたしたちは皆さんを愛し，皆さんに感謝しています。また，いかなる永遠の祝福も差し控えられることはないと約束します。どうぞこのことをいつも心に留めておいてください。

すばらしい開拓時代の女性，エミリー・H・ウッドマンシー姉妹は，賛美歌「シオンの娘」の歌詞を書きました。彼女は「天使の務め」[22] は女性にゆだねられたと明言しています。そして，これは「まさしく，天の御父が与えられた直接的かつ即座の命令であり，『これは……姉妹たちが……求めた賜物』である」と歌詞の中で述べています。[23]

親愛なる姉妹の皆さん，わたしたちは皆さんを愛し，尊敬しています。主の王国における皆さんの奉仕に感謝しています。皆さんはすばらしいです。わたしの人生にかかわった女性の皆さんに特別な感謝を伝えます。贖罪が真実であり，救い主が神の御子であられ，主の教会が回復されたことを証します。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

注

1. ウォレス・ステグナー，The Gathering of Zion: The Story of the Mormon Trail（1971年），13
2. ロバート・D・パットナン，デビッド・D・キャンベル共著，*American Grace: How Religion Divides and Unites Us*（2010年），233
3. 『手引き　第２部――教会の管理運営』1.3.1参照。モーセ5：1，4，12，27も参照
4. アンドリュー・D・オルセン，The Price We Paid: The Extraordinary Story of the Willie and Martin Handcart Pioneers（2006年），445

5. “Leaves from the Life of Elizabeth Horrocks Jackson Kingsford,” Utah State Historical Society, Manuscript A 719. “Remembering the Rescue,” *Ensign*, 1997年8月号，47参照
6. カリフォルニア州ラグナニゲルステークの若い女性会長モニカ・セドウィックが書いた電子メールと，カリフォルニア州ミッションビエホステークのステーク若い女性会長レスリー・モーテンセン姉妹による話の要約を組み合わせ，短縮した。
7. （*Wall Street Journal*, 2011年3月19－20日付，C3）に掲載された記事“Why Do We Let Them Dress Like That?”の中で，思慮深いユダヤ人の母親は服装の標準と慎み深さを教えるとともに，末日聖徒の女性の模範に感謝している。
8. 「家族──世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号，129
9. パットナン，キャンベル共著，American Grace，244－245
10. パットナン，キャンベル共著，American Grace，504
11. 教義と聖約81：5参照。モーサヤ4：26も参照
12. 教義と聖約138：56
13. 『手引き　第2部──教会の管理運営』22
14. 『手引き　第2部』6.1参照
15. 『手引き　第2部』4.5参照
16. エミリー・マッチャー“Why I Can't Stop Reading Mormon Housewife Blogs,” salon.com/life/feature/2011/01/15/feminist_obsessed_with_mormon_blogs. この自称フェミニストおよび無神論者の女性は，この点に感謝し，自分はモルモンの主婦が作っているブログに夢中になっていると語った。
17. トンガ・ヌクアロファ・ハ・アカメステーク，レホニタイ・マテアキステーク会長，（続けてパプアニューギニア・ポートモレスビー伝道部の会長として奉仕した）；ステーク扶助協会会長レイナタ・バエヌク姉妹
18. デベラ・コーン，リチャード・フライ共著“Women, Men, and the New Economics of Marriage,” Pew Research Center, Social and Demographic Trends, pewsocialtrends.org. 子供の出生率も多くの国でかなり減少している。これは「人口統計学的冬の時代」と呼ばれている。
19. “A Troubling Marriage Trend,” *Deseret News*，2010年11月22日付，A14ページ，msnbc.com. に関するレポートから引用
20. サイモン・コリンズ“Put Family before Moneymaking Is Message from Festival,” New Zealand Herald，2010年2月1日付，A2
21. ゴードン・B・ヒンクレー“Women of the Church,” *Ensign*, 1996年11月号，69。スペンサー・W・キンボール“Our Sisters in the Church,” *Ensign*, 1979年11月号，48－49も参照
22. 「シオンの娘」『賛美歌』195番
23. カレン・リン・デビッドソン，*Our Latter-day Hymns: The Stories and The Messages*，改訂版（2009年），338－339

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

善を行う機会

物質的に困っている人々を助ける主の方法には，いつも，愛に基づいて，自分自身と自分の持っているものを神と神の業のために奉献する人が求められます。

愛する兄弟姉妹の皆さん，今日（きょう）のお話は，この地上に住む御自身の子供たちの中の貧しい人や乏しい人に仕えるために，主が昔も今もしておられることを尊び，記念するのが目的です。主は助けを必要としている人たち，また助けを与えたいと願っている人たちを愛しておられます。主は助けを必要としている人たちと助けを与える人たちがともに祝福を受ける方法をお作りになりました。

天の御父は全世界に住む御自身の子供たちがささげる祈りを聞いておられます。それは，食べ物や着る物を求める訴えであり，自立することを通して尊厳を得たいという嘆願です。人を地上に置かれて以来，主はそれらの嘆願を聞いてこられました。

皆さんは，自分の住んでいる所で，また全世界から，それらの必要について聞きます。皆さんは，しばしば同情心に駆られます。必死の思いで仕事を探している人に出会ったら，助けてあげたいという望みを感じます。同じような望みは，夫に先立たれた人の家に入り，そこに食べ物が一切見当たらないときにも感じます。地震や火事で家を破壊され，廃墟に座り込んで泣いている子供たちの写真を目にするときにも感じます。

主は彼らの叫びを聞き，彼らに対する皆さんの深い哀れみを感じておられます。そのようなわけで，時の初めから，主は御自身の弟子たちに人々を助ける方法を提供してこられました。主は主の子供たちに時間，財産，そして自分自身を奉献するように招いておられます。主とともに人に仕えるためです。

人を助ける主の方法は，時折，奉献の律法に従った生活と呼ばれてきました。別のときに，主の方法は協同制度と呼ばれました。現代においては，教会福祉プログラムと呼ばれています。

活動の名前と細かい内容は，人々の必要と状況に応じて変わります。しかし，物質的に困っている人々を助ける主の方法には，いつも，愛に基づいて，自分自身と自分の持っているものを神と神の業のために奉献する人が求められます。

主がわたしたちに勧め，命じておられるのは，助けの必要な人を鼓舞するという主の業に参加することです。わたしたちはバプテスマの水の中で，そして聖なる神の神殿の中で，そのように行うと聖約します。わたしたちは日曜日に聖餐（せいさん）を受けるときに，その聖約を更新します。

今日のわたしの目的は，主がわたしたちに与えてくださった，「困っている人を助ける機会」について説明することです。短い時間ですべてについて話すことはできません。わたしの願いは，行動するという皆さんの決意を新たにし，強めることです。

主がこの業にわたしたちを招いておら

れることを歌った賛美歌があります。わたしは少年のころからこの賛美歌を歌いました。子供のころ，言葉の持つ力よりも楽しいメロディーに関心がありました。皆さんがこの賛美歌の歌詞の意味を心で感じ取れるよう祈ります。もう一度，歌詞を聴いてみましょう。

「今日われ善きことせしか
人を助けしか
悲しきをも慰めしか
かくせずば悪し
人の重荷軽くして
わが手貸したるか
病みて疲れし者助け
そこにわれおりしか
天の夢より覚め
善きこと行え
計り知れざる喜びあり
愛と義務の恵み」[1]

主は「目を覚ましなさい」という呼びかけを，わたしたち全員に定期的に送っておられます。その呼びかけは，あるときは，助けが必要な人に対して突然わき上がる同情心かもしれません。父親の場合は，子供が倒れてひざをすりむいたときにその呼びかけを感じたことがあるかもしれません。母親の場合は，夜，恐怖におののく子供の叫び声を聞いたときにその呼びかけを感じたことがあるかもしれません。息子や娘の場合は，学校で悲しみや恐れを感じているクラスメートに対して，その呼びかけを感じたことがあるかもしれません。

わたしたちは皆，知らない人に対してさえ同情心を感じたことがあります。例えば皆さんは，今回の日本の地震の後に太平洋を渡って来た津波のことを聞き，被災者のことを心配しました。

オーストラリアのクイーンズランドを襲った洪水について知らされ同情心を感じた人も大勢います。ニュースでは，助けの必要な人がどれくらいいるかについて重点的に報告されました。しかし，皆さんの多くが被災者の痛みを感じました。この痛み，つまり「目を覚ましなさい」との呼びかけに応じて，オーストラリアの1,500人以上の教会員がボランティアとして駆けつけ，助けと慰めを提供しました。

彼らの同情心は，聖約に基づいて行動する決意に変わりました。助けを受ける困窮者と，機会をとらえて助ける人にもたらされる祝福を，わたしはこれまで何度も目にしてきました。

賢明な親は，人々が助けを必要とする度に，自分の息子や娘の生活を祝福する方法を見いだします。最近，3人の子供たちがわたしの家のドアの横においしい食事を運んで来てくれました。その子供たちの両親が我が家に助けが必要なことを知り，この奉仕の機会に子供たちを参加させたのです。

この両親は惜しみない奉仕をしてわたしたち家族を祝福してくれました。さらに子供たちを参加させることにより，彼らの未来の孫たちをも祝福したのです。我が家を去るときの子供たちの笑顔を見て，将来そうなることをわたしは確信しました。主に代わって心のこもった奉仕をすることにより感じた喜びを，あの子供たちは将来自分の子供たちにも伝えることでしょう。わたしも子供のころ，父に勧められて隣の家の草むしりをしたときに味わった静かな満足感を忘れることができません。与える者になるようにと招かれたとき，わたしは「わが神，わが王」[2]という賛美歌を思い起こし，その歌詞を信じます（訳注――英語の歌詞“Sweet is the work, my God, my King”は「この業は喜びです，わが神，わが王よ」の意）。

この歌詞は，安息日に主を礼拝することで得られる喜びを表現するために書かれたものです。しかし食べ物を持って我が家のドアに立っていた子供たちは，主の業を行う喜びを週日に感じていました。そしてその両親は善を行う機会を見いだし，何世代も先にまで喜びを広めたのです。

助けを必要とする人を主の方法で世話するなら，親は子供を祝福する別の機会が得られます。ある日曜日に，礼拝堂でそのような場面を目にしました。ビショップが聖餐会の前に礼拝堂へ入って来たとき，一人の小さな子供が，自分の家族の献金封筒をビショップに渡していました。

わたしはその家族とその少年を知っていました。その家族はワードに助けの必要な人がいることを少し前に聞きました。少年の父親は，封筒の中にいつもより多くの断食献金を入れながら，その子にこう

人が自分の家族を養う仕事を探していると説明しました。わたしは同情心が部屋中にあふれるのを感じました。そして，何人かがその人を雇えるかもしれない人々の名前を挙げました。

その神権定員会で起きたことも，アイダホ州の浸水した多くの家で起きたことも，大きな助けを必要としている人々が自立できるように主の方法でどのように助けるかを表しています。わたしたちは哀れみを感じます。そして，わたしたちは主の方法で助けるためにどのように行動するべきかを知っています。

わたしたちは今年，教会福祉プログラム75周年記念を祝います。そのプログラムは，大恐慌として知られるようになった出来事の結果，仕事と，農場と，そして家さえも失った人々の必要を満たすために始まりました。

わたしたちの時代に，天の御父の子供たちが物質的に大いに困窮する時代が再びやって来ました。それはいつの時代も同じでしたし，これからも同じでしょう。教会福祉プログラムの根底にある原則は，一つの時代や場所に限定されない普遍的なものです。

それらの原則は，霊的であり永遠のものです。ですから，それらを理解し，心の中にしっかりと刻み込むことで，主からいつどこで呼びかけられても，その機会を見いだし，とらえることができるでしょう。

主の方法で助けたいと願うとき，また，人々から助けを受けたときに，わたしが指針とした幾つかの原則を紹介します。

第1に，すべての人は，自分と家族を養い，人々の世話ができるときに，より幸福であり，より自尊心を感じるものです。わたしは，自分の必要を自分で満たせるように助けてくれた人々に感謝しています。自立できるように助けてくれた人々に対しては，長年にわたりより深い感謝の気持ちを感じています。そして，わたしが最も感謝しているのは，どのように余剰物の一部を用いて人を助けるかを教えてくれた人々です。

言いました。「今日は家族で断食をして，助けの必要な人のために祈ったね。家族を代表してこの封筒をビショップに渡してくれるかい。ビショップがわたしたちよりももっと助けの必要な人のためにこのお金を使ってくれるからね。」

この少年は，その日曜日に空腹感で苦しんだことよりも，温かく幸せな気持ちを感じたことの方を，いつまでも覚えているでしょう。彼はほほえみながら，しっかりと封筒を持っていました。彼は，貧しい人のために家族でささげるお金を自分に託した父親の信頼を強く感じていました。彼は執事になっても，そして恐らく永遠に，その日のことを忘れないでしょう。

何年も前に，アイダホ州で主の代わりに支援活動に参加した人々の顔にも同じような喜びが表れていました。1976年6月5日土曜日，ティートンダムが決壊しました。11人が命を落としました。何千人もの人たちが数時間のうちに家を立ち去らなければなりませんでした。押し流された家もありました。持ち主の努力と資力だけではとうてい回復できない家屋が何百軒にも上りました。

この悲劇を耳にした人々は同情にかられ，「善を行いなさい」という呼びかけを感じました。隣人，ビショップ，扶助協会会長，定員会指導者，ホームティーチャー，訪問教師が，家を離れ，仕事を中断して，水浸しになった家の掃除をしました。

ある夫婦は，洪水の直後，休暇先からレックスバーグに帰って来ました。自分の家を見に行くよりも先に，ビショップを見つけ，どこへ助けに行けばよいかを尋ねました。ビショップは助けを必要としている人のもとに彼らを送りました。

数日後，彼らは自分たちの家の様子を見に行きました。家はなくなっていました。洪水で流されたのです。二人はまっすぐビショップのところに戻り，こう尋ねました。「今度は何をしてほしいですか。」

どこに住んでいようとも，皆さんは同情心が私心のない行動に変わる奇跡を目にしたことがあります。それは大きな自然災害の後だけとは限りません。わたしはある神権定員会でそのような奇跡を見ました。一人の兄弟が立ち上がって，ある

余剰を残すためには，出費を収入以下に抑えればよいということを学びました。そのような余剰ができ，わたしは与える方が受けるよりもほんとうにすばらしいということを学びました。なぜなら，主の方法で助けるときに，主はわたしたちを祝福してくださるからです。

マリオン・G・ロムニー管長は福祉の働きについてこう語っています。「この業にあって，与えすぎたために貧しくなるということはない。」それからロムニー管長は自分の伝道部会長だったメルビン・J・バラード長老の言葉を引用しています。「人が一かけらのパンを主にささげれば，主はいつもその返礼として，一塊のパンをお与えになります。」[3]

それが真実であることをわたしは自分の人生を通じて理解するようになりました。助けを必要としている天の御父の子供たちに対して寛容になれば，主もわたしに対して寛容になられます。

福祉の業においてわたしの指針となった原則その2は，一致がもたらす力と祝福です。困っている人に仕えるために手を携えて協力するとき，主はわたしたちの心を一つにしてくださいます。J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は，それを次のように表現しています。「福祉農園あるいはそのほかのプロジェクトにおいて，様々な訓練や職業を経験した者たちが協力し合うとき，与えることによって……兄弟同士であるという連帯感が……もたらされた。」[4]

そのような兄弟間のきずなは，与える人のみならず受ける人にもはぐくまれます。ある男性は，今でもわたしとのきずなを感じてくれています。レックスバーグの彼の家が浸水したとき，わたしと彼は一緒に泥をかき出しました。そして彼は，自分自身と家族のために，できる限りのことを行ったことで，自分に対してより大きな尊厳を感じているのです。もしもわたしたちが二人ではなく一人で働いていたとしたら，二人ともこの霊的な祝福を失っていたことでしょう。

このことから，わたしにとっての「福祉の業における行動原則」その3に導かれます。それは自分と一緒に家族も参加させるということです。そうすることで，ほかの人のことを思いやると同時に，家族として互いに思いやることができるようになります。助けを必要としている人々に仕えるために協力する息子や娘は，助けが必要なときに互いに助け合うようになります。

教会福祉に関する4つ目の重要な原則は，ビショップを務めていたときに学びました。それは貧しい者を捜し求めるという，聖典に記された命令に従うことによって学んだのです。ある人々は自分と家族で最善を尽くしてもなお援助が必要です。そのような人々を見いだし，助けを与えるのは，ビショップの義務です。わたしは真理を見いだすときと同様に，貧しい人の世話をするときにも，主が聖霊を送ってくださり，「捜せ，そうすれば，見いだすであろう」[5]という言葉が成就することを知りました。そしてわたしは，この捜索に扶助協会の会長の力を得ることを学びました。彼女は皆さんより先に啓示を受けることがあります。

皆さんの中には，これから数か月の間に，そのような霊感を必要としている人が出てきます。教会福祉プログラム75周年を記念するために，全世界の会員に「奉仕の日」に参加するようお勧めします。どのようなプログラムを計画するときにも，指導者と会員は啓示を求めてください。

皆さんが奉仕プログラムを計画する際に留意することとして，3つの提案をします。

第1に，自分自身と，そして皆さんが導く人々を霊的に備えてください。救い主の贖（あがな）いによって心が和らぎさえすれば，このプログラムの目標が，天の御父の子供たちの生活を，霊的にも物質的にも祝福するものであるということが明白に理解できるでしょう。

第2に，王国の中であれ地域社会の中であれ，奉仕をする人が心から助けたいと思う人々に奉仕するよう提案します。奉仕を受ける人々は，奉仕する人々の愛を感じることでしょう。皆さんが奉仕をする相手に対して感じる愛は，賛美歌が約束しているように，彼らの物質的な必要を満たすよりもむしろ，彼らの心を喜ばせるのに役立つことでしょう。

最後に，家族，定員会，補助組織のきずなが持つ力と，地域社会で皆さんが知っている人々の力を引き出すように計画することを提案します。一致の感情は，皆さんが行う奉仕の良い影響を倍増します。また，家族，教会，地域社会におけるそういった一致の感情は増大し，プロジェクトが終わった後も，長期にわたって永続する遺産となるでしょう。

この機会に，わたしが皆さんにどれほど感謝しているかをお伝えします。わたしは，皆さんが主に代わって行っている愛に満ちた奉仕を受けた人々に世界各地でお会いする機会があり，そのような方々から感謝されています。

皆さんは，主の方法で助けたとき，人々を高める方法を知りました。皆さんや，皆さんのように救い主に従う謙遜（けんそん）な弟子たちは，奉仕をするときに，パンを水の上に投げてきました。そして，皆さんが助けた人々が感謝という一塊のパンをわたしに渡そうとしてきました。

わたしは皆さんと一緒に働いた人々から感謝の言葉を受けています。あるとき，エズラ・タフト・ベンソン大管長の隣に立

ちました。わたしはそのときのことをよく覚えています。わたしたちは主の教会における福祉の業について話し合っていました。驚いたことに，ベンソン大管長は，青年のように力強く手を上下に動かしながら，こう言ったのです。「わたしはこの業を愛しています。これ以上の業はありません。」

救い主に代わって，天の御父の子供たちに仕えている皆さんの働きに感謝します。主は皆さんを御存じであり，皆さんの努力，勤勉そして犠牲を見ておられます。皆さんが主の代わりに助けた人々が幸福になるときに，皆さんが自分の労苦の実が結ぶのを見るという祝福を，主が皆さんに授けられるように祈ります。

御父である神が生きていて，わたしたちの祈りを聞いておられることを知っています。イエスがキリストであられることを知っています。皆さんも，皆さんが仕える人々も，主に仕え，主の戒めを守ることによって，清められ，強められることを知っています。皆さんは，ジョセフ・スミスが神の預言者であり，真実の生ける教会を回復したこと，そしてこの教会がその真実の生ける教会であることを，聖霊の力によって，わたしが知っているように知ることができます。トーマス・S・モンソン大管長が神の生ける預言者であることを証します。モンソン大管長は主がなさったこと，すなわち，良い働きをしながら巡回することの偉大な模範です。垂れた手を上げ，弱ったひざを強める機会をわたしたちがつかむことができますように。[6] イエス・キリストの聖なる御名(みな)により，アーメン。■

注

1.「今日われ善きことせしか」『賛美歌』137 番
2.「わが神，わが王」『賛美歌』87 番
3. マリオン・G・ロムニー「福祉事業：救い主のプログラム」『聖徒の道』1981 年 4 月号，177 参照
4. J・ルーベン・クラーク・ジュニア，Conference Report，1943 年 10 月，13
5. マタイ 7：7 － 8；ルカ 11：9 － 10；3 ニーファイ 14：7 － 8 参照
6. 教義と聖約 81：5

大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長による提示

教会役員の支持

わたしたちは預言者，聖見者，啓示者，末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長としてトーマス・スペンサー・モンソンを，大管長会第一顧問としてヘンリー・ベニオン・アイリングを，大管長会第二顧問としてディーター・フリードリッヒ・ウークトドルフを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がいれば，その意を表してください。

十二使徒定員会会長としてボイド・ケネス・パッカーを，また同定員会会員として，ボイド・K・パッカー，L・トム・ペリー，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，リチャード・G・スコット，ロバート・D・ヘイルズ，ジェフリー・R・ホランド，デビッド・A・ベドナー，クエンティン・L・クック，D・トッド・クリストファーソン，ニール・L・アンダーセンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

大管長会顧問，十二使徒を預言者，聖見者，啓示者として支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方がもしいれば，同様にその意を表してください。

わたしたちは次の方々を，2011 年 5 月 1 日をもって地域七十人から解任するよう提議します。ホセ・L・アロンソ，ネルソン・L・アルタミラノ，ジョン・S・アンダーソン，イアン・S・アルデルン，セルジオ・E・アビラ，デビッド・R・ブラウン，D・フレーザー・バロック，ドナルド・J・バトラー，ブラジミロ・J・カンペロ，ダニエル・M・カニョレス，カール・B・クック，I・ポロスキ・コードン，J・デビン・コーニッシュ，フェデリコ・F・コスタレス，リグランド・R・カーティス・ジュニア，ヒーバー・O・ディアス，アンドリュー・M・フォード，ユリオ・G・ガビオラ，マニュエル・ゴンザレス，ダニエル・M・ジョーンズ，ドナルド・J・カイズ，ドミンゴス・S・リンハレス，B・レナト・マルドナド，ライムンド・モラレス，J・ミシェル・パヤ，スティーブン・D・ポーシー，フアン・M・ロドリゲス，ヘラルド・L・ルビオ，ジェイ・L・シタード，デック・スマイバート，アイビーン・ステーリ，イスラエル・A・トレンティノ，W・クリストファー・ワデル，ギャリー・W・ウォーカー。

彼らのすばらしい奉仕に，ともに感謝を示してくださる方は，手を挙げてその意を表してください。

また新たに，七十人第一定員会の会員としてドン・R・クラーク，ホセ・L・アロンソ，イアン・S・アルデルン，カール・B・クック，リグランド・R・カーティス・ジュニア，W・クリストファー・ワデル，山下和彦(やましたかずひこ)を，七十人第二定員会の会員としてランドール・K・ベネット，J・デビン・コーニッシュ，O・ビンセント・ハレック，ラ

リー・Y・ウィルソンを支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方は同様にその意を表してください。

わたしたちは次の方々を新しい地域七十人として支持するよう提議します。ケント・J・アレン，スティーブン・B・アレン，ウィンザー・バルデラマ，R・ランドール・ブルース，ハンス・T・ブーム，パトリック・M・ブトワイユ，マルセロ・F・シャッペ，エレアザル・S・コリャード，ジェフリー・D・カミングス，ニコラス・L・ディジョバンニ，ホルヘ・S・ドミンゲス，ゲーリー・B・ドキシー，デビッド・G・フェルナンデス，エルナン・D・フェレイラ，リカルド・P・ヒメネス，アレン・D・ヘイニー，ダグラス・F・ハイアム，ロバート・W・ハイマス，レスター・F・ジョンソン，マッティ・T・ヨーテヌス，金昌湖（キムチャンホ），アルフレッド・キュング，レミジオ・E・メイム・ジュニア，イスマエル・メンドーサ，セザー・A・モラレス，ルロン・D・ムンス，ラモン・C・ノブレザ，アベニール・V・パパロ，ゲーリー・B・ポーター，ホセ・L・レイナ，エステバン・G・レセク，ジョージ・F・ローズ・ジュニア，リン・L・サマーヘイズ，クレイグ・B・テリー，デビッド・J・トムソン，エルネスト・R・トリス，アールヌフォ・バレンスエラ，リカルド・バヤダレス，ファビアン・I・バリヤホ，エマー・ビヤロボス，テリー・L・ウェード。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方。

そのほかの中央幹部，地域七十人，中央補助組織会長会を現在のまま支持するよう提議します。

賛成の方はその意を表してください。

反対の方はその意を表してください。

モンソン大管長，わたしが見たかぎり，カンファレンスセンターにおいては全会一致で支持されました。

兄弟姉妹の皆さん，皆さんの賛意の表明と信仰，献身と祈りに感謝します。■

2010年度
教会監査部報告

教会監査部実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会に対して提示

愛する大管長会の皆さん。教義と聖約第120章の啓示に定められているように，教会基金の支出の承認は，什分(じゅうぶん)の一配分評議会が行います。同評議会は，大管長会，十二使徒定員会，および管理ビショップリックで構成されています。同評議会は，教会の各部門と運営組織の予算，ならびに教会の各ユニットに関連した配分の予算を承認します。評議会の承認を得た後，教会の各部門は承認された予算のとおり，教会の方針と手続きに従って基金を使います。

教会監査部は，基金の収支と資産の保全が適切に管理されているかを監査するうえで必要なあらゆる記録やシステムから情報を入手する権利があります。教会監査部は，教会のほかのあらゆる部門や運営組織から独立しており，監査を実施する人々は公認会計士，公認内部監査人，公認情報システム監査人，そのほかの資格ある専門家によって構成されています。

監査の結果，教会監査部では，2010年度において，教会のすべての資材，献金や寄付，支出，および教会資産は，適切な会計と承認された予算，および教会の方針と手続きに従って記録し，管理されているという見解に達しました。

以上，謹んでご報告いたします。

教会監査部
実務運営ディレクター
ロバート・W・キャントウェル■

2010年度統計報告

大管長会秘書
ブルック・P・ヘイルズ提出

大管長会は2010年度の教会統計報告を次のように発表しました。2010年12月31日現在のステーク数：2,896，伝道部：340，地方部：614，ワードおよび支部：28,660。

2010年末現在の教会員総数：14,131,467。

教会の新たな記録上の子供：120,528。

2010年にバプテスマを受けた改宗者：272,814。

昨年末時点で奉仕していた専任宣教師数：52,225。

教会奉仕宣教師数：20,813。その多くが在宅で奉仕を行い，教会の様々な分野を支えています。

2010年には，カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバー神殿，アリゾナ州ヒラバレー神殿，フィリピン・セブシティー神殿およびウクライナ・キエフ神殿の4つの神殿が奉献されました。

またハワイ州ライエ神殿が2010年に再奉献されています。

全世界で儀式が執行されている神殿数は134です。

2010年4月の総大会以降に他界した，以前の中央役員およびその他の人々

元七十人，W・グラント・バンガーター長老，アドニー・Y・小松長老，ハンス・B・リンガー長老，リグランド・R・カーティス長老，リチャード・P・リンゼイ長老，ドナルド・L・ステーリー長老，リチャード・B・ワースリン長老；元中央扶助協会会長，バーバラ・B・スミス；元中央若い女性会長，ルース・H・ファンク；元中央若い女性会長会顧問，ノーマ・ジェーン・B・スミス；名誉中央幹部の故J・トーマス・ファイアンズ長老夫人，ヘレン・ファイアンズ姉妹；画家・イラストレーター，アーノルド・D・フリーバーグ；元教会教育委員長，J・エリオット・キャメロン。■

十二使徒定員会会長
ボイド・K・パッカー会長

聖霊に導かれて

わたしたちは皆，啓示の霊と聖霊の賜物の導きを受けることができます。

英語の欽定訳聖書が出版されてから400年がたちます。出版にこぎつけたのは，わたしにとって偉大な英雄であるウィリアム・ティンダルの並々ならぬ苦労の賜物でした。

聖職者たちは聖書が平易な英語で出版されることを好まず，ティンダルを執拗に追い回しました。ティンダルは聖職者たちにこう言いました。「神がわたしを生き長らえさせてくださるのであれば，何年もしないうちに，鋤を引いて畑を耕している農家の少年でさえ，あなたたちよりもはるかに聖書に精通させてみせよう。」[1]

ティンダルは裏切られて，ブリュッセルの凍えるように寒く暗い牢に1年以上にわたり閉じ込められました。服はぼろぼろになりました。「暗闇の中で独り座っているのはほんとうに疲れます」[2] と言って，聖職者たちに上着と帽子とろうそくを求めました。これらは与えられず，結局ティンダルは牢から引き出されて大群衆の前で木に縛られ，火で焼かれ，絞殺されました。しかし，ウィリアム・ティンダルの業績と殉教は無駄にはなりませんでした。

末日聖徒の子供たちは若いうちから聖文に親しむよう教えられていますから，4世紀前のウィリアム・ティンダルの預言はある程度成就したと言えます。

現在わたしたちは聖書とイエス・キリストのもう一つの証であるモルモン書，高価な真珠，教義と聖約を，聖典として使用しています。

モルモン書を使っていることから，この教会はよく「モルモン教会」と呼ばれます。こう呼ばれても不快ではありませんが，正しい呼称ではありません。

モルモン書には，ニーファイ人が主の御名によって御父に祈っていたために主が再度訪れられたことが書かれています。主はこう言われました。

「あなたがたはわたしから何を与えられたいのか。」

「そこで彼らはイエスに，『主よ，この教会をどのような名で呼ぶべきか，わたしたちにお教えいただきたいと存じます。この件について民の中に論争がございますから』と言った。

すると主は，……言われた。『……民がこのことについてつぶやき，論じ合うのはなぜか。

彼らは，「キリストの名を受けなければならない」という聖文を読んだことがないのか。……終わりの日にあなたがたは，この名によって呼ばれるのである。

だから，あなたがたが行うことは何事でも，わたしの名によって行いなさい。あなたがたは教会をわたしの名で呼びなさい。また，父がわたしのために教会を祝福してくださるように，わたしの名によって父に呼び求めなさい。

わたしの名で呼ばれなければ，どうしてわたしの教会であろうか。ある教会がモーセの名で呼ばれれば，それはモーセの教会である。あるいは，ある人の名で呼ばれれば，それはその人の教会である。しかし，わたしの名で呼ばれ，人々がわたしの福音の上に築かれていれば，それはわたしの教会である。』」[3]

啓示に従って，わたしたちはこの教会を「モルモン教会」ではなく，「末日聖徒イエス・キリスト教会」と呼んでいます。教会員でない人がこの教会を「モルモン教会」と呼んだり，わたしたちをモルモンと呼んだりすることは差し支えありませんが，教会員がそうするのはまったく別の問題です。

大管長会はこう宣言しています。

「救い主の御名を全世界に宣言するという責任を果たすうえで，啓示された教会の名称，すなわち『末日聖徒イエス・キリスト教会』(教義と聖約115：4)という名称を使用することがますます重要になってきています。そのため，教会員の皆さんが教会について話すときには，可能なかぎり教会の正式名称を用いてくださるようお願いします。

……教会員について触れるときには，『末日聖徒イエス・キリスト教会の会員』と呼ぶことをお勧めします。略した呼称としては『末日聖徒』が好ましいと思われます。」[4]

「〔末日聖徒〕はキリストのことを話し，キリストのことを喜び，キリストのことを説教し，キリストのことを預言し，また，どこに罪の赦しを求めればよいかを，わたしたちの子孫に知らせるために，自分たちの預言したことを書き記す」[5] のです。

世の人がこの教会をどのように呼ぼうと，わたしたち教会員は，話をするときに，自分がイエス・キリストの教会の会員であることを常に意識してください。

わたしたちのことをキリスト教徒ではないと言う人もいます。そのような人たちは，

この教会のことをまったく知らないか，または誤解しているかのどちらかです。

教会では，すべての儀式がイエス・キリストの権能と御名によって行われます。[6] わたしたちの教会には，初期の教会にあったと同じ使徒と預言者から成る組織があります。[7]

昔，主は十二使徒を召され，聖任されました。そして，裏切られて十字架にかけられました。復活された後，救い主は40日間にわたって弟子たちを教え，その後，天に昇って行かれました。[8]

しかし，欠けているものがありました。数日後，十二使徒が家に集まっていると，「突然，激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて，一同がすわっていた家いっぱいに響きわたった。……舌のようなものが，炎のように分れて現れ，ひとりびとりの上にとどまった。すると，一同は聖霊に満たされ……た。」[9] こうして，主の使徒に権能が与えられました。使徒たちは，主の教会を確立するためには救い主から与えられた権能と聖霊の賜物が不可欠だということを悟ったのです。彼らはバプテスマを施し，聖霊の賜物を授けるよう命じられました。[10]

後に，使徒も，使徒が持っていた神権も失われてしまいました。管理するための権能と力が回復されなければなりませんでした。人々は権能の回復と主の教会の設立を何世紀もの間待ち望んでいました。

神権は1829年，バプテスマのヨハネと使徒ペテロ，ヤコブ，ヨハネによってジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに回復されました。現在，ふさわしい男性の教会員は神権に聖任されます。この権能と，それに付随して全会員にバプテスマの後に与えられる聖霊の賜物があるという点で，わたしたちの教会は他の教会と一線を画しています。

教会初期の啓示で，「すべての人が主なる神，すなわち世の救い主の名によって語る」[11] よう命じられました。今日教会の業は，管理したり教えたり，運営したりするために召され支持を受けた普通の男女が行っています。こうして召された人々は，啓示の力と聖霊の賜物によって主の御心が分かるよう導かれます。この教会の会員でない人は預言や啓示，聖霊の賜物などを受け入れないかもしれませんが，教会員のことを少しなりとも理解できれば，教会員がこれらを受け入れていることが分かることでしょう。

主は，生活習慣や摂取物に潜む危険性が世に知られるはるか以前に，ジョセフ・スミスに「知恵の言葉」という健康の律法を啓示されました。若者たちの前に常にあるもの，すなわち茶やコーヒー，酒，たばこ，そしてもちろん，様々な薬物と依存性の高い物質を避けるようにという教えを全員が受けたのです。この啓示に従う者は次のことを約束されました。「そのへそに健康を受け，その骨に髄を受けるであろう。

また，知恵と，知識の大いなる宝，すなわち隠された宝さえ見いだすであろう。

また，走っても疲れることがなく，歩いても弱ることはない。」[12]

別の啓示では，生命を創造する神聖な力を守り，結婚した男女の間だけでこの力を用いるようにという主の道徳的な標準が戒めとして与えられています。[13] この力を誤って用いることは，罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて，どのような罪よりも忌まわしい行いです。しかし，この律法に背いた人も，悔い改めの律法に従うことによって背きの影響を消し去ることができると教えられていま

す。[14]

だれもが試されます。自分だけがこんな特殊な誘惑に遭うのは不公平だと思う人がいるかもしれませんが，試しを受けるのはこの世の人生の目的なのです。そして答えは万人に共通です。つまり，人はあらゆる誘惑に打ち勝たなければならず，打ち勝つことができるということです。

「偉大な幸福の計画」[15] の中心は家族です。家庭において，夫は頭であり，妻は心の拠り所であり，夫婦は対等のパートナーです。末日聖徒の男性は家庭で頼りになる存在であり，福音に忠実です。面倒見のいい献身的な夫，父親であり，女性を大切にします。妻は夫を支えます。両親は子供が霊的に成長できるよう養います。

末日聖徒は愛し合い，過ちを寛大に赦し合うよう教えられています。

わたしの人生は，一人の義にかなった祝福師のおかげで変わりました。この祝福師は若いころ，愛する女性と結婚しました。二人は深く愛し合っており，間もなく妻は最初の子供を身ごもりました。

出産当日の夜，合併症が起こりました。一人しかいない医師は往診に出ていました。陣痛は長時間にわたり，母親の容体は絶望的でした。ついに医師が到着し，緊急事態の中で迅速に処置をしたおかげで間もなく赤ん坊は生まれ，危機を脱したかに思われました。しかし，若い母親は数日後に亡くなったのです。あの夜，別の家で医師が治療していた感染症が原因でした。

この若い男性の人生は音を立てて崩れました。日がたつにつれて悲しみは深くなりました。ほかのことは何も考えられなくなり，いらいらして人に八つ当たりするようになりました。今の時代なら，お金ですべてが解決するかのように，医療過誤で訴えるよう間違いなく勧められていたことでしょう。

ある晩，家のドアをノックする音が聞こえました。出てみると小さな女の子が立っていて，「来てください，ってパパが言っています。お話がしたいそうです」とだけ言いました。

「パパ」とはステーク会長のことでした。この賢明な指導者のアドバイスは簡潔なものでした。「ジョン，思い悩むのをやめなさい。何をしようと奥さんは帰って来ない。何をしても事態は悪くなるだけだ。ジョン，思い悩むのをやめなさい。」

わたしの友人ジョンにとってこれは試練でした。どうすれば思い悩まないでいられるというのでしょうか。とんでもない過ちが行われたのです。彼は自分を抑えようと苦闘した末，従順になってこの賢明なステーク会長の勧めに従うことに決めました。思い悩まないことにしたのです。

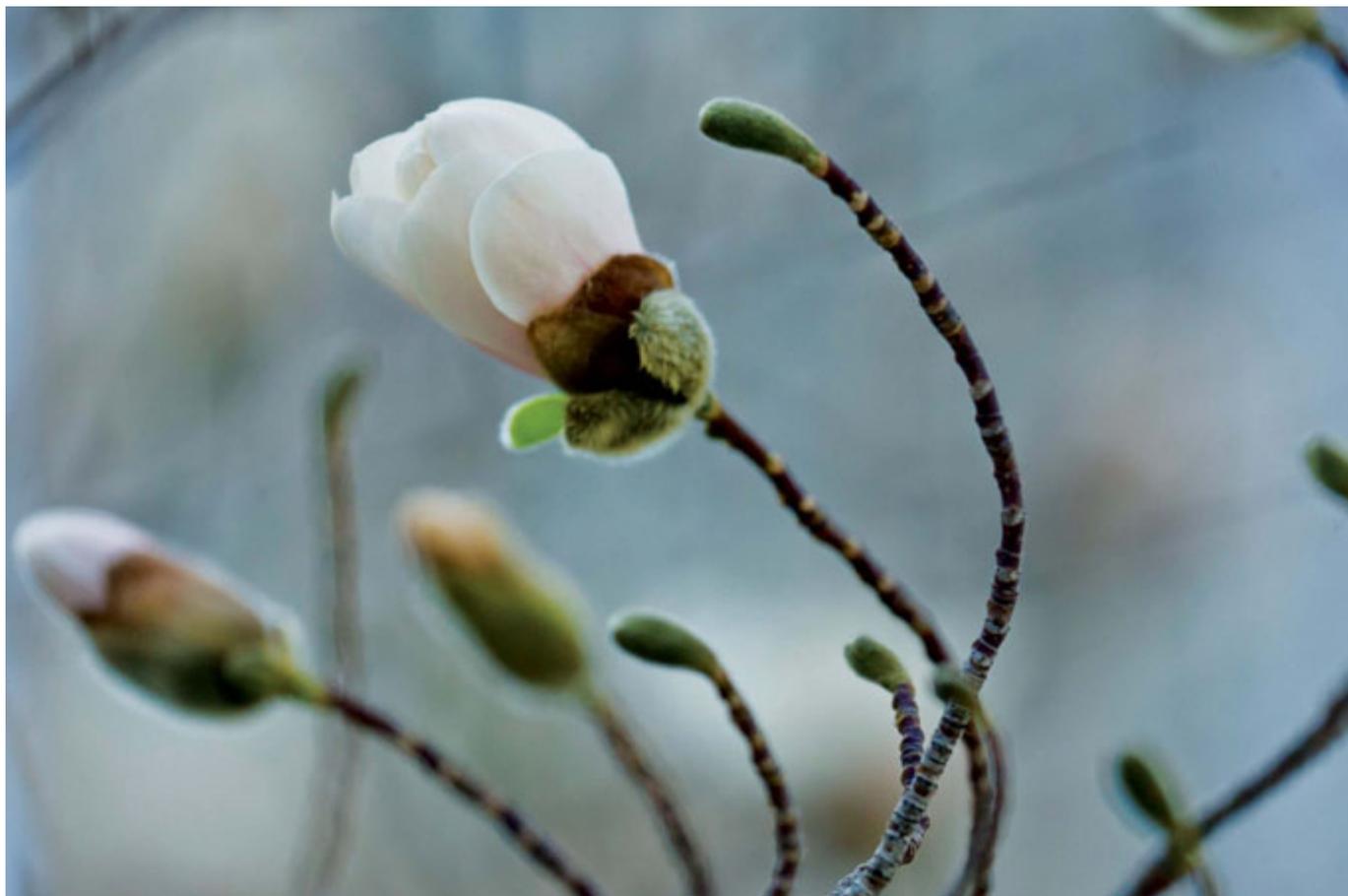
彼はこう言っています。「結局理解できたのは年を取ってからだったよ。彼は気の毒な町医者だった。忙しいばかりで収入は少なく，身を粉にして次から次へと患者を見て回っていた。ろくな薬もなく，病院もなく，器具にも事欠いていた。それでも人の命を救おうと必死だった。それに実際多くの命を救っていた。母子ともに命が危ないという土壇場にやって来て迅速に処置してくれたんだ。ようやく分かったよ。わたしは危うく自分の人生も，人の人生もだめにするところだった。」

「ジョン，思い悩まないようにしなさい」とだけ勧告してくれた賢明な神権指導者のことを，彼は幾度もひざまずいて主に感謝したそうです。

傷ついたり気分を害したりする教会員を周囲で目にすることがあります。教会の歴史上の出来事を知って不快に思う人もいれば，教会の指導者の言動に傷つく人もいます。彼らはそのことで生涯苦しみ，人の過ちを忘れることができません。思い悩むことをやめず，教会に行かなくなります。

このような態度を執る人は，棒で殴られた人が，怒って棒を取り上げ，それで自分の頭を一生たたき続けているようなものです。非常にばかげていて，悲しいことです。こんな復讐は自分が傷つくだけです。傷つけられたら赦し，忘れ，思い悩むのをやめましょう。

モルモン書には次の警告があります。「もし誤りがあるとすれば，それは人の犯した間違いである。したがって，キリストの裁きの座で染みがないと認められるた

ブラジル・サンルイス

めに，神にかかわるものを非難しないようにしなさい。」[16]

末日聖徒はごく普通の人です。教会員の人口は1,400万であり，世界中どこにでもいます。これはただの始まりにすぎません。教会員は世にあって世のものとなってはならないと教えられています。[17] ですから教会員は一般の人たちと一緒に普通の家庭で普通の生活をしています。

また，教会員はうそをついたり盗んだり，不正行為をしたりしないよう教えられています。[18] 教会員は悪い言葉を使いません。前向きに物事をとらえ，喜びにあふれ，人生を恐れません。

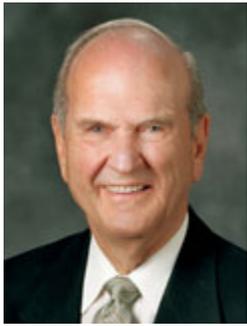
また，教会員は「悲しむ者とともに悲しみ，慰めの要る者を慰めることを望み，……いつでも，どのようなことについても，どのような所にいても，…… 神の証人になることを望んで」[19] います。

会員に多くのことを求めない教会を探している人がいるとしたら，この教会は違います。末日聖徒として生きるのはたやすいことではありませんが，結局これが唯一正しい道なのです。

敵対する者たちや「様々な地における戦争と戦争のうわさと地震」[20] があったとしても，いかなる力もいかなる影響力もこの業をとどめることはできません。わたしたちは皆，啓示の霊と聖霊の賜物の導きを受けることができます。「全能者が末日聖徒の頭に天から知識を注ぐのを人が妨げようとするのは，人がそのか弱い腕を伸べて，定められた水路を流れるミズーリ川をとどめようとするようなもの，あるいは逆流させようとするようなもの」[21] なのです。

もし皆さんが，何らかの重荷を背負っているなら，それを忘れ，手放してください。たくさん赦し，幾らか悔い改めをしてください。そうすれば，聖霊の御霊(みたま)の訪れを受け，これまで経験したことのないような強い証によって確認を受けるでしょう。皆さんと皆さんの家族は，見守られ，祝福されるでしょう。これは，主のもとに来るようにという招きです。この末日聖徒イエス・キリスト教会，すなわち主御自身が「全地の面に唯一まことの生ける教会」[22] と宣言されたこの教会こそが，「偉大な幸福の計画」[23] を見いだすことのできる場所です。これらのことをイエス・キリストの御名により証します，アーメン。■

注

1. デビッド・ダニエル，Tyndale's New Testament の序文（1989年），viii
2. デビッド・ダニエル，Tyndale's New Testament の序文，ix
3. ３ニーファイ27：2－5，7－8
4. 大管長会の手紙，2001年2月23日付
5. ２ニーファイ25：26
6. モーセ5：8参照；バプテスマ：2ニーファイ31：12；3ニーファイ11：27；18：16；病人への祝福：教義と聖約42：44参照；聖霊の賜物の授与：モロナイ2：2参照；神権への聖任：モロナイ3：1－3参照；聖餐：モロナイ4：1－3参照；奇跡：教義と聖約84：66－69参照
7. 信仰箇条1：6参照
8. 使徒1：3－11参照
9. 使徒2：2－4
10. 使徒2：38参照
11. 教義と聖約1：20
12. 教義と聖約89：18－20
13. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号，49参照
14. アルマ39：4－6参照
15. アルマ42：8
16. モルモン書タイトルページ
17. ヨハネ17：14－19参照
18. 出エジプト20：15－16参照
19. モーサヤ18：9
20. モルモン8：30
21. 教義と聖約121：33
22. 教義と聖約1：30
23. アルマ42：8

十二使徒定員会
ラッセル・M・ネルソン長老

信仰をもって将来に臨む

主の真理，聖約，儀式があるので，わたしたちは恐れに打ち勝ち，信仰をもって将来に臨むことができるのです。

愛する兄弟姉妹，皆さんが挙手によってだけでなく，家庭や教会，地域社会における奉仕によっても，支え励ましてくれることを感謝しています。わたしたちは皆さんとともに過ごすこと，また家族や友人に囲まれた皆さんを見ることが大好きです。皆さんがどこに住んでいようと，この世界をより良い所にしようと努力していることをわたしたちは知っています。皆さんを支持し，愛しています。皆さんが祈ってくれるように，わたしたちも皆さんのために祈っています。

わたしたちは，皆さんが家庭でテレビやコンピューターの前に集まって家族で総大会の模様を見ている様子を心に思い描いています。よく気のつくある両親が，大会を見ていたときに撮った写真を送ってくれました。この両親は，当時1歳半だった息子が話者の顔と声に反応するのを見ました。その子はそれがだれかに気づき，テレビに向かって投げキッスを始めたのです。もっと近づきたがったので，優しい姉がすぐに弟を肩車して近づけてあげました。これがその写真です。

そうです，テレビに映っているのはわたしで，この子供たちはわたしの孫です。何年か後にはこの男の子は長老になり，神殿でエンダウメントを受け，準備して伝道に出るでしょう。その後，自分が選ぶ永遠の伴侶（はんりょ）と結び固めを受けることでしょう。彼がいつの日か夫となり，父親となって彼自身の子供たちと一緒にいる様子が想像できるでしょうか。そして，いつの日か祖父に別れを告げることになり，死が人生の一部であることを確かに知るのです。

そのとおりです。人は死ぬために生きており，再び生きるために死ぬのです。永遠の観点から見ると，ほんとうに早すぎる死はただ一つ，神にお会いする用意ができていない人の死です。

使徒として，また預言者として，わたしたちは自分の子供や孫だけでなく，皆さんの子供や孫，そして神の子供たち一人一人に関心を寄せています。両親や家族，友人，教師の影響により，神の聖なる子供一人一人の未来が形になっていきます。つまり，***現在の***わたしたちの信仰は，***後の***子孫の信仰の一部となるのです。

人は皆，絶えず変化する世界，様々な考え方が人々の注意を引こうと張り合う世界で生きることになります。悪の軍勢はいつも善の軍勢に敵対します。サタンは自分の道を歩ませようと，また自分のように惨めにしようと絶えず働きかけてきます。[1] また，病気やけがや事故など，人生に付き物の危険はいつも存在します。

わたしたちは混乱の時代に生きています。地震と津波が恐ろしい破壊をもたらし，政治体制が崩壊し，経済状況が厳しくなり，家族が攻撃を受け，離婚率が高くなっています。不安を抱く十分な理由があります。しかし，恐れのために信仰を失う必要はありません。信仰を強めることによってそれらの恐れと戦うことができます。

子供たちから始めてください。親の皆さんには子供たちの信仰を強くする第一の責任があります。たとえつらい試練に遭っているときでも，子供たちが皆さんの信仰を感じるようにしてください。愛にあふれた天の御父とその愛子（あいし），主イエス・キリストを，皆さんの信仰の中心としてください。そのような信仰を，強い確信をもって教えてください。貴い少年少女の一人一人に，その子が神の形に創造され，神聖な目的と能力を備えた神の子であることを教えてください。すべての人には，生まれながらに，克服するべき課題とはぐくむべき信仰が備わっています。[2]

神の救いの計画を信じる信仰について子供たちに教えてください。死すべき世の生涯が試しの時期，すなわち主から命じられることを何であろうと行うかどうかを試される時期であることを教えてください。[3]

神の***すべての***戒めを守る信仰について子供たちに教えてください。[4] 守る戒めを選び，そのほかの戒めを無視して破る人々に出会うだろうと警告してください。わたしはこれを，好きな料理を選ぶカフェテリア式の従順と呼んでいます。えり好みするというこの習慣はうまくいきません。惨めな結果を招きます。神にお会いする用意をするために，神の戒めを***すべて***守るのです。戒めに従うには信仰が必要であり，神の戒めを守ることによってその信仰は強まるでしょう。

従順であれば，神の祝福が限りなく注がれます。神は従順な子供たちを祝福

し，束縛と災いから解放してくださいます。また，さらなる光を与えてくださいます。例えば，人が知恵の言葉に従うのは，それに従うことで依存症から解放されるだけでなく，知恵と知識の宝という祝福も加えられることを知っているからです。[5]

神の戒めに従えば肉体的にも霊的にも守られることを知る信仰について子供たちに教えてください。神の聖なる天使たちがわたしたちを助けようと待ち受けていることを覚えていてください。主はこう述べておられます。「わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり，また左にいる。わたしの御霊（みたま）はあなたがたの心の中にある。また，わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて，あなたがたを支えるであろう。」[6] 何という約束でしょう。忠実であれば，主と天使が助けてくださるのです。

揺るぎない信仰は祈りによって強化されます。皆さんの心からの懇願は主にとって重要なものです。預言者ジョセフ・スミスがリバティーの監獄に監禁されていた悲惨な日々にささげた真剣かつ熱烈な祈りを考えてみてください。主は祈りにこたえ，預言者の見方を変えられました。「息子よ，あなたはこのことを知りなさい。すなわち，これらのことはすべて，あなたに経験を与え，あなたの益となるであろう。」[7]

永遠の展望をもって祈るならば，涙ながらの切々たる懇願が聞かれているかどうかを疑問に思う必要はありません。次のような主の約束が教義と聖約第98章に記録されています。

「あなたがたの祈りは……主の耳に達しており，この封印と証（あかし）をもって記録されているからである。すなわち，祈りがかなえられることを，主は誓って定めた。

それゆえ，主は，祈りはかなえられるという不変の聖約をもって，あなたがたに約束を与える。また，あなたがたを苦しめたすべてのことは，あなたがたの益のために，またわたしの名の栄光のためにともに働く，と主は言う。」[8]

主はわたしたちを安心させるために最も力強い言葉を選ばれました。***封印，証，誓い，定め，不変の聖約。***兄弟姉妹，主を信じてください。神は皆さんの誠実な心からの祈りを心に留められます。そして，皆さんの信仰は強くされるでしょう。

永続する信仰をはぐくむには，什分（じゅうぶん）の一を完全に納める決意を持ち続けることが不可欠です。まず，什分の一を納める信仰が必要です。その後，什分の一を納める人は信仰が増していき，やがて什分の一を納めることが貴い特権となります。什分の一は神から与えられた昔からある律法です。[9] 神は御自分の子供たちに，「天の窓を開いて，あふるる恵みを……注ぐ」と約束されました。[10] そればかりでなく，什分の一を納めると神の民として名を連ね，「報復と焼き払いの日」に守られます。[11]

なぜそのような確固とした信仰が必要なのでしょうか。困難な時代が来るからです。将来，忠実な末日聖徒でいることは容易でなくなり，大衆に好まれることもほとんどないでしょう。一人一人が試しを

受けます。使徒パウロは，末日には主に熱心に従う人々は「迫害を受ける」と警告しています。[12] まさにその迫害により，打ちひしがれて黙り込んでしまう可能性もあれば，それをきっかけに奮い立ち，日常生活でもっと模範と勇気を示す人になることもできます。

人生の試練に*どのように*対処するかは信仰の成長に大きく影響します。自分には神の属性，すなわち無限の価値を持つ受け継ぎがあるということを覚えているとき，強さが生じます。主は皆さんが正当な相続人であること，また特定の時期と場所に生まれ，育ち，主の旗を掲げる者となり聖約の民となるように天に取っておかれたことを，皆さんや，皆さんの子供たちや孫たちに思い起こさせておられます。皆さんは主の義の道を歩むとき，祝福を受けて主の慈しみの中にとどまり，主の民のために光となり救い手となるでしょう。[13]

兄弟姉妹，皆さん一人一人は，聖なるメルキゼデク神権の力により祝福を得ることができます。これらの祝福は，健康や，聖霊を伴侶とすること，人との関係，将来の様々な機会といった事柄に関して，皆さんの人生の状況を変え得るものです。この神権の力と権能は，教会のすべての霊的な祝福の鍵を持ちます。[14] そしてきわめて注目すべきことに，主は御心に従ってそれらの祝福を有効と認めると宣言しておられます。[15]

神権のすべての祝福の中で最も大いなる祝福は，主の聖なる神殿で授けられます。そこで交わした聖約に忠実であれば，皆さんと家族は，永遠の命の祝福にあずかる資格を与えられます。[16]

皆さんの報いは，来世でのみ与えられるわけではありません。多くの祝福は現世で皆さんのものとなり，皆さんの子供や孫の間で実現するでしょう。忠実な聖徒である皆さんは，人生の戦いを独りで戦う必要はありません。そのことを考えてみてください。「わたしはあなたと争う者と争い，あなたの子らを救う」と主は宣言されました。[17] また，後に主の忠実な民に次のような約束が与えられました。「彼らと，彼らの子供たちと，彼らの子供たちの子孫が，……三代，四代にわた〔る〕まで，主なるわたしは彼らの戦いを戦う。」[18]

わたしたちの愛するトーマス・S・モンソン大管長は預言者として次のように証しています。「わたしたちには計り知れないほど大きな祝福が約束されていることを証します。暗雲が立ち込めても，大雨に襲われるとしても，まっすぐに歩み，戒めを守るならば，福音の知識と，天の御父と救い主の愛はわたしたちを慰め，支え，心に喜びをもたらしてくれます。」

モンソン大管長はこう続けています。「愛する兄弟姉妹，恐れてはなりません。元気を出してください。未来は皆さんの信仰と同じく希望に満ちています。」[19]

モンソン大管長の力強い宣言にわたしの言葉を加えます。わたしは証します。神はわたしたちの御父であられ，イエスはキリストであられ，主の教会は地上に回復されています。主の真理，聖約，儀式があるので，わたしたちは恐れに打ち勝ち，信仰をもって将来に臨むことができるのです。イエス・キリストの聖なる御名により証します，アーメン。■

注

1. ２ニーファイ2：27参照
2. ペテロはこの概念を教えて，「あなたがた〔は〕，世にある欲のために滅びることを免れ，神の性質にあずかる者となる」と希望の言葉を述べている（２ペテロ1：4）。
3. アブラハム3：25参照
4. ２ニーファイ2：25参照
5. 教義と聖約89：19。イザヤ45：3も参照
6. 教義と聖約84：88
7. 教義と聖約122：7。見方を変えるもう一つの例が，詩篇に記されている。「わたしのいのちをお守りください。……あなたに信頼するあなたのしもべをお救いください。あなたはわたしの神です。主よ，わたしをあわれんでください。わたしはひねもすあなたに呼ばわります。……わが神，主よ，わたしは心をつくしてあなたに感謝し，とこしえに，み名をあがめるでしょう。」（詩篇86：2－3，12）
8. 教義と聖約98：2－3
9. 什分の一のことは，旧約聖書の次の８つの書で述べられている。創世記，レビ記，民数記，申命記，歴代志下，ネヘミヤ記，アモス書，マラキ書。
10. マラキ3：10
11. 教義と聖約85：3
12. ２テモテ3：12
13. 教義と聖約86：8－11参照
14. 教義と聖約107：18参照
15. 教義と聖約132：47，59参照
16. アブラハム2：11参照
17. イザヤ49：25。教義と聖約105：14も参照
18. 教義と聖約98：37
19. トーマス・S・モンソン「元気を出しなさい」『リアホナ』2009年5月号，92

七十人
リチャード・J・メインズ長老

キリストを中心とした家庭を築く

わたしたちは，家族が持つ永遠の性質を理解し信じています。この理解と信条は，最善を尽くしてキリストを中心とした家庭を築くようわたしたちを促してくれます。

若い宣教師としてウルグアイとパラグアイで伝道を始めて間もなく，わたしはあることに気づきました。末日聖徒イエス・キリスト教会についてさらに知りたいと思う人々の最大の関心事の一つは，家族に関する教義であるということです。事実，イエス・キリストの福音の回復以来，真理を求める求道者は家族が永遠に一緒にいられるという教義に引きつけられてきました。

永遠の家族の原則は，天の御父がその子供たちのために用意された偉大な計画に不可欠な要素です。その計画の基礎を成すのは，わたしたちには*天の*家族と*地上の*家族がいるという理解です。使徒パウロは，天の御父がわたしたちの霊の父であると教えています。

「こうして，人々が……神を見いだせるようにして下さった。……

われわれは神のうちに生き，動き，存在しているからである。……われわれも，確かにその子孫である。」[1]

愛にあふれた天の御父の子供であるということは，まさにイエス・キリストの福音の基本的な原則であるため，子供たちでさえ「神の子です」という初等協会の歌を歌いながらそれが真実であることを宣言します。その歌詞を覚えていますか。

神の子です，
私やあなた
あふれる恵みに
感謝します
私を助けて
導いて
いつかみもとへ
行けるように[2]

*天の*家族がいることを認識すると，*地上の*家族が持つ永遠の性質を理解するのに役立ちます。教義と聖約は，家族が天の組織に欠かせないことを教えています。「ここでわたしたちの間にある交わりが，そこでもわたしたちの間にある。ただし，その交わりには，……永遠の栄光が伴う。」[3]

家族が持つ永遠の性質を理解することは，天の御父がその子供たちのために用意された計画を理解するうえで欠かせない要素です。一方サタンは，天の御父の計画を損なうために手を尽くします。神の計画をくじくために，先頭に立ってかつてない攻撃を家族制度に加えています。サタンが攻撃に用いる最も強力な武器は，

利己心，貪欲（どんよく），ポルノグラフィーなどです。

わたしたちの永遠の幸福は，サタンの目的では*ありません*。サタンは，男女を自分自身のように惨めな状態にするための重要な鍵（かぎ）が，*永遠の*可能性を持つ家族関係を人々から奪うことであることを知っています。サタンはこの世と永遠にわたる真の幸福が家族の囲いの中に見いだされることを承知しているため，家族を破壊するためにあらん限りの力を尽くします。

古代の預言者アルマは，神がその子供たちのために用意された計画を「偉大な幸福の計画」[4] と呼んでいます。わたしたちが預言者，聖見者，啓示者として支持する大管長会と十二使徒定員会は，幸福と家庭生活に関する次のような霊感あふれる勧告を与えています。「家族は神によって定められたものです。男女の間の結婚は，神の永遠の計画に不可欠なものです。子供たちは結婚のきずなの中で生を受け，結婚の誓いを完全な誠意をもって尊ぶ父親と母親により育てられる権利を有しています。家庭生活における幸福は，主イエス・キリストの教えに基づいた生活を送るときに達成されるに違いありません。」[5]

アルマや，最近では大管長会と十二使徒定員会が語ったこの幸福は，家族のいる家庭で確かに見いだされることでしょう。わたしたちがキリストを中心とした家庭を築くために最善を尽くすならば，このような幸福を豊かに見いだすことができるようになります。

メインズ姉妹とわたしは，結婚して間もなくキリストを中心とした家庭を築き始めたときに，幾つかの重要な原則を学びました。わたしたちはまず教会指導者の勧告に従うことから始めました。子供たちを集めて毎週家庭の夕べを開き，毎日祈り，聖文を学びました。必ずしも容易で，都合がよく，うまくいったわけではありませんが，徐々にこれらの簡単な活動は家族の大切な伝統となっていきました。

子供たちは，週の後半には家庭の夕べのレッスンをすべて覚えていないとしても，家庭の夕べを*行った*ことは覚えているということが分かりました。その日学校で，聖文や祈りの言葉を一言一句覚えていることは恐らくないとしても，聖文を*読み*，*祈った*ことは覚えているでしょう。兄弟姉妹の皆さん，神聖な伝統を家庭で築くとき，わたしたちと青少年は大きな力が与えられ，守られます。

家庭でイエス・キリストの福音の原則を学び，教え，実践することは，御霊（みたま）がとどまれるような生活様式を作り出す助けとなります。家庭でこれらの神聖な伝統を築くことにより，わたしたちはこの世の誤った伝統に打ち勝ち，周りの人の必要と関心を第一に考えることができるようになります。

キリストを中心とした家庭を築く責任は，親と子の双方が負っています。親には愛と義をもって子供を教える責任があります。親にはこの神聖な責任をどのように果たしたかを主の御前（みまえ）で報告する義務

があります。親は，言葉を***用い***，模範を***通して***子供を教えます。C・C・ミラーの「こだま」（The Echo）という詩は，親が子供に与える影響の重要性と大きさを物語っています。

「*迷い出たのは子羊ではなく羊であった。*
イエスが語られたたとえでは，
群れにいた 99 匹の中から
迷い出たのは成長した羊であった。
では，なぜわたしたちはその羊を捜し
心から望み，祈るのだろうか。
羊が誤った道を行けば危険が伴うからだ。
子羊を迷わせるのだ。
羊がどこへ迷い出ようと
子羊は羊について行く。
羊が道を誤れば，
間もなく子羊も羊に倣って道を誤ってしまう。
だから，今日の子羊のために
羊に心から嘆願する。
羊が迷い出るならば，
子羊は何と大きな代価を
支払わねばならぬことか！」[6]

主は教義と聖約の中で，子供が道からそれるよう導く親が招く結果について説明しておられます。「さらにまた，シオンにおいて，……子供を持つ両親がいて，……悔い改め，生ける神の子キリストを信じる信仰，およびバプテスマと按手による聖霊の賜物の教義を理解するように彼らを教えなければ，罪はその両親の頭にある。」[7]

親が言葉と模範を通して子供に神聖な伝統を教えることの重要性は，幾ら強調してもしすぎることはありません。子供もまた，キリストを中心とした家庭を築くうえで重要な役割を担っています。最近，わたしの 8 歳の孫ウィルがこの原則を表す短い話をしてくれました。

「ぼくはお父さんと馬に乗ったり投げ縄をしたりするのが好きです。縄は，強くするために別々の糸をより合わせてできています。縄がたった 1 本の糸でできていたなら，役には立ちません。でも，糸が何本も合わさっているため，いろいろな方法で使うことができるし，丈夫です。

家族は縄のようになることができます。一人だけが一生懸命正しいことを行っていても，みんなが努力して助け合おうとするときほど家族は強くなりません。

ぼくは，正しいことをするとき，家族を助けていることを知っています。妹のイザベルに優しくしてあげると，ぼくも妹も楽しいし，お母さんとお父さんも喜びます。

ドイツ・ドルトムント

お母さんが用事があるとき，弟のジョーイと遊んでお母さんを手伝うことができます。部屋をいつもきれいにして，できるときにはいつでも良い態度で手伝いをして家族を助けることもできます。ぼくはきょうだいでいちばん年上なので，模範になることが大切だということを知っています。正義を選び戒めに従おうと，一生懸命努力することができます。

家族が強い縄のようになれるよう，子供も手助けができることを知っています。みんなが最善を尽くして協力するなら，家族は幸せで強くなることができます。」

親が愛と義をもって家族を管理し，言葉を***用い***，模範を***通して***イエス・キリストの福音を子供に教え，子供が親から教わった原則を学び，実践することにより親を愛し支えるならば，その結果としてキリストを中心とした家庭が築かれます。

兄弟姉妹の皆さん，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちは，家族が持つ永遠の性質を理解し信じています。この理解と信条は，最善を尽くしてキリストを中心とした家庭を築くようわたしたちを促してくれます。これを行おうと努力するならば，わたしたちは救い主イエス・キリストの生涯と贖いの模範に示されている愛と奉仕をさらに十分に実践できるようになり，その結果として，家庭が地上の天国のようだと心から感じられることを証します。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

注

1. 使徒 17：27 － 28
2. 「神の子です」『賛美歌』189番
3. 教義と聖約 130：2。ロバート・D・ヘイルズ「永遠の家族」『聖徒の道』1997年 1月号，72も参照
4. アルマ 42：8
5. 「家族――世界への宣言」『リアホナ』2010年11月号，129
6. C・C・ミラー，“The Echo,”，ジャック・M・ライオンほか編，*Best-Loved Poems of the LDS People*（1996 年），312 － 313 で引用
7. 教義と聖約 68：25；強調付加

七十人
セシル・O・サミュエルソン・ジュニア長老

証

イエス・キリストの福音に対する証を得て保つための基本原則は分かりやすく明白で，すべての人が証を得ることができます。

わたしの長年にわたる人生でのすばらしい祝福の一つは，教会の若い人々に囲まれ，一緒に活動する機会があったことです。このような交流と友情は，人生で最も麗しく，最も価値あることだと考えています。それらはまた，わたしが教会と社会と世界の将来を楽観視している大きな理由でもあります。

このような交流の中で，証について様々な疑問を抱いたり，チャレンジに直面したりした人々と語り合う特権もありました。その詳細は様々で，時折独特なものもありましたが，疑問や混乱の原因の多くは非常に類似していました。さらに，これらの問題や懸念は，特定のグループや年齢層に限られたものではありません。家族が何世代も教会員である人々，比較的新しい教会員，またつい最近末日聖徒イエス・キリスト教会を知るようになった人々もそれらの問題で悩むことがあるかもしれません。通常彼らが疑問を抱くのは，誠実な探究心や好奇心の結果です。これはわたしたち各人にとって非常に大きく，重大であるため，わたしたちの証について考えるのが適切であると思われます。わたしたち末日聖徒は，イエス・キリストの福音が真実であるという確固たる証として自分の証を述べます。その証は聖霊を通して啓示によって得られるものです。

この明確な宣言における証は簡潔で明瞭ですが，この宣言から幾つかの疑問が出てきます。例えば，証を持つ権利のある人はだれでしょうか。どうすれば人は必要な啓示を受けられるでしょうか。証を得るステップはどのようなものでしょうか。証を得ることは1回限りのことでしょうか，それとも継続することでしょうか。このような疑問やほかの疑問には，それぞれに伴う疑問もあります。しかし，イエス・キリストの福音に対する証を得て保つための基本原則は分かりやすく明白で，すべての人が証を得ることができます。

人々が考えそうなこれらの疑問を短く採り上げます。その後，気心の知れたヤングアダルトの友人たちが最近話してくれた見識を幾つか紹介します。彼らは個人的な経験からその証を得ました。また，信仰や信念の幾つかの点についてチャレンジや困難に直面していた人々を教え導く機会もありました。

第1に，証を持つ権利のある人はだれでしょうか。進んでその代価を払う人，すなわち戒めを守る人は皆，証を持つことができます。「それゆえ，主の声は，聞こうとするすべての人が聞けるように地の果てにまで及ぶ。」（教義と聖約1：11）福音が回復された基本的な理由は，「すべての人が主なる神，すなわち世の救い主の名によって語るため，信仰もまた地に増すため」です（教義と聖約1：20－21）。

第2に，どうすれば人は必要な啓示を受けられるでしょうか。啓示を受ける基本的なステップはどのようなものでしょうか。その方法は簡単であり，いつの時代も同じです。モルモン書の証を得るために与えられた約束も広く当てはまります。

「また，この記録を受けるとき」，すなわち，皆さんが聞き，読み，学び，疑問に思うことについて深く考えるとき，「これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問〔い〕」，すなわち，皆さんが祈りの答えに従うという固い決意をもって，よく考え，具体的に，畏敬の念をもって祈り，「もしキリストを信じながら，誠心誠意問うならば，神はこれが真実であることを，聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。

そして聖霊の力によって，あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」（モロナイ10：4－5）

第3に，証を得ることは1回限りのことでしょうか，それとも継続することでしょうか。証は，適切に扱うときに成長し育つ生き物に似ています。生き物は成長し育つために一定の栄養と世話と保護が必要です。同様に，証を軽んじたり，保つ方法を守らなかったりすれば，失われたり，弱くなったりします。聖文は，神の戒めに背いたり破ったりすると，御霊を失い，さらにはかつて得ていた証を否定する者になったりする可能性があると警告しています（教義と聖約42：23参照）。

ここで，わたしの大切な，信仰篤い若い友人たちが気づいたことと彼らの提案の中から10の事柄を紹介します。彼らが述べている事柄は，その考えや経験に共通点があります。ですから，恐らくそれらの事柄に驚く人はだれもいないでしょう。残念なことに，特に自らが苦しみ悩んでいるときには，これらを自分自身に当てはめることを一時的に忘れたり，無視したりすることがあります。

第1に，すべての人は神の子ですから価値があります。神はわたしたちを御存

南アフリカ・カエリチャ

じで，愛しておられ，成功してみもとに戻って来てほしいと思っておられます。わたしたちは時折感じる性急で不完全な欲望よりも，神の愛と神の時間を信頼するようにしなければなりません。

第2に，聖文で述べられている「大きな心の変化」を十分に信じながら（モーサヤ5：2；アルマ5；12－14，26参照），それは直ちに，あるいは一度に起こるものではなく，しばしば徐々に起こるということを理解しておかなければなりません。そして研究と祈りによるだけでなく，特定の質問，経験，また関心事に応じて起こるのです。

第3に，人生の基本的な目的は，試練を受けて試されることであるということを覚えておく必要があります。したがって，試練により成長し，安易な方法では得られない教訓に感謝するようにならなければなりません。

第4に，確信がないとき，あるいは苦闘している問題があるときに支えとなるよう，わたしたちが信じているまたは知っている事柄を信頼するようにならなければなりません。

第5に，アルマが教えているように，証を得ることは通常，望み，信じ，最後に特定の原則や教義，あるいは福音そのものの真理を知るという一連の流れに添った成長です（アルマ32章参照）。

第6に，自分が知っていることをほかのだれかに教えることにより，ほかの人の証を築きながら自分自身の証も強めることができます。お金や食べ物はほかの人に与えると少なくなります。しかし証を分かち合うと，述べる人と聞く人の両者にとって証は強くなり，増します。

第7に，わたしたちは毎日，また定期的に，ささいなことでも必要なことを行わなければなりません。祈り，聖文と福音の学習，教会の集会への出席，神殿礼拝，家庭訪問やホームティーチングやそのほかの割り当てを果たすことはすべて，わたしたちの信仰を強め，生活の中に御霊を招きます。これらの特権のいずれかをなおざりにすると，証を危険にさらすことになります。

第8に，わたしたちは自分の基準よりも高い基準をほかの人々に当てはめてはなりません。ほかの人々，特に指導者や教会員の間違いや失敗を見て，それが自分自身や自分の証に対する感性に影響するのを許してしまうことが多々あるかもしれません。ほかの人々の困難を自分の欠点に対する言い訳にはできません。

第9に，真の悔い改めが必要なときにあまりにも無頓着な場合と同様，間違いを犯したときに自分に厳しすぎることは好ましくないということを覚えておくとよいでしょう。

第10に，キリストの贖罪の力は，わたしたちがそれを受け入れるときに完全に効力を発揮し，その力を持ち続けます。そのことを，常にはっきり理解しておかなければなりません。そうすれば，ほかのすべてのことは，多少の細かい事柄，習慣，あるいは一見失われたかのような信仰に苦闘するときでさえ，落ち着くところに落ち着きます。

わたしは多くの模範的な若い友人や仲間の洞察力，強さ，証に感謝しています。彼らと一緒にいると強められます。また，彼らがほかの人々と一緒にいるとき，彼らが礼拝し，従うように努めている主に代わって善をなし，奉仕を行っていることを

知っているので励まされます。

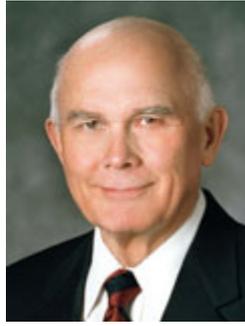
人々は証があるので，善いことや大切なことを行います。これは真実であるのと同時に，わたしたちも自分が行う事柄により証を得ます。イエスは言われました。

「わたしの教はわたし自身の教ではなく，わたしをつかわされたかたの教である。

神のみこころを行おうと思う者であれば，だれでも，わたしの語っているこの教が神からのものか，それとも，わたし自身から出たものか，わかるであろう。」（ヨハネ7：16－17）

「もしあなたがたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである。」（ヨハネ14：15）

昔のニーファイやモロナイと同様，「わたしは……すべてのことの意味を知っているわけではありません。」（1ニーファイ11：17；モルモンの言葉1：7も参照）しかし，知っていることを皆さんにお伝えします。

わたしは天の父なる神が生きていて，わたしたちを愛しておられることを知っています。御父の唯一の特別な御子イエス・キリストはわたしたちの救い主，贖い主，また主の御名を持つ教会の頭であられます。ジョセフ・スミスがこの時代における福音の回復に関して語り，教えたすべてのことを経験したということを知っています。わたしたちは今日，使徒たちと預言者たちに導かれており，またトーマス・S・モンソン大管長はわたしたちの生活に祝福をもたらし，主の業を進めるために必要な神権の鍵をすべて保持しています。わたしたちは皆，このことを知る権利があります。そして，もし皆さんが苦闘しているならば，この大会でこの説教台から語られる真実の証に頼ることができるのです。わたしはこれらのことを知っており，証します。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

十二使徒定員会
ダリン・H・オークス長老

望み

永遠の行く末を手に入れるには，永遠の命を持つ者に必要な特質を望み，永遠にふさわしい者になるために努力しなければなりません。

わたしは*望み*の大切さについて話すことにしました。わたしたち一人一人が自分の心を探り，ほんとうの望みは何か，最も大切な望みの順位をどのように付けるかを知ることができるようにと願っています。

望みは優先順位を決め，優先順位は選択を方向づけ，選択は行動を左右します。どのような望みに基づいて行動するかで，どのように変化し，何を達成し，何になるかが決まるのです。

最初に，共通の望みについて話します。死すべき存在であるわたしたちには，生理上の基本的な欲求があります。これらの必要を満たしたいという望みによって，ある種の選択はやむを得ず，ある種の行動は決まってきます。わたしたちは，ある望みを，もっと大切だと考える別の望みのために抑制することがあります。3つの実例を通して，それがどのような形で起こるか示しましょう。

第1は食物です。わたしたちには食物に対する基本的な欲求があります。しかし断食したいというより強い望みのために，この欲求をしばらく抑制することがあります。

第2は雨露をしのげる場所です。12歳のころ，わたしは住まいに対する欲求を抑えたことがあります。一晩を森で過ごすボーイスカウトの条件を満たしたいという，より大きな望みがあったからです。何人かの仲間と一緒に，居心地のよいテントを離れ，自分たちで見つけた自然の材料を使って雨よけを作り，原始的なベッドを作りました。

第3は睡眠です。この基本的な欲求さえ，より大切な望みのために一時的に抑制することがあります。この点に関し，わたしは若いころユタ州軍の隊員だったとき，戦闘を経験したある将校から一つの教訓を学びました。

朝鮮戦争が始まって間もなく，リッチフィールドのユタ州軍砲兵隊は戦地に動員されました。この隊は，レイ・コックス大尉の指揮の下，40人のモルモンの男性から成っていました。彼らは追加の訓練を受け，他の地域からの援兵により強化された後，朝鮮に派遣され，そこですさまじい戦闘を何度も経験しました。ある戦闘では，何百人もの敵の歩兵隊の突撃を受けました。敵はそのような攻撃で，すでに幾つもの砲兵隊を全滅させていました。

これが睡眠欲を克服することとどのような関係があるのでしょうか。ある夜，敵の歩兵隊が前線を突破し，砲兵隊が陣取っていた後方にまでなだれ込んで来ました。大尉は自分のテントに電話線を引き，周辺を防御している大勢の隊員一人一人に，一晩中1時間おきに自分に電話をするよう命じました。そうすることで隊員は目を覚ましていることができました。しかしそのため，コックス大尉は何度も眠り

を中断されることになりました。わたしは彼に「どうしてそのような命令を出せたのですか」と尋ねました。それに対する彼の答えは，より大切な望みの持つ力を示していました。彼はこう言いました。

「帰還したら，故郷の小さな町の通りで，部下たちの親に会うことになるだろう。指揮官としてなすべきことをしなかったために，部下のうちの一人でも帰還できないようなことがあれば，親に合わせる顔がないと思ったのだよ。」[1]

この例は，より重要な望みが優先順位や行動に大きな影響力を持つことを見事に示しています！　人々の福利に責任を持つ親，教会の指導者，教師，わたしたちすべてにとって，なんとすばらしい模範でしょう！

その話の結論ですが，ほとんど眠れない夜が明けた早朝，コックス大尉は部下たちを率いて敵の歩兵隊に反撃しました。800人以上の捕虜を取り，たった二人の負傷者しか出しませんでした。コックス大尉は，その勇敢な行為に対して勲章を受け，彼の中隊はその並はずれた英雄的行為に対して大統領部隊表彰を受けました。また，ヒラマンの若い兵士（アルマ57：25－26参照）のように，全員が帰還しました。[2]

モルモン書には望みの大切さに関する教えが数多く含まれています。

エノスは主に何時間も懇願した後で，自分の罪は赦されたと言われました。それから同胞の幸いを「願う気持ちがわいて」きました（エノス1：9）。次のように記されています。「そして，わたしが祈り，力の限り努力した後に，主はわたしに，『あなたの信仰のゆえに，わたしはあなたの願いを望みどおりに聞き届けよう』と言われた。」（12節）約束された祝福に先立つ3つの要点を心に留めてください。願い，努力，そして信仰です。

アルマは信仰についての説教の中で，「望みを育てて」ゆくならば，まずは「信じようとする望みを持つだけでもよい」と教えています（アルマ32：27）。

また，宣教師アロンはレーマン人の王に対して，望み，特に，わたしたちが持つべき究極の望みについて偉大な教えを説いています。アロンの教えに引き込まれた王はこう尋ねました。「神から生まれ……この永遠の命を得るには，わたしは何をすればよいのか。」（アルマ22：15）アロンはこう答えます。「あなたがこのことを願い，……あなたの罪をすべて悔い改め，神の御前にひれ伏して，与えられると信じて信仰をもって神の御名を呼ぶならば，そのときあなたは，今願っているものを得るでしょう。」（16節）。

王はそのとおりにし，熱烈に祈りながら，こう宣言します。「わたしはあなたを知り，……終わりの日に救われるように，自分の罪をすべて捨てます。」（18節）そのように決意し，自分の究極の望みを確認したことにより，王の祈りは奇跡的にこたえられます。

預言者アルマはすべての民に悔い改めを叫ぶという大きな望みを持っていましたが，その望みをかなえる強制力を望んではならないということを理解しました。なぜなら「公正な神〔は〕……人が死ぬことを望もうと生きることを望もうと，……彼らの望むままにされる」からです（アルマ29：4）。同様に，近代の啓示で主はこう宣言しておられます。「主なるわたしは，すべての人をその行いに応じて，またその心の望みに応じて裁く……。」（教義と聖約137：9）

永遠の裁き主は，何をほんとうに望むかをこれほどまでに重要視して裁かれるのです。わたしたちはそれに備えているでしょうか。

多くの聖句は，「望む」と同じ意味で

「求める」という言葉を使っています。「わたしを早く求める者は，わたしを見いだし，見捨てられないであろう。」（教義と聖約 88：83）「欺かれないために熱心に最善の賜物を求め〔なさい〕。」（教義と聖約 46：8）「熱心に求める人は見いだすであろう。」（1ニーファイ 10：19）「わたしに近づきなさい。そうすれば，わたしはあなたがたに近づこう。熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば，与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば，開かれるであろう。」（教義と聖約 88：63）

永遠の事柄を最優先するために，自分の望みを見直すのは容易ではありません。わたしたちは皆，財産，名声，高慢，権力という4つのこの世的なものを望むように誘惑されます。これらのものを望んだとしても，最優先するべきではありません。

最大の望みが財産を得ることだという人は，物質主義のわなに陥っています。そのような人は，次の警告を聞き損なっています。「富やこの世のむなしいものを求めてはならない。」（アルマ 39：14。モルモン書ヤコブ 2：18 も参照）

名声あるいは権力を望む人は勇敢な司令官モロナイの模範に従うべきです。モロナイが尽力したのは「権力を求め〔る〕」ためでも「世の誉れを求め〔る〕」ためでもありませんでした（アルマ 60：36）。

望みはどのように成就させればよいのでしょうか。アロン・ラルストン[3]を奮い立たせたような危機に陥る人はほとんどいないでしょうが，彼の経験は望みを成就させることについて大切な教訓を与えてくれます。ラルストンはユタ州南部の人里離れた峡谷を歩いていました。そのとき突然，重さ 360キロの岩が動いて，右腕を挟まれてしまいました。5日間，たった独りで必死に抜け出そうとしました。ついにあきらめて死を覚悟したとき，幻の中で，自分に向かって走って来た3歳の男の子を左腕でさっと抱き上げたのです。それが将来の息子であり，自分の生き残る保証であると理解したラルストンは，力尽きる前に，勇気を振り絞り，生き残るために必要な大胆な行動に出ました。挟まった腕の骨2本を折り，左手に持ったナイフで右腕を切断したのです。それから，力を振り絞り，助けを求めて8キロの道のりを歩きました。[4] 圧倒されんばかりの望みの力の実例です。自分はどのような人物になれるかについてのビジョンを持ったとき，わたしたちの望みと行動力は驚くほど増します。

このような極端な危機に直面する人はほとんどいないでしょう。しかしだれもが，永遠の行く末に向かって進歩することを阻むわなに直面します。義にかなった望みが十分に強ければ，永遠の進歩を阻む依存症などの邪悪な圧力，誤った優先順位から自らを断ち切ることができるでしょう。

義にかなった望みは，表面的なものでも，衝動的なものでも，一時的なものでもないということを覚えておくべきです。それは誠実で，確固としていて，永続するものです。ですから，預言者ジョセフ・スミスが語った「人生の様々な悪に打ち勝ち，罪に対する望みを一切持たなくなる」[5]という状態を目指しましょう。それはきわめて個人的な決心です。ニール・A・マックスウェル長老はこう語っています。

「『二度と悪を行いたいとは思わなかった』人々は，まさに彼ら自身が，神を知るために進んで『自分の罪をすべて捨て』，悪い望みをなくそうと決意をしたのです。

したがって，わたしたちが望み続ける事柄は，やがては実現し，永遠にわたってわたしたちが受け継ぐものとなるでしょう。」[6]

二度と悪を行いたいと思わないことは大切ですが，永遠の命にはさらに多くが求められます。永遠の行く末を手に入れるには，永遠の命を持つ者に必要な特質を望み，永遠にふさわしい者になるために努力しなければなりません。例えば，永遠の命を持つ者は，自分を不当に扱ったすべての人を赦します。自分よりも周りの福利を優先します。また，神のすべての子供たちを愛します。それが難しすぎるようであれば――もちろん，だれにとってもたやすいことではありませんが――そのような特質を得たいと望むことから

始め，愛にあふれる天の御父に自分の感情について助けを求める必要があります。モルモン書はわたしたちに何をなすべきか教えています。「御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で〔わたしたちが〕満たされるように，……熱意を込めて御父に祈りなさい。」（モロナイ7：48）

最後に，すべての人々，現在結婚している人と独身の人にとって最も重要な望みに関する例を話します。すべての人は永遠の結婚を望み，真剣に取り組むべきです。すでに神殿結婚している人は，結婚関係を維持するために最善を尽くすべきです。独身の人は神殿結婚を望み，その実現のために行動することを優先するべきです。結婚し子供を持つことの大切さを軽視する考え方は，たとえこの世が支持しても永遠の見地から見れば誤っています。青少年や若い独身の人たちは，そのような考え方に抵抗するべきです。[7]

独身男性の皆さん，次の手紙に述べられている試練についてどうぞ考えてください。これを書いた独身の姉妹は「ふさわしい伴侶を真剣に探し求めている義にかなった神の娘たち」を代表して懇願しています。「彼女たちの努力にもかかわらず，男性は盲目で，迷っているように見えます。天の御父のすばらしいえり抜きの娘を探して交際し，主の宮で神聖な聖約を進んで交わし守ることが，自分の責任なのかどうか分からないのです。」彼女は最後にこう書いています。「末日聖徒の独身男性の中には，喜んで遊びに出かけ，デートして気ままに過ごすだけで，一人の女性と何らかの真剣な約束をしたいとはまったく望まない人が大勢います。」[8]

熱心に伴侶を探している若い男性もいて，補足してほしいと思っていることでしょう。ふさわしい結婚をして子供を持つことよりも，仕事で成功したり世の中で抜きんでることをはるかに優先している若い女性もいるということです。男性も女性も，永遠の命へと導いてくれる義にかなった望みが必要です。

望みは優先順位を決め，優先順位は選択を方向づけ，選択は行動を左右するということを忘れないようにしましょう。また，自らの行動と望みがひととなりを決め，真の友にも，優れた教師にも，永遠の命にふさわしい者にもなれるということを忘れないようにしましょう。

わたしはイエス・キリストの愛と教え，贖いがすべてを可能にすると証します。わたしたちが，いつの日か主のみもとへ帰って主の満ち満ちる喜びを得るために，主のようになることを，ほかの何よりも望むように祈ります。イエス・キリストの御名によって，アーメン。■

注

1. レイ・コックス，著者によるインタビュー，1985年8月1日，ユタ州マウント・プレザント。1953年ごろにユタ州プロボにおいてわたしに語った言葉を確認した。
2. リチャード・C・ロバーツ，*Legacy, The History of the Utah National Guard*,（2003年）307－314；"Self-Propelled Task Force," *The National Guardsman*, 1971年5月,〔裏表紙〕；*Miracle at Kapyong: The Story of the 213th*（映画，Southern Utah University 制作，2002年）参照
3. アロン・ラルストン，*Between a Rock and a Hard Place*（2004年）参照
4. ラルストン，*Between a Rock and a Hard Place*，248
5. 『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』（2007年），210参照
6. ニール・A・マックスウェル「わたしたちの『心の望みに応じて』」『聖徒の道』1997年1月号，22，24
7. ジュリー・B・ベック「家族の教義を教える」『リアホナ』2011年3月号，32－37参照
8. 2006年9月14日付けの手紙

十二使徒定員会
M・ラッセル・バラード長老

愛ある奉仕を通じて喜びを見いだす

家庭や教会，地域社会において兄弟姉妹に簡単な思いやりのある奉仕の行いをすることによって，救い主の贖罪の犠牲に対する愛と感謝の気持ちをわたしたちが示せますように。

兄弟姉妹の皆さん，ソルトレークを訪れている方は，テンプルスクウェアの美しい春の花々の色と香りを堪能する機会があることと思います。

春が来ると新たな光がさして人生も一新します。季節の移り変わりを通してわたしたちは再びわたしたちの主なる贖い主イエス・キリストの生涯と犠牲と復活を思い起こします。それは，「すべてのものが〔贖い主〕のことを証する」からです（モーセ6：63）。

この美しい春の風景とそれが象徴する希望とは裏腹に，世の中は不安定で，複雑で，混乱しています。わたしたちは学校や仕事，子育て，教会の管理と召し，世の中の活動といった日々の生活に追われ，挙げ句の果てには予期せぬ病気や思わぬ悲劇に見舞われて，疲れ果ててしまうことがあります。問題の渦と不安から抜け出して，心の平安と幸せを見いだすにはどうすればよいのでしょうか。

わたしたちは，1849年にカリフォルニアのゴールドラッシュに取りつかれたボストンの若い商人に似てはいないでしょうか。この商人はカリフォルニアの川で一山当てるために，持ち物を全部売り払いました。その川には，持ち上げられないほど大きな金塊がごろごろしていると聞いたのです。

この若者は，来る日も来る日も金をふるい分けるなべで川底をさらいましたが，金は引っかかりません。石の山がどんどん大きくなるだけでした。やる気もお金もなくなり，もうやめようと思っていると，ある日，老練の金鉱採掘者から声をかけられました。「お若いの，大した石の山ですな。」

若者は答えました。「ここには金などない。ぼくはもう国に帰るところだ。」

この老いた金鉱採掘者は石の山に近づくと，「やあ，金があるぞ。目の付けどころが分かりさえすればいいんだ」と言います。そして石を二つ拾い上げると打ち合せました。すると片方の石が割れて，小さな金の粒が太陽の光にきらきらと輝きました。

金鉱採掘者がいっぱいになった革の袋をウエストに結びつけているのを見て，若者は言いました。「ぼくが探しているのはその袋に入っているような金塊だ。小さな粒などではない。」

年老いた金鉱採掘者が袋を目の前に差し出したので，大きな金塊が入っているだろうと期待しながら若者は中をのぞきました。すると驚いたことに，中は無数の金の粒でいっぱいでした。

老いた金鉱採掘者は言いました。「おまえさんは大きな金塊を探すのに忙しくて，こういった貴重な金の粒を袋に入れていなかったようだ。わたしはこうして小さな粒をこつこつとためて大きな富を築いたのだよ。」

この話は，アルマが息子ヒラマンに教えた霊的な真理を説明しています。

「小さな，簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。……

また，ごく小さな手段によって，主は……多くの人を救われる。」（アルマ37：6－7）

兄弟姉妹の皆さん，イエス・キリストの福音は人がどんなに複雑にしようとしても，簡単なものです。わたしたちも同じように生活を簡単にするべきです。救いに無関係なものに左右されずに，最も大切なことに心を向けましょう。

人生に明快な答えと目的を与えてくれる福音の貴くて簡単な教えとは何でしょうか。わたしたちが生涯こつこつと蓄えると，究極の宝である永遠の命という貴い賜物が得られる，福音の金の粒とは何でしょうか。

わたしは，イエス・キリストの福音全体を包括する，簡単で深遠で，崇高な原則があると信じています。この原則を心から受け入れて，それを生活の中心にするならば，わたしたちは清められ，聖なる者となって，再び神のみもとに住むことができるようになるのです。

救い主がこの原則についてお語りになったのは，パリサイ人がこう問いかけたときでした。「先生，律法の中で，どのいましめがいちばん大切なのですか。」

「イエスは言われた，『「心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ。」

これがいちばん大切な，第一のいましめである。

第二もこれと同様である，「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。」』」（マタイ22：36－40）

わたしたちがこの愛を隣人に伝えることができるのは，心と精神と思いを尽くして，親切な行いと奉仕を通じて，神とキリストを愛する場合のみです。救い主が今ここにおられたらなさるような方法ですべての人を愛し，すべての人に奉仕して，愛を伝えるのです。

このキリストの純粋な愛，すなわち慈愛に満たされると，わたしたちの考え方，感じ方，行いは，天の御父とキリストに似てきます。動機も心からの望みも救い主に似たものになります。救い主は十字架におかかりになる前の晩，この望みを使徒たちにお語りになりました。

「わたしは，新しいいましめをあなたがたに与える，互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい。

……それによって，あなたがたがわたしの弟子であることを，すべての者が認めるであろう。」（ヨハネ13：34－35）

救い主がおっしゃった愛は行いで表す愛です。この愛は大がかりな英雄的行為ではなく，親切な行いと奉仕という簡単なことで表します。

人に奉仕し，人を愛する方法や状況は幾らでもあります。幾つか挙げてみましょう。

まず，慈愛は家庭から始まります。すべての家庭で基準とするべき最も大切な原則は，黄金律の実践です。つまり，「何事でも人々からしてほしいと望むことは，人々にもそのとおりにせよ」という主の教えです（マタイ7：12）。少し想像してみてください。あなたが思いやりのない言葉や行いを受ける側だったら，どう感じるでしょうか。互いに愛し合うことを，模範によって家族に教えましょう。

奉仕の機会にあふれるもう一つの場所は教会です。ワードや支部は，黄金律が常にお互いに対する言葉や行いの基準になっていなければなりません。お互いに親切にし，助け，励ます言葉をかけ合い，お互いが必要としていることを敏感に察知するならば，ワードの会員の間に愛と一致を生み出すことができます。慈愛があるところでは，うわさ話や思いやりのない言葉など出てきません。

ワードの会員が成人も青少年も力を合わせて価値ある奉仕を行い，ほかの人を祝福することができます。ちょうど2週間前，南アメリカ北西地域会長会の会長であるマーカス・B・ナッシュ長老から，「御霊において強い者が弱い者を」支えることにより，同地域の会員たちは何百人ものあまり活発でない成人や青少年たちを救助しているという報告を受けました。愛と奉仕により，彼らは「一人ずつ」戻って来ています。このような親切な行いは，助ける側も助けられる側もすべての人の間に永続する強いきずなを生み出します。このような奉仕からは大切な思い出がたくさん生まれます。

わたしが教会の管理を行ってきた多くの年月を振り返ってみると，いちばん心に深く残っているのは，ワードの会員と力を合わせてだれかを助けたときの思い出です。

例えば，わたしはビショップだったころに何人かのワードの積極的な会員と一緒にステーク福祉農場の飼料貯蔵庫を掃除したことがあります。心地よい作業ではありませんでした。何年も教会に来ていない一人の会員が，この作業に誘われ，加

わってくれました。異臭の漂う貯蔵庫の中で働き，語らううちに愛と友情を感じたこの会員は，教会に戻り，後に妻子と神殿で結び固められました。奉仕を通じてフェローシップをしたことで子供と孫と，そして今ではひ孫にまで祝福が及んでいます。その多くが伝道に出て神殿で結婚し，永遠の家族をはぐくんでいます。小さな金の粒を集めるようなささいな行いによって大いなる業がなされたのです。

わたしたちが奉仕することのできる第3の場は地域社会です。わたしたちの愛と関心を純粋に表すために，わたしたちの助けを必要としている人に愛の手を差し伸べることができます。「ヘルピングハンズ」のシャツを着て休むことなく働き，困っている人を助け，地域社会の改善に努めたことのある人は，皆さんの中にたくさんいます。日本仙台ステークのヤングシングルアダルトは最近，地震と津波の壊滅的な被害の中で計り知れない価値のある奉仕をし，会員たちを捜索しました。奉仕する方法はたくさんあるのです。

心からの親切と奉仕を通して，それを受ける側の人との間に友情が生まれます。このような友情から，福音に対する献身への理解と，教会についてもっと学びたいという気持ちが生まれます。

良き友であったジョセフ・B・ワースリン長老は，この原則が持つ力について次のように述べました。「思いやりは，偉大さの本質であり……扉を開く鍵（かぎ）であり，友情を築きます。また，心を和らげ，生涯にわたる関係を作り出します。」（「思いやりという美徳」『リアホナ』2005年5月号，26）

天の御父の子供たちに奉仕できるもう一つの方法は，伝道です。専任宣教師になることだけではなく，友人や隣人としての伝道です。教会の将来の発展は，見知らぬ人の家のドアをノックするだけでは始まりません。会員が宣教師と力を合わせ，神とキリストに対する愛に満たされて必要を見極め，慈善奉仕の精神でその必要を満たしていくときに教会は発展するのです。

兄弟姉妹の皆さん，わたしたちがこれを行うならば，正直な心で求めている人はわたしたちの誠実さと愛を感じます。多くの人がわたしたちに興味を持つでしょう。このようにしてのみ，教会は発展し，全地を満たすのです。これは，宣教師だけで達成することはできません。すべての会員が関心を持ち，奉仕する必要があります。

奉仕するときには必ず聖霊のささやきに敏感に従う必要があります。静かな細い声が自分の助けを必要としている人がだれか，どう助けたらよいかを教えてくれます。

スペンサー・W・キンボール大管長はこう言っています。「ですから，王国で互いに仕え合うことがきわめて大切なのです。……奉仕の行い……は，誠意を込めた励ましや，日常の仕事の簡単な手伝いであることがほとんどです。しかし，簡単な行いから，そして小さいながらも思慮深い行いから，どれほどすばらしい結果が引き出されることでしょう。」（『歴代大管長の教え――スペンサー・W・キンボール』，82）

そして，トーマス・S・モンソン大管長はこのように勧告しています。

「困っている人はいつでもおり，わたしたちはそれぞれ，だれかを助けるために何かすることができます。

……自分を捨てて人に奉仕しなければ，自分自身の人生の目的などほとんどない〔のです。〕」（「今日（きょう）われ善きことせしか」『リアホナ』2009年11月号，84－85）

兄弟姉妹の皆さん，もう一度強調させてください。天の御父とその愛する御子の特質の中で，わたしたちが生活の中で身に付けるよう望み求めるべきものは慈

愛の賜物，つまり「キリストの純粋な愛」（モロナイ7：47）です。この賜物から，救い主がなさったように人を愛し人に奉仕するという能力がわたしたちの中にはぐくまれるのです。

預言者モルモンは，この賜物が非常に大切だと教え，どのようにすればこれが得られるのかを告げています。「したがって，わたしの愛する同胞（はらから）よ，あなたがたは，御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように，また神の子となれるように，熱意を込めて御父に祈りなさい。また，御子が御自身を現されるときに，わたしたちはありのままの御姿（みすがた）の御子にまみえるので，御子に似た者となれるように，またわたしたちがこの希望を持てるように，さらにわたしたちが清められて清い御子と同じようになれるよう，熱意を込めて御父に祈りなさい。」（モロナイ7：48）

簡単で小さなことによって偉大なことが成し遂げられます。金の小さな粒も時間をかけて蓄えれば大きな宝になるように，小さくて簡単なわたしたちの親切な行いや奉仕も，積もり積もって，天の御父への愛に満ちた人生，主イエス・キリストの業への献身的な働きに満ちた人生，互いに助け合う度に感じる平安と喜びに満ちた人生になるでしょう。

復活祭の時期が近づくに当たり，家庭や教会，地域社会において兄弟姉妹に簡単な思いやりのある奉仕の行いをすることによって，救い主の贖罪の犠牲に対する愛と感謝の気持ちをわたしたちが示せますように。このことをイエス・キリストの御名（みな）によりへりくだり祈ります，アーメン。■

十二使徒定員会
ニール・L・アンダーセン長老

この世を再臨に備える

皆さんの伝道は，人々をキリストのみもとに導き，救い主の再臨に備える手助けをする神聖な機会となるでしょう。

わたしは今夜，特に12歳から25歳までの神権者に向けて話します。わたしたちは皆さんのことをよく考え，皆さんのために祈っています。以前にわたしは，4歳の孫が幼い弟を強く押したときの話をしました。泣いている子供を慰めた後，妻のキャシーは4歳の孫の方を向くと，思いやりをもってこう尋ねました。「どうして弟を押すの？」彼は祖母の方を見るとこう答えました。「おばあちゃん，ごめんなさい。ぼく，CTRリングをなくしちゃったから，正義を選べないんだ。」 わたしたちは皆さんが正義を選ぼうといつも一生懸命に努力していることを知っています。皆さんを心から愛しています。

皆さんは自分が今の時代に地上に送られている理由について考えたことがあるでしょうか。皆さんはアダムとエバの時代にも，パロがエジプトを治めていた時代にも，中国の明王朝の時代にも生を受けることなく，キリストの降誕から20世紀後のこの時代に地上にやって来ました。地上には神の神権が回復されていて，主は御自分の輝かしい再臨にこの世を備える業を始めておられます。現代は大いなる機会と重要な責任が待ち受けている時代です。皆さんの時代です。

バプテスマによって，皆さんはイエス・キリストを信じる信仰を表しました。神権に聖任されることで，皆さんの才能と霊的な能力は増し加えられています。皆さんの重要な責任の一つは，救い主の再臨に向けてこの世を備える手助けをすることです。

主は預言者トーマス・S・モンソン大管長を，御自分の神権の業を導く者として任命しておられます。皆さんに向かって，モンソン大管長は次のように述べています。「主は宣教師を必要としておられます。」[1]「ふさわしく，能力があるすべての若い男性は伝道に出る準備をするべきです。宣教師として奉仕することは神権の義務です。非常に多くのものを受けている〔皆さん〕に，主が望んでおられる務めなのです。」[2]

伝道活動には犠牲が求められます。預言者からの奉仕の召しにこたえるときにはいつでも，何かを後に残して行くことになるでしょう。

ラグビーが好きな人は，ニュージーランド・オールブラックスがラグビー界で最も有名なチームであることを知っているでしょう。オールブラックスという名前はユニフォームの色に由来しています。[3] ニュージーランドで「オールブラックス」に選ばれることは，アメリカンフットボールならスーパーボウル，サッカーならワールドカップに出場するチームでプレーするのに匹敵するほどのことです。

1961年，アロン神権を持つ18歳のシドニー・ゴーイングは，ニュージーランドラグビー界のスターになりつつありました。その並外れた能力のゆえに，翌年には国のラグビー代表チームである「オールブラックス」に選ばれるだろうと多くの人が思っていました。

しかし19歳になったシドは，順調に歩んできたラグビー人生におけるこのきわめて重要な時期に，伝道に出るためにラグビーをやめる，と宣言しました。そんなシドのことを「頭がおかしい」と言う人もいれば，「愚か者だ」と言う人もいました。[4] そのような人々は，もうシドにはラグビーで成功する機会は訪れないだろうと言いました。

でもシドにとって重要だったのは，後に残して行こうとしているものではなく，待ち受けている機会と責任でした。シドには神権の義務がありました。人生の2年間をささげて，主イエス・キリストが確かに実在しておられることと主の福音が回復されたことを宣言するという義務です。どのようなものも，国の代表チームでプレーするチャンスと，それによって受けるあらゆる称賛でさえも，その義務を果たすのを思いとどまらせることはありませんでした。[5]

シドは神の預言者によってカナダ西伝道部で働くように召されました。48年前の今月，19歳のシドニー・ゴーイング長老は末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師として仕えるためにニュージーランドを後にしました。

シドは伝道中のある経験を話してくれました。ある晩，シドと同僚がアパートに帰ろうとしていたときのことです。二人はもう1軒だけ訪問してみることにしました。すると父親が家に入れてくれました。ゴーイング長老と同僚は，救い主について証（あかし）しました。家族はモルモン書を快く受け取りました。父親は一晩中読みました。そして1週間半のうちにモルモン書と教義と聖約，高価な真珠を全部読み終えました。数週間後に家族はバプテスマを受けました。[6]

なぜニュージーランド・オールブラックスに入るよりも伝道を選んだのでしょうか。シドはこう答えてくれました。「福音に〔人々を導く〕ことによって受ける祝福は，犠牲にするどんなものをもはるかにしのぐのです。」[7]

多分皆さんはシド・ゴーイングの伝道後に何があったか知りたいと思っていることでしょう。何より重要なこととして，シドは愛するコリーンと永遠の結婚をし，5人のすばらしい子供と，多くの孫に恵まれました。天の御父を信頼し，戒めを守り，人々に仕えて人生を送っています。

ラグビーはと言うと，伝道後，シド・ゴーイングはオールブラックス史上最も優れたハーフバックの一人となって，11シーズンにわたってプレーし，チームのキャプテンを長年務めました。[8]

シド・ゴーイングはどれくらい優れた選手だったのでしょうか。シドが日曜日にはプレーしようとしなかったために，練習や試合の日程が変更されたほどでした。[9] イギリス女王からラグビーへの貢献を表彰されたほどでした。[10] さらに『スーパー・シド』（Super Sid）と題した本が書かれたほどでした。

もしシドが伝道後にそうした栄誉を受けていなかったとしたらどうでしょうか。この教会の伝道活動に見られる大きな奇跡の一つは，シド・ゴーイングや彼のような無数の宣教師が，「伝道によってわたしは何を得られるだろうか」ではなく，「わた

しは何をささげることができるだろうか」と尋ねてきたことです。

皆さんの伝道は，人々をキリストのみもとに導き，救い主の再臨に備える手助けをする神聖な機会となるでしょう。

主は御自分の再臨に向けて必要となる準備について，ずっと以前から語ってこられました。エノクに主は次のように宣言されました。「わたしは天から義を下そう。また，地から真理を出〔そう〕。そして，わたしは義と真理が洪水のごとくに地を満たすようにし，……地の四方からわたしの選民を集めよう。」[11] 預言者ダニエルは，末日には福音が「人手によらずに山から切り出され〔る石〕」のように，地の果てまで転がり進むと預言しました。[12] ニーファイは末日の教会について，属する者の数は少ないが地の全面に散在していたと語っています。[13] そして主はこの神権時代に，「あなたがたはわたしの選民を集めるために召されている」と宣言されました。[14] 若い兄弟の皆さん，皆さんの伝道は，大いなる機会であり，責任なのです。そしてそれは，この約束されている集合にとって重要で，皆さんの永遠の行く末に結びついています。

回復の初期の時代から，兄弟たちは福音を宣言するという自分たちの義務にとても真剣に取り組んできました。教会が組織されてからわずか7年後の1837年，貧困と迫害の時期に，イギリスで福音を教えるために宣教師が遣わされました。数年後には，宣教師はオーストリア，フランス領ポリネシア，インド，バルバドス，チリ，中国で教えを説いていました。[15]

主はこの業を祝福してこられ，教会は世界中で確立されています。この大会は92の言語に通訳されています。わたしたちは150か国以上で働いている5万2,225人の専任宣教師に感謝しています。[16] 常に世界のどこかで義にかなった宣教師が救い主を証しています。主の御霊を授かって，「キリストの御名のほか，またその御名を通じてでなければ，どのような名も道も方法も，人の子らに救いをもたらすことはできない」[17] と大胆に宣言する5万2,000人の宣教師が持つ霊的な力について考えてみてください。また，これまでに最善を尽くし，今も最善を尽くし続けている大勢の帰還宣教師に，わたしたちは感謝しています。宣教師が主の業を大いに推し進めているおかげで，この世は救い主の再臨に備えられつつあります。

宣教師活動は霊的な業です。ふさわしさと準備が不可欠です。モンソン大管長は次のように述べています。「若い男性の皆さん，わたしは皆さんに宣教師として奉仕する準備をするよう勧告します。いつも清く純粋で，主を代表するにふさわしくあってください。」[18] 伝道に出るまでの間，皆さんを待ち受けている神聖な責任のことを覚えていてください。伝道前に行うことは，皆さんが伝道に携えていく神権の力に大きな影響を及ぼします。しっかりと備えてください。

モンソン大管長は「ふさわしく，能力があるすべての若い男性〔が〕伝道に出る準備をする」ことについて語っています。[19] 時に，健康やそのほかの理由により，伝道に出られない人もいます。両親やビショップと話すことによって，自分が伝道に出られるかどうかが分かるでしょう。もし伝道に出られないとしても，皆さんの前にある気高い務めにおいて自分はあまり重要な存在ではないと思わないでください。主は御自分を愛する者への思いやりにあふれた御方であり，皆さんのために別の扉を開いてくださるでしょう。

自分はもう伝道に出られる年齢ではないのではないかと思う人がいるかもしれません。わたしの中国人の友人は，20代半ばのときにカンボジアで教会に出会いました。そして自分も伝道を考えるべきなのだろうかと思いました。祈り，ビショップと話した後，彼は召しを受け，ニューヨーク市で気高く奉仕しました。もし年齢について心配しているなら，祈り，ビショップと話してください。ビショップが導いてくれることでしょう。

すべての宣教師の50パーセントは自国で伝道します。これはもっともなことです。「すべての人が自分の言葉と自分の言語で完全な福音を聞くであろう」と，主は約束しておられます。[20] 皆さんは預言によって召され，最も必要とされる場所で働くことでしょう。

わたしは世界各地の宣教師に会うのが大好きです。最近，オーストラリア・シドニー伝道部を訪問したとき，だれに会ったと思いますか。ニュージーランドラグビー界の伝説的人物，シドニー・ゴーイング長老です。現在67歳のシドは，再び宣教師となっていました。ただし今回は彼自身が選んだ同僚，コリーン・ゴーイング姉妹と一緒です。ゴーイング長老は，彼らが教えたある家族について話してくれました。両親は教会員でしたが，長年教会に活発ではありませんでした。ゴーイング長老と姉妹はこの家族の信仰が再び強くなるように助けました。ゴーイング長老は，バプテスマフォントでその家族の父親の隣に立ったときに感じた力，今では神権を持つ長男が弟と妹にバプテスマを施したときに感じた力について語ってくれました。そして永遠の命を目指して一つになっている家族を見る喜びを伝えてくれました。[21]

皆さんに向けて大管長会は次のように述べています。

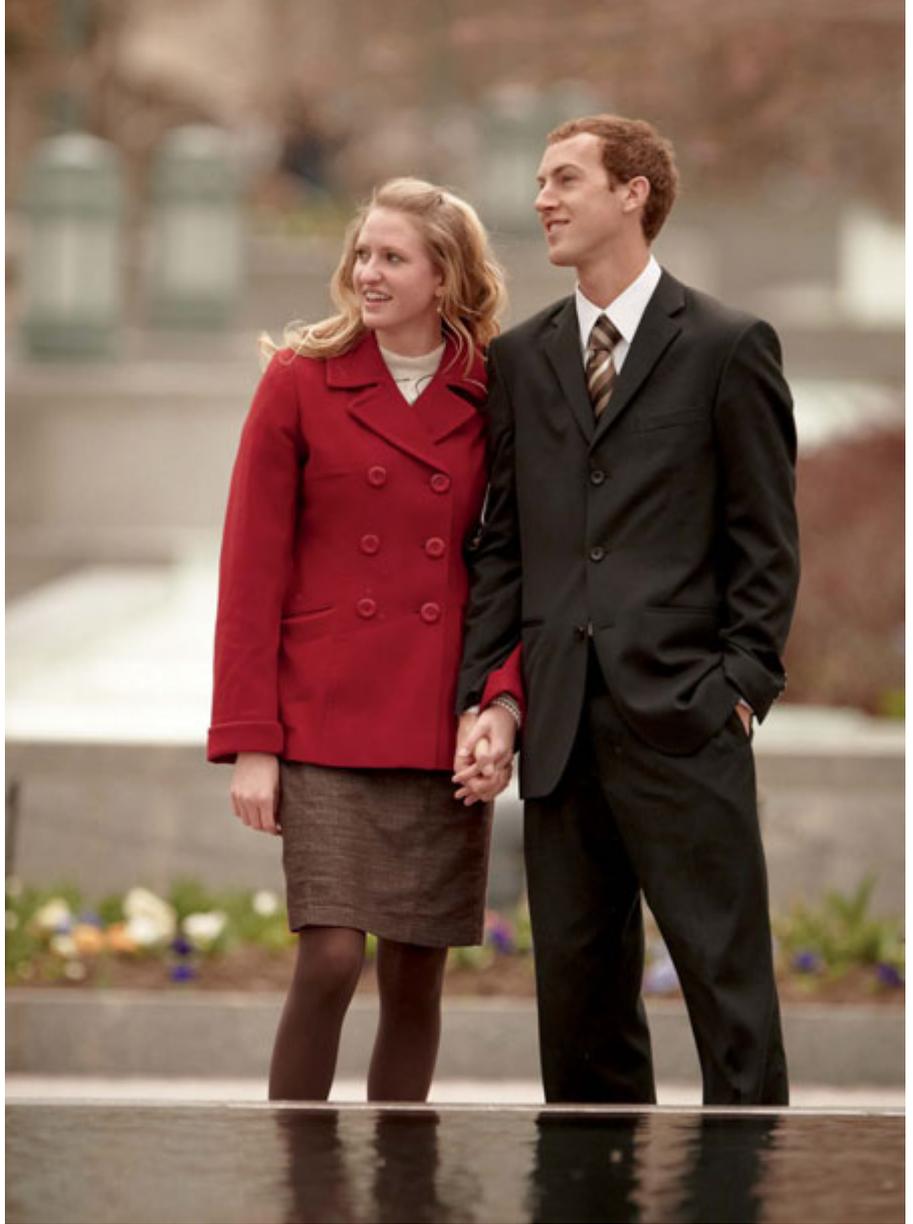
「皆さんは優れた霊の持ち主であり，大きな機会と責任が待ち受け，そのために誘惑も大きいこの時期に地上に生を受けました。

……わたしたちは皆さん一人一人のためにお祈りしています。どうか……皆さんの前途に待つ大きな務めを果たすことができ〔ます〕ように……。皆さんが神の王国建設という責任を果たすふさわしさを身に付け，〔また熱意をもって，〕救い主の再臨にこの世を備えさせることができますように，お祈りします。」[22]

わたしは救い主の再臨を描いたハリー・アンダーソンの絵が大好きです。この絵は，主が尊厳と力を帯びておいでになることを思い出させてくれます。そのときには，地上と空で驚くべき出来事が起こるでしょう。[23]

救い主の来臨を待つ人々は「〔主〕を待ち望〔み〕」ます。そして主は「わたしは来る」と約束しておられます。義人は「天の雲の中に，力と大いなる栄光とをまとって，すべての聖なる天使たちとともにいる」主を見るでしょう。[24]「一人の天使が，ラッパを吹き鳴らして……聖徒たちは〔地の四方から出て来〔て〕[25]〕主に会うために引き上げられる」でしょう。[26]「眠っていた」人々，つまりすでに亡くなったふさわしい聖徒たちも「〔主〕に会うために出て来る」でしょう。[27]

聖文にはこう記されています。「主は……山の上に足を置〔き〕」[28]「声を発し，地の果てに至るすべての者がそれを聞く。」[29]

若い神権者である兄弟の皆さん，わたしはこの崇高な出来事が荘厳なものであること，そして何よりも，それが確かに起こることを証します。救い主は生きておられます。主は地上に戻って来られます。幕のこちら側にいようと向こう側にいようと，皆さんもわたしも主の来臨を喜ぶでしょう。そして，主が戻って来られるときに向けてこの世を備える手助けをし，神聖な義務を果たすために，主が自分をこの時代に地上に送ってくださったことを，わたしは感謝するでしょう。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「主は宣教師を必要としておられます」『リアホナ』2011年1月号，4
2. トーマス・S・モンソン「再びともに集い」『リアホナ』2010年11月号，5－6
3. stats.allblacks.com 参照
4. ボブ・ハウィット，Super Sid: The story of a Great All Black（1978年），27 参照
5. ニュージーランド・カイコヘステークのマックスウェル・ホースフォード会長との電話での会話，2011年3月
6. シドニー・ゴーイング長老との電話での会話，2011年3月，
7. シドニー・ゴーイング長老からの電子メール，2011年3月
8. stats.allblacks.com/asp/profile.asp?ABID=324 参照
9. ニュージーランド・カイコヘステークのマックスウェル・ホースフォード会長との電話での会話，2011年3月
10. シド・ゴーイングは1978年にラグビーへの貢献が認められて大英帝国勲章第5位（MBE）を授与された。（ハウィット，Super Sid，265参照）
11. モーセ7：62
12. ダニエル2：45
13. 1ニーファイ14：12－14 参照
14. 教義と聖約29：7
15. *Deseret News 2011 Church Almanac*（2011年），430, 432, 458, 463, 487, 505 参照
16. 2010年12月31日付
17. モーサヤ3：17
18. トーマス・S・モンソン「主は宣教師を必要としておられます」『リアホナ』2011年1月号，4
19. トーマス・S・モンソン「再びともに集い」『リアホナ』2010年11月号，5－6
20. 教義と聖約90：11
21. シドニー・ゴーイング長老との電話での会話，2011年3月
22. 「大管長会からのメッセージ」『若人の強さのために —— 神への務めを果たす』2－3
23. 教義と聖約43：18；45：40 参照
24. 教義と聖約45：44
25. 教義と聖約45：45，46
26. 教義と聖約88：96
27. 教義と聖約45：45。教義と聖約29：13。88：96－97も参照
28. 教義と聖約45：48
29. 教義と聖約45：49

七十人会長会
スティーブン・E・スノー長老

希望

贖罪（しょくざい）への希望は，わたしたちに永遠の見識を与えてくれます。

わたしたち家族はユタ州南部の高地にある乾燥地帯で育ちました。ほとんど雨が降りません。人々は夏の暑さに向けて十分な雨が降ることを心から願います。現在もそれは同じですが，当時のわたしたちは雨が降るのを望み，そして祈り，干ばつがひどくなると断食しました。

一つの物語を紹介します。あるおじいさんが5歳の孫を連れて町を散歩していました。そして，大通りで小さな食料品店の前まで来たので，炭酸の入った冷たい飲み物を買うことにしました。そこへほかの州から来た車が通りかかり，おじいさんのそばまでやって来ました。運転していた人は空に浮かぶ小さな雲を指して尋ねました。「雨が降るのでしょうかね。」

おじいさんは答えました。「降ってくれるといいのだが。わたしは見たことがあるのだが，小さな子供たちにも雨を見せてあげたいと思ってね。」

希望はわたしたちの日常生活を豊かにする感情です。希望とは「あることが最善の形で実現する……という気持ち」と定義されています。希望を持っていると，「願望とある程度の確信を抱いて……待ち望み」ます（dictionary.reference.com/browse/hope）。したがって，未来の出来事を固く信じて待ち望むときに，希望はわたしたちの生活に一定の落ち着きを与えてくれます。

時に人は，ほとんどあるいはまったく支配できないことについて希望を抱きます。晴天を望むこともあれば，春が早くやって来ることを願うこともあります。また，好きなスポーツチームがワールドカップ，スーパーボウル，ワールドシリーズで勝つことを望みます。

このような希望は生活に彩りを与えてくれますが，時折普通でない，さらには迷信的な行動につながることがあります。例えば，わたしの義理の父は大のスポーツファンで，好きなバスケットボールチームの試合が放送されるときに自分が観ていないと，勝つことが多いと固く信じています。わたしは12歳のとき，野球のリトルリーグの全試合において優勝したいという希望を抱き，同じ靴下を洗濯せずに履くことを決めていました。母からは，その靴下を裏口に出しておくように言われていました。

このほかにも，希望は夢をもたらし，それがわたしたちの心をかき立て，行動につながっていきます。学校で成績を良くしたいと望んでいるとすれば，熱心に勉強し，犠牲を払うことによってその希望はかなえられます。チームが試合に勝つことを望んでいるなら，その希望は不断の練習，献身，チームワーク，そして最終的な成功へと結びついていきます。

ロジャー・バニスターはイギリスの医学生で，大きな希望を抱いていました。1マイル（1.6キロメートル）競走で4分を切る前人未到の世界記録を作りたいと考えていました。20世紀前半の時代，陸上競技に関心を持つ人たちは，4分の壁が破られる日を待ち望んでいました。長年にわたって，多くの一流選手がもう少しのところまで来たのですが，4分の壁は依然として崩されませんでした。バニスターは世界記録を打ち立てるという目標を実現するために意欲的なトレーニング計画を立て，その実行に全力を注ぎました。スポーツ界の一部では1マイル4分を破ることに疑問を持ち始める人もいました。専門家たちは，そのような速度で長い距離を走ることが人の体には物理的に不可能だと言うようになりました。1954年5月6日，曇り，ロジャー・バニスターは最大の夢を実現しました。3分59秒4でゴールに飛び込み，世界新記録を樹立したのです。4分を切って1マイルを走り抜くという彼の希望は，一つの夢となり，トレーニング，努力そして献身によって達成されました。

希望は夢を与え，その夢の実現を促します。しかし，希望だけでは成功に至りません。多くの立派な希望が達成されないまま消えています。志はすばらしくても怠惰が障害となって実現しないのです。

親の持つ最大の希望は子供に向けられます。子供たちが成長して，責任ある義にかなった生活をするよう望みます。わたしたち親が模範的な行動を取らなければ，そのような希望も簡単についえてしまいます。希望するだけでは子供たちは義にかなって成長しないのです。家庭の夕べや家族のふさわしい活動で子供たちと一緒にいる時間を作らなければなりません。祈ることを教え，聖文を一緒に読み，福音の大切な原則を教えなければなりません。そのようにして初めて，心底望んでいることが実現するのです。

希望を絶望に変えてはなりません。使徒パウロは「望みをもって耕〔す〕」べきであると記しました（1コリント9：10）。希望を持つことは生活を豊かにし，未来に目を向けさせてくれます。作物を植える

ために畑を耕すのであれ，生活を切り開くのであれ，末日聖徒であるわたしたちは希望を持たなければなりません。

イエス・キリストの福音において，救い主の贖罪を通して永遠の救いを得る信者の願いが希望となります。

これこそわたしたちが皆持たなければならない希望であり，わたしたちをこの世と分け隔てるものです。ペテロは初期の時代にキリストに従った人々に勧告して，「あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には，いつでも弁明のできる用意をしていなさい」と言いました（1ペテロ3：15）。

贖罪への希望は，わたしたちに永遠の見識を与えてくれます。このような見識を持つことにより，この世と現在を超えて永遠の未来を考えることができます。目まぐるしく変わる社会の期待という限られた境界に捕らわれてはなりません。わたしたちは家族や愛する人と結び固められる日の栄えの栄光を自由に待ち望むことができます。

福音において，ほとんどの場合に希望は信仰と慈愛に結びついています。ディーター・F・ウークトドルフ管長はこのように教えています。「希望は三脚いすの脚の一つです。信仰と慈愛とともに，この3つはわたしたちの生活を安定させます。困難や試練に遭遇しても倒れることはありません。」（「希望という無限の力」『リアホナ』2008年11月号，21）

モロナイはモルモン書の最後の章で次のように記しています。

「したがって，信仰がなければならない。もし信仰がなければならないとすれば，希望もまたなければならない。そして，もし希望がなければならないとすれば，慈愛もまたなければならない。

あなたがたに慈愛がなければ，あなたがたは決して神の王国に救われない。また，信仰がなければ神の王国に救われないし，また希望がなければ救われない。」（モロナイ10：20－21）

ラッセル・M・ネルソン長老はこのように教えています。「信仰はイエス・キリストを基盤としています。希望は贖罪を中心としています。慈愛は『キリストの純粋な愛』に表されています。これら3つの特質はケーブルのより線のように結びついているため，必ずしも正確に区別できないことがあります。これらは一体となってわたしたちを日の栄えの王国に結びつけているのです。」（"A More Excellent Hope," *Ensign*，1997年2月号，61）

ニーファイは自分の記録を閉じるに当たり，イエス・キリストについて預言しました。「したがって，あなたがたはこれからもキリストを確固として信じ，完全な希望の輝きを持ち，神とすべての人を愛して力強く進まなければならない。」（2ニーファイ31：20）

ニーファイが述べたこの「完全な希望の輝き」とは贖罪への希望，つまり救い主の犠牲によって可能となった永遠の救いへの希望を指しています。この希望により，あらゆる時代の人々が驚くべきことを行いました。古代の使徒たちは各地を巡って，救い主を証（あかし）し，最終的に主の業に命をささげました。

この神権時代では，初期の教会員の多くが故郷を離れ，希望と信仰に胸を膨らませて大平原を横断し，ソルトレーク盆地へと向かいました。

1851年，67歳の寡婦メアリー・マリー・マードックはスコットランドで教会に加わりました。身長140センチ，体重41キロあるかないかの小柄な体格にもかかわらず，彼女は8人の子供を産み，そのうち6人は成人するまで生きました。子供や孫たちはその小柄な体格のために彼女を「小さいおばあちゃん」と親しみを込めて呼びました。

息子のジョン・マードックと妻は教会に入り，二人の幼い子供とともに1852年にユタ州に向かって出発しました。自身の家族の貧困にもかかわらず，ジョンは4年後に，ソルトレーク・シティーの家族のもとへ来るようにと母親に必要な旅費を送りました。メアリーは自分の小さな体より

もはるかに大きな希望を抱いて，73歳でユタ州に向かう苦難の旅に出発しました。

大西洋を無事に渡った彼女は，悲運のマーティン手車隊に合流しました。手車を引いたこの開拓者隊は7月28日に西部に向かって出発しました。一行が受けた苦難については周知のとおりです。総勢576人のうち約4分の1がユタ州に到達することなく命を落としました。積雪のために立ち往生した聖徒たちを捜索するため，ブリガム・ヤング大管長が幌(ほろ)馬車と物資を派遣するために組織した救助隊が来なかったら，さらに多くの犠牲者が出ていたことでしょう。

メアリー・マードックは1856年10月2日，ネブラスカ州のチムニーロック付近で亡くなりました。旅の疲労，過酷な天候，苦難に屈したのです。聖徒たちが遭遇した自然の猛威にそのひ弱な体では堪えることができませんでした。迫り来る死を前にして横たわりながら，彼女はユタ州にいる家族に思いをはせました。この信仰篤(あつ)い開拓者の女性が最後に発した言葉は，「わたしはシオンに顔を向けて死んだとジョンに伝えてください」でした。（ケニス・W・マーレル，Scottish Shepherd: The Life and Times of John Murray Murdoch, Utah Pioneer〔2006年〕，34，39，54，77，94－97，103，112－113，115）

メアリー・マリー・マードックは雄々しく西部に向かった多くの初期の開拓者が持っていた希望と信仰の模範です。今日(こんにち)の霊的な旅にも初期の開拓者と同じ希望と信仰が求められます。わたしたちが遭遇する試練は彼らと同じではないかもしれませんが，その過酷さは変わりません。

わたしたちの抱く希望が義にかなった夢を実現するものとなるよう祈っています。特に，贖罪への希望により信仰と慈愛が強められ，将来に対して永遠の見識を持つことができますように。わたしたちが皆，「完全な希望の輝き」を持つことができるよう，イエス・キリストの御名(みな)によりお祈りします，アーメン。■

中央若い男性会長会第一顧問
ラリー・M・ギブソン

アロン神権の聖なる鍵(かぎ)

主は，すべてのアロン神権者が，まず自分の家族から始めて，すべての人をキリストのみもとへ来るように招くことを望んでおられます。

我が家の息子の一人は，12歳のときにウサギを育てることにしました。わたしたちは小屋を作り，大きな雄を1羽と雌を2羽，近所の人からもらいました。わたしはその後に起きる事態をまったく想像していませんでした。間もなく，小屋は子ウサギでいっぱいになったのです。息子が成人した今，ウサギの数がどのようにコントロールされていたのか，その驚くべき実態を伝えなければなりません。実は時々，近所の犬が小屋の中に入り込んで群れの数を減らしていたのです。

息子が兄や弟たちとウサギを見守る姿を見て，感銘を受けました。現在，夫や父親となった彼らは，ふさわしい神権者として自分自身の家族を愛し，強め，見守っています。

アロン神権を持つ若い男性の皆さんが，家族や定員会の会員，その他多くの人を含め，周囲の人々を見守り，支え，強めている姿を見るとき，わたしは心を打たれます。皆さんをとても愛しています。

最近，13歳の若い男性が執事定員会会長として任命されるのを見守りました。任命の後，ビショップは彼と握手をして「会長」と呼び，定員会の会員にこのように説明しました。「わたしが彼を会長と呼んだのは，その召しの神聖さを強調するためです。執事定員会会長はワードの中で会長会の鍵を持つたった4人のうちの1人です。会長はその鍵を用いて，顧問とともに主の霊感の下で定員会を導きます。」このビショップは，聖なる神権の鍵を持って行使する会長に導かれる会長会の力を理解していました（教義と聖約124：142－143参照）。

わたしは後でこの若い男性に，この偉大な定員会を管理する準備はできているか尋ねました。彼は次のように答えました。「緊張しています。執事定員会会長の仕事を知りません。教えてくれますか。」

わたしは，すばらしいビショップリックとアドバイザーたちがいることを伝えました。彼らはこの若い男性が，立派な，力強い神権者になるのを助けるでしょう。彼の持つ聖なる会長会の鍵を，彼らが尊重してくれることをわたしは知っていました。

わたしは次にこう尋ねました。「主が導きを与えずに，この大切な召しにあなたを任じられると思いますか。」

彼は考え込んで，このように答えました。「どうやって導きを受けますか。」

少し話し合っているうちに，彼は聖文や生ける預言者の言葉，祈りの答えから導きを受けられることに気づきました。わたしたちは，彼の新しい召しにかかわる責任を知るために役立つ聖句をまず見つけることにしました。

わたしたちは教義と聖約第107章85節を開きました。そこには，執事定員会会長は定員会の会員とともに会議の席に

着き，義務を教えるとあります。わたしたちが注目したのは，定員会がクラスであるだけでなく，若い男性の評議会でもあり，会長の指示の下で互いに強め合い，教化し合うべきであるということでした。わたしは彼が，主の霊感に頼り，執事たちにその義務を教えながら聖なる召しを尊ぶ，すばらしい会長になる確信があることを伝えました。

わたしは次にこう尋ねました。「執事に義務を教えるべきであることは分かったと思いますが，その義務が何か知っていますか。」

わたしたちは再び聖典を開き，次のことが分かりました。

1．執事は教会員を見守り，教会の常任教導者となるように任じられます（教義と聖約 84：111 参照）。

教会の基本単位は家族なので，アロン神権者がこの職務を果たせる最も大切な場所は，自分の家庭です。彼は父親と母親が家族を導く際に，神権者として奉仕します。また，自分のきょうだい，定員会の若い男性，そしてワードのほかの会員を見守ります。

2．必要であれば，執事は，教師が教会におけるすべての職務を果たすのを助けます（教義と聖約 20：57 参照）。

執事が教師の職務を手伝うとすれば，執事は教師の義務を知らなければならない，とわたしたちは判断しました。聖文を調べ，すぐに教師の職務を 12 以上見つけました（教義と聖約 20：53 − 59；84：111 参照）。すべての若い男性が，またその父親，アドバイザー，そしてわたしたち全員が，この若い男性とまったく同じことをしたら，とても力強い経験をするでしょう。すなわち，聖文を開いて，自分の義務を調べるのです。見いだす事柄に多くの人が驚き，霊感を受けることでしょう。『神への務め』は，アロン神権の義務について有益な概要が記されている，霊的に進歩するためのすばらしい資料です。常に使用することを強く勧めます。

3．執事と教師はまた，「警告し，説き明かし，勧め，教え，またキリストのもとに来るようにすべての人を招かなければ」なりません（教義と聖約 20：59。祭司については 46，68 節参照）。

多くの若い男性が，伝道生活は 19 歳になって宣教師訓練センターに入るときに始まると思っています。聖文から，伝道はそれよりずっと前から始まることが分かります。主は，すべてのアロン神権者が，まず自分の家族から始めて，すべての人をキリストのみもとへ来るように招くことを望んでおられます。

次に，彼が，すなわち彼だけが定員会の管理役員であることを理解できるように助けるため，わたしはこの若い会長に教義と聖約第 107 章 85 節に書かれている最初の義務を 3 回読むことを提案しました。彼は「十二人の執事を管理し」と読みました。「会長としてのあなたの義務について，主は何とおっしゃっていますか」とわたしは尋ねました。

彼はこう語りました。「これまで話をしながら，幾つかのことが思い浮かびました。天のお父様は 12 人の執事の会長になるように望んでおられます。来ているのは 5 人で，その中の 1 人は時々しか来ません。どうすれば 12 人になりますか？」

実はわたしはこの聖句を彼のような見方で解釈したことがありませんでした。しかし彼はわたしにはない鍵を持っていました。わたしは 13 歳の執事定員会会長から，知性や背丈，年齢に関係なく，会長会の聖なる鍵を持つ者に伴う啓示の力について教えられました。

わたしは答えました。「分かりません。あなたはどう思いますか。」

彼はこう言いました。「彼が毎週来られるように助ける方法を考えなければなりません。定員会にいるべき人があと２人いるのは知っていますが，来ていないし，彼らのことを知りません。まずぼくが１人と仲良くなって，顧問にほかの人と仲良くなってもらえるかもしれません。これで全員が来れば７人になりますが，あと５人はどうしましょう？」

「分かりません」とわたしは答えました。「でも，その兄弟たちが定員会に来ることを天の御父が望まれるなら，御父は御存じです。」

「それなら，会長会や定員会として祈って，何をするべきか知る必要があります。」そして，彼はこう尋ねました。「会員でない人も含めて，ワードの中の，執事の年齢の男子全員に対する責任がぼくにありますか。」

わたしは驚きながらこう言いました。「主の目から見て，ビショップはワードにいる会員だけに責任がありますか。それともワードの区域内に住む，すべての人に責任がありますか。」

この若い「常任教導者」は悟りました。すべての執事，教師，祭司に与えられた，教会を見守り，キリストのみもとへすべての人を招く役目について認識したのです。

教会のすばらしい若い男性や女性について考えるとき，ある聖句が思い浮かびます。モロナイがジョセフ・スミスに，それは「まだ成就していないが，間もなく成就する」と告げた聖句です（ジョセフ・スミス—歴史1：41）。「その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ，娘は預言をし，……あなたがたの若者たちは幻を見る。」（ヨエル２：28）

この若い会長の頭に「思い浮かんだ」ことは，天の御父がその定員会に望んでおられる姿でした。定員会の活発な会員を強め，苦闘している者を救出し，キリストのみもとにすべての人を招くうえで必要な啓示でした。霊感を受けた彼は，主の御心を実行する計画を立てました。

主はこの若い会長に，「神権」とは人に手を差し伸べて仕えることを意味すると教えられました。愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長はこのように説明しています。「神権は，実際のところ，賜物というよりもむしろ，委託された奉仕の務め，支え励ます特権，人の生活を祝福する機会です。」（「聖なる神権の義務」『リアホナ』2006年5月号，57）

奉仕，すなわち救い主が示されたような人々への奉仕は，神権の基礎そのものです。この神権が主の神権であり，わたしたちが主の用向きを受けていること，そして主が忠実な神権の奉仕の方法をすべての神権者に示されたことを証します。

すべての執事，教師，祭司の定員会会長会に，その定員会に対する主の御心を知るために定期的に相談し，学んで祈り，行って行うように勧めます。義務を定員会の会員に教える際に『神への務め』を活用してください。すべての定員会会員に，定員会会長を支持し，神権にかかわるすべての義務を学び，義にかなった方法で果たすために会長の勧告を求めるように勧めます。そしてわたしたち一人一人に，これらのすばらしい若い男性を主と同じ目で見るように勧めます。彼らはこの地上と現代において主の王国を築き，強めるための強力な人材なのです。

すばらしい若い男性の皆さんは，ペンシルベニア州ハーモニー近くでバプテスマのヨハネによってジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに回復されたアロン神権を保持しています。この神権には天の御父のすべての子供たちが御子イエス・キリストのみもとに来て従うための扉を開ける，聖なる鍵があります。すなわち，「悔い改めとバプテスマと罪の赦しの福音」と，毎週行う聖餐の儀式，そして「天使の働き」を通して扉を開けるのです（教義と聖約13：1；ジョセフ・スミス—歴史1：69）。皆さんはまさに，いつでも，どのような所にいても，清くてふさわしい，忠実な神権者でなければならない「教導者」なのです。

なぜでしょうか。愛する大管長会が『神への務め』で皆さんに述べている言葉を聞いてください。

「あなたはアロン神権の儀式を執り行う権能を持っています。……あなたは周りの人々の生活に大きな祝福を与えることでしょう。……

天の御父はあなたを深く信頼しておられて，あなたが果たすべき大切な使命を用意しておられます。」（『神への務めを果たす』——アロン神権者用，5）

これらの言葉が真実であることを知っています。そしてわたしたち一人一人が同じ証を持てるように願っています。これらをわたしたちが持つ神権を託してくださった御方，イエス・キリストの聖なる御名により話します，アーメン。■

大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長

あなたの可能性，あなたの特権

聖文を読み，全身全霊を傾けて預言者の言葉に耳を傾けるなら，主が神権の特権を生かして生活する方法を教えてくださるでしょう。

かつて豪華客船で地中海を旅することを生涯の夢としていた男性がいました。ローマ，アテネ，イスタンブールの通りを歩くのが夢でした。可能なかぎり節約して，ついに船に乗れるだけの資金がたまりました。お金に余裕がなかったので，余分に用意したスーツケースに豆の缶詰やクラッカーの箱，粉末レモネードの袋をいっぱい詰めて持って行き，毎日それを食べました。

船で用意されていたたくさんの活動に，できることなら喜んで参加したいところでした。ジムで運動したり，ミニチュアゴルフをしたり，プールで泳いだり。映画やショー，文化交流イベントに行く人々をうらやましく思いました。そして，ああ，船で見た見事な料理を一口でいいから食べてみたいと，どんなに思ったことでしょう。食事は毎回祝宴のようでした。でも男性はできるかぎりお金を使いたくなかったので，活動にも食事にも一切参加しませんでした。ずっと訪れたかった町を見ることはできましたが，旅の大半を自分の船室で過ごし，食事も持参した質素な食べ物だけで済ませました。

船旅の最終日のことです。乗務員からどのお別れパーティーに出席したいかを尋ねられました。このとき初めて，男性はお別れパーティーだけでなく，船内でのほとんどすべてのものが，つまり食事も娯楽活動も，すべてのものが，チケットの料金に含まれていたことを知りました。男性は自分の特権をほとんど生かさずに過ごしていたことを知ったのです。でももう遅すぎました。

このたとえが問いかけていることはこうです。神の神権を持つわたしたちには神聖な力，賜物（たまもの），祝福という機会と権利が与えられていますが，わたしたちは神権者として自分の特権を生かさずに生活してはいないでしょうか。

神権の栄光と偉大さ

わたしたちは皆，神権が単なる名称や肩書きをはるかに超えたものであることを知っています。預言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「神権は永遠の原則であり，日の初めもなく年の終わりもなく，……神とともに永遠から永遠にわたって存在するものです。」[1] 神権は「神の知識の鍵（かぎ）」[2] を持ちます。実際，神権によって「神性の力が現れる」[3] のです。

神権がもたらす祝福はわたしたちの理解力を超えたものです。忠実なメルキゼデク神権者は「神の選民となる」[4] ことができます。彼らは「御霊（みたま）により聖（きよ）められてその体が更新され」[5]，最終的に「〔御〕父が持っておられるすべて」[6] を受けることができます。これは容易に理解できないかもしれませんが，神権はすばらしいものであり，わたしはそれが真実であることを証（あかし）します。

天の御父がこの力と責任を人に託しておられることは，御父がわたしたちを深く愛しておられる証拠であり，また，わたしたちが神の息子として秘めている，後の世での可能性をあらかじめ示すものでもあります。

それにもかかわらず，わたしたちの行動を見ると，わたしたちはこの可能性をほとんど発揮せずに生活しているように思えることがあまりにも頻繁にあります。神権について尋ねられれば，わたしたちの多くは正しい定義を暗唱できます。しかしわたしたちの日々の生活の中には，暗唱した言葉以上にわたしたちが神権について理解していることを示す証拠がほとんど見られないかもしれません。

兄弟の皆さん，わたしたちは選択を迫られています。神権者としてできる一部の限られた経験で満足し，特権をほとんど生かさずに妥協することもできます。または，霊的な経験をする機会という豊かなごちそうと，大きな神権の祝福にあずかることもできるのです。

秘めている可能性を発揮するために何ができるでしょうか

聖文に記されている言葉や総大会で語られる言葉は，「自分たちに当てはめる」ためのものです。[7] ただ読んだり聞いたりするためのものではありません。[8] 非常によくあることですが，わたしたちは集会に出席し，話にうなずきます。承知しているというふうにほほえんで同意することもあるでしょう。なすべき事柄を書き留めて，「実行しよう」と思うかもしれません。ところが，話を聞いてスマートフォンにメモしてから実際に行うまでのどこかで，「実行」のスイッチが「後で」に切り替わってしまうのです。兄弟の皆さん，「実行」のスイッチをいつも必ず「今」の

位置に合わせましょう。

聖文を読み，全身全霊を傾けて預言者の言葉に耳を傾けるなら，主が神権の特権を生かして生活する方法を教えてくださるでしょう。御霊の導きを実行するための行いを何もせずに一日を終えることのないようにしてください。

1．取扱説明書を読む

もし皆さんが世界最先端の高価なコンピューターを持っていたとしたら，ただ机に飾るだけにしておくでしょうか。見た目もすばらしいかもしれませんが，きっとたくさんの可能性を秘めていることでしょう。ただし，取扱説明書を研究し，ソフトウェアの使い方を学び，電源を入れて初めて，その秘めた力を十分に利用することができます。

神の聖なる神権にも，取扱説明書があります。聖文と手引きを，これまで以上に目的を持ちさらに焦点を絞って読むと決意しましょう。まず教義と聖約の第20章，84章，107章，121章を読み返すことから始めましょう。神権の目的と，その秘めた可能性と実際の用途について研究すればするほど，その力に驚くことでしょう。そして，その力を受け，その力を用いて家族や地域社会や教会を祝福する方法を御霊が教えてくれるでしょう。

わたしたちは一つの民として，当然ながら，この世の学問や職業において進歩成長することを重視しています。学問や職業上の技能に秀でた者となることを望んでいますし，そうならなければなりません。皆さんが教育を受け，自分の分野の専門家になるために熱心に努力していることをたたえます。そして同時に福音の教義，特に神権の教義の専門家にもなるようにお勧めします。

わたしたちは世界の歴史におけるどの時代よりも，聖文と現代の預言者の言葉を容易に手にできる時代に生きています。しかし，実際にその教えに手を伸ばしてつかむことはわたしたちの特権また義務であり，それはわたしたちの責任なのです。神権の原則と教義は壮大で崇高なものです。神権の教義とその秘めた力について研究すればするほど，また神権を実際の用途に応用すればするほど，心が広がり，理解力が増すでしょう。そして主がわたしたちのために何を備えてくださっているかを知ることができるでしょう。

2．御霊の啓示を求める

イエス・キリストと回復された主の福音についての確かな証を得るには，知識以上のものが必要です。福音の原則を正直かつ熱心に応用することによって裏づけられた，個人の啓示を受ける必要があるのです。預言者ジョセフ・スミスは，神権は啓示を受ける経路であると説明しています。「この経路を通じて，全能者はこの世の創造の初めに御自分の栄光を現し始められました。またこれを通じて，神は現在に至るまで人の子らに御自身を現してこられ〔ました〕。」[9]

もしこの啓示の経路を求めて使うという経験がないなら，わたしたちは神権の特権を生かさずに生活しています。例えば，信じていても，気づいていない人がい

ルーマニア・ブカレスト

ます。長い期間にわたって静かな細い声により様々な答えを受けているのに，その霊感が非常に小さく取るに足りないもののように思われるため，ありのままに認めることができないのです。その結果，疑いの心が邪魔をして，神権者に秘められた可能性を発揮できずにいるのです。

啓示と証は必ずしも圧倒的な力をもって与えられるわけではありません。多くの場合，証はゆっくりと，一度に一かけらずつ与えられます。非常に少しずつ与えられるために，福音が真実だと実際に知った瞬間をはっきり思い出すのが難しいこともあります。主はわたしたちに「ここにも少し，そこにも少しと，教えに教え，訓戒に訓戒を」与えてくださるのです。[10]

ある意味で，わたしたちの証は転がるごとに大きくなっていく雪玉に似ています。最初はかすかな光から始まります。信じようとする望みを持つだけかもしれません。それから徐々に，「光は光に結びつき」[11]，「光を受け，神のうちにいつもいる者は，さらに光を受け〔ます〕。そして，その光はますます輝きを増してついには真昼とな〔り〕」[12]，「定められたときに〔わたしたちは〕父の完全を受け〔る〕」[13]のです。

地上での限りある力を超えて，理解の目が開かれ，日の栄えの源から光と知識を受けることが何と栄えあることであるかを考えてみてください。神権を持つ者として，わたしたちは個人の啓示を求め，聖なる御霊の確かな証によって自分で真理を知る方法を学ぶ特権と機会が与えられているのです。

霊感の光を熱心に求めましょう。わたしたちの特定の状況や問題，神権の義務について聖なる御霊の神聖な導きを受け，それに気づくことができるように，わたしたちの思いと心に信仰の火種を授けてくださるよう，主に嘆願しましょう。

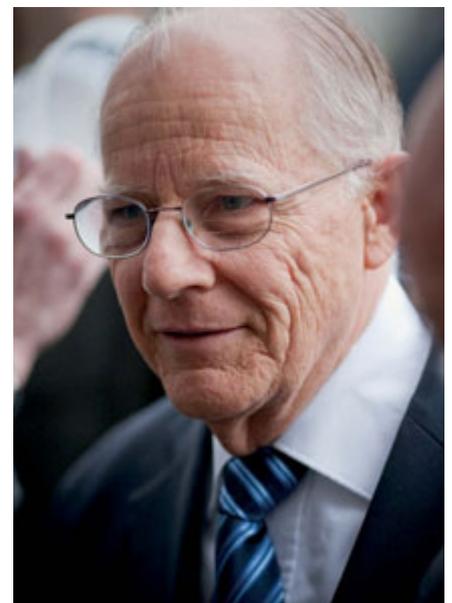
3．神権の務めに喜びを見いだす

航空機パイロットとしての経歴の中で，わたしはほかのパイロットの技能の審査と訓練を担当する機会がありました。仕事の一つは，経験豊かなパイロットの訓練と試験を行い，巨大なジェット機を安全に効率よく操縦するのに必要な知識と技術があるかどうか確認することでした。

パイロットの中には，長年にわたって仕事で空を飛んでいても，大空へ昇って行くときの感動，「無愛想な大地の束縛を逃れ，陽気な銀色の翼に乗って大空を舞う」[14]ときの感動を少しも失っていない人がいました。彼らは激しく流れる空気の音，力強くうなるエンジンの音，「風と一つになり，前方に広がる暗い空と星たちと一つになる」[15]感覚をこよなく愛していました。その熱意は周囲の人も熱くするほどでした。

ただ機械的に働いているだけのように思われる人も何人かいました。彼らはジェット機の装置や操縦方法は習得していましたが，「ひばりや，わしさえも飛んだことのない」[16]大空を飛ぶ喜びをいつの間にか失ってしまっていました。海や大陸を渡って行くうちに，輝く日の出，神の創造物の美しさに畏敬の念を抱くことがなくなってしまっていました。所定の要件を満たしていればわたしは資格を認めましたが，同時に気の毒にも思いました。

皆さんも，自分は神権者としてただ機械的に働いていないだろうかと自問してみるとよいでしょう。期待されていることを行ってはいるものの，得るはずの喜びを得ていないことはないでしょうか。神権を持つわたしたちには，アンモンが次のように言い表した同じ喜びを感じる機会がたくさんあります。「大いに喜んでよいのではないだろうか。……わたしたちは神の御手に使われる者となって，この大いなる驚くべき業を行ってきた。だから，わたしたちは誇って喜ぼう。まことに，主を誇って喜ぼう。まことに，わたしたちの喜びは満ちているので，喜びを味わおう。」[17]

兄弟の皆さん，わたしたちの宗教は喜びに満ちたものです。神の神権を持つわたしたちはこの上なく祝福されています。詩篇には次のように書かれています。「祭の日の喜びの声を知る民はさいわいです。

主よ，彼らはみ顔の光のなかを歩み〔ます。〕」[18] 求めさえするならば，わたしたちはそのような大きな喜びを味わうことができるのです。

わたしたちは神権の実際の務めを日常的に果たすことによって得られる喜びを味わっていないことが多すぎます。時に割り当てが重荷のように感じられることがあります。兄弟の皆さん，疲れと不安と不平という３つの否定的なものに埋もれて生活することのないようにしましょう。この世の障害物に妨げられるままに，特に自分自身の家庭の中で，忠実に神権の務めを果たすことで得られる豊かな喜びを得ていないとき，わたしたちは自分の特権を生かさずに生活しています。神が神権を持つ忠実な僕（しもべ）に豊かに与えてくださる幸福と平安と喜びというごちそうにあずかっていないとき，わたしたちは自分の特権を生かさずに生活を送っています。

若い男性の皆さん，もし教会に早く来て聖餐（せいさん）の準備を手伝うことを祝福よりも苦痛のように感じるとしたら，つらい１週間を過ごしたかもしれないワードの会員にとってこの神聖な儀式がどのような意味を持つかについて考えるようにお勧めします。兄弟の皆さん，もしホームティーチングの取り組みが効果的でないように思えるなら，主の僕の訪問は隠れた問題を抱えている家族にとってどれほど有益であるかを，信仰の目で見るようにお勧めします。神権者として自分の奉仕の神聖な可能性を理解するなら，神の御霊によって皆さんの心と思いは満たされ，皆さんの目と顔は輝くでしょう。

神権を持つ者として，主がわたしたちに託してくださっているものがもたらす驚嘆と畏敬の念に決して鈍感にならないようにしましょう。

結び

愛する兄弟の皆さん，どうかわたしたちが聖なる神権の教義を学ぶように熱心に努め，御霊の啓示を受けることによって教えに教えと少しずつ証を強め，日々の神権の務めに真の喜びを見いだすことができますように。これらのことを行うとき，わたしたちは神権者として自分の可能性を発揮し特権を生かして生活し始め，「〔わたしたち〕を強くして下さるかたによって，何事でもすることができる」[19] ようになるでしょう。このことを主の使徒として証し，わたしの祝福を皆さんに残します。イエス・キリストの聖なる御名（みな）により，アーメン。■

注

1.『歴代大管長の教え――ジョセフ・スミス』，104
2. 教義と聖約 84：19
3. 教義と聖約 84：20
4. 教義と聖約 84：34
5. 教義と聖約 84：33
6. 教義と聖約 84：38
7. １ニーファイ 19：24
8. ヤコブの手紙 1：22 参照
9.『教え――ジョセフ・スミス』，108 – 109
10. ２ニーファイ 28：30
11. 教義と聖約 88：40
12. 教義と聖約 50：24
13. 教義と聖約 93：19
14. ジョン・ギレスピー・マギー・ジュニア，“High Flight，”ダイアン・ラビッチ編，*The American Reader: Words That Moved a Nation*（1990 年），486
15. リチャード・バック，*Stranger to the Ground*（1963 年），9
16. マギー，“High Flight，” 486
17. アルマ 26：13，15 – 16
18. 詩篇 89：15
19. ピリピ 4：13

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

神権によって学ぶ

皆さんが神権の務めにおいて勤勉で従順であれば，霊的な知識の宝が皆さんに注がれるでしょう。

神の神権者のこの集会に皆さんとともに集えることを感謝しています。わたしたちは今夜多くの異なる場所におり，また神権者としての奉仕に携わっている場も様々です。しかし，状況は様々に異なっていても，共通して必要なものがあります。それは神権における自分の義務を学び，それを果たす力を増すことです。

わたしは執事のときに，その必要性を痛感しました。わたしは合衆国の東海岸にあるニュージャージー州の教会の小さな支部にいました。わたしは支部でたった一人の執事でした。出席しているただ一人の執事ではなく，会員記録上，唯一の執事だったのです。兄のテッドはたった一人の教師でした。彼は今晩ここに出席しています。

わたしがまだ執事のときに，家族はユタ州へ引っ越しました。そこには，神権におけるわたしの成長を促してくれた３つのすばらしいものがありました。第１は，定員会の会員とともに評議会の席に着く方法を知っていた会長の存在でした。第２は，イエス・キリストを信じる深い信仰であり，その信仰が，互いに深く愛し合うように導いてくれました。そして第３は，神権の一貫した目的が人々の救いのために働くことにあるという共通の確信です。

その違いをもたらしたのは，確立されたワードではありません。皆さんがどこの教会ユニットにいても，どこのワード・支部でも得られるものでした。

これら３つのものは，ほとんど気づかないだけで，皆さんの神権定員会の中にも存在しているかもしれません。成長する必要性を感じることなく，これらの助けが見過ごされているかもしれません。いずれにしても，御霊（みたま）の助けがあって，皆さんにはっきりと，分かりやすく伝えられるよう祈っています。

わたしが，神権による成長に役立つこれら３つの事柄について話す目的は，その価値を理解し，それを取り入れるように勧めることです。それを行えば，皆さんの奉仕はさらに良いものに変わります。そして，それが大いなるものとなれば，皆さんの神権による奉仕は，今想像している以上に天の御父の子供たちに祝福をもたらすことでしょう。

わたしは，会長であるビショップから祭司定員会に歓迎されたとき，第１のものに気づきました。皆さんにはささいな，目立たないことと思われるかもしれませんが，わたしは神権による力を感じ，以来神権によるわたしの奉仕は変わりました。ビショップの指導の仕方から始まったのです。

わたしの見解では，ビショップは，まるでわたしたちが世界で最も賢い人であるかのように，若い祭司たちの意見を扱ってくれました。彼は，全員が話し終わるまで待ってくれました。耳を傾けてくれました。そして，何をなすべきかを彼が決めたとき，御霊がわたしたちと彼にその決定を確認してくれたように思われました。

今だから分かるのですが，会長は定員会の会員とともに評議会の席に着かなければならないという聖文の意味を，当時のわたしは感じていました。[1] そして後年，わたしが祭司定員会を担当するビショップとなったとき，その祭司たちもわたしも，わたしが若いころ祭司として学んだことから教えを受けたのです。

20年後，ビショップであったわたしは，集会所でなく，山で評議会の効果を目にする機会がありました。土曜日の活動中に，定員会の一人が一晩森の中で行方不明になりました。わたしたちの知るかぎり，彼は独りぼっちで，温かい服も食べ物も，宿る所もありませんでした。わたしたちは彼を捜しましたが，見つかりませんでした。

わたしの記憶によれば，神権定員会とわたしは一緒に祈り，それから一人ずつ話すように言いました。わたしは熱心に耳を傾けました。彼らも互いの話をよく聞いていたようです。しばらくして，わたしたちは安らかな気持ちを感じました。行方の分からない会員は安全で，どこかに身を寄せていると感じました。

その状況で定員会が行うべきことと行ってはならないことが，わたしにははっきり分かりました。彼を見つけた人々から，彼が無事に過ごした森の場所について聞いたとき，わたしはそれを知っていたと感じました。しかし，わたしにとってのもっと大きな奇跡は，結束した神権評議会のイエス・キリストを信じる信仰の力が，神権の鍵（かぎ）を持つ人に啓示をもたらすのを実際に経験したことでした。その日，わたしたちは全員，神権の力において成長したのです。

成長や学習を促す第２の鍵は，深い信仰から得られる互いに対する愛を抱くことです。信仰と愛のどちらが先か定かではありませんが，神権者としてすばらしく，速く成長し学習するときには，必ずその両

方があるようです。ジョセフ・スミスは模範によってそのことを教えました。

この神権時代における教会の初期の時代に，彼は神権者を強めるように神から命じられました。そして神権者のために塾を設けるよう指示されました。主は教える者と教えを受ける者の間に互いに対する愛があるようにという条件を定められました。ここに，神権の学習の場を設けることと，そこで学ぶ人々はどのようでなければならないかについての主の御言葉があります。

「あなたがた自らを組織しなさい。……学びの家，……秩序の家……を建てなさい。……

あなたがた自身の中から一人の教師を任命しなさい。そして，全員が同時に語ることなく，一時に一人を語らせて，すべての者が彼の言うことに耳を傾けるようにしなさい。それは，すべての者が語って，すべての者が互いに教化し合うように，またすべての人が等しい特権を持てるようにするためである。」[2]

主は，わたしたちがすでに見てきたこと，すなわち御霊による啓示をもたらす神権評議会やクラスの強さについて述べておられます。啓示は，イエスがキリストであられることを知る唯一の手段です。その大切な信仰は，福音の原則を学ぶために登るはしごの第1段目です。

主は，教義と聖約第88章の123節と124節で，互いに愛し合うことと，互いのあら探しをしないことについて強調しておられます。人はそれぞれ，「愛のきずなをもって，……友になり兄弟になる」[3]と手を挙げて聖約を交わすことによって，主の預言者により設けられた神権者の塾への加入を認められたのです。

わたしたちは今日そのような形で聖約を交わしてはいませんが，神権によって際立って成長を遂げた姿を目にするときはいつでもそこにそのような愛のきずながあります。またわたしは，福音の真理を学ぶ目的と結果の両方でそれを見てきました。愛は，真理を確認するためにおいでになる聖霊を招きます。そして，神の真理を学ぶ喜びは，学ぶ経験を共にする人々の心に愛を生み出します。

同様に，反対も真実です。不和やねたみは，わたしたちを教える聖霊の力が働くのを妨げ，光と真理を受けるわたしたちの能力も妨げます。そして，その結果として必ず感じる落胆により，成長と学習の経験を期待して得られなかった人々の間にもっとひどい不和とあら探しの種がまかれるのです。

常に一緒によく学ぶ神権者たちには，彼らの中に偉大な平和を作り出す人々がいるように，わたしには見えます。皆さんは神権定員会のクラスや評議会で平和を作り出す人々を目にしています。ほかの人々が相違点に目を向けるときに，共通の基盤を見つけられるようにするのが平和を作り出す人々の賜物です。だれかが語ったことを正そうとするのではなく，それは貢献であると人々に認識させる賜物です。

キリストの純粋な愛と，平和を作り出す人になりたいという望みが十分にあれば，神権評議会とクラスに一致がもたらされます。それには忍耐と謙虚さが必要です。しかし，難しい問題があっても，評議会やクラスの人々の過去の生活環境が非常に異なっているとしても，わたしは一致がもたらされるのを見てきました。

定員会で決議を下す神権者のために主が定められた高い標準に到達することは可能です。深い信仰と愛があり，争いがないときに，それが可能です。ここに，わたしたちの決めたことに承認を下してくださる主の条件があります。「これらいずれの定員会が下す決議も皆，その定員会の全会一致の声によってなされなければならない。すなわち，彼らの決議を互いに同等の力すなわち効力のあるものとする

ために，各定員会のすべての会員がその決議に同意しなければならない。」[4]

神権における成長と学習の第3の助けは，主がわたしたちを祝福し信頼して，わたしたちが神権を保持し行使できるようにしてくださった理由について，共通の確信があることです。その共通の確信とは，人々の救いのために働くことです。この共通の確信は定員会に一致をもたらします。霊の息子たちは神権を保持するというその特別な栄誉を受けるために，生まれる前にどのように備えられたかを告げる聖文の記述から，このことについて学べます。

現世で偉大な神権の義務を与えられた人々について，主はこう述べておられます。「まことに，彼らは生まれる前に，ほかの多くの者とともに，霊の世界において最初の教えを受け，主の定められたときに出て行って人々の霊の救いのために主のぶどう園で働く準備をしたのである。」[5]

神権によって，わたしたちは人々のために働く神聖な義務をともに持ちます。これが自分の義務であることを学ぶだけではいけません。それ以上のことを行わなければなりません。それを心に深く刻んでいれば，努力を要する多くの事柄に若いときに直面しても，加齢に伴う様々な試練に遭っても，その目的を見失ってしまうことはないでしょう。

先日，わたしは一人の大祭司の家を訪問しました。彼はもう定員会集会に来ることができず，独り住まいです。麗しい奥さんは亡くなり，子供たちは遠くに住んでいます。年齢と病気のせいで奉仕する力は限られています。それでも，かつての強さを保てるように今でもウエイトトレーニングをしています。

わたしが家に入ると，彼は歩行器を使って立ち上がってわたしを迎え，そばのいすに座るように勧めてくれました。わたしたちは神権による幸せな交わりについて語り合いました。

その後，彼はとても真剣な口調でこう言いました。「自分はなぜまだ生きているのだろう。なぜまだこの世にいるのだろう。何もできないのに。」

わたしは，彼がわたしに何をしてくれているかを伝えました。彼は信仰と愛で高めてくれました。少し話をするだけでも，より善い人になろうという思いを持たせてくれました。大切なことを行うという彼の決意の模範は，人々と主にもっと一生懸命に仕えようという気持ちをわたしに与えてくれました。

しかし，彼の悲しげな声の調子とそのまなざしから，わたしは彼の疑問に答えていないと感じました。奉仕する能力がそのように制限されているのに，神がなぜ自分を生かしておられるのか，彼は不思議に思っていたのです。

彼はわたしが会いに来たことを，いつものように大らかな態度で感謝しました。わたしが立ち上がって帰ろうとすると，毎日数時間，彼の家に来る看護師の女性が別の部屋からやって来ました。会話の中で，彼女のことは少し聞いていました。彼女はすばらしい人だと，彼は言っていました。彼女は生涯の大半を末日聖徒のいる中で暮らしてきましたが，まだ教会員ではありませんでした。

彼女は歩いて来てわたしをドアまで案内しようとしました。彼は彼女を指して，笑いながら言いました。「ほら，わたしは何もできないようです。この方にバプテスマを受けて教会に入ってもらおうとしましたが，だめでした。」 彼女は彼とわたしにほほえみ返しました。わたしは外に出て，そこから近い我が家に向かいました。

そのとき，彼の疑問に対する答えが彼の心の中にかなり以前に与えられていたことが分かりました。その勇敢な大祭司は，何十年にもわたって教えられてきた神権における義務を果たそうとしていたのです。

その若い女性がイエス・キリストの福音を通して救いの祝福にあずかれる唯一の方法は，バプテスマによって聖約を交わすことであると，彼は知っていたのです。執事から大祭司まで，すべての定員会のすべての会長から聖約に従って教えを受けてきたのです。

彼は神権における誓詞と聖約を覚え，感じており，それを守り続けていました。

彼は，人生のどのような状況でも，救い主の証人であり宣教師でした。それがすでに彼の心の中にありました。彼の心の望みは，彼女の心がイエス・キリストの贖罪を通して，また，神聖な聖約を守ることによって，変わるようにということでした。

現世における神権者の塾での彼の時間は，永遠に比べれば相対的に短いでしょう。しかし，その短い期間であっても，彼は永遠の履修課程を学んだのです。主から召されるならどこへでも，彼は永遠に価値のある神権のレッスンを携えて行くでしょう。

皆さんは現世で神権のレッスンを熱心に学ぼうとするだけでなく，何ができるかについて楽観的でなければなりません。奉仕によって主から与えられることを学

べる可能性について，心の中に制限を設けている人が多少いるかもしれません。

1840年代の初めに，一人の若者がウェールズの小さな村を出て，神の使徒たちの話を聞き，地上における神の王国に入りました。彼は聖徒たちとともに船でアメリカに来て，幌馬車で平原を西へ向かいました。彼は，ブリガム・ヤングの一行がこの渓谷に着いた後，次に到着した隊にいました。彼の神権の奉仕には，農場のために土地を整備し耕作することも含まれていました。

彼はその農場を，二束三文で売り払って，主のために伝道に出て，現在のネバダ州に当たる，荒涼とした土地で羊の世話をしました。そこからさらに別の伝道に召されて，海を渡り，かつて貧しい中で主に従うために去ったあの村へ行きました。

そのすべてを通して，彼は神権者の兄弟たちとともに学ぶ方法を見いだしました。勇敢な宣教師であった彼は，ウェールズの道を歩いて，イギリスで4回首相を務めた人物の夏の別荘地を訪れ，イエス・キリストの福音を伝えました。

その偉大な人物は彼を邸宅に招き入れました。その人はイートン大学とオックスフォード大学の卒業生でした。宣教師は，人の起源と，世界史におけるイエス・キリストの主要な役割，また国々の行く末についても話しました。

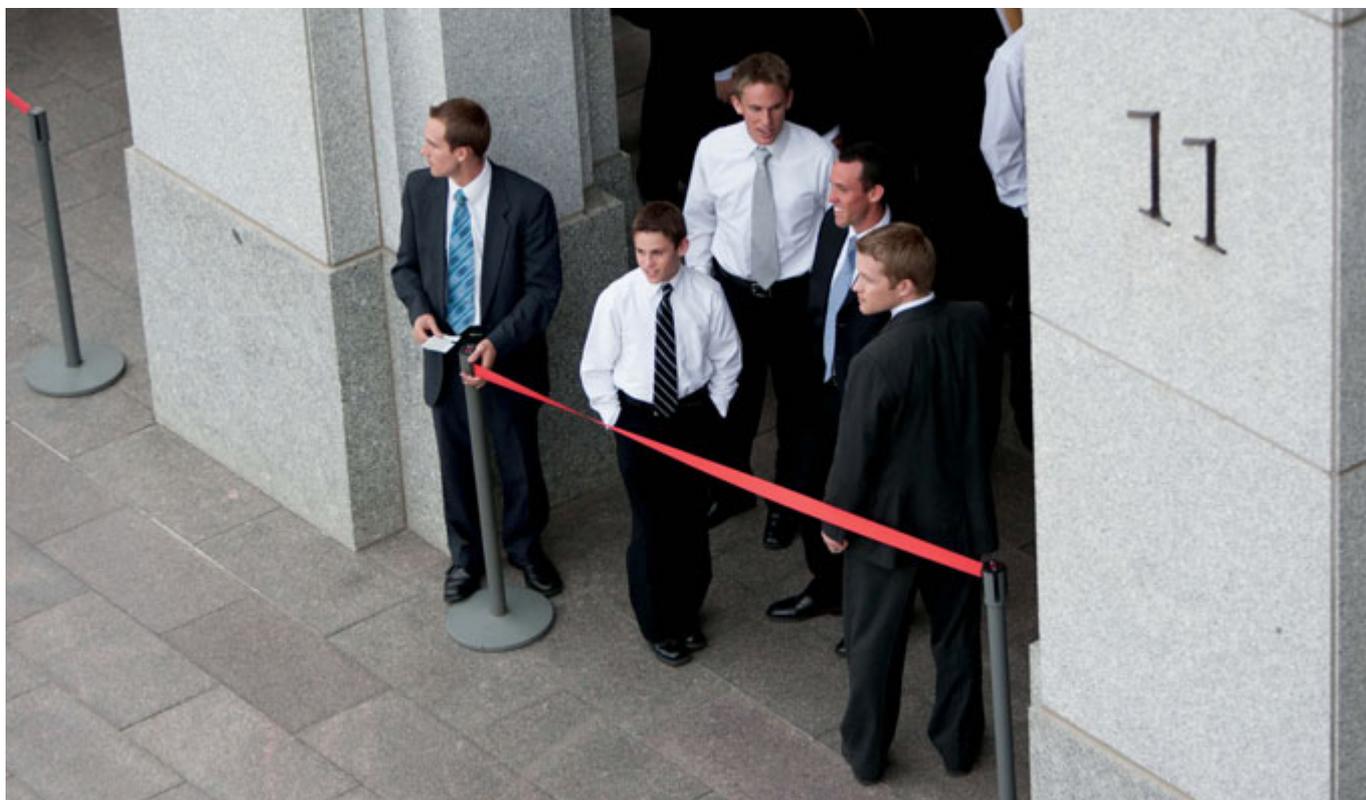
その話が終わると，その主人は，バプテスマを受けるようにという申し出を断りました。しかし，別れ際に，世界の大帝国の一つの指導者であるその人は謙遜な宣教師に，「君はどこで教育を受けたのかね」と尋ねました。宣教師は答えました。「神の神権者から受けました。」

皆さんは，どこかの立派な学校で人生について学ぶことを認められていたら，人生はどれほどよかっただろうかと，一度は考えたかもしれません。皆さんに対する神の愛の深さと，神の神権者の学校に入る機会を与えられたことのすばらしさに，皆さんが気づけるように祈ります。

皆さんが神権の務めにおいて勤勉で従順であれば，霊的な知識の宝が皆さんに注がれるでしょう。悪を阻む力と，救いに導く真理を宣言する力が強くなるでしょう。皆さんが昇栄に導く人々の幸せに喜びを見いだすでしょう。皆さんの家庭は学びの場となるでしょう。

神権の鍵が回復されていることを証します。トーマス・S・モンソン大管長はその鍵を保持し，行使しています。神は生きていて，皆さんのことを完全に御存じです。イエス・キリストは生きておられます。皆さんは聖なる神権を保持する栄誉のために選ばれました。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

注

1. 教義と聖約107：87参照
2. 教義と聖約88：119，122
3. 教義と聖約88：133
4. 教義と聖約107：27
5. 教義と聖約138：56

トーマス・S・モンソン大管長

神権の力

わたしたちが，神権の神聖な力を受けるふさわしさを今日もいつの日も持つことができますように。神権の力がわたしたちの生活に祝福をもたらし，……わたしたちも周りの人々の生活を祝福するために神権を行使できますように。

今晩何を話すべきか，長い間祈り，研究してきました。わたしの話でだれも傷つけることのないように願っています。わたしは次のようなことを思いました。「わたしたちが抱えている問題は何だろうか。時折，夜遅くにわたしが涙を流して泣く原因となっている事柄に，わたしは日々どのように対処しているだろうか。」 そして，今晩，そのような問題の幾つかについてお話ししてみようと思い至りました。若人や壮年期の皆さんに当てはまるものもあれば，それより少し上の年代の皆さんに当てはまるものもあるでしょう。わたしたちは高齢者については触れないことにしています。

今晩こうしてともに集えたことはわたしたちにとってすばらしいことでした。最初にそのことを申し上げておきます。神の神権について，すばらしい，時宜にかなったメッセージを聞きました。皆さんと同じように，わたしの霊も高められ，鼓舞されました。

今夜は，最近わたしがよく考えていた事柄や，話すべきだと感じた事柄を伝えようと思います。これらは様々な面で，わたしたちの持つ神権の神聖な力を受けて行使するために必要な個人のふさわしさに関連しています。

最初に，教義と聖約第121章から読みましょう。

「神権の権利は天の力と不可分のものとして結びついており，天の力は義の原則に従ってしか制御することも，運用することもできない……。

なるほどそれらがわたしたちに授けられることもあろう。しかし，わたしたちが自分の罪を覆い隠そうとしたり，自分の高慢，自分のうぬぼれた野望を満たそうとしたり，あるいはいかなる程度の不義によってでも，人の子らを制御し，支配し，強制しようとしたりするとき，まことに，天は退き去り，主の御霊は深く悲しむ。そして，主の御霊が退き去ると，その人の神権，すなわち権能は終わりである。」[1]

兄弟の皆さん，これが主の聖なる権能に関する主の厳然たる言葉です。この定義が神の神権を持つ人に課している義務について疑問の余地はありません。

わたしたちは困難な時代に地上に来ました。一般社会の道徳基準は少しずつ「何でも許される」程度まで移り変わってしまいました。

長い人生の中で，わたしは社会の道徳基準の移り変わりを目にしてきました。かつては教会の標準と世の標準にほとんど差がありませんでしたが，今や大きな溝ができていて，ますます深まるばかりです。

多くの映画やテレビ番組は神の律法に反する行動を描写しています。映画やテレビで間接的にも，直接的にも表現されている汚れに身をさらしてはなりません。現代の音楽に用いられる歌詞についても同じです。今日頻繁に見られる冒瀆的な言葉は，そう遠くない昔は決して容認されなかったものです。悲しいことに，主の御名が何度もみだりに唱えられています。主がシナイ山でモーセに明らかにされた十戒の一つを思い出してください。「あなたは，あなたの神，主の名を，みだりに唱えてはならない。主は，み名をみだりに唱えるものを，罰しないでは置かないであろう。」[2] 冒瀆的な言葉があることを悲しむと同時に，そのような言葉を用いないように強くお勧めします。自分が誇りに思えない言動を皆さんがしないよう心から願っています。

ポルノグラフィーには一切かかわらないでください。決して見ないでください。ポルノグラフィーは克服が非常に困難な依存症です。アルコールやたばこ，その他の薬物や，克服がきわめて難しい他の依存症も避けてください。

皆さんを周囲の罪悪から守ってくれるものは何でしょうか。救い主と福音に対する強い証が，皆さんを安全な場所へ導いてくれることをはっきりと申し上げます。モルモン書を読んでいなければ読んでください。挙手によってその決意を示すよう求めたりはしません。祈りの気持ちで，真理を知りたいと心から望みながら読むなら，聖霊はモルモン書が真実であることを示してくださるでしょう。もしモルモン書が真実であれば（実際に真実ですが），ジョセフ・スミスは父なる神と御子イエス・キリストにまみえた預言者です。教会も真実です。これらの証をまだ持っていなければ，その証を得るために必要なことをしてください。自分の証を得ることは不可欠です。人の証にいつまでも頼ることはできないからです。一度証を得たら，それを活気づけ，生かし続けるために神の戒

めを守り，定期的に祈り，聖文を研究する必要があります。教会に出席してください。セミナリーやインスティテュートがある地域にいる若い男性の皆さんはそれに出席してください。

人生で間違いを犯したとしても，解決方法があります。不義な行いをやめてください。ビショップと話してください。どのような問題でも，正しい悔い改めを通して正すことができます。再び清くなれます。主は悔い改める人々についてこのように述べられました。「たといあなたがたの罪は緋のようであっても，雪のように白くな〔り〕」[3]，「主なるわたしはもうそれを思い起こさない。」[4]

人類の救い主は御自身のことを，世にあって世のものではないと言われました。[5]わたしたちも偽りの概念や偽りの教えを拒み，神の命じられたことに忠実であれば，世にあって世のものとならないでいられます。

最近，結婚できる年齢でありながら，結婚するべきだと感じていない若い男性の皆さんについてよく考えています。結婚し，家族をもうけたいと望む，すばらしい女性がいますが，多くの青年が結婚を引き伸ばしていることで彼女たちの結婚の機会が限られています。

これは真新しい状況ではありません。過去の大管長たちがこの問題について多くを語ってきました。その中から二つの勧告を紹介します。

ハロルド・B・リー大管長はこのように述べました。「適齢期に達していながら，これらの愛らしい女性との誉れある結婚を避けている男性は，神権者としての義務を果たしていません。」[6]

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語りました。「結婚を望みながらなかなか相手を見いだすことのできない独身の姉妹たちのことをよく考えます。……反面，わたしたちの社会習慣上，率先して結婚のために行動を始める特権を持ちながら，それを怠っていることの多い青年たちには，あまり同情を感じません。」[7]

皆さんが結婚を躊躇していることには様々な理由があることを知っています。妻や家族を経済的に養うことを心配しているのでしたら，質素な生活をする夫婦が恥じる必要はないことを約束します。たいていの場合，そのような困難な時期に，犠牲を学び，難しい決断を下すことを学ぶ中で夫婦のきずなが深まるものです。相手を選び間違えることを恐れている人もいるかもしれません。そのような人は信仰を行使する必要があります。自分に合った人を選んでください。結婚後に遭遇するすべての問題を予測することはできませんが，あなたが創意工夫し，結婚を成功させるために献身するなら，どんな問題も必ず解決できます。

豪華な旅行をしたり，高級車や高級な遊び道具を買ったりして，友達と自由気ままな人生を過ごし，独身生活を楽しみすぎている人がいるかもしれません。皆さんが集団で遊び回っている場面に出くわ

したことがありますが，皆さんがなぜ立派な女性と出かけていないのか不思議に思いました。

兄弟の皆さん，結婚についてまじめに考え，永遠をともにしたい伴侶（はんりょ）を探すべき時期というものがあります。相手を賢明に選び，結婚を成功させるために献身するなら，結婚以上に大きな幸福をもたらしてくれるものはこの世にありません。

兄弟たちは，結婚するときには主の宮で結婚したいと望むことでしょう。神権者にほかの選択肢はないからです。結婚する資格を損なわないように注意してください。正しい範囲でコートシップをしながら楽しく過ごすことは可能です。

兄弟の皆さん，皆さんに話すべきだと感じた別の件について話します。大管長として支持されてから３年間，わたしに与えられた最も悲しく，残念な週ごとの責任は結び固めの取り消しです。どの結婚も，主の宮においてすばらしい男女が喜びをもって結婚し，新しい生活を歩み始め，残りの永遠をともに過ごすことに胸を躍らせることで始まりました。しかし年月がたって，何らかの原因で愛が消えるのです。経済的な問題，コミュニケーション不足，抑え切れなかった怒り，親族の干渉，罪とのかかわりなどが原因かもしれません。原因は多種多様です。しかし，ほとんどの場合，離婚という結果を迎える必要はありません。

結び固めを取り消したいと申請する人の大部分は，女性です。彼女たちは結婚をうまくいかせようと必死に努力したにもかかわらず，最終的には問題を克服できませんでした。

注意深く，祈りを込めて伴侶を選んでください。そして，結婚をしたら，互いに完全に忠実であってください。かつて，おじとおばの家に，貴重な言葉が書かれた小さな額が飾られていました。このような言葉でした。「あなたの愛する人を選び，選んだ人を愛しなさい。」 この短い言葉には深い知恵があります。結婚における献身は不可欠です。

あなたの妻はあなたと同等の立場にあります。夫婦に上下関係は存在しません。神の息子，娘として肩を並べて永遠の旅路を歩むのです。彼女の品位をおとしめたり，侮辱したりするのではなく，敬意と愛をもって伴侶に接するべきです。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べています。「妻に対して不義の支配を行う教会の男性はだれであっても神権を持つにふさわしくありません。そのような男性はたとえ聖任を受けていても，天は退き去り，主の御霊は深く悲しみ，そして，その人の神権の権能は終わりとなるのです。」[8]

ハワード・W・ハンター大管長は結婚についてこのように述べています。「結婚生活を幸せと成功に導くには，たいていの場合，ふさわしい相手を選ぶよりも，***自分がふさわしくなること***の方が大切だとよく言われます。」 わたしはこの言葉が好きです。「最大の要因は夫婦がそれぞれの務めを果たすために意識的に努力することなのです。」[9]

何年も昔，ビショップとして管理していたワードにある夫婦がいました。その夫婦はしばしば，非常に深刻で激しい口論をしました。意見がまったく合わないのです。二人とも自分の考えが正しいと思い込んで，互いに譲りませんでした。口論していないときは，わたしからすれば「緊迫した停戦」とも言える状態を維持しました。

ある朝２時に，その夫婦から電話を受けました。わたしと話したい，すぐに話したいとのことでした。わたしはベッドから這（は）い出て，着替え，彼らの家へ行きました。二人は部屋の両端に座り，互いに口を利きませんでした。妻はわたしを通して夫と話し，夫はわたしを通して妻に返答しました。「この夫婦を仲直りさせるには一体どうしたらよいのだろう」とわたしは思いました。

霊感を求めて祈ると，ある質問を尋ねるようにという思いが浮かびました。わたしは尋ねました。「神殿に参入して，結び固めの儀式に最後に参列したのはいつですか。」 二人は随分長い間参列していないと言いました。口論をすること以外は，

神殿推薦状を持つ，ふさわしい夫婦で，神殿に参入して身代わりの儀式を受けていました。

わたしは彼らに言いました。「水曜日の朝8時にわたしと一緒に神殿に行ってくださいますか。そこで結び固めの儀式に参列しましょう。」

二人は口をそろえて聞きました。「だれの儀式ですか。」

わたしは答えました。「分かりません。その朝結び固めを受ける人のです。」

次の水曜日，約束の時間に，わたしたちはソルトレーク神殿で会いました。3人で美しい結び固めの部屋の一つに行きました。十二使徒補助であったエルレイ・L・クリチャンセン長老以外に，参列者はだれも知りませんでした。当時は十二使徒補助という中央幹部の召しがあり，クリスチャンセン長老はその朝，その部屋で花嫁と花婿のための結び固めの儀式を執行する予定でした。きっと花嫁と家族はわたしたちのことを，花婿の友人だと思い，花婿の家族は花嫁の友人だと思ったことでしょう。わたしが連れて来た夫婦は，小さなベンチに2フィート（約60センチ）ほど間を空けて座りました。

クリスチャンセン長老はまず，結婚する男性と女性に勧告を与えました。すばらしい勧告でした。夫は妻を愛すべきで，敬意と思いやりをもって接し，家庭にあって心のよりどころとして尊ぶべきであると告げました。次に，妻は夫を一家の頭として尊び，あらゆる面で支えるべきであると告げました。

クリスチャンセン長老が花嫁と花婿に話しているとき，わたしの連れの夫婦が互いに少し近寄り始めたことに気づきました。間もなくして，二人は間隔を空けずに座っていました。うれしかったのは，どちらも同じくらいの速さで近づいたことです。儀式が終わるころ，二人は新婚の夫婦であるかのようにぴったりくっついていました。二人は笑顔になっていました。

その日，神殿から帰るとき，わたしたちがだれで，何のために来たかだれも知りませんでしたが，正面玄関を出て行くわたしの友人たちは手をつないでいました。意見の違いはわきに置いたのです。わたしは一言も語る必要がありませんでした。彼らは結婚した日と，神の宮で交わした聖約を思い出しました。初心に返って，今度はもっと努力して歩んで行こうと決意したのです。

結婚生活で問題に直面している皆さん，結婚した日と同じ幸福感を抱けるように自分にできる必要な修復をすべて行ってください。主の宮で結婚する夫婦は，この世と永遠にわたって結婚し，結婚を永続させるために努力しなければなりません。結婚が破綻するしかない状況もありますが，ほとんどの場合は修復できますし，またそうするべきであると，強く感じます。結婚生活が窮地に陥るまで待たないでください。

ヒンクレー大管長は，神の神権を持つわたしたち一人一人には，世の標準よりも高い標準を守れるように自分を律する責任がある，と教えました。誉れある，礼儀正しい男性となることが不可欠です。わたしたちの行動は非難される点のないものでなければなりません。

わたしたちの語る言葉，人への接し方，そして生き様は，神権を持つ男性，少年としての能力を左右します。

神権の賜物には計り知れない価値があります。神の僕として行動し，病人を癒し，家族やほかの人々を祝福するための権能が伴います。死の幕を超えて，永遠の効力があります。神権に比べ得るものはこの世界のどこにもありません。これを守り，大切にしてください。神権を持つにふさわしく生活してください。[10]

愛する兄弟の皆さん，人生の旅路を歩むとき，義がわたしたちの指針となりますように。わたしたちが，神権の神聖な力を受けるふさわしさを今日もいつの日も持つことができますように。神権の力がわたしたちの生活に祝福をもたらし，主がそうされたように，わたしたちも周りの人々の生活を祝福するために神権を行使できますように。主である救い主イエス・キリストは，わたしたちのために生き，命をささげてくださいました。これがわたしの祈りです。イエス・キリストの聖なる御名により，アーメン。■

注

1. 教義と聖約121：36－37
2. 出エジプト20：7
3. イザヤ1：18
4. 教義と聖約58：42
5. ヨハネ17：14；教義と聖約49：5参照
6. “President Harold B. Lee's General Priesthood Address,” *Ensign*，1974年1月号，100
7. ゴードン・B・ヒンクレー「『神が合わせられたもの』」『聖徒の道』1991年7月号，73
8. ゴードン・B・ヒンクレー「神権を行使する個人のふさわしさ」『リアホナ』2002年7月号，60
9. *The Teachings of Howard W. Hunter*，クライド・J・ウィリアムズ編（1997年），130
10. ゴードン・B・ヒンクレー『リアホナ』2002年7月号，61参照

大管長会第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ管長

ダマスコに行く途中でとどまる

キリストについて知りたいと熱心に求める者は結局それを見いだします。

世界の歴史の中で最も注目に値する出来事の一つがダマスコに行く途中で起こりました。「家々に押し入って……〔聖徒たちを〕獄に渡して，教会を荒らし回った」[1] 若者，サウロの話は皆さんもよく御存じです。サウロは容赦なくこれを行っていたため，多くの初期の教会員は，サウロの怒りを避けようとして，エルサレムから逃げました。

サウロは教会員を追いました。しかし，「ダマスコの近くに来たとき，突然，天から光がさして，彼をめぐり照（てら）した。

彼は地に倒れたが，その時『サウロ，サウロ，なぜわたしを迫害するのか』と呼びかける声を聞いた。」[2]

この一瞬の出来事がサウロを永遠に変えました。それはまさに，世界を変えました。

このような現れが起こることをわたしたちは知っています。実際わたしたちは，同じように神聖な出来事が1820年にジョセフ・スミスという少年に起こったことを証（あかし）しています。天が再び開き，神が預言者や使徒に語られるというはっきりとした証が確かにわたしたちにはあります。神はその子供たちの祈りを聞き，それにこたえてくださいます。

しかし，サウロやジョセフ・スミスのような経験をしなければ信じられないという人もいます。そのような人はバプテスマの水の所まで来ても，入りません。もう少しで証が得られるのに，真理を認めることができないでいます。主の弟子となる道まであとほんの少しの信仰を働かせればいいのに，何か劇的なことが起こって信じざるを得なくなることを期待しているのです。

つまり，ダマスコに行く途中でとどまっているのです。

信仰は少しずつ育つ

ある愛すべき姉妹はずっと忠実な教会員でしたが，個人的な悲しみを抱えていました。何年も前に娘が病気になり，短い闘病生活の後に亡くなったのです。彼女はこの悲劇が残した心の傷にずっと苦しんでいました。そのような出来事に伴う深い疑問のために彼女は苦しみました。以前のような証が持てなくなったことを率直に認めました。自分に対して天が開かないかぎり二度と信じることはできないと感じるまでになってしまいました。

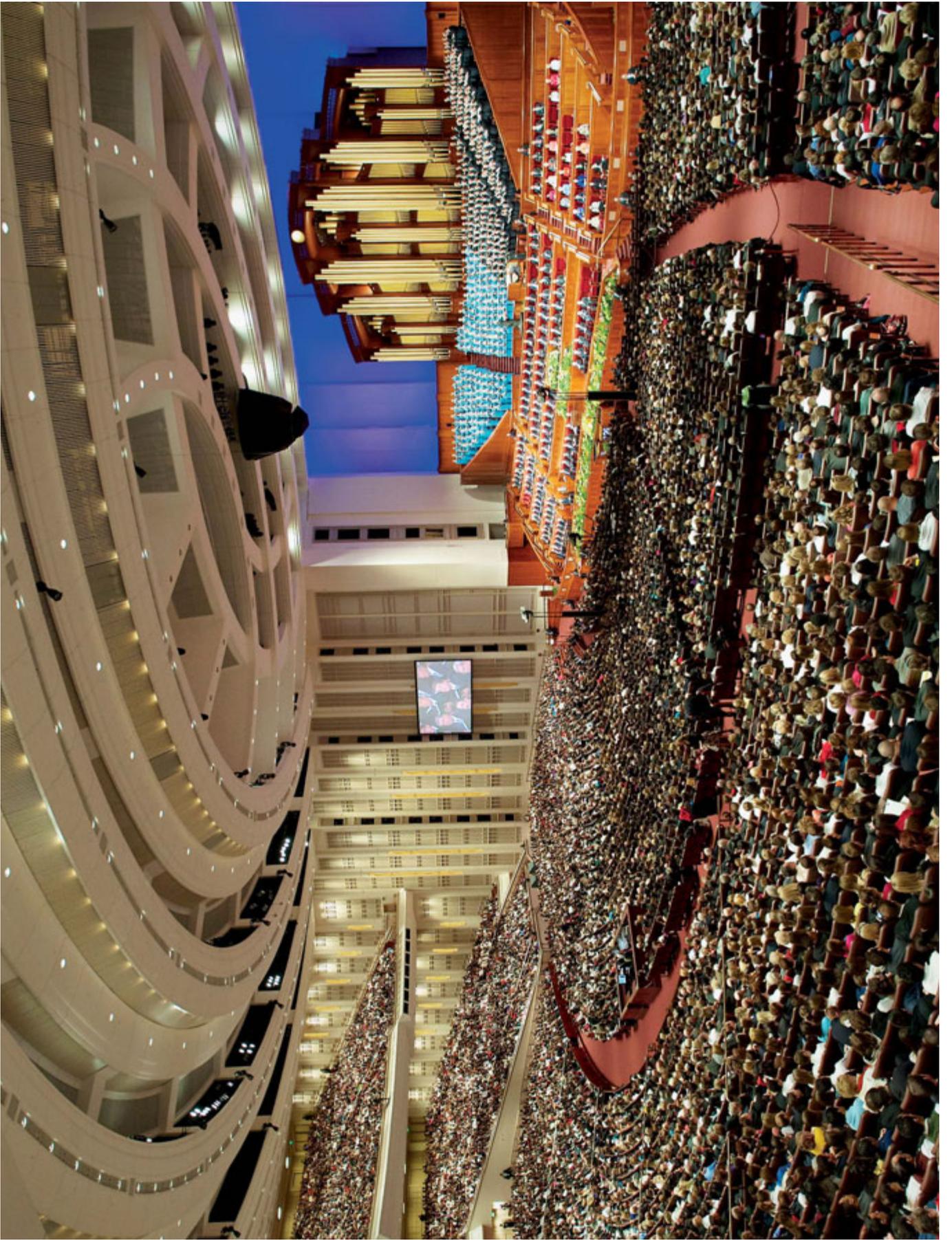
彼女は行き詰まってしまいました。

理由は違うかもしれませんが，ダマスコに行く途中でとどまっている人はほかにもたくさんいます。弟子としての道をひたすら歩む決心を先延ばしにしているのです。神権を受けたいと思っても，その特権に見合った生活をすることをためらいます。神殿に入りたいと望んでも，ふさわしい信仰を持つという最後の詰めを遅らせます。カール・ブロックの荘厳な絵のようにキリストが自分のもとに遣わされて，疑いや恐れを一度に取り去ってくださるのを待っているのです。

実際は，キリストについて知りたいと熱心に求める者は結局それを見いだします。たいていはパズルのように一度に一つずつしか与えられませんが，個人的に神聖な現れを受けて主を理解するようになるのです。個々のピースは分かりにくく，全体のどこなのかはっきりしないかもしれません。どのピースも全体をもう少しはっきり見るための助けになっています。そしてある程度ピースが集まると，きちんとした全体像が見えてきます。それまでの経験を振り返ると，救い主が確かに一緒におられたことが分かるのです。一度に全部ではなく，ほんの少しずつ，知らず知らずのうちに分かるようになります。

信仰をもって前進し，ダマスコに行く途中で長くとどまりすぎないようにするならば，わたしたちもこれを体験することができます。

聞き，心に留める

天の御父がその子供たちを愛しておられることを皆さんに証します。御父はわたしたちを愛しておられます。御父は皆さんを愛しておられます。打ち砕かれた心と悔いる霊をもって神の平安を求めてください。主は必要であればあなたを抱きかかえて障害を乗り越えてくださいます。主はしばしば，心でしか聞くことのできない方法で語られます。主の声がよく聞こえるよう，生活の中にあるこの世の雑音の

末日聖徒イエス・キリスト教会中央幹部

2011年4月現在

大管長会

第一顧問
ヘンリー・B・アイリング

大管長
トーマス・S・モンソン

第二顧問
ディーター・F・ウークトドルフ

十二使徒定員会

ボイド・K・パッカー
L・トム・ペリー
ラッセル・M・ネルソン
ダリン・H・オークス
M・ラッセル・バラード
リチャード・G・スコット

ロバート・D・ヘイルズ
ジェフリー・R・ホランド
デビッド・A・ベドナー
クエンティン・L・クック
D・トッド・クリストファーソン
ニール・L・アンダーセン

七十人会長会

ロナルド・A・ラズバンド
クラウディオ・R・M・コスタ
スティーブン・E・スノー
ウォルター・F・ゴンサレス
L・ホイットニー・クレートン
ジェイ・E・ジェンセン
ドナルド・L・ホールストロム

七十人第一定員会
（アルファベット順）

マルコス・A・アイドカイティス
ホセ・L・アロンソ
カーロス・H・アマードー
イアン・S・アルデルン
マービン・B・アーノルド
デビッド・S・バクスター
シェーン・M・ボーエン
ジェラルド・コセー
崔　喬煥
クレーグ・C・クリステンセン

ドン・R・クラーク
ゲーリー・J・コールマン
カール・B・クック
ローレンス・E・コーブリッジ
リグランド・R・カーティス・ジュニア
ベンハミン・デ・オヨス
ジョン・B・ディクソン
ケビン・R・ダンカン
デビッド・F・エバンズ
エンリケ・R・ファラベラ

エドアルド・ガバレット
カルロス・A・ゴドイ
クリストフェル・ゴールデン・ジュニア
ジェリット・W・ゴング
C・スコット・グロー
ジェームズ・J・ハムラ
キース・K・ヒルビッグ
リチャード・G・ヒンクレー
マーリン・K・ジェンセン
ダニエル・L・ジョンソン

ポール・V・ジョンソン
パトリック・キアロン
菊地良彦
ポール・E・コーリカー
エリック・W・コピシュカ
リチャード・J・メインズ
マーカス・B・ナッシュ
ブレント・H・ニールソン
アラン・F・パッカー
ケビン・W・ピアソン

アンソニー・D・パーキンズ
ポール・B・パイパー
ラファエル・E・ピノ
ブルース・D・ポーター
カール・B・プラット
デール・G・レンランド
マイケル・T・リングウッド
リン・G・ロビンズ
セシル・O・サミュエルソン・ジュニア
ジョセフ・W・シターティ

ユリシス・ソアレス
ゲーリー・E・スティーブンソン
マイケル・ジョン・U・テー
ジョセ・A・ティシェラ
オクタビアノ・テノリオ
フアン・A・ウセダ
フランシスコ・J・ビーナス

W・クリストファー・ワデル
ウィリアム・R・ワーカー
F・マイケル・ワトソン
山下和彦
ホルヘ・F・ゼバヨス
クラウディオ・D・シビック
W・クレーグ・ズウィック

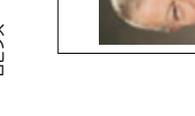
七十人第二定員会
（アルファベット順）

ウィルフォード・W・アンダーセン
青柳弘一
ランドール・K・ベネット
タッド・R・カリスター

クレーグ・A・カードン
ブルース・A・カールソン
J・デビン・コーニッシュ
キース・R・エドワーズ

スタンレー・G・エリス
ブラッドリー・D・フォスター
ラリー・W・ギボンズ
O・ビンセント・ハレック

高　元龍
ラリー・R・ローレンス
ペア・G・マーム
ジェームズ・B・マルティノ

ジャイロ・マサガルディ
ケント・F・リチャーズ
グレゴリー・A・シュワイツァー
ローウェル・M・スノー

ポール・K・ジブラウスキー
ケント・D・ワトソン
ラリー・Y・ウィルソン

管理ビショップリック

第一顧問
リチャード・C・エッジリー

管理ビショップ
H・デビッド・バートン

第二顧問
キース・B・マクマリン

世界中で「聖徒たちと同じ国籍の者」が第181回年次総大会に集った（エペソ2:19）。左上から時計回りに，ザンビア・ルサカ，ウクライナ・キエフ，ジャマイカ・セントキャサリン，ブラジル・サンパウロ，アメリカ合衆国メリーランド州オデントン，ドイツ・ドルトムント，ポルトガル・コインブラの末日聖徒たち。

ボリュームを下げるのが賢明です。理由はともあれ御霊のささやきを無視したり拒んだりすると，それがだんだん感じられなくなり，ついにはまったく聞こえなくなってしまいます。御霊のささやきに耳を傾け，それを心に留めるようにしましょう。

愛する預言者トーマス・S・モンソンは，この点についてわたしたちの模範です。モンソン大管長が御霊のささやきに注意を払った話は数え切れません。その一つをジェフリー・R・ホランド長老が語っています。

割り当てを受けてルイジアナ州にいたときのことです。モンソン大管長は，クリスタルという名前の10歳の末期癌の少女に会う時間があるかとステーク会長に聞かれました。クリスタルの家族はモンソン大管長が来てくれるよう祈っていました。しかし，この家族の家は遠く，スケジュールがいっぱいで時間がありません。そこでモンソン大管長は代わりに，ステーク大会で祈る人に，クリスタルの名前を入れて祈るよう頼みました。もちろん主もクリスタルの家族も理解してくれるでしょう。

ところが，ステーク大会の土曜日の部会でモンソン大管長が立ち上がって話そうとすると，御霊がこうささやきました。「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である。」[3]

「モンソン大管長の目には涙があふれ，原稿がかすんでしまいました。会のテーマに添って進めようとするのですが，〔その幼い少女〕の名前と姿がどうしても頭の中から消えないのです。」[4]

モンソン大管長は御霊の声に耳を傾け，スケジュールを変更しました。翌朝早く，99匹の羊を残して一人の少女の枕もとに行くために，何キロも移動したのです。

到着すると，大管長は「病のために立ち上がることもできず，弱り果てて話すこともできない一人の子供を見詰めていました。彼女はすでに目も見えなくなっていました。彼女が置かれている状況と主の強い御霊に心動かされたモンソン兄弟は，ひざまずくと子供の弱った手を取りました。そしてそっとこう呼びかけたのです。『クリスタル，わたしはここにいるよ。』

すると彼女が精いっぱいの力を振り絞り，弱々しく答えました。『モンソン兄弟，きっと来てくれると思っていたわ。』」[5]

愛する兄弟姉妹の皆さん，主から信頼を寄せていただける者の中に数えられて，主のささやきを聞き，サウロがダマスコに行く途中で言ったように「主よ，わたしが何をすることをお望みですか」と言えるようになろうではありませんか。[6]

奉仕する

わたしたちが生活の中で主の声に気づかないことがあるもう一つの理由は，御霊による啓示が祈りの答えとして直接本人に下されるとは限らないからです。

天の御父は，人生の疑問や悩みに対する答えが欲しいときにはまず心の中でよく思い計り，それから導きを祈り求めるよう望んでおられます。天の御父は必ず祈りにこたえてくださるとわたしたちに約束しておられます。答えは信頼できる友達や家族の言葉や教えを通して与えられることもあれば，聖文や預言者の言葉の中から見つかることもあります。

わたしのこれまでの経験では，自分のためだけでなくほかの人のためになる場合の方が強い導きを受けることが多かったです。自分のことばかり考えていると，非常に力強い霊的な経験や深遠な啓示を生活の中で受ける機会を逃してしまうかもしれません。

スペンサー・W・キンボール大管長はこれを次のように教えました。「神はわたしたちを心にかけ，わたしたちを見守っておられます。しかし，神がわたしたちの必要にこたえられるのは，普通の場合，人を

通してです。それだからこそ，わたしたちが互いに奉仕し合うことが大切なのです。」[7] 兄弟姉妹の皆さん，わたしたちには聖約を交わした者として，ほかの人が何を必要としているかを敏感に察知して救い主のように奉仕する責任があります。愛の手を差し伸べ，周りの人たちを祝福し，元気づけてください。

祈りの答えは祈っているときではなく，主のため，周りの人たちのために働いているときに与えられることが多いものです。無私の奉仕や献身的な行いはわたしたちの霊を清め，霊の目からうろこを取り除いて天の窓を開きます。ほかの人の祈りの答えとして働くときに自分の祈りの答えを見いだすことがよくあります。

分かち合う

主がわたしたちだけのために何かを啓示されることはあります。しかし，たいていは，証を人に分かち合う人に，主は真理の証を託されます。アダムの時代からどの預言者に対してもそうしてこられました。さらに主は，主の教会の会員であるわたしたちに，「いつも口を開き，喜びの声を上げてわたしの福音を告げ知らせ〔る〕」よう望んでおられます。[8]

これは必ずしも簡単なことではありません。信仰と宗教の話題を友達や職場の同僚に持ち出すくらいなら，手車を引いて平原を歩いた方がましだと思う人もいるでしょう。自分がどう思われるか，相手との関係に支障を来(きた)さないかが気になるのです。そんな心配は要りません。わたしたちが伝えようとしているのは良きおとずれであり，わたしたちには喜びのメッセージがあるのですから。

昔，わたしたち家族は教会員がほとんどいない地域に住んでいたことがあります。「週末はどう過ごしましたか」と聞かれると，スポーツの大会や映画や天気などのありふれた話題には触れずに，家族で教会に行った話をしようと心がけていました。例えばある青少年が『若人の強さのために』の標準について話したことや，伝道に出るためにこれから故郷を離れる若者の言葉に胸を打たれたこと，福音や教会のおかげで自分たち家族が問題を乗り越えられたことなどを話題にしました。説教じみた言い方や高圧的な言い方を避けるようにしました。妻のハリエットは人を鼓舞すること，元気づけること，おもしろいことを見つけて人に伝えることが上手でした。そんな会話が深い話し合いに発展することもたくさんありました。興味深いことに，日々の試練にどう対処しているかを話していると，「君なら簡単さ。教会があるんだから」と友人からよく言われました。

多くのソーシャルメディア（訳注——ツイッターやフェイスブックなど）と，便利な機器が手に入る現在，わたしたちは福音の良きおとずれを，かつてないほど簡単に伝えることができ，その影響力は広範囲に及びます。実際，この話を聞いている人の中に「もう10分も話しているのに飛行機のたとえが全然出てこない」などといったメールをすでに送った人もいるのかもしれません。愛する若い友人の皆さん，「口を開〔きなさい〕」[9] という今日(こんにち)のわたしたちへの主の呼びかけには，「手を使って」メールやブログで福音を全世界に伝えることもおそらく含まれるでしょう。でも，忘れないでください。もちろん，すべてのことは時間と場所をわきまえて行わなければなりません。

兄弟姉妹の皆さん，現代の科学技術のおかげで，わたしたちは神の子供たちの

ための偉大な計画に対する感謝と喜びの気持ちを，職場の周りだけでなく世界中に表現することができます。たった一言の証が，だれかの生活を永遠に変えるような出来事を引き起こすかもしれないのです。

福音を宣べ伝えるいちばん良い方法は模範です。信じていることに従って生活するならば，人は気づきます。イエス・キリストの面影がわたしたちの生活の中で輝きを放つならば，[10] わたしたちが喜びに満ちていて，平安に暮らしているならば，人はその理由を知りたくなります。伝道活動についてこれまでに語られた説教の中で最も偉大なものの中に，アッシジの聖フランシスコが言ったとされる次の言葉があります。「すべての行いを通して福音を宣べ伝えなさい。必要であれば言葉を使いなさい。」[11] そのようにする機会は，わたしたちの周囲に満ちています。ダマスコへ行く途中で長くとどまって，そのような機会を逃すことがありませんように。

ブラジル・サンパウロ

ダマスコへのわたしたちの道

主は今日，預言者と使徒に対して語っておられることを証します。誠心誠意で主のみもとに来る人に対しても主は語られます。[12]

疑ってはいけません。「見ないで信じる者は，さいわいである」ことを忘れないでください。[13] 神は皆さんを愛し，皆さんの祈りを聞いておられます。神はその子供たちに語りかけられ，神の道を歩むことによって神を求め，神を敬う人に慰めと平安を与え，理解の目を開いてくださいます。末日聖徒イエス・キリスト教会は主の道を歩んでいることを証します。わたしたちには生ける預言者がいます。この教会は救い主イエス・キリストに導かれており，わたしたちは主の御名を受けています。

兄弟姉妹，愛する友人の皆さん，***わたしたちが***ダマスコに行く途中で長くとどまりすぎないようにしましょう。反対に，信仰と希望と慈愛を持ち，勇気を出して前進しましょう。そうすれば祝福されて真の弟子として歩む道の途中で，わたしたちすべてが求める光を得られるでしょう。わたしはイエス・キリストの聖なる御名によりこのことを祈り，わたしの祝福を皆さんに残します，アーメン。■

注

1. 使徒 8：3
2. 使徒 9：3 － 4
3. マルコ 10：14
4. ジェフリー・R・ホランド「トーマス・S・モンソン第二副管長――常に『主の用向きを持てる者』となって」『聖徒の道』1986年11月号，6参照
5. ジェフリー・R・ホランド『聖徒の道』1986年11月号，6
6. 使徒 9：6
7. 『歴代大管長の教え――スペンサー・W・キンボール』82
8. 教義と聖約 28：16
9. 教義と聖約 60：2
10. アルマ 5：14 参照
11. ウィリアム・フェイとリンダ・エバンズ・シェパード，*Share Jesus without Fear*（1999年），22で引用
12. モロナイ 10：3 － 5 参照
13. ヨハネ 20：29

七十人
ポール・V・ジョンソン長老

わたしたちを愛して下さったかたによって，勝ち得て余りがある

これらの試練はわたしたちを試すためだけにあるのではありません。神の性質を身に付ける過程においてきわめて重要なものです。

地上の生活には試しや試練，苦難が伴い，人生で経験する試練には堪え難いほどのものもあります。病や裏切り，誘惑，愛する人の死，自然災害，そのほかの試練のいずれであっても，苦難は地上の経験の一部です。多くの人は，なぜこのような難しい試練に直面しなければならないのだろうと思ったことがあるでしょう。一つの理由は，信仰の試しを与えて，主が命じられたことすべてを行うかどうかを見るためです。[1] 幸いにも，この地上での生活は，これらの試しを受け，合格するには最適な場所です。[2]

しかし，これらの試練はわたしたちを試すためだけにあるのではありません。神の性質を身に付ける過程においてきわめて重要なものです。[3] 適切に対処するならば，これらの苦難は聖別されてわたしたちの益となります。[4]

オーソン・F・ホイットニー長老はこのように語りました。「わたしたちが経験する苦痛や試練に無駄なものは何一つありません。……苦難と忍耐のすべてが，辛抱して堪え忍ぶときは特に，わたしたちの人格を築き，心を清め，思いを広げ，わたしたちをより優しく慈愛に満ちた者とします。……悲嘆と苦難，労苦と試練によってわたしたちは現世で得るべき教育を受け……るのです。」[5]

最近，ある9歳の少年がまれな骨肉腫（こつにくしゅ）にかかりました。医師は診断結果と治療について説明し，何か月にも及ぶ化学療法と大手術を受ける必要があることを伝えました。医師は，少年と家族にとって非常につらい時となるだろうと話してから，こう付け加えました。「『これが終われば，わたしは元の自分に戻りますか』と聞く人たちがいます。わたしは『いいえ，元どおりにはなりません。さらに強く，すばらしい人となるでしょう』と話します。」

時折，自分の生活や心のいちばんもろい部分に試練が集中するように思えることがあるかもしれません。こうした試練の意図するところは個人が成長することですから，試練がきわめて個人的で，わたしたちの特定の必要や弱さに入念に向けられることは驚くには当たりません。試練を免れる人はだれ一人いません。特に，正しいことを行おうと努力している聖徒はそうです。従順な聖徒はこう尋ねるかもしれません。「なぜわたしが。良い人になろうとしているのに，なぜ主はこのようなことがわたしに降りかかるのをお許しになるのだろう。」苦しみの炉[6] は，生活の中の不純物を取り除いて，最も優れた聖徒さえも聖（きよ）めます。最上の富鉱でさえも不純物を取り除くために精錬される必要があります。ただ良い人であるだけでは十分ではありません。わたしたちが望むのは，あらゆる苦痛や苦難，誘惑を受けることにより学ばれた救い主のようになることです。[7]

わたしの好きなハイキングコースに，ローガン峡谷のクリムゾン・トレイルがあります。コースの主要部は，石灰岩の高いがけの頂に沿って緩やかにうねり，眼下には峡谷や盆地の美しい眺めが広がります。しかし，がけの頂上まで行くのは容易ではありません。コースは常に登り道で，頂上に着くほんの手前でコースの中で最も険しい部分に差しかかり，峡谷の姿ががけそのものに隠れてしまいます。しかし，頂上に着いたときの眺めは息をのむほどであるため，最後の奮闘の努力は報われて余りあります。その景色を見る唯一の方法は，登ることなのです。

聖文や生活の中のパターンには，しばしば最も暗く最も危険な試しは，すばらしい出来事や驚くべき成長の直前に訪れることが示されています。「多くの艱難（かんなん）の後に祝福は来る。」[8] 紅海が分かれる前，イスラエルの子らは紅海の手前まで追い詰められました。[9] ニーファイは真鍮（しんちゅう）の版を手に入れる前に，危険に遭い，兄たちの怒りの矛先となり，数々の失敗をしました。[10] ジョセフ・スミスは，完全な滅びを宣告されたかに思えるほど強い悪の力に圧倒されました。今にも絶望しそうなときに力を尽くして神に叫び求めると，まさにそのとき御父と御子の訪れを受けたのです。[11] 求道者がバプテスマに近づくと妨害や試練に遭うことがよくあります。母親は生みの苦しみが誕生の奇跡に先立つことを知っています。わたしたちは大きな試練

の後に驚くべき祝福がもたらされるのを繰り返し見ています。

祖母は19歳くらいだったころ，重い病気にかかりました。後になってこのように話しています。「歩くことができませんでした。数か月間寝たきりで，左足は完全に鈍ってしまいました。骨はスポンジのように柔らかく，足を床に着けると，電気が走るような痛みを覚えました。」[12] 寝たきりで苦しみが極みに達したとき，末日聖徒イエス・キリスト教会の小冊子を手に入れ，よく読みました。祖母は改心し，後にバプテスマを受けました。特定の困難に遭うことにより，きわめて重要な事柄に備えられることがよくあります。

問題の渦中にあると，そのときに感じている苦しみや屈辱，心痛をはるかに超える祝福がやがて訪れることに気づくことはほとんど不可能です。「すべての訓練は，当座は，喜ばしいものとは思われず，むしろ悲しいものと思われる。しかし後になれば，それによって鍛えられる者に，平安な義の実を結ばせるようになる。」[13] 使徒パウロは次のように教えました。「なぜなら，このしばらくの軽い患難は働いて，永遠の重い栄光を，あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。」[14] 興味深いことに，パウロは「軽い患難」という言葉を用いました。その言葉の語り手は，なぐられ，石で打たれ，船が難破し，投獄され，その他多くの試練に遭いました。[15] わたしたちの多くが自分の苦難を軽いと考えるとは思えません。しかし，この世と永遠にわたって最終的に受ける祝福と成長に比べると，わたしたちの苦難はまったく軽いものです。

わたしたちは試しや試練，苦難を求めることはありません。人生という個人の旅路では，自分に必要なだけの苦難が与えられます。多くの試練は死すべき状態のごく自然な一部ですが，わたしたちの成長にとってきわめて重要な役割を果たします。

救い主は地上の務めを終えようとするころ，後にも先にもないような困難な試練を受けられました。ゲツセマネとゴルゴタにおけるとてつもない苦しみです。続いて，栄えある復活が起こり，すべての苦しみがいつの日か取り去られるという約束が与えられます。主の苦しみは，復活の朝に墓が空になり，わたしたちが将来不死不滅と永遠の命を受けるための必須条件だったのです。

時折わたしたちは困難なしに成長することや，苦労せずに力をつけることを望むことがあります。しかし，簡単な道を通っていては成長できません。厳しい訓練を拒むスポーツ選手が世界レベルの選手にはは決してなれないことを，わたしたちはよく理解しています。神の性質を帯びるのに役立つ重要な出来事に憤慨することがないよう注意しなければなりません。

わたしたちが経験する試練や苦難のうち，一つとして自分の限界を超えるものはありません。主から助けを頂くことができるからです。わたしたちを強めてくださるキリストにより，何事でもすることができます。[16]

深刻な健康の問題から回復した後に，ロバート・D・ヘイルズ長老は総大会で次のように語りました。「わたしは何度か主に対して，自分はすでに学ぶべきことを確かに学んだので，これ以上苦しみに耐えることは必要ではありませんと申し上げたことがありました。しかしそのような祈りは無意味のようでした。この試しによる清めのプロセスは主の時に，主御自身の方法で与えられるものであることが，わたしにははっきりと分かったのです。……また，これらの試練や艱難に遭うときに自分は独りきりなのではなく，守護天使たちがともにいてくれることも学びました。医師や看護師の姿をした天使，そして何にも増して，愛する妻のメアリーという身近な天使もいてくれました。そして時折，主が望まれたときに，わたしは天の群衆の訪れによって慰めを受けました。彼らはわたしが助けを必要とするときに慰めと永遠の確信をもたらしてくれました。」[17]

天の御父がわたしたちを愛しておられ，「神に頼る者はだれであろうと，試練や災難や苦難の中にあって支えられ，また終わりの日に高く上げられる」ことを知っています。[18] いつの日か幕の向こう側に行くときに，だれかに「はい，これでおしまいです」と言われるだけではわたしたちは満足できないでしょう。わたしたちは主に「良い忠実な僕よ，よくやった」[19] と言っていただくことを望んでいるのです。

わたしはパウロの言葉が好きです。

「だれが，キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か，苦悩か，迫害か，飢えか，裸か，危難か，剣か。……

しかし，わたしたちを愛して下さったかたによって，わたしたちは，これらすべての事において勝ち得て余りがある。」[20]

神と御子イエス・キリストが生きておられることを知っています。御二方の助けによりこの世で経験する苦難に「勝ち得て余りがある」状態になれることも知っています。わたしたちは御二方のようになることができます。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

注

1. 1ペテロ1：6－8；アブラハム3：25参照
2. 1ペテロ2：20参照
3. 2ペテロ1：4参照
4. 2ニーファイ2：2参照
5. オーソン・F・ホイットニー，スペンサー・W・キンボールによる引用，*Faith Precedes the Miracle*（1972年），98
6. イザヤ48：10；1ニーファイ20：10参照
7. アルマ7：11－12参照
8. 教義と聖約58：4
9. 出エジプト14：5－30参照
10. 1ニーファイ3－4参照
11. ジョセフ・スミス—歴史1：15－17参照
12. アマリー・ホーレンベーガー・アマシェール，著者が保有する未発表の記録
13. ヘブル12：11
14. 2コリント4：17
15. 2コリント11：23－28参照
16. ピリピ4：13参照
17. ロバート・D・ヘイルズ「バプテスマの聖約—王国にあって王国のものとなる」『リアホナ』2001年1月号，6
18. アルマ36：3
19. マタイ25：21
20. ローマ8：35，37

ルーマニア・ブカレスト

管理ビショップ
H・デビッド・バートン ビショップ

福祉という聖めの業

互いに助け合い,「貧しい人に思いやりを示す」業は,御父から命じられている聖めの業です。

兄弟姉妹の皆さん,おはようございます。1897年,青年デビッド・O・マッケイはチラシを手にして,ある家の前に立っていました。スコットランドのスターリングで働く宣教師として,これまで何度もこのことを繰り返してきました。けれどもその日はドアが開き,ひどく憔悴した様子の女性が出て来ました。粗末な身なりで,頬がこけ,髪は手入れされていませんでした。

マッケイ長老が差し出したチラシを受け取って彼女が口にした言葉は,以降マッケイ長老にとって忘れることのできないものとなりました。「これでパンが買えるの?」

若い宣教師はこの出来事から消えない衝撃を受けました。後にこう記しています。「そのとき以来,キリストの教会は人の物質的な救いに関心を持つべきであること,また関心を持っていることを心に深く刻み込みました。その〔女性は〕人と神に対して苦々しい思いを抱いていて,とても福音のメッセージを受け入れるような状態でなかったことを感じ……ながらわたしはその家を後にしました。〔彼女は〕物質的な援助を必要としていましたが,わたしの知るかぎりスターリングにはそれができる組織がありませんでした。」[1]

それから数十年後に世界は大恐慌に見舞われました。その渦中,1936年4月6日にヒーバー・J・グラント大管長と顧問のJ・ルーベン・クラーク,デビッド・O・マッケイは,後に教会福祉プログラムとして知られることになる計画を発表しました。興味深いことにその2週間後,初代委員長としてメルビン・J・バラード長老が,初代実務運営ディレクターとしてハロルド・B・リーが指名されました。

決して安易な道のりではありませんでした。主はこの計画を実施するためにすばらしい人々を起用されましたが,J・ルーベン・クラーク管長は「〔福祉〕プログラムが設けられたのはグラント大管長が聖霊を通して啓示を受けたためであり,そのとき以来,責任を受けた兄弟たちに下された同様の啓示によって実施されてきた」[2]ことを明らかにしました。

人々の苦しみを軽減することについて,教会指導者の決意は揺らぐことも変わることもありませんでした。グラント大管長は「どれほど費用がかかろうとも手を差し伸べ,世話をする……システム」の構築を望んでいました。「セミナリーを中断し,伝道活動を一時期停止し,さらには神殿を閉鎖する」ような思い切った手段に訴えても,「人々を飢えさせることはしない」と語りました。[3]

ゴードン・B・ヒンクレー大管長がニカラグアのマナグアで,1万1,000人以上の命を奪った巨大ハリケーンを生き抜いた1,300人の教会員に語りかけたとき,わたしはその傍らにいました。大管長はこう語りかけました。「教会に資源があるかぎり,皆さんにひもじい思いをさせたり,衣類や避難施設に不自由させたりすることはありません。主が示された方法によって,わたしたちは全力を挙げて支援します。」[4]

霊感に基づき福音を中心としたこの道のりが持つ際立った特徴は,個人の責任と自立を強調していることです。マリオン・G・ロムニー管長はこのように説明しています。「援助を必要とする人を助ける数多くのプログラムが実施されています。しかし,こうしたプログラムの多くが,『自立を助ける』のではなく,単に『援助する』だけの,先の見通しを欠いた目標を掲げています。」[5]

自立は賢明な生活をし,経済的に自制することによって実現します。教会は初期の時代から,家族は可能なかぎり自分たちの物質的な福祉に責任を持つ必要があることを教えてきました。世代を問わず,各自が自立の基本原則を学ばなければなりません。すなわち,負債を避け,倹約の原則を実行し,困窮の時に備え,生ける預言者の言葉に従い,必要なものと欲しいものとを区別するよう自らを律し,これらの原則に従って生活することです。

貧しい人々に手を差し伸べる業を支えている目的,約束,原則はこの世だけのものではありません。この神聖な業は苦しんでいる人や助けを必要としている人に恵みと祝福をもたらすだけではないのです。神の息子娘として,わたしたちは地上にいる間に互いを心から思いやることがなければ,永遠の命を受けることができません。なぜなら,犠牲と自身を惜しみなくささげるという慈善の心に富んだ行いの過程で,犠牲と奉献という日の栄えの原則を学ぶからです。[6]

偉大な王ベニヤミンは，貧しい人に持ち物を分け与え，必要なものを与える理由の一つは，日々罪の赦(ゆる)しを続けて受け，神の御前(みまえ)を罪なく歩めるようにするためであると教えました。[7]

世界が創造されて以来，義にかなった社会ではいつも慈愛が重要視されてきました。わたしたちは平和な世界と豊かな社会を望んでいます。悪を捨て，善意と義が広がり，思いやりがあり徳が尊重される社会を祈り求めています。わたしたちがどれほど多くの神殿を建てても，会員数がどれほど増えても，世の人々からどれほど好意的に受け入れられても，「弱い者を助け，垂れている手を上げ，弱くなったひざを強めなさい」[8] というこの偉大な核である戒めを守っていないとしたら，あるいは苦しみ嘆く人々に心を向けないとしたら，わたしたちは罪の宣告を受け，主から喜ばれず，[9] 喜びあふれる希望が心に宿ることはないでしょう。

世界中の約2万8,000人のビショップが貧しい人を見いだし，必要を満たしています。ビショップはそれぞれ，献身的な扶助協会会長を含む神権および補助組織の指導者から成るワード評議会の支援を受けます。彼らは「見知らぬ人であっても救助に駆けつけ，……苦しんでいる人の傷ついた心に油とぶどう酒を注ぎ，……孤児の涙をぬぐい，夫を亡くした女性の心に喜びをもたらす」ことができます。[10]

世界中の教会員と指導者の心は，教義と，隣人を愛し思いやる精神に強く動かされ，導かれています。

南アメリカのある小さなステークの神権指導者は，会員たちが飢え，生活の必需品に事欠いていることに心を痛めていました。子供たちにはひもじい思いをさせたくないと考えていた彼は，空き地を見つけて，その土地を耕し作物を植えるために神権者を組織しました。彼らは年老いた馬を手に入れて，古いすきをくくりつけると，土地を耕し始めました。けれども惨事が起き，この年老いた馬は作業の途中で死んでしまいました。

神権者たちは兄弟姉妹を飢えさせまいと，すきを自分の背中に縛りつけて，硬くなった地面を引き始めました。文字どおり，兄弟姉妹の苦しみと重荷というくびきを身に負ったのです。[11]

我が家の歴史からも，助けを必要としている人に心を向けた出来事を見ることができます。ウィリーとマーティン手車隊について，またこの信仰篤(あつ)い開拓者たちが西部に向かって旅をする間，冬の寒さと悲惨な環境を堪え忍び，どれほど苦しみそして亡くなったかについては多くの人が知っています。わたしの高祖父のロバート・テーラー・バートンはこうした絶望的な状態にあった聖徒たちの救出に向かうようブリガム・ヤングから要請を受けた一人でした。

ロバートはこのときの様子を日記に記していました。「雪は深く，とても寒い。……寒さのあまり〔わたしたちは〕動けなかった。……温度計は氷点下24度を指していた。……あまりの寒さに人々は前に進むことができなかった。」[12]

動けずにいた聖徒たちの命をつなぐ物資が配られました。「〔救助隊は〕力の限りを尽くした。しかし，多くの人が息を引き取って，路傍に葬られた。」[13]

救出された聖徒たちがエコーキャニオンを進んでいたとき，女の赤ちゃんが生まれるのを手伝うために何台かの馬車がわきに止まりました。ロバートは，若い母親が生まれたばかりの幼子(おさなご)を寒さから守るに十分な衣類を持っていないことに気づきました。彼は凍りつくような寒さの中で，「着ていた手縫いのシャツを脱ぎ，赤ん坊をくるんであげるようにと母親に差し出した。」[14] その子の名はエコー，生まれた場所と境遇にちなんでエコー・スクワイアーズと名付けられました。

ロバートは後に管理ビショップリックに召され，30年以上にわたってその召しを果たしました。ロバート・テーラー・バートンは86歳で病の床に就きました。彼は家族を集めて，最後の祝福を与えました。その中に次のような短くも非常に深遠な勧告があります。「貧しい人に思いやりを

ジャマイカ・セントキャサリン

示しなさい。」[15]

兄弟姉妹，助けを必要とする教会員に組織として手を差し伸べるプログラムを計画し実施するために，主が立てられたこれらの創造力豊かな偉人をわたしたちは称賛しています。現在も，無数の方法で，また黙々と「貧しい人に思いやりを示し」，飢えている者に食物を与え，裸でいる者に着せ，病人の世話をし，束縛されている者を訪問する人々を称賛します。

これは救い主が御自身の弟子たちに求めておられる神聖な業です。主が地上におられたとき，好んで行われた業です。わたしはもし主が今ここにおられるとしたら，この業を行っておられることを確信しています。[16]

人類の物心両面における救いを目指して75年前に始まったこの制度は，当初はささやかなものでした。以来，世界中の数千万の人々の生活を改善し，恵みをもたらしてきました。預言者の指導の下で展開されている福祉計画は教会歴史における一つの小さな出来事ではありません。福祉計画が基としている原則はわたしたちがどのような民となるべきかを示しています。それは，救い主であり模範であるイエス・キリストの弟子の本質です。

互いに助け合い，「貧しい人に思いやりを示す」業は，御父から命じられている聖めの業であり，子らを祝福し，精錬し，昇栄させるために神により定められた業です。良いサマリヤ人のたとえの中で，救い主が律法学者に告げた「あなたも行って同じようにしなさい」[17] という勧告に，わたしたちも従うことができますように。このことをイエス・キリストの御名（みな）により証（あかし）します，アーメン。■

注

1. クレア・ミドルミス編，*Cherished Experiences from the Writings of President David O. McKay*（1955年），189
2. J・ルーベン・クラーク，"Testimony of Divine Origin of Welfare Plan"，*Church News*，1951年8月8日付，15。グレン・L・ラッド，*Pure Religion*，46，47も参照
3. グレン・L・ラッド，*Pure Religion*，34
4. "President Hinckley Visits Hurricane Mitch Victims and Mid-Atlantic United States"，*Ensign*，1999年2月号，74
5. マリオン・G・ロムニー「日の栄えに至る自立の本質」『リアホナ』2009年5月号，15
6. 教義と聖約104：15－18参照。教義と聖約105：2－3も参照
7. モーサヤ4：26－27参照
8. 教義と聖約81：5。マタイ22：36－40も参照
9. 教義と聖約104：18参照
10. ジョセフ・スミス，*History of the Church*，第4巻，567－568
11. 福祉活動前管理部長ハロルド・C・ブラウンとの面談
12. Journal of Robert T. Burton，教会歴史図書館，ソルトレーク・シティー，1856年11月2－6日
13. ロバート・テーラー・バートン，ジャネット・バートン・シーグミラー，*"Be Kind to the Poor": The Life Story of Robert Taylor Burton*（1988年），164
14. レノア・ガンダーソン，ジョレン・S・オーフィン，Tell My Story, Too, ellmystorytoo.com/art_imagepages/image43.html.
15. ロバート・テーラー・バートン，シーグミラー，"Be Kind to the Poor," 416
16. ディーター・F・ウークトドルフ「あなたは，わたしの手である」『リアホナ』2010年5月号，68－70，75
17. ルカ10：37

中央扶助協会会長会第一顧問
シルビア・H・オールレッド

主の弟子に不可欠なこと

愛の原則を指針として人の世話をするならば，わたしたちは奉仕を通して福音を実践していることになります。

わたしたちは主の民となるために心を一つにし，思いを一つにする必要があると，時の初めから主は教えてこられました。[1] また救い主は，律法の中でいちばん大切なのは，「心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ」という戒めと「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」[2] という戒めの二つであるとも説明されました。そして主は，教会が組織されて間もなく，「貧しい者と乏しい者を訪れ，彼らに必要なものを与え」[3] るようにと聖徒たちにお命じになりました。

これらの戒めに共通するものは何でしょうか。互いに愛し合い，奉仕し合わなければならないということです。実際これは，イエス・キリストの真の教会で弟子として歩むうえで欠かせないことです。

教会福祉プログラムの創設75周年を祝うに当たり，会員が自立できるよう助け，貧しい人や助けを必要としている人の世話をし，奉仕するという福祉の目的を，わたしたちは再確認しています。教会は持てる援助手段を整理して，会員がそれらを自分と家族，その他の人々の肉体的，霊的，社会的，情緒的な幸福に役立てられるようにしてきました。ビショップの職には，貧しい人や助けを必要としている人の世話をし，これらの援助手段をワードの会員のために役立てるという特別な責任が含まれています。これを行う際にビショップは，神権定員会と扶助協会，特にホームティーチャーと訪問教師から助けを受けます。

扶助協会は常に，福祉に欠くことのできない役割を果たしてきました。預言者ジョセフ・スミスは1842年に扶助協会を組織したとき，「貧しい人や助けを必要としている人にとって明るい未来が今始まった」[4] と女性たちに言いました。また，扶助協会の目的を「貧しい人，困窮している人，やもめや孤児を助けることであり，あらゆる慈善を行うこと」であると姉妹たちに述べ，扶助協会の姉妹は「苦しんでいる人の傷ついた心に油とぶどう酒を注ぎ，孤児の涙をぬぐい，夫を亡くした女性の心に喜びをもたらすでしょう」[5] と語りました。

ジョセフ・スミスはさらに，この協会は「貧しい人の必要に気を配り，慈愛を注ぐ対象を探し求め，必要なものを与えることによって，兄弟たちを善い行いへと駆り立てるでしょう。地域の人々の道徳を正し，徳を強めることによって，兄弟たちを助けるでしょう」[6] とも言いました。

今日（こんにち）教会の男女は，助けを必要としている人を世話する務めに一緒に取り組んでいます。神権者は霊的な導きや助けを必要としている人のために不可欠な支援を提供します。霊感を受けたホームティーチャーは生活に祝福を注ぎ，どの家族も福音の祝福にあずかれるようにします。それだけではありません。得意な技術や才能を活用して，家の修繕が必要な家族を助けたり，家族の引っ越しを手伝ったり，仕事を探している兄弟を助けたりもします。

扶助協会の会長はビショップの代わりに，家庭を訪問して何が必要かを見極めます。霊感を受けた訪問教師は，姉妹たちと家族を見守り，世話をします。緊急時に最初に助けに行くのは訪問教師であることが多いのです。扶助協会の姉妹たちは食事を持って行ったり慈善奉仕をしたりし，試練のときに絶えず支えたりします。

世界中の教会員は，奉仕する機会があることに喜びを感じてきましたし，今も喜びを感じているはずです。力を合わせて働けば，貧しい人，空腹な人，苦しんでいる人，悲嘆に暮れている人に安らぎを与え，それによって彼らを救うことができます。

どのビショップも主の倉を活用することができます。主の倉は，「忠実な教会員が助けを必要としている人に手を差し伸べ，地上に神の王国を築くために自分の時間，才能，技能，物質，金銭，そして愛をビショップにささげる」[7] ときに築かれます。助けを必要としている人の援助のために断食献金を納め，持てるものすべてをビショップに提供することによって，わたしたちは皆主の倉に貢献することができるのです。

世界は目まぐるしく移り変わりますが，福祉の原則は時が流れても変わりません。なぜならこれは神から霊感を受けて明らかにされた真理だからです。自立するためにできる限りのことをしても基本的な必要を満たせない場合，そのような教会員と家族に対して教会は助ける用意がいつでもできています。短期的な必要は直ちに

満たしますし，支援を受ける人たちが自立できるよう助けるための計画も確立されています。自立とは，自分と家族が生活において霊的に必要なものと物質的に必要なものを手に入れる能力のことです。

わたしたちが自分の自立の度合いを増すにつれて，救い主がなさったように人を助け，奉仕する力も増します。わたしたちは救い主の模範に倣って助けを必要としている人や病気の人，苦しんでいる人を世話します。愛の原則を指針として人の世話をするならば，わたしたちは奉仕を通して福音を実践していることになります。これこそが福音の真髄であり，清く汚れのない信心なのです。

わたしはこれまで様々な教会の割り当てを果たしてきましたが，その中で，ビショップや扶助協会の指導者が自分に託された人々に愛と関心を示す姿に頭の下がる思いをしてきました。1980年初頭にチリでステークの扶助協会会長を務めていたころ，チリは深刻な不景気に見舞われ，失業率は30パーセントでした。そのように厳しい状況の中で勇敢な扶助協会会長や訪問教師が「善を行っている」[8] 姿を見ました。彼女たちの行いは，「手を貧しい者に開き，乏しい人に手をさしのべる」という箴言第31章20節の聖句そのものでした。

自分の家族も困窮しているのに，もっと困っているだろうと思う人を常に助けている姉妹たちもいました。それを見てわたしは，救い主がルカによる福音書第21章3節から4節の言葉を言われたときに何を御覧になっていたのかがもっとはっきりと分かるようになりました。

「よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。

これらの人たちはみな，ありあまる中から献金を投げ入れたが，あの婦人は，その乏しい中から，持っている生活費全部を入れたからである。」

何年かして，アルゼンチンでステーク扶助協会会長をしていたときにも，同じ光景を見ました。ひどいインフレとそれに続く経済の崩壊が多くの忠実な教会員を直撃していたときのことです。最近コンゴ民主共和国のキンシャサを訪れたときにも，マダガスカルのアンタナナリボでも，またジンバブエのブラワーヨでも，同じ光景を目の当たりにしました。どこでもワードの会員，特に扶助協会の姉妹たちは，信仰を築き，個人と家族を強め，助けを必要としている人を支援する努力を続けていたのです。

教会の召しを受けた謙遜（けんそん）な姉妹や兄弟は，貧しさや悲しみ，病気，悩みのある家庭に行って，平安と安らぎ，幸せをもたらしています。考えてみればこれは驚くべきことです。どこのワード，支部であろうと，人の数の多少にかかわらず，世界中どの会員にもそれを行う機会があり，このようなことが毎日，今この瞬間にも，どこかで行われているのです。

カーラは二人の子供を持つ若い母親です。夫のブレントは労働時間が長く，通勤には片道1時間かかります。2番目の女の子が生まれて間もなく，こんな体験談を話してくれました。「ワードの扶助協会会長会の顧問の召しを受けたのですが，翌日になると，それがとてつもない重荷に感じられるようになりました。妻の役割に加えて，活発な2歳児と新生児を抱えた母親の役割を果たすだけでも大変なのに，ワードの女性たちの面倒を見る責

任などどうやって果たせるというのでしょう。こう思い悩んでいたときに，2歳の子が病気になりました。その子の看病も赤ん坊の世話も同時にしなければなりません。どうしたらいいのか分からず頭を抱えてしまいました。そのときです。訪問教師の一人，ワスデン姉妹が不意に訪問してくれました。子育てを終えた人なので，どうしたらよいかを心得ていました。薬局に行って必要なものを買って来ると言い，その間に何をしておけばいいのか教えてくれました。その後，夫を駅に車で迎えに行く人を手配してくれたので，夫は早く家に着くことができました。きっとこの姉妹は御霊のささやきに従ってわたしを助けてくれたのでしょう。しかも喜んで奉仕してくれたのです。この姉妹のおかげで，わたしが新しい召しを果たせるよう主は助けてくださるという確信を得ました。わたしが主から頂く必要があったのはその確信だったのです。」

天の御父はわたしたちを愛しておられ，一人一人の状況と能力を御存じです。わたしたちは毎日御父に助けを祈り求めますが，御父は普通，だれかほかの人を通してわたしたちの必要を満たされます。[9]

主はこう言われました。「互に愛し合うならば，それによって，あなたがたがわたしの弟子であることを，すべての者が認めるであろう。」[10]

無私の奉仕はキリストの純粋な愛の表れです。助け合うことによってわたしたちは聖められ，受ける者は高められ，与える者は謙遜になります。このようにしてキリストの真の弟子になっていくのです。

福祉計画はいつの時代でも福音の永遠の原則の実践でした。まことにこれは主の方法にかなった助けです。主の倉の一部を担って人に祝福を与える者になろうという望みを，皆新たにしようではありませんか。

主の祝福により，わたしたち一人一人がさらに深い憐れみと慈愛，思いやりの心を持つことができるよう祈ります。恵まれない人，悲嘆に暮れている人，苦しんでいる人に手を差し伸べて助けたいという望みと，それを行う力が増し加えられるよう主に請い求めます。そして彼らの必要が満たされ，信仰が強められ，心が感謝と愛で満たされますように。

主の戒めと主の福音，主の光に従って歩むときに，主がわたしたち一人一人を祝福してくださいますように。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

注

1. モーセ7：18参照
2. マタイ22：36－40参照
3. 教義と聖約44：6
4. ジョセフ・スミス，*History of the Church*，第4巻，607
5. 『歴代大管長の教え――ジョセフ・スミス』，452
6. 『歴代大管長の教え――ジョセフ・スミス』，452
7. 『主の道にかないて助けをなす――福祉に関する指導者用ガイド』11
8. 使徒10：38；信仰箇条1：13
9. 『歴代大管長の教え――スペンサー・W・キンボール』82
10. ヨハネ13：35

十二使徒定員会
デビッド・A・ベドナー長老

啓示の霊

啓示の霊は実在し，個人の生活でも，末日聖徒イエス・キリスト教会の中でも作用し，実際に機能しています。

わたしのお話の後に歌われる賛美歌「今日(きょう)われ善きことせしか」（『賛美歌』137番）が霊感によって選ばれたことを感謝します。わたしに霊感を与えてくれました。

ほとんどの人が光に関して経験したことのある二つのことについて考えてみましょう。

一つ目は，暗い部屋に入って電気のスイッチを入れたときの経験です。一瞬で部屋に光があふれ，闇(やみ)が消え去ったときの様子を思い出してください。見えていなかったもの，何だかよく分からなかったものが，はっきりと識別できるようになります。この経験は，瞬時に強い光を認識するという点が特徴的です。

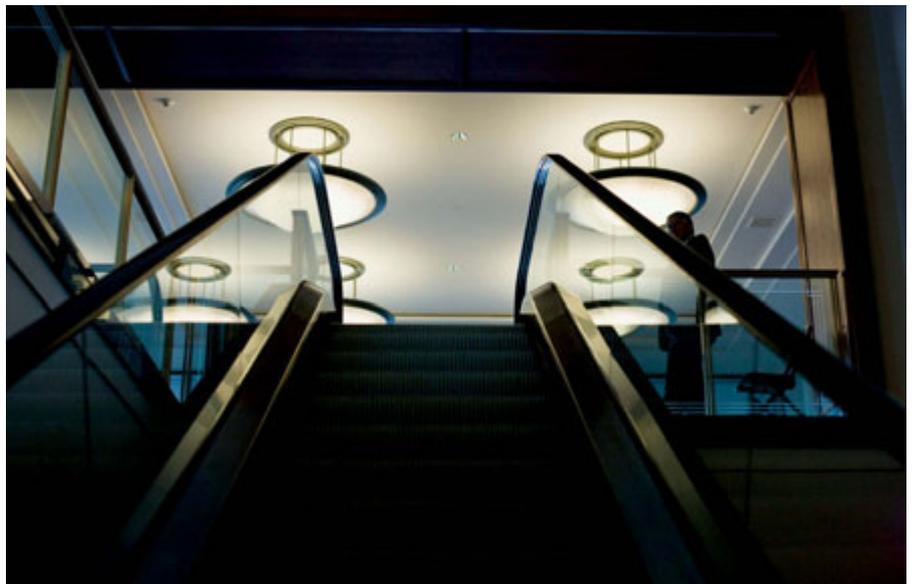
二つ目は，夜が朝に変わるのを見守っているときの経験です。地平線で光がゆっくりと，ともすれば気づかないぐらいに明るさを増していく様子を思い出してください。暗い部屋で電気のスイッチを入れるのとは対照的に，日の出の光は突然現れることはありません。むしろ少しずつ確実に光の強さが増し，朝の光が夜の暗闇に取って代わります。やがては建物や山の向こうから太陽が顔をのぞかせます。しかし間もなく太陽が現れることは，地平線のかなたに実際に日が昇る何時間も前からはっきり分かります。この経験は，微妙に，少しずつ光を識別するという点が特徴的です。

光に関するこの二つのありふれた経験から，啓示の霊について多くを学べます。わたしがこれから啓示の霊と，啓示が授けられる基本パターンについて話す間，聖霊がわたしたちに霊感を与え，教えてくださるように祈っています。

啓示の霊

啓示とは，神から地上の子供たちへのコミュニケーションです。それは，偉大な祝福の一つです。それは聖霊の賜物(たまもの)と，聖霊を常に伴侶(はんりょ)にできることに関連しています。預言者ジョセフ・スミスは「聖霊は啓示者であられ」「だれも啓示を受けずに聖霊を授かることはできません」と教えました（『歴代大管長の教え──ジョセフ・スミス』132）。

啓示の霊は，正しい神権の権能によって救いの儀式，すなわち罪の赦(ゆる)しのために水に沈めるバプテスマと聖霊の賜物を授かるための按手(あんしゅ)を受け，「聖霊を受けなさい」という神権の命令を，信仰をもって果たすすべての人に与えられます。この祝福は教会の管理役員に限定されてはいません。これは責任を負える年齢に達し，神聖な聖約を交わしたすべての男女や子供の生活の中で働くはずのものです。心からの望みとふさわしさは生活に啓示の霊を招きます。

ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは，モルモン書を翻訳しながら啓示の霊に関して貴重な経験をしました。この兄弟たちは，信仰と正直な心を持ち，受けることができると信じながら求めれば，業を成し遂げるために必要な知識を何でも受けられることを知りました。啓示の霊が概して聖霊の力によって頭や心に浮かぶ考えや思いとして機能することを次第に理解していきました（教義と聖約8：1－2；

100：5 − 8 参照)。主が彼らに次のように教えられたとおりです。「さて見よ，これは啓示の霊である。見よ，モーセがイスラエルの子らを導いて乾いた地を通って紅海を渡らせたのは，この霊による。これがあなたの賜物である。この賜物を使いなさい。」(教義と聖約 8：3 − 4)

わたしは啓示の霊に関して言われた「この賜物を使いなさい」という言葉を強調します。聖文では，聖霊は「静かな細い声」(列王上 19：12；1 ニーファイ 17：45。3 ニーファイ 11：3 も参照)や「まったく優しい静かな声」(ヒラマン 5：30）と表現されています。御霊（みたま）は優しく，繊細にささやくので，なぜわたしたちがふさわしくないメディア，ポルノグラフィー，有害で依存性のある薬物や行為を避けるべきか，分かるでしょう。サタンはこれらの手段を使って，御霊の力によって伝えられる，神の静かなメッセージを認識してそれにこたえるわたしたちの能力を損ない，ついには破壊します。わたしたち一人一人が，悪魔の誘惑を拒み，「この賜物」すなわち啓示の霊を個人の生活や家族の中に義にかなって「使〔う〕」方法を真剣に，よく祈って深く考えるべきです。

啓示のパターン

啓示は様々な方法で与えられます。例えば，夢や示現，天の使いとの対話，霊感などです。ある啓示は即座に，強烈な方法で受けます。ほかの啓示は少しずつ，わずかに認識されます。前に話した光に関する 2 種類の経験は啓示のこの二つの基本的なパターンをよりよく理解するのに役立ちます。

暗い部屋で照明をつけることは神のメッセージを素早く，完全に，一度に受けることに似ています。わたしたちの多くは，神の御心（みこころ）と時に応じて，心からの祈りがこたえられたり，必要な導きや守りを受けたりして，この啓示のパターンを経験したことがあります。このような即座で強い現れは，聖典や教会歴史の出来事，そしてわたしたちの生活の中に見つけることができます。確かにこれらの強力な奇跡は起きます。しかしこのようなパターンの啓示は一般的ではなく，むしろ珍しいことなのです。

日の出のときに少しずつ光が増していく様子は，「教えに教え，訓戒に訓戒を加えて」神からメッセージを受けることと似ています（2 ニーファイ 28：30)。ほとんどの場合，啓示は時間をかけて少しずつもたらされ，わたしたちの望み，ふさわしさ，準備の度合いに応じて与えられます。天の御父からのそのようなメッセージは少しずつ，優しく「天からの露のように〔わたしたち〕の心に滴る」ものです（教義と聖約 121：45)。このパターンの啓示は珍しいことではなく，むしろ一般的であり，ラバンから真鍮（しんちゅう）の版を無事に手に入れるまでに様々な方法を試したニーファイの経験に現れています（1 ニーファイ 3 − 4 章参照)。彼は最終的に，「前もって自分のなすべきことを知らないまま」御霊によってエルサレムへ導かれました（1 ニーファイ 4：6)。また，入念な造りの船を建造する方法は一度に学んだのではなく，主が「船材をどのようにしてこしらえるかを，〔彼に〕度々示して」くださったのです（1 ニーファイ 18：1)。

教会の歴史にも，わたしたちの生活にも，「教えに教え，訓戒に訓戒を加えて」啓示を受けるという主のパターンの例はたくさんあります。例えば，回復された福音の基本的な真理は聖なる森で預言者ジョセフ・スミスに一度に伝えられたのではありませんでした。それらの貴い宝は，状況が整ったとき，時宜にかなっているときに明らかにされました。

ジョセフ・F・スミス大管長はこのパターンの啓示が自分の人生でどのように起きたかを説明しています。「少年のころ，……わたしは頻繁に……自分の証（あかし）を得たくて，何かすばらしい奇跡をお見せくださいと主に求めました。しかし，主は奇跡をお見せにならず，頭のてっぺんから足のつま先までわたしが真理を理解するまで，疑問や恐れが一掃されるまで，教えに教え……を加えてくださいました。そのために天の使いを遣わしたり，天使長のラッパの声をもって語ったりなさいませんでした。生ける神の御霊の静かな細い声によって，神はわたしが今持っている証を与えてくださいました。そしてこの原則と力により，神は人の子らの心にいつまでも残る真理の知識をお与えになり，その結果わたしたちは神のように真理を知るようになり，キリストのように御父の御心を行うようになるのです。奇跡的な現れをどんなに多く経験しても，このような結果は得られないでしょう。」(Conference Report，1900年 4月，41）

わたしたち教会員は奇跡的で劇的な現れを強調するあまり，聖霊が働かれる一般的なパターンを認識できずに見過ごしているかもしれません。小さな霊的印象が徐々に大きくなり，長い時間をかけて，待ち望んでいた答えや必要な導きになっていくという「方法が単純」であるために（1 ニーファイ 17：41)，わたしたちは「的のかなた」に目を向けてしまうかもしれません（モルモン書ヤコブ 4：14)。

奇跡的な，あるいは強烈な印象を頻繁に受けないために，自分の証の強さや霊的な能力を疑うたくさんの人と話したことがあります。おそらく，ジョセフが聖なる森でした経験やサウロがダマスコへ行く途中でした経験，息子アルマがした経験を考えると，そのようなよく知られた著しく霊的な例と同じような経験がない自分には何か問題や欠陥があるのではないかと思うようになるのでしょう。このような思いや疑問を持ったことがあるならば，皆さんはごく普通の人であることを覚えておいてください。従順に，救い主を信じる信仰をもって進み続ければよいのです。そうするなら，「迷うことはあり得」ません（教義と聖約 80：3)。

ジョセフ・F・スミス大管長は次のように勧告しています。「教会にしっかり根付

くために，奇跡やしるし，示現を必要とする末日聖徒がいるとすれば，彼らは……神の前で良い評価を得ておらず，ぬかるんで滑りやすい道を歩んでいる会員です。わたしたちが真理に根付くのは奇跡的な現れによるのではなく，神の戒めと律法に謙遜に，忠実に従うことによるのです。」（Conference Report，1900年4月，40）

光に関するもう一つのありふれた経験から，「教えに教え，訓戒に訓戒を加える」という啓示のパターンについて別の真理が学べます。時々，朝太陽が昇るときに空が曇っていたり，霧に覆われたりしていることがあります。薄暗いために光が見にくく，太陽が地平線から昇るまさにその瞬間を確認できません。しかし，そのような朝でも，新しい日が始まったことを認識したり，用事を済ませたりするための光は十分あります。

同様に，啓示をいつどのように受けたか正確に認識しないで啓示を受けることがよくあります。この原則は，教会歴史のある重要な出来事に現れています。

1829年の春，オリバー・カウドリはニューヨーク州パルマイラで学校の教師をしていました。ジョセフ・スミスとモルモン書の翻訳の業について知り，オリバーは若い預言者に支援を申し出るべきだと感じました。そこでペンシルベニア州ハーモニーへ行き，ジョセフの筆記者となりました。オリバーの到着時期と彼の提供した助けはモルモン書を世に出すためにきわめて重要でした。

その後，オリバーが導きを求めて祈る度に主の御霊から導きを受けていたことを救い主は明らかにされました。主はこのように宣言されました。「そうでなかったならば，現在あなたがいる所に来ることはなかったであろう。見よ，あなたがわたしに尋ねたので，わたしがあなたの思いを照らしたことを，あなたは知っている。そして今，あなたが真理の御霊に照らされたことを知るように，わたしはこれらのことをあなたに告げるのである。」（教義と聖約6：14－15）

このようにオリバーは自分が啓示を受けてきたことを知らせる啓示を，預言者ジョセフ・スミスを通して受けました。明らかにオリバーは神からいつどのように導きを受けていたか認識しておらず，啓示の霊について理解を深めるためにこの教えを必要としていました。つまり，オリバーは曇った空に昇りつつある太陽の光の中を歩いて来ていたのです。

人生で直面する多くの不確実なことや困難の中で，神はわたしたちが最善を尽くし，作用される者ではなく作用する者となり（2ニーファイ2：26参照），神を信頼

することを望んでおられます。わたしたちは天使を見たり，天の声を聞いたり，圧倒されるような霊的な印象を受けることはないかもしれません。神の御心に従っているかどうか完全な確信がないまま，望みと祈りをもって前進することが多いかもしれません。しかし，聖約を尊んで戒めを守り，善を行い善い人になるよう絶えず努めるなら，神が導いてくださることを確信して進むことができます。そして語るときには，神が霊感によって語るべき言葉を与えてくださることを確信することができます。それは「神の前においてあなたの自信は増〔す〕」という聖句が意味することの一つです（教義と聖約121：45）。

啓示の霊をふさわしく求めて従うときに，「主の光の中を歩〔める〕」ことをわたしは約束します（イザヤ2：5；2ニーファイ12：5）。時々，啓示の霊は即座に強く働くことがありますが，それ以外のときは，わずかに少しずつ，そして多くの場合意識的に認識できないほど繊細に働きます。しかしどのようなパターンでこの祝福を受けても，啓示の霊がもたらす光は皆さんの心を照らして広げ，理解力に光を注ぎ（アルマ5：7；32：28参照），皆さんと家族を導き守ってくれるでしょう。

わたしは使徒として，御父と御子が生きておられることを証します。啓示の霊は実在し，個人の生活でも，末日聖徒イエス・キリスト教会の中でも作用し，実際に機能しています。これらの真理を主イエス・キリストの聖なる御名（みな）により証します，アーメン。■

トーマス・S・モンソン大管長

聖なる神殿——世界に輝くかがり火

教会員として受ける最も大切で最高の祝福は神の神殿で受けるこれらの祝福です。

愛する兄弟姉妹，皆さん一人一人にわたしの愛と歓迎の気持ちを伝えるとともに，今日（きょう）わたしが話すときに，天の御父がわたしの思いと言葉を導いてくださるよう祈っています。

今朝オールレッド姉妹とバートンビショップとほかの話者たちから聞いた，教会の福祉プログラムに関するすばらしいメッセージについて最初に少し話します。すでに述べられたように，霊感に基づいたこのプログラムは今年75周年を迎え，これまで多くの人の生活を祝福してきました。わたしはこの偉大な事業の設立に当たった人を何人か個人的に知っています。慈悲と先見の明を持った人々です。

バートンビショップとオールレッド姉妹，ほかの話者たちが述べたように，ワードのビショップは，ワードの区域内に住んでいて助けを必要としている人々の世話をする責任があります。わたしも若いころにソルトレーク・シティーで，夫を亡くした84人の姉妹を含む1,080人の会員を擁するワードのビショップだったとき，そのような特権にあずかりました。ワードには援助を必要とする人が大勢いました。わたしは教会の福祉プログラムと，扶助協会，神権定員会の助けにどれほど感謝したことでしょうか。

末日聖徒イエス・キリスト教会の福祉プログラムは全能の神の霊感によって実施されていることを宣言します。

さて，兄弟姉妹の皆さん，わたしが大管長として支持を受けてから，この大会で3年が過ぎました。確かに，忙しく，多くの難問を抱える毎日でしたが，数え切れないほどの祝福も受けてきました。中でも神殿を奉献・再奉献する機会は最も喜ばしく，神聖な祝福でした。わたしは今日，神殿について話します。

1902年10月に開かれた総大会において，ジョセフ・F・スミス大管長は冒頭の説教で「民の便宜のために必要とされる神殿が〔世界〕各地に建つ」日が来るのを望んでいると語りました。[1]

教会が組織されてからの150年間，つまり1830年から1980年までに，オハイオ州カートランドとイリノイ州ノーブーの神殿を含む21の神殿が建設されました。これに対して1980年からの30年間，この間に115の神殿が建設され，奉献されました。昨日発表された3つの新しい神殿を加えると，さらに26の神殿が建設中か建設の準備に入っています。神殿の数はさらに増えるでしょう。

1902年にジョセフ・F・スミス大管長が望んだ目標は実現しつつあります。わたしたちはできるかぎり会員たちが神殿に行きやすくなることを願っています。

現在ブラジルのマナウスで神殿が建築されています。何年か前にわたしは，アマゾンの熱帯雨林の真ん中に位置するマナウスから100人以上の会員が，当時最も近いブラジルのサンパウロにある神殿まで旅したことについての記事を読みました。マナウスから神殿まで約4,000キロです。この信仰篤い聖徒たちは，船で4日かけてアマゾン川と支流を下り，船旅が終わると，でこぼこ道をさらに3日間，食べ物もほとんどなく，眠ることもままならないバスに乗り，7昼夜をかけてサンパウロの神殿に到着しました。そして永遠の儀式が執行されました。もちろん帰り道も同じように過酷でした。けれども彼らは神殿の儀式と祝福を受け，財布は空になっていましたが，神殿の霊に満たされ，受けた祝福への感謝で満たされていました。[2] それから多くの歳月が流れて，マナウスの会員たちは今，リオネグロ川のほとりに姿を現しつつある自分たちの神殿を見て喜びを感じています。神殿はどこに建てられても忠実な会員たちに喜びをもたらしています。

神殿の中でしか得られない祝福を得るためにささげた犠牲の記録は，いつもわたしの心を打ち，神殿に対する感謝の念を新たにしてくれます。

ティヒ・マウ・サムと妻のタラライナ，それに10人の子供たちの話を紹介しましょう。この家族はタヒチから約160キロ離れた彼らの島に宣教師がやって来た1960年代初期に，一人の娘を除く全員で教会に入りました。間もなく神殿で家族が永遠に結ばれる祝福を望むようになりました。

当時，マウ・サム家族にとって最も近い神殿は南西に4,000キロ以上離れたニュージーランド・ハミルトン神殿でした。高額な飛行機で行くしかほかに交通手段がありません。小さな農場で働いて細々と生活している大家族には航空券を買うお金もなく，太平洋に浮かぶ島では就職する機会もありませんでした。そこでマウ・サム兄弟と息子のジェラルドは働くために4,800キロ旅をしてニューカレドニアに行くという苦渋の決断を下しました。ニューカレドニアにはすでに職を得ているもう一人の息子がいました。

マウ・サム家の3人の男は4年間働きました。その期間，マウ・サム兄弟は，1度だけ，娘の結婚のために一人で家族のもとに帰りました。

4年後，マウ・サム兄弟と息子たちは

ニュージーランド神殿に家族を連れて行くだけの費用を蓄えました。妊娠していた一人の娘を除き，会員である家族全員が神殿に行きました。家族はこの世と永遠に結び固められ，言葉に表せないほどの喜ばしい経験をしました。

マウ・サム兄弟は神殿からニューカレドニアへ直行して，さらに2年間働きました。神殿へ同行しなかった娘と夫それに子供が神殿に行く費用を働いて得るためでした。

それから何年か後にマウ・サム兄弟姉妹は神殿で奉仕したいと考えるようになりました。そのころにはタヒチ・パペーテ神殿が完成し，奉献されていました。彼らはそこで4度宣教師として奉仕しました。[3]

兄弟姉妹，神殿は石とモルタル以上のものです。人々の信仰と断食で満たされています。試練と証によって建てられています。犠牲と奉仕によって聖められています。

この神権時代の最初の神殿はオハイオ州カートランドで建てられました。当時の聖徒たちは貧困にあえいでいました。しかし，主が神殿を建てるように命じられたので，彼らはそうしました。ヒーバー・C・キンボール長老はその経験をこのように記しています。「この業を成し遂げるためにわたしたちが味わった貧困と試練と苦難を，主だけがすべて御存じです。」[4] そして，苦労しながらもすべてが完成したとき，聖徒はオハイオと愛する神殿から力ずくで追放されました。ようやく，一時的ではありましたがイリノイ州のミシシッピ河畔に避難場所を見つけました。彼らはその定住地をノーブーと名付け，再び持てるすべてをささげ，変わらぬ信仰をもって，神にもう一つの神殿を建てました。しかし迫害の手が伸び，ノーブー神殿は完成したばかりであったにもかかわらず，聖徒たちは再び家を追われて，だれも見向きもしなかった荒れ野に避難の地を求めたのです。

40年を費やしてソルトレーク神殿を建設したとき，困難と犠牲は再び始まりました。神殿は今日カンファレンスセンターにいるわたしたちの南のブロックに堂々とそびえています。

神殿の建設と神殿の参入には何がしかの犠牲がついてまわります。神殿の中で見いだされる祝福を自身と家族が得るために努力し，苦しみを経験した人は数限りなくいます。

神殿の祝福を受けるためになぜそれほど多くの人が多くのものを喜んで犠牲にするのでしょうか。神殿のもたらす永遠の祝福を理解している人は，これらの祝福を受けるためにいかなる犠牲，いかなる代価，いかなる苦労もいといません。どこまでも旅をして，あらゆる障害を克服し，どれほどつらいことにも彼らは耐えます。いつの日か永遠の家族として天の御父のみもとに戻れるようにし，高い所から祝福と力を授けてくれる神殿の救いの儀式には，あらゆる犠牲と努力を注ぐ価値があることを彼らは知っています。

今日ほとんどの人は神殿に参入するために厳しい苦難を強いられることはありません。現在，教会員の85パーセントは神殿から320キロ以内の地域に住んでおり，その大部分はもっと近くに住んでいます。

もし自身のために神殿に参入したことがあるとしたら，もし神殿に比較的近い所に住んでいるとしたら，あなたがささげる犠牲は，忙しい生活の中で神殿を定期的に訪れる時間を作ることかもしれません。幕のかなたで待っている人々のために神殿でしなければならないことはたくさんあります。彼らのために業を行うとき，わたしたちは彼らが自分でできないことを成し遂げていることを知るでしょう。ジョセフ・F・スミス大管長は力強くこう宣言しました。「死者のために払うわたしたちの努力によって，彼らを縛っている鎖は断ち切られ，取り巻く闇が一掃され，そ

して彼らのうえに光が輝くことでしょう。霊界にいる彼らは，子孫によって自分たちの儀式が執行されたことを聞き，これらの義務を果たした子孫とともに喜びの声を上げることでしょう。」[5] 兄弟姉妹，これを実行するのはわたしたちです。

わたしの家族で最も神聖な経験，最も大切にしている経験の幾つかは，家族が神殿に集まって，亡くなった先祖のために結び固めの儀式をしたときのものです。

まだ神殿に参入したことがなければ，あるいは，参入*したことはあっても*現在推薦状を受ける資格がなければ，神殿に参入するふさわしさを身に付けること以上に大切な目標はありません。推薦状を受けるに必要な事柄に添うよう生活を改めること，あるいは神殿に参入する資格を損なう長年の習慣をやめることがあなたにとっての犠牲かもしれません。什分（じゅうぶん）の一を納める信仰と自制が犠牲かもしれません。何を犠牲にしても，神殿に入るための条件を満たしてください。神殿推薦状を受け，大切にしてください。なぜなら推薦状は大切なものだからです。

主の宮に入って，そこであなたを待っているすべての祝福を受けなければ，教会が差し出すすべてを手に入れてはいないのです。教会員として受ける最も大切で最高の祝福は神の神殿で受けるこれらの祝福です。

さて，10代の若い友人の皆さん，常に神殿を視野に入れておきましょう。神殿のドアを通って，神聖で永遠の祝福を受ける妨げとなることを一切してはなりません。死者のためのバプテスマを受けるために定期的に神殿を訪れている人は，朝早く起きて，学校へ行く前にバプテスマに参加することを勧めます。一日の最初にすることとしてこれ以上にすばらしいことはありません。

青少年の両親の皆さんに，スペンサー・W・キンボール大管長が与えた賢明な助言を分かち合いたいと思います。キンボール大管長はこう語りました。「親が

家中の寝室に神殿の写真を飾って，〔子供が〕赤ん坊のときから毎日神殿の写真を見て，神殿が〔子供の生活の〕一部となったら，それはすばらしいことです。〔神殿に参入することについて〕重大な決断を下す〔必要のある〕年齢に〔達した〕とき，子供はすでに決断を下していることでしょう。」[6]

初等協会で子供たちはこのように歌います。

いつの日か一緒に神殿で
お父様と聖約交わす
一つに結ばれる家族として
従順に歩むと約束します [7]

どうか子供たちに神殿の大切さを教えてください。

世の中はそこで生活するには問題にあふれる難しい場所となりかねません。わたしたちを引きずり落とすような事柄に取り囲まれることがしばしばあります。神の宮を訪れるとき，そこで交わした聖約を思い起こすとき，あらゆる試練に耐え，誘惑を克服する力を得ます。神殿は平安を見いだす聖なる場所です。わたしたちは更新され，抵抗力をつけます。

兄弟姉妹，最後にもう一つの神殿について話したいと思います。世界中で新しい神殿が建設される中，そう遠くない将来に，2,500年以上の昔に築かれた都市に一つの神殿が完成するでしょう。それは現在イタリア・ローマで建築中の神殿です。

すべての神殿は神の宮であって，同じ機能を果たし，同じ祝福と儀式が授けられています。世界で歴史的に最も由緒ある地の一つであり，古代の使徒ペテロとパウロがキリストの福音を宣（の）べ伝え，ともに殉教した都市に建てられるという意味で，イタリア・ローマ神殿はほかに類を見ません。

昨年の10月にわたしたちはローマ北東部の美しくのどかな敷地に集まりました。わたしは鍬（くわ）入れに当たって奉献の祈りをささげる特権を得ていました。わたしはイタリアの国会議員ルーチョ・マラン氏とローマの副市長ジュゼッペ・チャルディ氏に，シャベルを土に入れる最初のグループに入っていただいたらよいと感じました。二人はローマ市内に神殿を建設する許可を与える決議に加わった人たちです。

その日は雲に覆われていましたが暖かく，雨の予報でしたが，落ちてきた雨粒は1つか2つでした。大合唱団が「主のみたまは火のごと燃え」の美しい旋律をイタリア語で歌ったとき，全能の神を賛美し感謝するすばらしい賛美歌を，天も地も一緒になって歌っているかのように感じました。涙を抑えることができませんでした。

やがて，この「永遠の都」の忠実な人々は神の聖なる宮で永遠の儀式を受けることでしょう。

わたしは，現在ローマに神殿が建設されていること，また場所を問わずすべての神殿を与えてくださったことを天の御父に

心から感謝しています。それぞれが世界に輝くかがり火であり，わたしたちの証の表れです。すなわち，永遠の父なる神は生きておられ，わたしたちを祝福することを望み，まことにあらゆる世代の息子娘たちを祝福することを願っておられます。それぞれの神殿はわたしたちがこの地上で生きているように確かに死後の生活が実在するというわたしたちの証の表れです。わたしはそのように証します。

愛する兄弟姉妹の皆さん，神殿に参入し，神殿で感じる御霊を心と家庭に宿すために，必要な犠牲を払おうではありませんか。わたしたちのために究極の犠牲を払われた主なる救い主イエス・キリストに倣い，天の御父の王国で永遠の命と昇栄を得られますように。これはわたしの心からの祈りであり，このことをわたしたちの救い主，主イエス・キリストの御名により祈ります，アーメン。■

注

1. ジョセフ・F・スミス，Conference Report，1902年10月，3
2. ビルソン・フェリペ・サンティアゴ，リンダ・リッチー・アーチバルド，“From Amazon Basin to Temple,” *Church News,* 1993年3月13日付，6
3. C・ジェイ・ラーソン，“Temple Moments: Impossible Desire,” *Church News,* 1996年3月16日付，16
4. ヒーバー・C・キンボールの言葉，オーソン・F・ホイットニー，Life of Heber C. Kimball（1945年），67で引用
5. 『歴代大管長の教え――ジョセフ・F・スミス』，247
6. *The Teachings of Spencer W. Kimball,* エドワード・L・キンボール編（1982年），301
7. ジャニス・カップ・ペリー「神殿に行きたいな」『子供の歌集』99

十二使徒定員会
リチャード・G・スコット長老

結婚がもたらす永遠の祝福

神殿における結び固めは，人生の旅路を歩むにつれて，いっそう重要な意味を帯びてきます。結び固めを受けたことによって互いの結びつきがさらに深まり，……より大きな喜びと充足感を覚えるでしょう。

すばらしい聖歌隊が歌った「イエス様のようになりたい」という美しいメッセージは，わたしたちの多くにとって人生の規範となるものだと思います。

1953年7月16日，愛するジェニーンとわたしは若いカップルとしてユタ州マンタイ神殿の聖壇にひざまずきました。ルイス・R・アンダーソン神殿会長が結び固めの権能を行使し，この世から永遠にわたる結婚を宣言しました。わたしは主の宮で正しい神権の権能により行われた神聖な儀式を受けたので，ふさわしい生活を続けるなら，愛する妻ジェニーンと子供たちと永遠に結ばれることができると確信しています。その確信から得られる平安と安らぎは，言葉では言い表せません。

我が家の7人の子供は神殿の神聖な儀式によりわたしたち両親に結び固められています。かけがえのない妻ジェニーンと2人の子供は幕のかなたにいます。そして現世に残っている家族一人一人に，神殿で約束されたすべての永遠の祝福を家族でともに受けられるように生活しようという力強い動機付けを与えてくれています。

天の御父の幸福の計画を支える非常に重要な二つの柱は，結婚と家族です。サタンは家族を引き裂き，家族を永遠に結ぶ神殿の儀式の意義を揺るがそうと執拗な努力を続けていますが，このことからも結婚と家族がいかに重要であるかが分かります。神殿における結び固めは，人生の旅路を歩むにつれて，いっそう重要な意味を帯びてきます。結び固めを受けたことによって互いの結びつきがさらに深まり，現世の生活に，より大きな喜びと充足感を覚えるでしょう。

以前わたしは妻から大切な教訓を学びました。仕事の関係で出張が多かった時期のことです。あるときほぼ2週間留守をして，土曜日の朝に帰宅しました。4時間後に別の会合へ行くことになっていました。家の小さな洗濯機が故障し，妻が衣服を手で洗っていることに気づいたので，わたしは修理を始めました。

すると妻が来て，言いました。「リチャー

ド，何をしているの。」

わたしは答えました。「洗濯機を修理しているんだ。君が手で洗わなくてもいいようにね。」

妻は言いました。「そんなことはしなくていいわ。だから，子供たちと遊んでちょうだい。」

「子供たちとはいつでも遊べるよ。ぼくは君を助けたいんだ」と答えました。

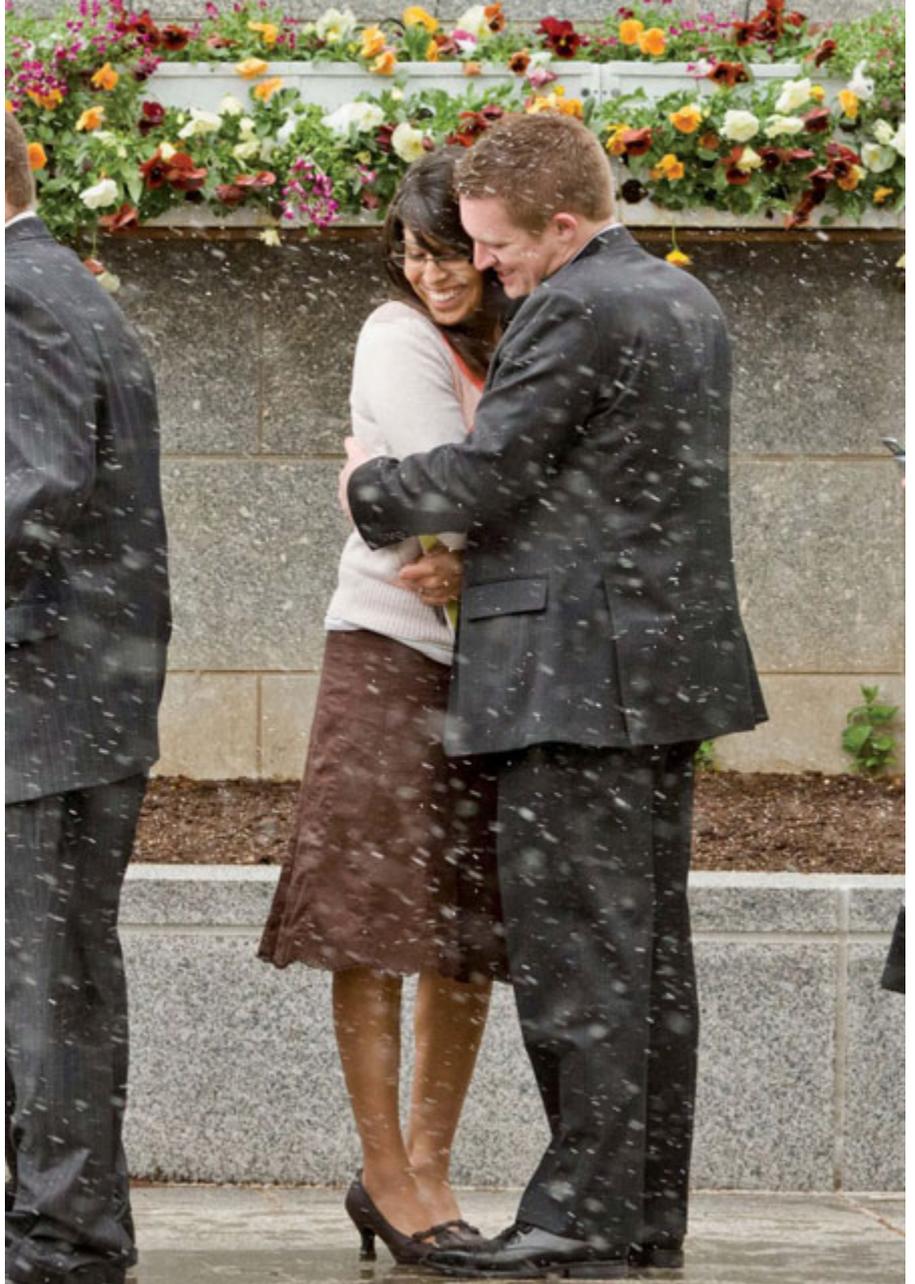
すると妻は言いました。「リチャード，お願いだから子供たちと遊んでやって。」

妻があまりにも強く言うので，わたしは従いました。

そして子供たちとすばらしい時を過ごしました。追いかけっこをして，落ち葉の上で転げ回りました。それからわたしは会合へ行きました。妻がわたしにこの経験から教訓を学んでほしいと思わなかったら，恐らくわたしはその経験を忘れてしまったことでしょう。

翌日の朝4時ころ，わたしは起こされました。二つの小さな腕で首に抱きつかれ，頬（ほお）にキスされ，耳にささやく声が聞こえたのです。その言葉を決して忘れることはないでしょう。「パパ，大好きだよ。パパはぼくのいちばんの友達だよ。」

もし皆さんが家庭でそのような経験をしているなら，この世の最も大きな喜びの一つを味わっていることになります。

もしあなたが適齢期の若い男性で結婚していないとしたら，つまらない事柄を追い求めて時間を無駄にしてはなりません。前向きな姿勢で人生を歩み，結婚することに焦点を当ててください。この時期をただ流されるままに過ごさないでください。若い男性の皆さん，ふさわしくあって伝道の業を果たしてください。そして，ふさわしい永遠の伴侶（はんりょ）を見つけることを最優先しましょう。一人の女性に関心を抱き始めたなら，自分がまれな人物で，よく知るとおもしろいと思ってもらえるような人であることを，相手に示してください。心を高めるような場所へ彼女を連れて行ってください。創意工夫をしましょう。すばらしい妻を持ちたければ，自分自身がすばらしい男性として，あるいは未来の夫候補として女性に見てもらわなければなりません。

大切な人を見つけたら，主が定められたふさわしさの範囲にとどまることにより，すばらしい求婚期間と結婚生活を送り，この上ない幸福を永遠に味わうことができます。

既婚者の皆さん，伴侶に対して肉体的にも精神的にも誠実でしょうか。伴侶に聞かれたくないような会話をほかの人と決してせず，結婚の聖約を誠実に守っているでしょうか。伴侶や子供たちに対して親切で協力的でしょうか。

兄弟の皆さん，聖文の研究，家族の祈り，家庭の夕べなどの家族の活動を率先して行っているでしょうか。それとも家庭に対する配慮不足の穴埋めを奥さんにさせているでしょうか。奥さんにどれほど心から愛しているかを伝えていますか。それを伝えるなら，奥さんに大きな幸福感をもたらすことができるでしょう。わたしがそう言うと，男性たちは「妻は分かっていますから」とよく言います。でも伝える必要があるのです。彼女たちは皆さんの愛を再び確信することで，成長し，大いに祝福されるのです。奥さんが皆さんのためにしてくれることに対して，感謝を伝えてください。頻繁に愛と感謝を伝えてください。そうすれば，人生はさらに豊かで心地よく，目的あるものとなるでしょう。自然に愛を伝えることを差し控えたりしないでください。しっかりと抱き締めながら

愛を伝えれば，いっそう豊かな実を結ぶでしょう。

愛を表現することの大切さをわたしは妻から学びました。結婚して間もなく，集会で話すために聖典を開けると，優しさと愛情に満ちたメモが挟んであることがよくありました。メモに書かれた言葉があまりにも思いやりにあふれていたために，話を続けられないことさえありました。愛情深い妻からもらったこうした貴重なメモは，今もなおわたしに慰めと霊感を与えてくれるかけがえのない宝となっています。

わたしも同じことを妻にするようになりましたが，それが妻にとって実際どれだけ意味を持っていたかには気づきませんでした。ある年，妻にバレンタインの贈り物をするお金がなかったため，冷蔵庫に水彩絵の具で絵を描くことにしました。最善を尽くしたのですが，一つだけ間違いを犯してしまいました。水彩絵の具ではなく，消しにくいエナメル塗料を使ってしまったのです。でも妻は，その冷蔵庫の絵を決して消させてくれませんでした。

今も覚えていますが，ある日わたしはパンチで穴を開けたときにできる小さな丸い形の紙を取り出し，1から100までの番号を振りました。そしてその裏に妻へのメッセージを1枚に1単語ずつ書き，全部をすくって封筒に入れたことがありました。妻は喜んで笑ってくれるだろうと思ったのです。

妻が亡くなったとき，妻の身の回りの品々を見て，わたしたちが交換し合ったたわいないメッセージを妻がいかに大事にしていたかが分かりました。妻はあの小さな丸い紙を一つ残らず丁寧に1枚の紙にはり付けていました。わたしからのメモを保管していただけでなく，貴重な宝物のようにビニールのカバーを付けて保護していました。ほかのメモと一緒にしていなかったものが一つだけありました。それは今なお台所の時計のガラスの裏にはってあります。「ジェニーン，今こそ，君を愛していると伝えるべき時だね」と書いてあります。そこに残されたメモを見る度に，天の御父の特別な娘であった妻を思い起こします。

妻とともに過ごした人生を振り返ってみると，自分たちがいかに祝福されてきたか分かります。我が家では口論したことは一度もなく，夫婦の間で思いやりのない言葉を言ったことは決してありません。今になってみると，そのような祝福は妻のおかげだということが分かります。進んで相手に与え，分かち合い，自分のことを決して考えないという妻の信条によるものだったのです。わたしは妻とともに過ごした最後の何年間か，妻の模範に倣（なら）おうと努めました。夫や妻として皆さんの家庭でも同じようにしてはどうでしょうか。

純粋な愛はかけがえのないものであり，善を求める強い力です。義にかなった愛は豊かな結婚生活の基です。それがあってこそ，子供たちは満たされ，十分に成長します。母親の愛という義にかなった影響力を正確に計れる人がいるでしょうか。疑いを知らない思いと心という肥沃（ひよく）な土壌に，母親が念入りに植え付け，愛情を込めて育てる真理の種は，どのような朽ちない実を結ぶでしょうか。母親として皆さんは子供の特別な才能や能力を感じ取る生来の力を神から授かっています。子供の特質が開花するよう，夫とともに養い，強め，励ますことができます。

結婚はきわめて報いの大きいものです。結婚はすばらしいです。時がたつにつれ，夫婦は考え方が似てきて，同じ発想や印象を持つようになります。最高にうれしい時も，試練や困難の時も訪れますが，主は，二人が経験を通して成長する間，ずっと導いてくださいます。

ある晩，心臓の病気を持った幼い息子リチャードが目を覚まし，泣きだしました。妻もわたしもその泣き声を聞きました。普段は妻が必ず起きて，泣いている赤ん坊の世話をするのですが，このときは，わたしが「世話をするよ」と言いました。

息子は病気があるために，泣きだすと，小さな心臓の鼓動が非常に速くなります。食べたものを吐き，シーツを汚してしまいます。その晩わたしは，速い鼓動を和らげ，泣きやむように息子をしっかり抱き締め，衣服とシーツを交換しました。そして，眠りに就くまで抱いていました。息子がわずか数か月後に亡くなることは，そのときは分かりませんでした。夜中に息子を腕にずっと抱いていたことを，わたしはいつまでも忘れないでしょう。

息子が亡くなった日のことをよく覚えています。病院からの帰途，ジェニーンとわたしは路肩に車を止めました。わたしは妻を抱き締め，少しの間二人で泣きました。でも，幕の向こうで息子にまた会えると感じました。わたしたちが神殿で聖約を交わしているからです。そのおかげで息子の死が幾分受け入れやすくなりました。

妻の優しさは多くの価値ある事柄を教えてくれました。わたしはとても未熟でしたが，妻は非常にしっかり者で，とても霊的でした。結婚生活を通して，わがままになったり身勝手になったりする傾向を克服するための理想的な環境に身を置く

ことができます。若いうちに結婚するように勧められる理由の一つは，変えるのが難しい不適切な人格ができてしまわないようにするためであると思います。

永遠の伴侶を探し求めるという選択をまだしていない男性の皆さんを残念に思います。また，結婚の機会にあずかっていない姉妹の皆さんを思うと心が痛みます。そのような姉妹の中には，孤独で，自分の価値を認められていないように感じ，結婚や子供，自分の家族という祝福を得るにはどうしたらよいか分からないという人もいるでしょう。主にはおできにならないことなどありません。霊感によって預言者に宣言させた約束を守ってくださいます。永遠は長い時間です。神の約束を信じ，それにふさわしく生活してください。そうすれば，御心にかなうとき，約束は主の力によって皆さんの人生で成就するのです。確かに，皆さんにふさわしい，約束された祝福をすべて受けることができます。

かけがえのない妻ジェニーンのことばかり話したことをご容赦ください。わたしたちは永遠の家族です。妻はいつも喜びにあふれていました。それはたいていほかの人への奉仕の結果でした。病状が重かったときでさえも，妻は朝の祈りの中で，だれか自分が助けられる人のところへ導いてくださいと天の御父に願い求めていました。そのような心からの祈りは幾度となくこたえられました。多くの人の重荷が軽くなり，生活が明るくなりました。妻は主に導かれ，神の御手に使われる者となることによって絶えず祝福されたのです。

義にかなった女性として輝きをいっぱいに放ち，優しく献身的に生きた天の御父の娘を愛するのがどんなことかをわたしは知っています。将来，幕のかなたで再び妻に会うとき，二人の愛がいっそう深まっていることにきっと気づくでしょう。幕で隔てられたこの時期を過ごすからこそ，互いに対する感謝の念がいっそう深まることでしょう。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

十二使徒定員会
D・トッド・クリストファーソン長老

「すべてわたしの愛している者を，わたしはしかったり，懲らしめたりする」

懲らしめに堪える経験は悔い改めを促すだけでなく，わたしたちを精錬するものとなり，霊的にいっそう大きな特権にあずかる備えとなります。

天の御父はわたしたちに大きな期待を寄せておられます。その期待について御子イエス・キリストは次のように述べておられます。「わたしや天におられるあなたがたの父が完全であるように，あなたがたも完全になることを，わたしは望んでいる。」（3ニーファイ12：48） 天の御父はわたしたちが「日の栄えの栄光に堪え」（教義と聖約88：22），「神の前に住む」ことができるように，聖めてくださるとおっしゃっているのです（モーセ6：57参照）。そのためには何が必要かを御父は御存じです。戒めと聖約，聖霊の賜物，そして最も大切な御子の贖罪と復活をお与えになり，わたしたちが変化を遂げられるようにしてくださいました。

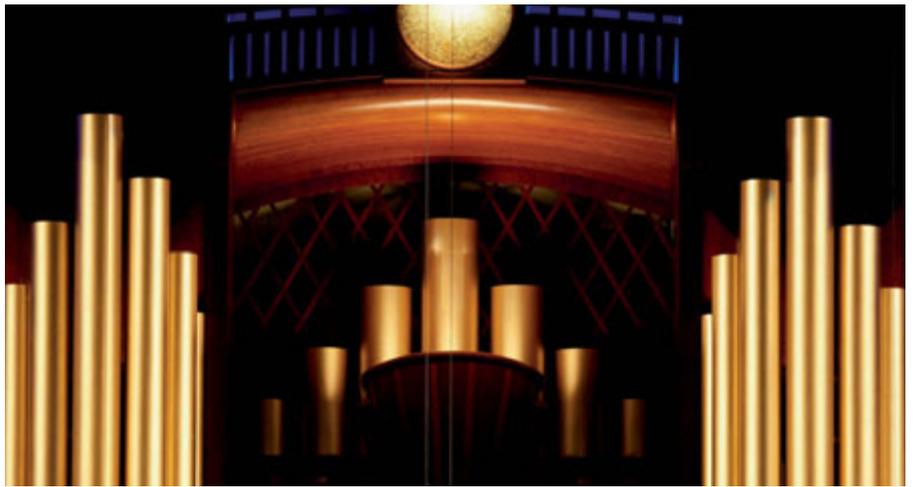
これらすべてにおいて御父が目的としておられるのは，御父の子供であるわたしたちが御父と永遠に暮らすという究極の喜びを得て，御父のようになることです。何年か前にダリン・H・オークス長老は次のように説明しています。「最後の裁きとは，善悪の行為つまりわたしたちが何を*行った*かを集計して評価するだけにとどまるのでなく，行いと思いがもたらす最終的な結果つまりわたしたちがどのような人物に*なった*かを確認することであると結論づけられます。表面的な行動だけでは不十分です。福音の戒め，儀式，聖約は，天の口座に預金しておかなくてはならない行為のリストではないのです。イエス・キリストの福音は，御父がわたしたちに望んでおられる状態に到達する方法を示す設計図です。」[1]

残念なことに現代の多くのクリスチャンは，神は御自分の信者に対して何一つ具体的な要求をしておられないと考えています。そして，神のことを「求めに応じて必要を満たしてくれる僕」，あるいは「自

分に満足感」を得られるように助けてくれるセラピスト程度にしか考えていないのです。[2] これは宗教というものは「生活の変化を求めるようなことをしない」とする考え方です。[3] ある作家はこのように述べています。「これに対して，ヘブライ人とクリスチャンの聖典で描かれている神は，聖約することを要求するだけでなく，わたしたちの命そのものを求めています。聖書の神は優れた特質ではなく，命と死に関する事柄を扱い，当たり障りのない主義主張ではなく，犠牲をもいとわない愛を要求しています。」[4]

天の御父の大きな期待にこたえるために必要な心構えと行動についてお話ししたいと思います。それは喜んで改善の勧め，すなわち，いさめを受けることであり，さらには自らいさめを求めることです。完全な御方すなわち「キリストから賜わる賜物のはかりに従って」生活を整えようとするときに（エペソ4：7），いさめは重要な意味を持ちます。パウロは神から正され，懲らしめを受けることについて「主は愛する者を訓練〔される〕」と述べています（ヘブル12：6）。堪え抜くことが難しい場合もしばしばありますが，自らを改善するために割く時間と努力自体に神が価値を認めておられることを，わたしたちは喜ぶべきです。

神がお与えになる懲らしめには（1）悔い改めを促す，（2）精錬し，聖める，（3）神が御存じのより良い道へ生活を方向転換させる，という少なくとも3つの目的があります。

最初に，赦（ゆる）しと清めの必要条件である悔い改めについて考えてみましょう。主は「すべてわたしの愛している者を，わたしはしかったり，懲らしめたりする。だから，熱心になって悔い改めなさい」とおっしゃいました（黙示3：19）。「そして，わたしの民は，たとえ苦しみを受けることによらなければならないとしても，従順を学ぶまで，必ず懲らしめを受けなければならない」とも言っておられます（教義と聖約105：6。教義と聖約1：27も参照）。末日の啓示の中で，主は「戒めに従って」子供たちを教えていないこと，「家庭でもっと勤勉に家庭のことに携わ」っていないこと（教義と聖約93：41－50）について高い位にある4人の教会指導者に悔い改めるよう命じておられます（主はわたしたちの多くに対しても同様に命じられるかもしれません）。主は雲の中に立って，モルモン書のヤレドの兄弟と「三時間……話し，彼が主の名を呼ぶことを思い起こさなかったので，彼を懲らしめられ」ました。これによってヤレドの兄弟は悔い改めました（エテル2：14）。ヤレドの兄弟はこの厳しい叱責（しっせき）に積極的にこたえたので，後に，肉体を受ける前の贖（あがな）い主を見て，教えを受ける特権にあずかりました（エテル3：6－20参照）。神の懲らしめがもたらす実は悔い改めであって，それは人を義に導きます（ヘブル12：11参照）。

懲らしめに堪える経験は悔い改めを促すだけでなく，わたしたちを精錬するものとなり，霊的にいっそう大きな特権にあずかる備えとなります。主はこのように言われました。「わたしの民は，すべてのことにおいて試みを受けなければならない。それは彼らが，わたしが彼らのために持っている栄光，すなわちシオンの栄光を受けるように備えられるためである。そして，懲らしめに耐えない者は，わたしの王国にふさわしくないのである。」（教義と聖約136：31）　主はまた別の折にこうおっしゃいました。「懲らしめに耐えないで，わたしを否定する者は皆，聖められることはあり得ない……。」（教義と聖約101：1－5。ヘブル12：10も参照）　今朝，ポール・V・ジョンソン長老が語ったように，わたしたちは，神の特質を身に付ける助けとなる事柄に憤ったりすることのないように気を付けるべきです。

アルマに従った人々はヘラムにシオンの町を築きましたが，後に囚われの身となりました。彼らは苦難を受けて当然の民ではなく，むしろ祝福されるべき民でした。しかし，このように記されています。

「にもかかわらず，主は御自分の民を懲らしめるのを，御心（みこころ）にかなうことと見ておられる。

まことに，主は民の忍耐と信仰を試される。しかしながら，主に頼る者はだれであろうと，終わりの日に高く上げられる。そして，この民はそのように試されたのであった。」（モーサヤ23：21－22）

主は彼らを強め，彼らが肩に負わされる荷を感じることができないほど軽くし，そして最終的に解放してくださいました（モーサヤ24：8－22参照）。その経験によって彼らの信仰は計り知れないほど強められ，それから後，主との間に特別なきずなが築かれたのです。

現在のわたしたちが考えていない，あるいは思い描くことのできない未来に向けて導くために，神はわたしたちを懲らしめ，いさめるためにもう一つの方法を用いられます。神はそれがわたしたちにとってより良い方法であることを御存じです。かつて十二使徒定員会の一員で大管長会の顧問を務めたヒュー・B・ブラウン管長は自身の体験を紹介しています。彼は，カナダで荒れ放題となっていた農場を何年も前に購入しました。農場を整備し，修繕していたときに，6フィート（約1.8メートル）ほどまで生長しながら，実をつけていないスグリの木を見つけました。そこ

で，幹だけを残して大胆に枝を切り落としました。枝の切り口一つ一つには涙がたまっているように見えました。スグリの木が泣いていて，その声が聞こえたような気がしました。

「あなたはどうしてこのようなことをなさるのですか。わたしは十分生長してきたではありませんか。……あなたはわたしを切ってしまいました。庭の木はみんなわたしを見下すでしょう。……どうしてあなたはこのようなことをわたしになさるのですか。わたしはあなたがここの庭師だと思っていたのに。」

ブラウン管長は答えました。「かわいいスグリの木よ，わたしはここの庭師だ。わたしはおまえにどのような木になってほしいか知っている。それはおまえを果実や木陰を作る木にするためではない。わたしはおまえにスグリの木になってほしいのだ。かわいいスグリの木よ，いつかおまえがたくさん実をつけるとき，わたしに感謝して言うだろう。『わたしの庭師よ，ほんとうにありがとうございます。あなたはわたしを愛したからこそ，枝を刈り込んでくださったのですね。……』」

それから何年か後に，ブラウン管長はカナダ陸軍の将校としてイングランドで任務に就いていました。上官の将校の戦死により，ブラウン管長は大将に昇進する機会を得ることになり，ロンドンに出頭するよう命じられました。しかし，大将になる資格が十分にあったにもかかわらず，モルモンであるために昇進を認められませんでした。司令官は次のような意味のことを言いました。「君は大将になる資格が十分にある。しかし任命することはできない。」 10年間ブラウン管長が希望し，祈り求め，準備してきたものが，あからさまな偏見によって突然砕かれてしまったのです。ブラウン管長は話を続けています。

「汽車に乗り，……町へと引き返しました。わたしの心はひどく傷つき，苦々しさばかりが残っていました。……テントに着いたわたしは，……帽子を簡易ベッドの上に投げ捨てました。こぶしを天に向かって振り上げ，叫びました。『神よ，あなたはどうしてこのようなことをなさるのですか。あれほど努力してきたではありませんか。できるはずだったこと，すべきはずだったことを怠ったことなど一度もありません。それなのに，どうしてこのようなことをなさるのですか。』 苦々しさで胸が張り裂けそうでした。

そのときわたしは声を聞きました。その声がだれの声かすぐに分かりました。それはわたし自身の声でした。その声はこうささやきました。『わたしはここの庭師だ。わたしはおまえにどのような木になってほしいか知っている。』 心の中からあの苦々しさが消えていきました。わたしはベッドのわきにひざまずき，心に抱いた不満と不敬の念について赦しを請い求めました。

……あれから約50年の歳月が過ぎました。今，わたしは〔神を〕仰いでこのように言うことができます。『わたしの庭師であられる神よ，ほんとうにありがとうございます。あなたはわたしを愛したからこそ，わたしが傷ついても，枝を……刈り込んでくださったのですね。』」[5]

神はヒュー・B・ブラウンがどのような人物になり，そのために何が必要なのかを御存じでした。そして，その聖なる使徒職に備えさせるために彼の進路をお変えになったのです。

天の御父の大きな期待にこたえることを心から望み，努力するなら，御父はそれが慰めや励ましであれ，懲らしめであれ，必要な助けをすべて与えてくださいます。その助けを進んで受け入れるときに，必

要ないさめが様々な形で，また様々な場所から与えられます。それは祈りをささげているときに神が聖霊を通して思いと心に語りかけてくださる方法であるかもしれません（教義と聖約8：2参照）。祈りに対して，「いいえ」など，自分の期待と異なる答えを受けるという形を取るかもしれません。聖文を勉強することによって，自分の欠けている点，不従順あるいは怠っている事柄に気づくことが懲らしめとなる場合もあります。

いさめは，ほかの人々，特に神の霊感によってわたしたちが幸福になるよう助けてくれる人々を通してもたらされることがあります。今日の教会に使徒，預言者，祝福師，ビショップ，その他の人々が置かれているのは，古代と同様に「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ，キリストのからだを建てさせ〔る〕」ためです（エペソ4：12）。この大会で話されたことの中から，悔い改め，自分を変えなければならないと感じることがあるかもしれません。もし皆さんがその教えに聞き従うなら，それはいっそう皆さんを高い所に引き上げてくれるでしょう。わたしたちは教会員として互いに助け合うことができます。これは救い主が教会を建てられた大切な理由の一つなのです。わたしたちに対して配慮や思いやりのない人々からの狭量な批評を受けたときでも，よく検討して，そこから有益なことを学び取れるよう，柔和な心でその状況を生かしていくことができます。

願わくは穏やかに行ってほしいのですが，伴侶からいさめられることもあります。先ほど話したリチャード・G・スコット長老は結婚して間もないころ，ジャニーン夫人から，人々の顔をまっすぐに見て話すように助言されたときのことを忘れていません。彼女は「あなたは床や天井，窓などあらゆる所を見ているけれど，人々の目を見ていないわね」と言いました。スコット長老は奥さんの優しいいさめを受け入れたことによって，人々への助言や働きかけをいっそう効果的なものとすることができました。スコット長老の指導の下で専任宣教師として働いた者の一人として，わたしはスコット長老が相手の目をまっすぐに見て話すことを証言します。さらに付け加えると，だれかに改善を勧める必要がある場合，この方法によって細かな点までよく見通すことができます。

情け容赦なく攻撃するサタンとその支持者の手から子供たちを守るために，両親は子供たちを正し，懲らしめを与えなければなりません。ボイド・K・パッカー会長はいさめるべき立場にありながらそれを怠る人は自分のことしか考えていないと述べています。「聖霊に感じたときは」，その瞬間を逃さず厳しくはっきりと責め，「そしてその後，あなたの責めた人があなたを敵視しないために，その人にいっそうの愛を示〔す〕」ことを忘れてはなりません（教義と聖約121：43）。

正されたときにそれを拒絶すると，人々はたとえわたしたちを愛しているとしても二度と言わなくなることに注意しなければなりません。愛に満ちた神の懲らしめを繰り返し拒絶していると，神も懲らしめを与えてくださらなくなります。主は「わたしの御霊はいつでも人を励ますわけではない」と言っておられます（エテル2：15）。結局のところ，多くの懲らしめは自分自身で行うものです。自己矯正するのです。愛する同僚だった故ジョセフ・B・ワースリン長老は純粋で謙遜な弟子でした。彼がそのようになったのは，自分に与えられたあらゆる割り当てと任務の結果を自己分析していたからでした。神に喜ばれる人物になることを望んでいたワースリン長老は，どうしたらもっとよくできただろうかと考え，それから，学んだ教訓を一つ一つ実践したのです。

優れた能力や才能を持っているかどうかにかかわらず，わたしたちは皆，神の大きな期待にこたえることができます。モロナイは「もしあなたがたが神の御心に添わないものをすべて拒み，勢力と思いと力を尽くして神を愛するならば，神の恵みはあなたがたに十分であり，あなたがたは神の恵みにより，キリストによって完全になることができる」と明言しています（モロナイ10：32）。わたしたちが絶えずひたむきに努力することで，この力強い恵みがもたらされるのです。この努力には神の懲らしめを甘んじて受け，心から無条件に悔い改めることが必ず含まれます。神による愛に基づいたいさめを祈り求めましょう。

神の助けがあって，皆さんが神の大きな期待にこたえるために努力し，それによってもたらされる幸福と平安を余すところなく受けることができますように。皆さんとわたしは神とキリストにあって一つになることができます。天の御父とその愛される御子について，またわたしたちが御二方ゆえに受けているすばらしい可能性について，わたしはへりくだり，確信をもって，イエス・キリストの御名により証します，アーメン。■

注

1. ダリン・H・オークス「主の望まれる者となるというチャレンジ」『リアホナ』2001年1月号，40参照
2. ケンダ・クリージー・ディーン：*Almost Christian: What the Faith of Our Teenagers Is Telling the American Church*（2010年），17
3. ディーン，*Almost Christian*，30。クリスチャン・スミスおよびメリンダ・ランドクイスト・デントン，*Soul Searching: The Religious and Spiritual Lives of American Teenagers*（2005年），118－171
4. ディーン，*Almost Christian*，37
5. ヒュー・B・ブラウン「スグリの木」『リアホナ』2002年3月号，22，24参照

七十人
カール・B・プラット長老

主の最も豊かな祝福

忠実に什分の一を納めるなら，主は天の窓を開き，最も豊かな祝福を注いでくださることを証します。

家庭の夕べが教会で正式に導入されるずっと以前から，子供たちに福音を教えていた義にかなった先祖たちに感謝しています。わたしの母方の祖父母，アイダ・ジェスパーソンとジョン・A・フェッテンは，メキシコ，チワワ州のコロニアフアレスという小さな集落に住んでいました。フェッテン家の子供たちは言葉によって，また両親の模範を見て教えを受けました。

1920年代初めは，メキシコにとって大変な時代でした。暴力的な革命が終わったばかりで，流通している現金は非常に少なく，そのほとんどは銀貨でした。人々はよく物々交換をしたり，労働を元手にして品物を得たりして商売をしていました。

夏も終わりに近づいたある日，祖父ジョンは物々交換をし，その取引の代価の一部として銀貨100ペソを受け取り，帰宅しました。そのお金を祖母アイダに渡し，もうすぐ始まる子供たちの学校の費用に充てるようにと伝えました。

アイダはお金を感謝して受け取りながらも，その夏は什分の一をまったく納めていなかったことをジョンに伝えました。現金収入はなかったものの，家畜からは肉や牛乳や卵が得られ，そして庭からはたくさんの果物や野菜が収穫でき，現金を使わずに商品と交換できました。アイダは，これまでの什分の一としてお金をビショップに渡すべきだと提案しました。

ジョンは，現金があれば子供たちの学校の費用にどんなにか役立っただろうと考えると，多少がっかりしましたが，すぐに，什分の一を納める必要があるという意見に賛成しました。そして重い袋を什分の一の事務所に運び，ビショップに渡しました。

それからしばらくしてジョンは，合衆国の裕福なビジネスマンであるホード氏が，山で数日間狩猟や魚釣りをするために，次の週に何人かの男たちを連れてやって来るという知らせを受けました。

祖父ジョンは，コロニアフアレスからそう遠くない鉄道の駅で男たちの一行に会いました。彼は鞍を付けた馬を数頭と，荷物や山でキャンプするための装備を運べる家畜を持っていました。翌週は，その一行のガイドとして働き，人々と動物の世話をしました。

週の終わりに，一行は汽車に乗ってアメリカに帰るために，駅に戻りました。ジョンはその日，仕事の支払いを受けたほか，かかった経費の支払いに充てるペソ銀貨を一袋もらいました。すべての支払いを済ませた後で，ジョンは残ったお金をホード氏に返しました。残金が出るとは思っていなかったホード氏は驚いて，かかった費用の支払いがすべて済んだかどうか確認するよう尋ねてきました。ジョンは旅行にかかった費用はすべて払い終わり，それは残金だと答えました。

汽笛が鳴り，ホード氏は方向を変えて汽車に向かいましたが，もう1度振り向き，硬貨が入った重い袋をジョンに投げて言いました。「ジョン，君の息子たちに持って帰りたまえ。」 ジョンは袋を受け取り，コロニアフアレスに戻りました。

その晩，夕食の後で旅の話を聞くために家族が集まったとき，ジョンは袋のことを思い出し，持って来てテーブルに置きました。ジョンは中に幾ら入っているか分からないと言いながら，テーブルの上に袋に入っている硬貨全部を興味本位に出してみました。かなり大きな山ができるほどで，数えてみると，きっかり銀貨100枚ありました。もちろん，ホード氏がその旅をしようと決めたこと自体が大きな祝福に思えました。ジョンと息子たちは，かなりの金額を稼ぐことができました。しかし，余った100ペソは，その1週間前に納めた什分の一とちょうど同じ額だったのです。ある人には興味深い偶然の一致と思えるかもしれませんが，フェッテン家族にとっては，主は忠実に什分の一を納める者に対する約束を忘れないことを主が示してくださった確かな教訓となりました。

子供のとき，わたしはこの物語が大好きでした。馬に乗って山へキャンプに行き，猟と釣りをする話だったからです。でも，もう一つの理由は，戒めに従うとき，祝福を受けることを教えてくれるからです。すべての人にとって，この物語から什分の一について学べることがあると思います。

まず，この場合，什分の一を納めることと現金収入が幾らあるかとは関係ないということに気づきます。フェッテン家の人々は，最初に手に入れた現金収入を什分の一として納めることにしました。なぜなら，家畜や実り豊かな果樹園や野菜畑のおかげで満ち足りた暮らしができたからです。彼らは明らかに，受けた祝福に対して主に負債があると感じたのです。

このことから，主の次の問いかけの意味を考えさせられます。「人は神の物を盗むことをするだろうか。しかしあなた

がたは，わたしの物を盗んでいる。」人々は尋ねます。「どうしてわれわれは，あなたの物を盗んでいるのか。」 すると主は力強くお答えになります。「十分の一と，ささげ物をもってである。」（マラキ3：8）そうです，兄弟姉妹の皆さん，ジョン・フェッテンとアイダ・フェッテン夫妻が何十年も前の夏に気づいたように，わたしたちは皆，主に負債を負っているのです。神から盗んだと非難されないようにしましょう。正直に，主に負債を返しましょう。主が望んでおられるのはたった10パーセントなのですから。主に負債を返済することに誠実であることにより，同胞（はらから）に対しても正直であることができます。

この物語でもう一つ気づくのは，祖父母は家庭の経済状況が思わしくなくても什分の一を納めたということです。彼らは主の戒めを知っており，聖文を自分たちに当てはめ（ニーファイ19：23－24参照），律法に従いました。これこそ主がすべての主の民に望んでおられることです。主はわたしたちに什分の一を納めることを期待されています。それは，富めるときや，すべての支払いが終わって余分があるときだけではありません。主が古代に命じられたように，わずかであっても十分であっても，収入を得たら最初に什分の一を納めるのです。主は命じられました。「あなたの〔ういご〕をささげるに，ためらってはならない。」（出エジプト22：29）わたしは個人的な経験から，忠実に什分の一を納めるための確かな道は，収入を得たらすぐに納めることだと知っています。実際，これが唯一の道であることが分かりました。

わたしのフェッテン祖父母から，什分の一はお金に関する事柄ではなく，主への信仰に関する事柄であると学ぶことができます。わたしたちが主の戒めに従うなら，主は祝福を約束してくださっています。ジョン・フェッテンとアイダ・フェッテン夫妻は明らかに，什分の一を納めることに偉大な信仰を表しました。わたしたちも什分の一を納めることによって主に信仰を表しましょう。最初に，正直に納めましょう。子供たちにも，こずかいやその他の収入から什分の一を納めるように教え，什分の一の面接にも同席させ，わたしたちの模範と主への愛を伝えましょう。

祖父母のこの物語から誤解が生まれる可能性があります。金銭で什分の一を納めるなら，主はいつも金銭の形でわたしたちに祝福を与えてくださると考える人もいるかもしれません。わたしも子供のとき，そのように考える傾向がありました。しかし，必ずしもそのような形でこたえられるとは限らないことが徐々に分かってきました。主は，什分の一を納める者に祝福を与えると約束されています。「天の窓を開いて，あふるる恵みを，あなたがたに注ぐ」と約束されています（マラキ3：10）。主は約束を果たされることをわたしは証（あかし）します。忠実に什分の一を納めるなら，生活に必要な物が不足することはありません。しかし主は富を与えるとはおっしゃいませんでした。主の最も豊かな祝福は，金銭や銀行の残高ではありません。主はわたしたちが限られた物質的祝福を

管理できるように知恵を祝福してくださいます。100パーセントの収入より90パーセントの収入でより良い生活ができるように知恵を与えてくださるのです。忠実に什分の一を払う人々は，将来に備えた生活を理解し，より自立しています。

わたしは，主の最も豊かな祝福とは霊的なものであり，多くの場合，家族や友人，福音に関連した祝福であることが分かってきました。特に結婚生活や，子供を育てることなど家族にかかわる事柄について，わたしたちが聖霊の影響や導きに対して特別に敏感になれるよう祝福してくださることがよくあるようです。このように霊的に敏感であることによって，家庭で調和と平安という祝福を享受できるようになります。ジェームズ・E・ファウスト管長は，什分の一を納めることこそ，離婚を防ぐすばらしい防御手段であると語りました（ジェームズ・E・ファウスト「結婚生活を豊かにする」『リアホナ』2007年4月号，2－6参照）。

什分の一を納めることにより，従順で謙遜な心と，感謝する心がはぐくまれ，「すべてのことの中に神の手を認め〔る〕」ことができるようになります（教義と聖約59：21参照）。什分の一を納めることによって，寛容さと赦しの精神，そしてキリストの純粋な愛に満ちた慈愛の心が養われます。主の御心に添った従順な心で，喜んで奉仕し，人々を祝福したいと思うようになります。定期的に什分の一を納める人々は，主イエス・キリストに対する信仰が強められ，主の福音と教会に対する堅固で揺るぎない証を養うことができます。これらの祝福はいずれも金銭的，あるいは物質的なものではありません。しかし，確かに，最も豊かな主の祝福なのです。

忠実に什分の一を納めるなら，主は天の窓を開き，最も豊かな祝福を注いでくださることを証します。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

七十人
リン・G・ロビンズ長老

あなたがたはどのような人物であるべきか

キリストのような特質を伸ばす努力が実を結んで顔に神の面影を受け，神の特質が表れるような行いができるようになりますように。

「このままでいいのか，いけないのか」（“To be or not to be?”）[1]とは，まことに良い質問です。しかし救い主はこの問いをはるかに深く掘り下げて，わたしたち一人一人に不可欠な，教義にかかわる問いかけをなさいました。「あなたがたはどのような人物で***あるべきか***。まことに，あなたがたに言う。***わたし***のようでなければならない。」（3ニーファイ27：27，強調付加）　***be***動詞の一人称現在形は「I am」です。救い主はわたしたちに救い主の名前と特質を受けるよう望んでおられるのです。

救い主のように***なる***には，わたしたちも救い主が***なさった***ことを行わなければ***なりません***。「まことに，まことに，あなたがたに言う。以上がわたしの福音である。あなたがたは，わたしの教会で***行わなければならない***ことを知っている。わたしが***する***のを見たその行いを，あなたがたも***しなさい***。」（3ニーファイ27：21，強調付加）

性質と***行い***は切り離すことができません。互いに補い合う教義として，それらは強め合い，高め合っています。例えば信仰があれば祈りますし，祈れば信仰が強くなります。

救い主はしばしば，***善意***なく善を***行う***人を偽善者と非難なさいました。「この民は，口さきではわたしを敬うが，その心はわたしから遠く離れている。」（マルコ7：6）***善意***なく善を***行う***のは偽善であり，本性を隠す人はうそつきです。

逆に，***善良な***人であっても善を***行わなければ***むなしいものです。「信仰も，それと同様に，行いを伴わなければ，それだけでは***死んだもの***」なのです（ヤコブの手紙2：17，強調付加）。***善行***を伴わないような***善良さ***というものはありません。善良だと自負していても，善いことをしようと思うだけで行わない人は自分を欺いています。

善意なく善を***行う***という偽善は，人にうそをつくことです。一方，***善意***がありながら善を***行わない***場合は自分にうそをつくことになります。

救い主は律法学者やパリサイ人を偽善者だと厳しく非難されました。「偽善な律法学者，パリサイ人たちよ。あなたがたは，わざわいである。はっか，いのんど，クミンなどの十分の一を宮に***納めておりながら***，律法の中でもっと重要な，公平とあわれみと忠実とを見のがしている。」（マタイ23：23）　言い換えれば，彼らは***なるべき***人物に***なって***いませんでした。

救い主は***善を行うこと***の大切さを認めながらも，***良い性質を持つこと***を「もっと重要な」こととしています。***良い性質を持つこと***の大切さを示す例を挙げてみましょう。

- バプテスマの水に入るのは大切な***行い***です。しかしその前に，イエス・キリストを信じる信仰を持ち，心の大きな変化を経験した***状態***がなければなりません。
- 聖餐（せいさん）を取るのは大切な***行い***です。しかし，聖餐を取るに***ふさわしくなること***の方がもっと重要で，はるかに大切です。
- 神権に聖任されるのは，大切な行為であり，***行い***です。しかし，もっと重要なのは，「義の原則に」基づく神権の力（教義と聖約121：36）や神権者の***状態***です。

なすべきことのリストを作って達成したいことを忘れないようにする人は多いのですが，***身に付けるべき性質***のリストを持っている人はめったにいません。どうしてでしょうか。***なすべきこと***はその活動や行事が***終われば***チェックを入れることができます。しかし***性質のリスト***はこれで終わりということがありません。***終わった***というチェックマークが入らないのです。わたしは今週金曜日の夜に妻を外に連れ出して楽しませることができます。これは***善い行い***です。しかし，一度何かをすれば良い夫に***なれる***というわけではありません。***性質***，人格，ひととなりを***変える***必要があります。

また，親として，チェックを入れてこれで***終わりにできる***ことがあるでしょうか。良い親になる努力に***終わり***はありません。そして，良い親として子供に教えることのできる最も大切なことの一つは，救い主のように***なる***方法です。

キリストのような***特質***は見ることができませんが，目に見える***行い***に表れます。例えば，親は歩き方を教えるのに子供を支えたり褒めたりしますが，これは目に見える***行い***です。このような***行い***は，目に見えない愛と，子供の可能性に対する信仰と期待の表れです。来る日も来る日も親の努力は続きます。目には見えませんが，これは忍耐と熱意が***ある***ことの証拠です。

行動を生み出すのはわたしたちの***性質***であり，それは***行動***の動機なのですから，何をするべきか教えるよりも，好ましい***性質***を身に付けるよう教える方が，***行動***を改善するうえで効果があるでしょう。

子供が悪いことをした場合，例えば，けんかをした場合にはその***行動***，つまり目に見えるけんかをやめさせようとすることが多いのですが，これは間違っています。***行動***は目に見えない動機の表れにすぎません。次のように考えるとよいでしょう。「この子はどんな特質を理解したらこのようなことをしなくなるだろうか。腹が立ったときに我慢し，赦（ゆる）すという特質だろうか。思いやりがあって和を大切にするという特質だろうか。それとも，自分の行動に責任を持ち，人のせいにしないという特質だろうか。」

親はこのような特質を子供にどうやって教えたらよいのでしょうか。キリストのような特質を教え，示す機会として，訓練に勝るものはありません。「訓練する（Discipline）」という言葉は「弟子（disciple）」と語源が同じで，訓練する側に忍耐と教える努力が必要なことを意味します。怒りながら訓練するべきではありません。教義と聖約第121章で教えられているように「説得により，寛容により，温厚と柔和により，また偽りのない愛により，優しさと純粋な知識」（41－42節）によって訓練することができますし，そうするべきです。これらはすべてキリストのような***特質***であり，親として，キリストの弟子としてわたしたちが***身に付けなければならない***ものです。

子供は訓練によって結果を学びます。マイナスをプラスに変えるチャンスです。子供が悪い行いを告白したなら，告白した勇気を褒めてあげてください。間違いや悪い行いから何を学んだか尋ねてください。これは親が子供の心に触れ，子供を教える機会となります。そしてもっと大切なのは，御霊（みたま）が子供の心に触れ，子供を教えるということです。御霊の力によって親が子供に教義を教えるとき，その教義に，やがては子供の***性質***を変える力が宿ります。

アルマはこれと同じ原則を見いだして，「御言葉（みことば）を説き教えることは民に正しいことを***行わせる***のに大きな効果があり，まことにそれは，剣……よりも民の心に力強い影響を及ぼした」（アルマ31：5。強調付加）と述べています。なぜでしょうか。剣は***行為***を罰する意味合いが強いのに対して，御言葉を説き教えることは民の性質そのもの，つまり***本質***と***可能性***に変化を及ぼしたからです。

かわいくて聞き分けの良い子供は，子育ての入門コースのようなものです。一方，親の忍耐力を極限まで試すような子供に恵まれている人は，子育ての大学院レベルのコースを取っているようなものです。こんな子供を授かるなんて，前世で自分はどんな悪いことをしたのかと悩んでいないで，手を焼かせる子供の方が親にとっては祝福であり，神にいっそう近づく機会を与えてくれると考えたらどうでしょうか。あなたが持っている忍耐と寛容などのキリストの特質を試し，はぐくんでくれるのはどの子ですか。その子はあなたを必要としていますが，あなたも同じようにその子を必要としているのではないでしょうか。

「罪を憎んで人を憎まず」という言葉はだれでも聞いたことがあります。これと同じく，子供が悪いことを***した***場合に，だから自分は***悪い子なのだ***と子供に思い込ませるようなことを言わないように気をつけなければなりません。「『ばか』『のろま』『怠け者』『まぬけ』などと言って，失敗を一つの行為ではなく本人の本質であるかのように感じさせてはならないのです。」[2] 子供は神の子です。それが彼らの本来の

姿であり，可能性です。神の計画は，御自身の子供たちが間違いや悪い行いを克服して成長し，***神のように*** なることです。ですから失望させるような行動は一時的なものと見なすべきです。直らないものでも，その人の本質でもありません。

ですから，わたしたちは子供をいさめる際，「あなたはいつも……」とか「あなたは絶対……」などの決めつけるような言葉を使わないように気をつける必要があります。「あなたはわたしの気持ちなんか絶対考えてくれない」とか「あなたは，どうしていつも待たせるの」などの言葉を用いないように気をつけてください。このような言葉は，相手の行為を人間性の表れであると決めつけるものであり，子供の自己認識や自尊心に悪影響を及ぼしかねません。

自分がどういう人物であるかということへの混乱は，わたしたちが子供に「大きくなったら何に***なりたいか***」と尋ねるときに生じることがあります。「生計を立てるために***どんな仕事をするか***」が「その人は***どんな人物であるか***」とあたかも等しいかのように尋ねるからです。職業や所有物はその人の特質や価値を決めるものではありません。例えば，救い主は身分の低い大工でしたが，そのことから主の生涯を定義することなど到底できません。

子供が自分は何者であるかを見いだし，自尊心を高めるのを助けるうえで，わたしたちは子供が成し遂げたことや行動，つまり***行い*** を褒めることができます。しかし，もっと賢明なのは，まずその子供の人格と信念，つまり***ひととなり***を褒めることです。

スポーツの試合で子供のプレー（***行動***）を褒める場合，賢明なのは，やる気や粘り強さ，打たれ強さなどの***特質*** を挙げて，***内面*** と ***行い*** の両方を褒めるようにすることです。

子供に何か家の手伝いをするように頼むときには，「喜んで手伝ってくれるので助かるわ」など，その子供の***性質*** を褒める方法も探すようにしましょう。

子供が学校から成績表を持って来たら，良い成績を褒めることができます。しかし「宿題を全部提出したのね。難しいことに取り組んでそれを成し遂げられるのね。あなたを誇りに思うわ」などとその***努力*** を褒める方が，子供の心には良い気持ちがいつまでも残ります。

家族の聖文学習の時間に，その日読んだ聖文の中から模範とすべき特質を探し，それについて話し合いましょう。「キリストのような特質は神から授けられる賜物（たまもの）です。……神の助けなしに，はぐくむことはできません。」[3] そのような賜物を与えていただけるよう，家族，個人で祈り求めてください。

夕食を囲んで，折にふれて，特質について話してください。特に，その日の朝，聖文で見つけた特質について話すとよいでしょう。「今日（きょう）はどのような点で良い友人になることができるだろうか。どんな点で思いやりを示すことができるだろうか。信仰は今日抱えている問題に取り組むうえでどのように助けになるだろうか。どのような点で頼れる人間，誠実で，寛大で，謙遜（けんそん）な人間になれるだろうか。」教え，学ぶ必要のある特質は聖文にたくさん出てきます。

どのような人物になるべきか を教えるうえで最も大切な方法は，わたしたちにとっての天の御父のような親に***なる*** ことです。御父は親として完全な御方であり，聖文という子育ての手引きを与えてくださっています。

今日はおもに親の皆さんに向けて話してきましたが，同じ原則はだれにでも当てはまります。キリストのような特質を伸ばす努力が実を結んで顔に神の面影を受け，神の特質が表れるような行いができるようになりますように。そうするときに，子供やそのほかの人々は皆さんの愛を感じ，皆さんの行いを見て，救い主のことを思い起こし，御父に近づくようになるでしょう。これがわたしの祈りであり証（あかし）です。イエス・キリストの御名（みな）により，アーメン。■

注

1. ウィリアム・シェークスピア「ハムレット」『シェイクスピア全集』第3幕，第1場，小田島雄志訳，白水社，第3巻，470
2. キャロル・ドウェックの言葉，ジョー・キタ，“Bounce Back Chronicles,” *Reader's Digest*，2009年5月号，95で引用
3. 『わたしの福音を宣（の）べ伝えなさい』115－116参照

七十人
ベンハミン・デ・オヨス長老

召された聖徒

愛する兄弟姉妹，末日聖徒の交わりに加えられているわたしたちは何と祝福されていることでしょうか。

愛する兄弟姉妹，わたしがメッセージをよくお伝えできるよう，聖霊の助けを祈り求めます。

ステーク，ワード，支部を訪問し，また大会に出席して，時の中間の時代と同様に現在も聖徒と呼ばれている教会員の皆さんと会うとき，いつも大きな喜びで満たされます。皆さんの間に立つときにいつも感じる平安と愛の霊は，シオンのステークにいることを実感させてくれます。

教会員として2世代目の家族，あるいは数世代続いている家族を持つ人はたくさんいますが，多くの教会員は最近改宗した人たちです。使徒パウロがエペソの人々に送った歓迎の言葉を借りて，彼らにわたしたちの気持ちを伝えます。

「そこであなたがたは，もはや異国人でも宿り人でもなく，聖徒たちと同じ国籍の者であり，神の家族なのである。

またあなたがたは，使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって，キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である。」（エペソ2：19－20）

かつてメキシコの教会広報部で奉仕していたとき，ラジオのトークショーに招かれました。トークショーのテーマは世界の様々な宗教を紹介することです。番組の中で寄せられる質問に教会を代表して答えるため，わたしと同僚が割り当てを受けました。幾つかのコマーシャルを挟んで番組は予定どおりに進んでいき，やがて，司会者がこう言いました。「今晩スタジオに末日聖徒イエス・キリスト教会から二人の長老をお迎えしています。」彼は少し間を置いてから，こう尋ねました。「教会の名称はずいぶん長いですね。もっと短くて，大衆受けする名称を使ったらどうですか。」

わたしたちはまたとない質問を受けて笑みを浮かべると，教会の名称は人が付けたものではないことを説明しました。この末日に預言者を通して主から与えられたものです。「わたしの教会は，終わりの時にこのように，すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれなければならない。」（教義と聖約115：4） すると司会者はすぐさま敬意を表して「喜んでその名称を使わせていただきます」と答えました。深い意味を持つ教会の名称を彼が何度口にしたか，今となっては思い出せませんが，教会の名称だけでなく，この名称と教会員すなわち末日聖徒とのかかわりについても説明したときに感じたすばらしい気持ちはよく覚えています。

新約聖書には，イエス・キリストの教会の会員がアンテオケで初めてクリスチャンと呼ばれるようになったことが記されています（使徒11：26参照）。けれども彼らはお互いを聖徒と呼び合っていました。使徒パウロが彼らを「聖徒たちと同じ国籍の者であり，神の家族なのである」（エペソ2：19），そして「*召された*聖徒」（ローマ1：7。強調付加）と呼んだとき，彼らはどれほど感動したことでしょう。

福音に添って生活し預言者の勧告に従う度合いによって，教会員は少しずつ，時にはそれと気づかないうちに，聖（きよ）められていきます。家族の祈りと聖文の研究を毎

アルゼンチン・ウシュアイア

日行い，家族の歴史活動に携わり，しばしば神殿で礼拝する時間を割いている，教会の謙遜な会員たちが聖徒となるのです。彼らは永遠の家族を築くことに専心している人たちです。また，教会から足が遠のいている人々を救い出し，戻って主の食卓に着くよう勧めるため，忙しい生活の中から時間を割いている人たちです。主の宣教師として奉仕する召しにこたえた長老や姉妹たち，熟年の夫婦です。兄弟姉妹，彼らは慈愛すなわちキリストの純粋な愛と呼ばれる温かくてすばらしい気持ちを見いだす度合いに応じて聖徒となっているのです（モロナイ7：42－48参照）。

聖徒すなわち教会員はまた，苦難と試練を通して救い主を知ります。主ですらあらゆる苦難をお受けにならねばなりませんでした。このことを銘記しましょう。「また神の御子は，御自分の民を束縛している死の縄目を解くために，御自身に死を受けられる。また神の御子は，肉において御自分の心が憐れみで満たされるように，また御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように，彼らの弱さを御自分に受けられる。」（アルマ7：12）

わたしはここ数年，多くの人が苦しんでいるのをこの目で見てきました。その中にはたくさんの聖徒もいます。わたしたちは彼らのために絶えず祈り，彼らの信仰が弱まることなく，忍耐して歩めるよう主の助けを願い求めています。このような人々に，モルモン書の預言者ヤコブが語った慰めの言葉を送ります。

「おお，それで，わたしの愛する同胞よ，聖者なる主のみもとに来なさい。主の道が義にかなっていることを覚えておきなさい。見よ，その道は人にとって狭いが，人の前にまっすぐであり，門を守る者はイスラエルの聖者である。聖者はここには僕を使われない。またその門を通る以外に，ほかの道はない。そしてその御方を欺くことはできない。その御方の御名は，主なる神だからである。

そして，たたく者にはだれにでも，主なる神は門をお開けになる。」（2ニーファイ9：41－42）

わたしたちがどのような環境にあり，どのような試練や難問に取り囲まれているかは問題ではありません。キリストの教えと贖罪を理解していることが力と平安の源になるのです。そうです，兄弟姉妹。その心の静けさは霊から生じるのであって，主が忠実な聖徒に与えてくださるものです。主は次のように言って，わたしたちを力づけてくださいました。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。……あなたがたは心を騒がせるな，またおじけるな。」（ヨハネ14：27）

わたしは長年にわたって，天の御父の計画と救い主イエス・キリストの贖罪に信仰を持つ忠実な教会員，すなわち末日の聖徒たちが勇気と大いなる熱意をもって苦難と試練に打ち勝ち，聖めというまっすぐで狭い道に踏みとどまっているのを見てきました。交わる特権を得てきたこれら信仰篤い聖徒の皆さんに対して，わたしがどれほど感謝し，尊敬しているかを表現する適切な言葉が見つかりません。

福音に対するわたしたちの理解は，福音が真理であるというわたしたちの証ほど深くないかもしれませんが，主を信頼するなら，あらゆる困難，試練，苦悩のときにあって支えられることでしょう（アルマ36：3参照）。聖徒に対する主のこの約束は，わたしたちが苦しみや試練を免れることを意味するのではありません。そうではなく，苦難のときにも支えられるということであり，支えてくださるのが主であることをわたしたちは知るのです。

愛する兄弟姉妹，末日聖徒の交わりに加えられているわたしたちは何と祝福されていることでしょうか。過去と現在の預言者と同じように，わたしたちは救い主に対する証を得るという非常に大きな祝福に浴しています。

イスラエルの聖者である主は生きておられ，わたしたちの愛する預言者トーマス・S・モンソン大管長を通して，御自身の教会である末日聖徒イエス・キリスト教会を導いておられることを証します。主イエス・キリストの御名により，アーメン。■

七十人
C・スコット・グロー長老

贖罪の奇跡

イエスの贖罪の癒しの力が及ばない罪や背き，苦しみや悲しみはありません。

この大会の話を準備しているとき，父から衝撃的な電話がありました。弟がその日の朝，睡眠中に亡くなったというのです。わたしは悲嘆に暮れました。弟はまだ51歳でした。弟に思いをはせていると，彼の人生から幾つかの出来事を皆さんと分かち合うべきだと感じました。家族の了承のもと，話したいと思います。

弟は若いころ，ハンサムで親しみやすく，社交的で，福音にとても献身的でした。伝道を立派に終え，愛する人と神殿で結婚しました。1男1女に恵まれ，輝かしい未来が待っていました。

しかし，弟は弱さに負けてしまいました。快楽主義的な生き方をするようになり，健康と，結婚生活と，教会の会員資格を失いました。

家から遠く離れた所に引っ越し，10年以上も自堕落な行動を続けていました。しかし，救い主は弟を忘れたり，見捨てたりはなさいませんでした。絶望の淵での苦しみは，次第に弟の心を謙遜にしました。怒りや反抗，攻撃的な感情は影を潜めていき，放蕩息子のように，「本心に立ちかえっ〔た〕」のです。[1] 救い主を求めるようになり，福音と信仰に基づく昔の生活に，そして弟を信じて諦めなかった両親のもとに戻り始めました。

彼は悔い改めの道を歩みました。楽な道ではありませんでした。12年間教会から離れていた弟は，もう一度バプテスマを受け，聖霊の賜物を授かりました。後に神権と神殿の祝福も回復されました。

弟は以前の生活から来る健康上の問題に依然として苦しんでいましたが，祝福されてそれを受け入れてくれる女性と出会い，神殿で結び固められました。二人の子供を授かりました。そしてビショップリックで数年間熱心に奉仕しました。

弟が亡くなったのは，3月7日，月曜日の朝でした。その前の週の金曜日の晩には妻と一緒に神殿に参入しています。亡くなる前日の日曜日の朝は，所属する大祭司グループで神権会のレッスンをしました。そしてその晩床に入ったきり，この世で再び目覚めることはありませんでした。しかし，弟は正しい者の復活のときによみがえります。

弟の人生における贖罪の奇跡に感謝しています。わたしたちは皆，いつでも救い主の贖罪の恵みにあずかることができるのです。

わたしたちは悔い改めを通して贖罪の恵みにあずかることができます。悔い改めるとき，主は過去の過ちを忘れてくださいます。

「見よ，自分の罪を悔い改めた者は赦され，主なるわたしはもうそれを思い起こさない。

人が罪を悔い改めたかどうかは，これによって分かる。すなわち，見よ，彼はそれを告白し，そしてそれを捨てる。」[2]

わたしたちの周りには，人生で深刻な問題にぶつかる人がいます。道を踏み外したりくじけたりする人です。それは友達や親戚，親や子供，夫や妻かもしれません。また，あなた自身がそうかもしれません。

あなたを含むすべての人に向けて，わたしは贖罪の奇跡について話します。

メシヤは人を堕落から贖うために来られました。[3] イエス・キリストの福音のすべてが，このメシヤ，つまり神の御子の贖罪の犠牲を指し示しています。[4]

救いの計画は贖罪なしに成し遂げることができませんでした。「したがって，神は憐れみの計画を成し遂げるため，正義の要求を満たすため，また御自分が完全で公正な神，憐れみ深い神であり続けるために，御自分で世の罪の贖いをされるのである。」[5]

贖罪の犠牲は，罪のない神の御子が払うしかありませんでした。人間は堕落しているために，自分の罪を贖うことができないからです。[6] 全人類に永遠にわたって効力が及ぶようにするため，贖罪は無限にして永遠のものでなければなりませんでした。[7]

救い主は苦しんで亡くなり，それによって全人類の罪を贖ってくださいました。[8] その贖罪はゲツセマネに始まり，十字架上の死を経て復活で完了しました。

「まことにこの御方は連れて行かれて，十字架につけられ，殺され，その肉体は死に従うが，御子の御心は御父の御心にのみ込まれてしまう。」[9] 救い主は贖いの犠牲をささげることによって，御自分の魂を「罪のささげ物」とされたのです。[10]

神の独り子として，救い主は肉体の死に打ち勝つ力を譲り受けておられました。そのため，その苦痛は「人にとっては死ぬ以外に耐えようのないもの」であり，「御自分の民の悪事と忌まわしい行いのためにこの御方が受けられる苦しみは非常に激しく，あらゆる毛穴から血が流れ出るほど」でしたが，生命を維持することがおで

きになったのです。[11]

救い主は全人類の罪の代価を払っただけでなく,「御自分の民の苦痛と病」も身に受けられました。また,「御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように,彼らの弱さを御自分に受け」られました。[12]

救い主は全人類の苦しみの重荷,すなわち罪と深い悲しみの苦痛を経験されました。「まことに彼はわたしたちの悲哀を負い,わたしたちの悲しみを担った」のです。[13]

贖罪を通して救い主は戒めに背く者だけでなく,その人の背きのために苦しむ罪のない人をも癒してくださいます。罪のない者も,救い主の贖いを信じる信仰を働かせて罪人を赦すことによって,癒しを受けることができるのです。

だれにでも「過ちや罪によって抱いている罪悪感からの安らぎを必要と」するときがあります。[14] 悔い改めることによって,救い主はわたしたちの心から罪の意識を取り除いてくださいます。

わたしたちの罪は救い主の贖罪の犠牲によって赦されます。滅びの子を除けば,罪の大小を問わず,「悔い改めを条件として」贖罪の効力はいつでもすべての人に及ぶのです。[15]

無限の愛により,イエス・キリストは,自分の罪の重荷を全部背負って苦しむことのないよう悔い改めなさいと勧め,次のように言われました。

「悔い改め〔なさい〕。つらい苦しみを被ることのないように,悔い改めなさい。これらの苦しみがいかにつらいか,あなたは知らない。いかに激しいか,あなたは知らない。まことに,いかに堪え難いか,あなたは知らない。

見よ,神であるわたしは,すべての人に代わってこれらの苦しみを負い,人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。

しかし,もしも悔い改めなければ,彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。

その苦しみは,神であって,しかもすべての中で最も大いなる者であるわたし自身が,苦痛のためにおののき,あらゆる毛穴から血を流し,体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。」[16]

救い主は罪により苦しんでいる人々に,癒しをもたらしてくださいました。「わたしがあなたがたを癒すことができるように,今あなたがたはわたしに立ち返り,自分の罪を悔い改め,心を改めようとしているか。」[17]

イエス・キリストはわたしたちの心を癒してくださる偉大な御方です。滅びに至る罪を除き,イエスの贖罪の癒しの力が及ばない罪や背き,苦しみや悲しみはありません。

罪を犯すとき,おまえはもうだめだとサタンはささやきます。対照的に贖い主は,たとえわたしたちがどんなことをしたとしても,あなたにもわたしにも,すべての人に贖いを用意しておられます。あなたもわたしも贖われるのです。

自身の生活を省みるとき,変える必要のある部分はないでしょうか。犯した過ちの中に,まだ正していないものはありませんか。

罪悪感や良心の呵責(かしゃく),苦しみや怒りの気持ち,また信仰の喪失に苦しんでいる人には,そうした感情からの解放を求めるよう勧めます。悔い改めて,罪を捨ててください。そして,祈りによって主に赦しを求めてください。迷惑をかけた人に赦しを求めてください。あなたを不当に扱った人を赦してください。自分自身を赦してください。

必要であればビショップのもとに行ってください。ビショップは主から遣わされた憐れみの使者です。悔い改めにより清くなる道を歩めるよう助けてくれるでしょう。

祈りと聖文研究に没頭してください。すると,御霊(みたま)の力によって聖(きよ)められていくのを感じるでしょう。救い主はこう言われました。「自らを聖めなさい。まことに,

あなたがたの心を清くし，またわたしの前に手と足を清めなさい。それは，わたしがあなたがたを清くするためであ〔る。〕」[18]

贖罪の力によって清められると，救い主は次のように言ってわたしたちのために御父に執り成しをしてくださいます。

「父よ，罪を犯したことがなく，あなたが御心にかなうとされた者の，苦しみと死を御覧ください。あなたの子が流した血，すなわち，あなた御自身が栄光を受けるために，あなたがお与えになった者の血を御覧ください。

そのために、父よ，わたしの名を信じるこれらわたしの兄弟たちが，わたしのもとに来て永遠の命を得られるように，彼らをお救いください〔。〕」[19]

人はだれでも道徳的な選択の自由が与えられています。「人は肉においては自由であり，……すべての人の偉大な仲保者を通じて自由と永遠の命を選ぶことも，あるいは悪魔の……力に応じて束縛と死を選ぶことも自由」なのです。[20]

何年も前に，弟は選択の自由を使ってある生き方を選択し，健康と家族と教会員資格を失いました。そして何年もたってから，同じ選択の自由を使って悔い改め，救い主の教えに従った生き方を選び，贖罪の力によって文字どおり生まれ変わりました。

わたしは贖罪の奇跡について証（あかし）します。その癒しの力を弟の人生の中で目にし，わたし自身の生活の中でも感じました。だれもが贖罪の持つ癒しと贖いの力の効力に常にあずかることができます。

イエスがキリストであり，心を癒してくださる御方であることを証します。一人一人が，イエスの次の勧めに従うことを祈ります。「わたしがあなたがたを癒すことができるように，今あなたがたはわたしに立ち返り，自分の罪を悔い改め，心を改めようとしているか。」[21]　イエス・キリストの御名（みな）により，アーメン。■

注

1. ルカ 15：17
2. 教義と聖約 58：42 － 43
3. 2 ニーファイ 2：25 － 26 参照
4. アルマ 34：14 参照
5. アルマ 42：15
6. アルマ 34：11 参照
7. アルマ 34：10 参照
8. アルマ 22：14 参照
9. モーサヤ 15：7
10. モーサヤ 14：10
11. モーサヤ 3：7
12. アルマ 7：11 － 12
13. モーサヤ 14：4
14. 『わたしの福音を宣べ伝えなさい』2
15. 教義と聖約 18：12
16. 教義と聖約 19：15 － 18
17. 3 ニーファイ 9：13
18. 教義と聖約 88：74
19. 教義と聖約 45：4 － 5
20. 2 ニーファイ 2：27
21. 3 ニーファイ 9：13

十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド長老

国々への旗

もしわたしたちが御霊によって教え，皆さんが御霊によって耳を傾けるなら，話者のだれかが皆さんの状況に触れ……るでしょう。

合唱団が歌ってくれた音楽の一つ一つの音と，これまで語られた説教の一つ一つの言葉に胸がいっぱいになっていますが，しっかり話でるようにお祈りします。

1846年の冬にノーブーを出発する前，ブリガム・ヤング会長は夢の中で，西部のどこかで一人の天使が，突き出した峰の上に立って下にある盆地を指し示しているのを見ました。それから約18か月後，ヤング会長はソルトレーク盆地に到着したとき，現在わたしたちが集まっている場所のすぐ先にある山の斜面に，示現で見たのと同じ突き出した峰を見ました。

この説教壇で度々語られてきたように，ブリガム兄弟は数人の指導者を連れてその丘の頂に登り，そこがエンサインピーク〔訳注――「旗の峰」の意〕であると宣言しました。この名前は，その場にいた現代のイスラエル人たちにとって宗教的な意味に満ちたものでした。その2,500年前，預言者イザヤは次のように宣言していました。終わりの時に「主の家の山は，もろもろの山のかしらとして堅く立ち」そこで「主は国々のために旗をあげ……られる。」[1]

その場にいた兄弟たちはこの預言の一部が成就する歴史的瞬間を迎えているのだと悟り，「国々への旗」という言葉を実現するために何らかの旗を掲げたいと思いました。ヒーバー・C・キンボール長老が黄色いハンカチを取り出しました。ブリガム兄弟はそれをウィラード・リチャーズ長老が持っていた杖に結びつけて仮の旗として立て，グレートソルトレーク盆地とその周りの山々こそ，末日に主の御言葉が出ると預言された地であると宣言しました。

兄弟姉妹の皆さん，年次総大会と半期総大会は，世界の人々に対してなされたその最初の宣言を受け継いだものです。わたしはこの2日間の大会が，「シオンの旗揭げよ」[2]と賛美歌に歌われたことのもう一つの実践であることを証します。そして，この賛美歌の英語の歌詞には「旗」と「標準」の二つの意味を持つ“*standard*”という単語が意図的に使われています。総大会のメッセージが英語では『エンサイン』（the *Ensign*）〔訳注――「旗」の意〕と簡潔に名付けられた機関誌に掲載されるのも偶然ではありません。

この総大会がもうすぐ閉会しようとしている今，わたしは皆さんに，明日からの日々の中で，これまで聞いてきたメッセージについてだけでなく，総大会という独特な行事そのものについても深く考えるようお願いします。わたしたち末日聖徒が総大会とは何であると思っているか，また総大会に関して何を聞き，何を見るよう世界の人々を招いているか考えてください。わたしたちはすべての国民，部族，国語の民，民族に証します。すなわち，神は生きておられるだけでなく，語られること，また，この時代のために，この時代において，皆さんが聞いてきた勧告は，聖なる御霊の導きの下で与えられた「主の心〔であり〕，主の言葉〔であり〕，主の声〔であり〕，救いを得させる神の力」[3]であることを証します。

恐らく皆さんはすでに知っているでしょうが（もしそうでなければ，ぜひ知っておいてください），ごく一部の例外を除いて，ここで話をする人はだれもテーマを割り当てられません。各自が断食して祈り，研究し，求めて，個人的な望みや好みに関係なく，これこそ今この時期に，今回の総大会で語るように主が望んでおられるテーマだと確信するまで，何度も話を書き直すのです。この10時間に総大会で話した人は全員，そのささやきに忠実であろうと努めてきました。それぞれが涙を流し，悩み，何をどのように語るべきか真剣に主の導きを求めてきました。そしてこの場所を見下ろして立っている一人の天使をブリガム・ヤングが見たように，わたしにはこの場所に天使たちが立っているのが見えます。このように言うと教会の中央役員である兄弟姉妹は居心地が悪いでしょうが，わたしには彼らが，天使のメッセージを携えた現世の使者に見えます。皆さんやわたしと同じように，彼らにもあらゆる身体的，経済的問題や家族の問題があります。しかし彼らは信仰をもって，与えられた召しと，自分の考えではなく神の御言葉を宣べ伝える務めを果たすために，生活を奉献しています。

実に様々なメッセージが語られたことについて考えてください。天の導き以外には一切調整がなされていないのですから，ますます奇跡的です。でも多様でないはずがありません。この会場にいるか否かにかかわらず，会衆の大半は教会員です。しかし，新たな驚くべき通信手段によって，かつてなかったほど多くの「まだ」教会員でない人々がわたしたちの大会を視聴するようになっています。ですからわたしたちは，わたしたちのことをよく知っている人々だけでなく，わたしたちの

ことをまったく知らない人々に向けても話す必要があります。また教会の中だけでも，子供たち，青少年やヤングアダルト，中年や高齢の人々に向けて話さなければなりません。家族や，両親や子供に向けて話さなければならず，独身の人，子供のいない人，家族から遠く離れている人に向けても話します。総大会の間，わたしたちは常に信仰と希望と慈愛[4]という永遠の真理と，十字架にかけられたキリスト[5]について強調し，それと同時に，現代の非常に具体的な道徳問題について率直に話します。聖文では「この時代の人々には，悔い改めのほかに何も語ってはならない」[6]と命じられており，また同時に「貧しい者に福音を宣べ伝え……心のいためる者をいや〔す〕」ように命じられています。どのような形で伝えられようとも，総大会のメッセージは「捕われ人に放免を告げ」[7]，「キリストの無尽蔵の富」[8]を宣べ伝えるものです。様々な説教が行われるので，だれもが何かを得ることができるでしょう。ハロルド・B・リー大管長が何年も前に述べた次の言葉は，そのことを見事に言い表していると思います。福音は「苦しんでいる者に安らぎを与え，〔安楽に過ごしている者に〕苦しみを与える」[9]ためのものです。

わたしたちは総大会で教えるとき，主の説教にいつも取り入れられていた方法を思い起こしながら，キリストが最初に教えられたときと同じように思いやりで心を満たし，だれもが歓迎されていると感じられるように教えたいと常に思っています。イエスは歴史上最も有名な説教において，まず初めに，わたしたちのだれもが受けたいと望む，優しさにあふれた祝福を宣言されました。心の貧しい人々，心の清い人々，平和を作り出す人々，そして柔和な人々に約束されている祝福です。[10]そのような至福の教えはどれほど聞く者の心を高め，魂に慰めを与えてくれることでしょう。それらは真実です。しかしその同じ説教で，救い主は教えを先に進めて，平和を作り出す人や心の清い人の歩むべき道が次第に細くなっていくことをお示しになりました。「昔の人々に『殺すな……』と言われていたことは，あなたがたの聞いているところである」と主は言われました。「しかし，わたしはあなたがたに言う。兄弟に対して怒る者は，だれでも裁判を受けねばならない。」[11]

同様に，

「『姦淫するな』と言われていたことは，あなたがたの聞いているところである。

しかし，わたしはあなたがたに言う。だれでも，情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫をしたのである。」[12]

明らかに，弟子としての道は上って行くにつれて道幅も狭くなり，クリストファーソン長老が先ほど話した「それだから，あなたがたの天の父が完全であられるように，あなたがたも完全な者となりなさい」[13]というこの説教の頂点にたどり着くころには，ひざが抜けるのです。忠誠心をもって歩み始めたころは低地に伸びていた穏やかな道が，真の弟子となる山の頂に来ると非常に険しく厳しいものとなるのです。イエスの教義では自分の罪に対する責任は問われないと考えている人は，明らかに聖文という契約書を十分に注意深く読んではいません。弟子になることに関して言えば，教会は自分の好きなように注文できるファストフード店とは異なります。いつの日か***すべての***ひざがかがみ，***すべての***舌が，イエスはキリストであられ，救いは***主の***道によってのみ得られると告白することになります。[14]

総大会のメッセージの中で，わたしたちは慰めをもたらす真理とともに，厳しい真理についても説きたいと思っていますが，どうぞ安心してください，難しいテーマについて話すとき，わたしたちはすべての人がポルノグラフィーを見たり，結婚を避けたり，不義な性関係を持ったりしているわけではないことを理解しています。すべての人が安息日を破り，偽証し，伴侶を虐待しているのではないことを知っています。聴衆のほとんどがそのようなことを行って***いない***のは分かっていますが，わたしたちにはそのような悪事を行っている人に対して，彼らが世界のどこにいようと警告す

る厳粛な務めを負っているのです。ですから，もし皆さんが最善を尽くそうと努力しているなら，例えば，幼い子供たちが家中で大騒ぎするようなことがあっても家庭の夕べを行おうと努力し続けているなら，わたしたちがそのテーマについて話すときには自分自身に高い点数を与えて，自分に欠けているかもしれない別のテーマを求めて耳を傾けてください。もしわたしたちが御霊によって教え，皆さんが御霊によって耳を傾けるなら，話者のだれかが皆さんの状況に触れて，まさにそれは皆さんだけに向けた個人的かつ預言的な書簡となるでしょう。

兄弟姉妹の皆さん，わたしたちは総大会において，これから訪れる数々の証に関連して自分の証をささげているのです。なぜなら，神は***これから***様々な形で御自分の声を聞かせられるからです。「わたしは，人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした」[15] と，主は御自身の預言者たちに告げておられます。

「〔そして〕あなたがたの証の後に，……地震の証が来る。……また，雷〔と〕稲妻〔と〕暴風雨〔と〕その境を越えて打ち上げる海の波の声の証も来る。……

また，天使たちが……大声で叫び，神のラッパを吹き鳴ら〔す〕。」[16]

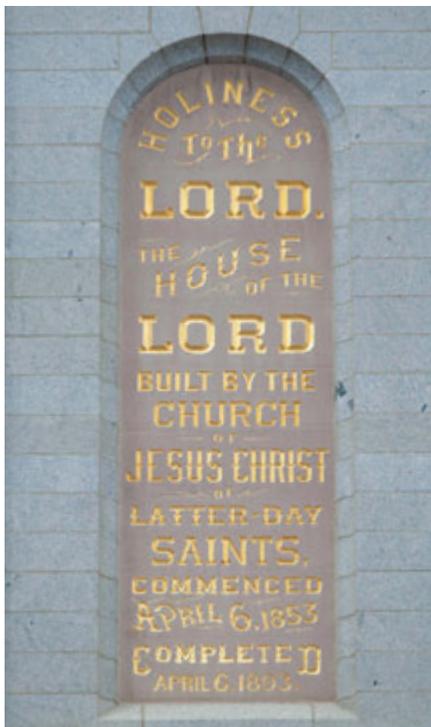
ルーマニア・ブカレスト

この説教壇に立つこれら地上の天使たちは，それぞれが自分自身の方法で「神のラッパ」を吹き鳴らしました。それぞれの説教は常に愛の証であり警告であって，また同様に，自然界自身も末日に愛の証と警告を行うでしょう。

さて，間もなくトーマス・S・モンソン大管長がこの大会を閉じるために説教壇に立ちます。わたしたちが生きている時代の先任の使徒であり預言者である，この愛すべき人物について少し個人的なことを述べさせてください。これまで話してきた責任について，そしてこの大会で皆さんが聞いたすべてのことを考えれば，預言者たちの生活が楽なものでないこと，そしてモンソン大管長の生活が楽なものでないことは明らかです。モンソン大管長は昨夜の神権部会で特にそのことについて話しました。使徒に召されたのは36歳のときで，当時子供たちはそれぞれ12歳，9歳，4歳でした。モンソン姉妹と子供たちは50年以上にわたって，自分の夫また父親を教会とその務めにささげてきました。病気や対処しなくてはならない様々なこと，だれもが現世で負う痛みや傷を経験してきました。そしてこれからもそのような経験をすることでしょう。しかしモンソン大管長はその間も常に朗らかです。決して落胆することがありません。驚くべき信仰と類(たぐ)いまれな持久力の持ち主です。

大管長，この会場にいるか否かにかかわらずすべての会衆を代表してわたしは言います。わたしたちはあなたを愛し，尊敬しています。あなたの献身はわたしたち皆の模範です。あなたの指導に感謝しています。使徒の職を持つほかの14人と，ほかにもこの壇上にいる人々，この会場の席についている会衆，そして世界中で集まっている大勢の人々は，あなたを愛し，支持し，この業にあってあなたと力を合わせています。わたしたちは，何でもしてあなたの重荷を軽くします。あなたはイエス・キリストの福音の旗を全世界の人々に向かって振るように創世の前から召されていた天の使者の一人です。そしてその務めを，あなたは見事に果たしています。告げ知らされている福音と，福音がもたらす救いと，福音をもたらす御方について，主イエス・キリストの最も偉大で栄光ある御名(みな)により証します，アーメン。■

注

1. イザヤ2：2；11：12
2. 「夜明けだ，朝明けだ」『賛美歌』1番参照
3. 教義と聖約68：4
4. 1コリント13：13参照
5. 1コリント1：23参照
6. 教義と聖約6：9；11：9
7. イザヤ61：1
8. エペソ3：8
9. ハロルド・B・リー，“The Message,” *New Era*, 1971年1月号，6参照
10. マタイ5：3－12参照
11. マタイ5：21－22。3ニーファイ12：22も参照
12. マタイ5：27－28
13. マタイ5：48
14. ローマ14：11；モーサヤ27：31参照
15. 教義と聖約88：81
16. 教義と聖約88：89－90，92

トーマス・S・モンソン大管長

別れに

キリストがゲツセマネにおいて全人類のためにしてくださったことの重要性を，完全に理解できる人はいないでしょう。それでもわたしは，わたしたちのための主の贖(あがな)いの犠牲に日々感謝しています。

兄弟姉妹の皆さん，この大会を終えるに当たり，わたしの心は満たされています。わたしたちは主の御霊(みたま)を豊かに感じてきました。祈りをささげてくれた人たちを含め，この大会に携わった一人一人に対し，わたしと世界各地の会員たちからの感謝をお伝えします。この大会で聞いたメッセージをいつまでも覚えておくことができますように。これらのメッセージが掲載された『エンサイン』（*Ensign*）や『リアホナ』を受け取ったら，それを読み，学ぶことができますように。

どの部会の音楽もすばらしいものであったともう一度お伝えします。皆さんの才能を進んで分かち合い，大会の中でわたしたちを感化し，霊感を与えてくれたことに個人的に感謝をお伝えします。

この大会で，わたしたちは新しい職に召された兄弟たちを，挙手をもって支持しました。その兄弟たちに，これから主の大義においてともに働けるのを楽しみにしていることを知っていただきたいと思います。

献身的な顧問であるヘンリー・B・アイリング管長とディーター・F・ウークトドルフ管長にわたしの愛と感謝を伝えます。彼らは知恵と理解力を兼ね備えた兄弟たちです。彼らの働きは絶大です。また，十二使徒定員会の兄弟たちを愛し，支持します。彼らは実に効果的に働き，御業(みわざ)に完全に献身しています。七十人の会員と管理ビショップリックにも愛を伝えます。

わたしたちは今日(こんにち)の世の中で多くの課題に直面していますが，天の御父はわたしたちを気にかけておられると，はっきりお伝えすることができます。御父はわたしたち一人一人を愛し，わたしたちが祈りを通して御父を求め，神の戒めを守ろうと努めるときに祝福してくださいます。

この教会は世界規模の教会です。世界中に会員がいます。わたしたちが自分の住む国において善い市民となり，それぞれの地域社会において善い隣人となれますように。同じ信仰の者だけでなく，信仰を異にする者にも手を差し伸べられますように。どのような場所に行っても，どのようなことをしても，正直さと高潔さの模範となれますように。

兄弟姉妹，わたしのために，また教会のすべての中央幹部のために祈ってくださり，感謝しています。皆さんと，主の業を推し進めるために皆さんがしてくださるすべてのことに感謝しています。

これから家路に就くに当たり，その道のりが安全でありますように。天の祝福が皆さんのうえにありますように。

さて，今日(きょう)この場を去る前に，救い主と，主のわたしたちへの偉大な贖(あがな)いの犠牲に対する愛をお伝えします。これから３週間のうちに，すべてのキリスト教社会は復活祭を祝います。キリストがゲツセマネにおいて全人類のためにしてくださったことの重要性を，完全に理解できる人はいないでしょう。それでもわたしは，わたしたちのための主の贖いの犠牲に日々感謝しています。

最後の瞬間，主は背を向けることもおできになりました。しかし，そうはなさいませんでした。主は万物を救うことができるように，万物の下に身を落とされたのです。それにより現世を越えてわたしたちに命を与えてくださいました。アダムの堕落からわたしたちを引き上げてくださいました。

わたしは心の底から主に感謝しています。主はどのように生きたらよいかを教えてくださいました。どのように命をささげることができるか教えてくださいました。そして救いを約束してくださったのです。

最後に，エミリー・ハリスが書いた感動的な言葉を紹介します。復活祭を迎えるに当たり，わたしの気持ちをよく表しています。

主を包んでいた亜麻布には，主はおられず
今は布だけがそこに置かれている
それは真新しく，白く，汚れがない
戸は開かれ
石は取りのけられた
まるで主を賛美する天使の声が聞こえるようだ
亜麻布も主をとどめ置くことはできなかった
石も主をとどめ置くことはできなかった
一つの声が，空になった石灰岩の
*　墓穴にこだまする*
「もうここにはおられない」
主を包んでいた亜麻布には，主はおられず
今は布だけがそこに置かれている
それは真新しく，白く，汚れがない
ああハレルヤ，そこにはもう主はおられない[1]

兄弟姉妹のうえに祝福がありますように。救い主イエス・キリストの御名(みな)により，アーメン。■

注

1. エミリー・ハリス，“Empty Linen,” *New Era*，2011年４月号，49

中央若い女性会長会第二顧問
アン・M・ディブ

「正直，真実〔で〕あるべきことを信じる」

自分の信条を守ることは，たとえそれが，一般的なことでも，簡単，あるいは楽しいことでなくても，わたしたちが天の御父とともに永遠に住むための道を安全に進めるようにしてくれます。

愛する若い女性の皆さん，今夜皆さんの前に立てることは大きな特権であり，すばらしい機会です。皆さんの姿は，すばらしい，心を打つものです。

信仰箇条の第13条は2011年のミューチャルテーマです。今年，青少年の集会や聖餐（せいさん）会に出席する中で，若い男性や若い女性が自分にとって13条がどのような意味を持ち，自分の生活にどう当てはまるか話すのを聞いてきました。皆さんの多くが御存じのように，13条は信仰箇条の最後の１条で，最も長く，最も覚えにくく，ビショップから暗唱するように言われたくない信仰箇条です。しかし，皆さんの多くは信仰箇条13条がそれ以上のものであることも知っています。

信仰箇条13条は，義にかなった，クリスチャンとしての生活を送るための指針です。すべての人が13条に述べられている教えに添って生活することを選んだとしたら，どんな世の中になるか想像してみてください。「わたしたちは，正直，真実，純潔，慈善，徳高くあるべきこと，またすべての人に善を行うべきことを信じる。実に，わたしたちはパウロの勧告に従うと言ってもよい。わたしたちはすべてのことを信じ，すべてのことを望む。わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んできており，またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいる。どのようなことでも，徳高いこと，好ましいこと，あるいは誉れあることや称賛に値することがあれば，わたしたちはこれらのことを尋ね求めるものである。」

モンソン大管長は，預言者として迎えた最初の総大会の日曜午前の部会で，ピリピ第4章8節で述べられているパウロの勧告を引用しました。信仰箇条13条の中の多くの原則の元となった聖句です。モンソン大管長はわたしたちが生きる時代が困難なものであることを認めながら励ましを与えました。「死すべき世の不安定な旅を続ける間，安全に，また道を踏み外さずに歩むために，使徒パウロの助言に従いましょう。」[1]

今夜は信仰箇条13条の中で，「安全に，また道を踏み外さずに歩む」うえで確かに助けとなる，密接な関係を持つ二つの原則に焦点を絞って話します。正直で真

フィリピン・モンタルバン

実であるという大切な原則に対して，わたしは強い証(あかし)と決意を持っています。

まず，「正直〔で〕あるべきことを信じる」です。正直であるとはどういうことでしょうか。『真理を守る』はこのように教えています。「正直であるとは，いつでも誠実であり，真実を語り，うそをつかないということです。」[2] 正直であることは神の戒めで，[3]「救われるためには完全に正直になることが必要です。」[4]

ハワード・W・ハンター大管長は，何事にも正直でありたいと望まなければならないと教えました。

「何年か前，教会堂の玄関や入り口に，『自分に正直に』と書かれたポスターが掲示されていました。ポスターのほとんどは生活の中のささいな，ありふれたことを表していました。正直の原則はそのようなことにおいてはぐくまれます。

重大なことに不正直であるのは道徳的に間違っているが，ささいなことについては許されると考える人々がいます。数千ドルにかかわる不正直と，たった10セントにかかわる不正直はほんとうに違うのでしょうか。……対象の大きさによって不正直の度合いが変わるのはほんとうなのでしょうか。」

ハンター大管長は次のように続けています。「もし主と聖霊の御霊(みたま)を伴侶(はんりょ)としたいのなら，わたしたちは自分に正直であり，神に正直であり，同胞(はらから)に対して正直でなければなりません。そうするときに真の喜びがあります。」[5]

大小すべての事柄に正直であれば，心の安らぎと澄んだ良心を持てます。人間関係は信頼に基づいて築かれるので豊かになります。そして，正直であることから得られる最大の祝福は，聖霊を伴侶にすることができることです。

すべてのことに正直でありたいというわたしの決意を強めた短い物語を紹介します。

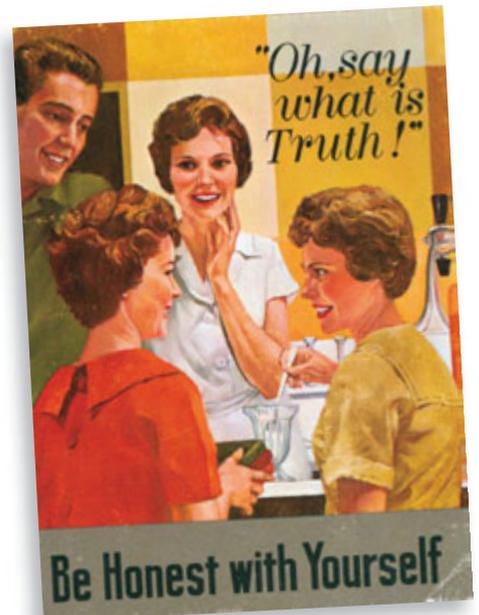
「ある夜，ある男が隣人の畑からトウモロコシを盗もうと出かけました。幼い息子を連れて行き，柵の上に座らせて，人が通りかかったときには警告するように告げて，見張りをさせました。男は大きな袋を腕に抱えて柵を飛び越え，トウモロコシを取り始める前にまず一方を見て，反対を見て，袋に詰めるところを目撃している人がいないか見渡しました。すると，息子が叫びました。

『父さん，まだ見ていない方向があるよ！……上を見忘れてるよ！』」[6]

だれもが受ける誘惑ですが，不正直になるように誘惑されるとき，だれにも分からないと思うかもしれません。この物語から，天の御父がいつも御存じで，わたしたちが最終的に主に報告しなければならないことが分かります。この知識はわたしが「正直〔で〕あるべきことを信じる」という決意を貫く努力を続けるうえで役立ちます。

信仰箇条13条で教えられている二つ目の原則は「真実〔で〕あるべきことを信じる」です。辞書では，「真実」という言葉を，不動の，忠実な，正確な，あるいは偏りがないと定義しています。[7]

わたしの大好きな本の一つは，1847年に出版されたシャーロット・ブロンテが書いたイギリス文学の名作『ジェーン・エア』です。主人公のジェーン・エアは貧しい10代の孤児で，「正直である」とはどういうことかの模範を示しました。この小説の中で，ロチェスター氏という男性がエア先生を愛しますが，彼は結婚できない状況にあります。そこで彼は結婚せずに一緒に住んでほしいとエア先生に懇願します。エア先生もロチェスター氏を愛していて，一瞬その誘いに応じたくなり，このように自問します。「だれが***あなたを***愛してくれているの。」「それに，じぶんがしたことでだれが傷つくの。」

ジェーンの心の声がすぐに答えます。「***わたし***が自分を愛している。孤独で，友も，支えてくれる人もいないときには，わたしは自分を敬おう。神が与えられた律法を守ろう。……律法や原則は，誘惑のないときだけでなく，今のような瞬間のためなのよ。……都合の良いときに破ってもよいのだとしたら，戒めに価値があるのかしら。律法には価値がある。——わたしはそう信じてきた。……今のわたしが守るべきものは自分がこれまで貫いてきた思いと決意だけ。そこにしっかりと足

を据えよう。」[8]

誘惑の窮地に置かれても，ジェーンは自分の信条を貫き，神がお与えになった律法を信頼し，誘惑に対抗して「しっかりと足を据え」ました。

自分の信条を守ることは，たとえそれが，一般的なことでも，簡単，あるいは楽しいことでなくても，わたしたちが天の御父とともに永遠に住むための道を安全に進めるようにしてくれます。わたしは，天の御父と永遠に住む喜びを味わいたいという望みを思い起こせるように，ある若い女性が描いたこの絵がとても好きです。

信条を守ることで，ほかの人の生活に良い影響を与えることもできます。最近，ある若い女性の霊感あふれる経験を聞きました。自分の信条を守る決意を貫いたことで，別の若い女性に大きな影響を与えた姉妹の話です。

数年前，クリスティーとジェンはテキサス州ハーストで同じ高校の合唱クラスを受講しました。二人は互いのことをあまり知りませんでしたが，ジェンは，クリスティーが友達と，宗教やそれぞれの信仰，好きな聖書の物語について話しているのをよく耳にしました。最近，クリスティーと連絡を再び取り始めたジェンがこのようなことを語りました。

「あなたや友達が話していることを何も知らないことを悲しく思ったので，両親にクリスマスに聖書を買ってほしいと言いました。聖書をもらって，読み始めました。これをきっかけにわたしは宗教を探求し，真実の教会を求め始めました。……12年が過ぎました。この間わたしは，幾つかの教会に定期的に通っていましたが，まだ何かが足りない気がしていました。ある夜，わたしはひざまずいて，何をするべきか教えてくださるように懇願しました。その夜は，クリスティー，あなたの夢を見ました。高校を卒業してからあなたと会っていませんでした。不思議な夢だと思いつつも，特に意味があるとは思いませんでした。それから３晩の間，続けてあなたの夢を見ました。夢の意味について，深く考えました。あなたがモルモンであることを思い出して，モルモン教会のウェブサイトを見ました。最初に読んだのは知恵の言葉の教えでした。母は２年前に肺癌で亡くなっていました。母はたばこを吸う人だったので，わたしは知恵の言葉について読んで，感銘を受けました。後日，父親の家を訪ねていたとき，わたしは居間に座って祈り始めました。どこへ行くべきか，何をするべきか尋ねました。その瞬間，教会のコマーシャルがテレビ画面に映りました。わたしは連絡先の番号を書き留めて，その夜に電話をかけました。３日後，宣教師が電話をかけてきて，わたしの家にモルモン書を届けてもよいか聞きました。わたしは『はい』と答えました。その３か月半後，わたしはバプテスマを受けました。２年後，教会で夫と知り合い，ダラス神殿で結婚しました。今は二人のかわいい子供がいます。

クリスティー，あなたに感謝したかったのです。あなたは高校のときにずっとすばらしい模範を示してくれました。親切で徳高い人でした。わたしにレッスンを教え，バプテスマを受けるように勧めたのは宣教師でしたが，あなたが３人目の宣教

師でした。あなたは自分の行いを通して種をまき，ほんとうにわたしの人生をよりよいものにしてくれました。今，わたしには永遠の家族がいます。子供たちは完全な福音を知り，育つでしょう。これは人が受けられる最大の祝福です。あなたはその祝福をわたしの人生にもたらすのを助けたのです。」

わたしがクリスティーに連絡したとき，彼女は次のことを教えてくれました。「わたしたちは信仰箇条13条が述べている様々な属性を聞いて，圧倒されることがあります。しかし，これらの標準を守って生活し，キリストの模範に従おうと努力するなら，変化をもたらすことができます。……アルマ第26章3節で次のように語るアンモンの気持ちがよく分かります。『わたしたちがこの大いなる業を成し遂げるために，神の御手に使われる者とされたことは，わたしたちに与えられた祝福である。』」

皆さん一人一人が「正直，真実〔で〕あるべきことを信じる」と宣言するだけでなく，その約束を毎日守って生活しようと決意するように願っています。そうするなら，皆さんがこの世でなすよう遣わされた業を行うときに天の御父の力，愛，祝福が支えてくれるでしょう。これらをイエス・キリストの御名により話します，アーメン。■

注

1. トーマス・S・モンソン「過去を振り返り，前進する」『リアホナ』2008年5月号，90
2. 『真理を守る』（2004年），102
3. 出エジプト14：15－16参照
4. 『福音の原則』（2009年），179
5. ハワード・W・ハンター "Basic Concepts of Honesty" *New Era*，1978年2月号，4，5
6. ウィリアム・J・スコット "Forgot to Look Up" *Scott's Monthly Magazine*，1867年12月号，953
7. *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*，第11版（2003年），"true" 参照
8. 『ジェーン・エア』下巻，シャーロット・ブロンテ，大久保康雄訳，新潮文庫，161－162

中央若い女性会長会第一顧問
メアリー・N・クック

「自分から始めよう　人に親切」

慈善により，あなたの家庭やクラス，ワード，学校に喜びと一致がもたらされるでしょう。

数週間前，わたしのワードで話者を務めたローレルの姉妹から大切な教訓を学びました。その姉妹がイエス・キリストについて確信をもって教え，証をするのを聞いてわたしは感動しました。彼女は次のように話を締めくくりました。「イエス・キリストを生活の中心とすると，より良い一日を送ることができ，愛する人々に対してもっと親切になり，喜びに満たされます。」

数か月にわたって，わたしはこの若い女性を遠巻きに見ていました。彼女は目を輝かせながらすぐに笑みを浮かべて皆にあいさつをしていました。また，ほかの青少年の成功を喜ぶ姿も目にしました。最近二人のマイアメイドの姉妹から，この若い女性が，持っていた映画のチケットを使わないことにしたと聞きました。その映画が「徳高〔く〕，好ましい〔もの〕」[1]ではないことを知ったからです。彼女は愛にあふれ，親切で，従順です。彼女は独り親の家庭に育ち，困難の伴う人生を送ってきたので，わたしは彼女が喜びと思いやりに満ちた気持ちをどのように維持しているのだろうと思っていました。この若い女性が「わたしはイエス・キリストを中心に生活しています」と証したとき，その答えが分かりました。

「わたしたちは，正直，真実，純潔，慈善，徳高くあるべきこと，またすべての人に善を行うべきことを信じる。」信仰箇条第13条に美しく並べられたこのキリストの特質は，わたしたちを神殿の祝福と永遠の命に備えてくれるものです。

この中から，特に一つの言葉に焦点を当ててみたいと思います。「慈善」という言葉です。「慈善」はすてきな言葉ですが，あまり耳にすることはありません。その語源は，「だれかの幸福を願う」という意味のラテン語です。[2] 慈善とは，親切で，善意にあふれており，思いやりがあるという意味です。皆さんの多くは，初等協会のとき慈善の概念について学び，次の歌を覚えたことでしょう。

だれにでも親切に
大事なこと
自分から始めよう
人に親切[3]

救い主は，慈善について教え，そのとおりに生活されました。イエスはすべての人を愛し，すべての人にお仕えになりました。イエス・キリストを中心に生活すると，この慈善という特質を身に付けることができます。キリストのようなこれらの特

質をはぐくむには，救い主について学び「主の道に従う」必要があります。[4]

良いサマリヤ人のたとえから，すべての人を愛するべきであると分かります。この話はルカによる福音書第10章に書かれています。律法学者が「何をしたら永遠の生命が受けられましょうか」と救い主に尋ねます。

その答えはこうでした。「心をつくし，精神をつくし，力をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ。また，自分を愛するように，あなたの隣り人を愛せよ。」

すると律法学者が「わたしの隣り人とはだれのことですか」と尋ねます。律法学者が尋ねた質問は非常に興味深いものです。なぜなら，ユダヤ人には北にサマリヤ人という隣人がいましたが，このサマリヤ人のことをひどく嫌っていたからです。エルサレムからガリラヤに行く際にサマリヤを通らずに，わざわざヨルダン渓谷を通って遠回りをしていたほどです。

イエスは良いサマリヤ人のたとえを話し，律法学者の質問にお答えになりました。このように記されています。

「ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中，強盗どもが彼を襲い，その着物をはぎ取り，傷を負わせ，半殺しにしたまま，逃げ去った。……

ところが，あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり，彼を見て気の毒に思い，

近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり，自分の家畜に乗せ，宿屋に連れて行って介抱した。

翌日，デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し，『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら，帰りがけに，わたしが支払います』と言った。」[5]

同国民でありながらその負傷した人を通り過ぎていったユダヤ人の祭司とレビ人とは異なり，サマリヤ人には様々な相違点がありましたが親切でした。キリストの特質である慈善を行いで示したのです。このたとえから，イエスはすべての人が隣人であると教えておられます。

最近あるビショップリックの顧問が，一人一人の隣人の大切さを教える経験を話してくれました。この兄弟が聴衆を見渡していると，様々な色のクレヨンが入った大きな箱を持った子供が目に留まりました。ワードの多くの会員を見ていると，クレヨンと同様，会員は皆似ているのと同時にそれぞれとても異なっていることに気づきました。

彼はこのように言いました。「会員たちがワードや世界にもたらす色は様々です。それぞれには個々の強さと弱さがあり，願いや夢を抱いています。しかし，会員たちはともに混ざり合って霊的に一致した色とりどりの輪を作り上げています。……

一致は霊的な資質です。それは，一つの家族に属することで感じる，穏やかな快い気持ちであり目的です。……自分自身のことのようにほかの人の幸いを願うことです。……自分を傷つけようとしている人がいないことを知ることです。〔つまり，決して孤独にはならないということです。〕」[6]

わたしたちは慈善，つまり一つ一つの親切な行いを通してその一致を築き，独自の色を共有するのです。

皆さんは孤独を感じたことがありますか。モノトーンの世界で生活をしている孤独な人たちに気づくことがありますか。わたしは，若い女性の皆さんがほほえみや親切な言葉，励ましのメッセージなどにより，皆さん独自の色を人々の生活にもたらしている姿を目にしてきました。

トーマス・S・モンソン大管長は，友人や出会う人々とどのように交わるべきかについて教える中で，教会の若い女性に向けてこのように語っています。「大切な若い姉妹の皆さん，どうか周りの人たちを裁いたり，批判したりするのをやめる勇気を持ち，すべての人が受け入れられるように し，愛され大切にされていることを感じられるようにする勇気をぜひ持ってください。」[7]

わたしたちは良いサマリヤ人の模範に倣い，慈善により実に一人の人の「世界を変え〔る〕」ことができます。[8] これからの1週間に，サマリヤ人のような行いを少なくとも一つするよう皆さんにお勧めします。そのためには，普段つきあいのない人たちに手を差し伸べたり，恥ずかしさを克服したりする必要があるかもしれません。自分に対して親切でない人に勇気をもって仕えることを選ぶかもしれません。簡単にできること以上に精いっぱい頑張るならば，心の内にとても良い気持ちを感じ，思いやりが日常生活の一部となっていくことを約束します。慈善により，あなたの家庭やクラス，ワード，学校に喜びと一致がもたらされるのを目の当たりにするでしょう。覚えておいてください。「自分から始めよう。人に親切。」

救い主はすべての人を愛しておられただけでなく，すべての人にお仕えになりました。親切の手を多くの人に差し伸べてください。あなたの親切な行いにより，お年寄りも若い人も祝福を受けることができます。モンソン大管長は，若いころから常にお年寄りに対して特別な思いを抱いてきました。ちょっとした訪問をしたり，すぐにほほえんだり，しわの寄った弱々しい手を握ったりすることの価値を理解しています。そのようなささいな慈愛の行いは，時に長く寂しい灰色の日々の生活に彩りをもたらします。ぜひ皆さんの祖父母や，お年寄りを心に留めてください。明日教会に行ったら周りを見回し，あなたの彩りを生活に必要としている人を見つけてください。難しいことをする必要はありません。名前を呼んであいさつをしたり，短い会話を交わしたり，いつでも助けられる用意をしておいたりするのです。ドアを開けたり，家や庭の手伝いを申し出たりしてくれますか。若い皆さんにとっては簡単なことが，お年寄りにとってはとてつもなく大変な作業である場合があります。覚えておいてください。「自分から始めよう。人に親切。」

家族の中で慈悲深くあることは，時折最も難しいことがあります。堅固な家族を築くには努力が必要です。「明るく，いつでも相手を助け，思いやりを示してください。家庭内の問題の多くは，家族の自分勝手で不親切な言動から生まれます。家族の必要に心を配ってください。いじめたり，けんかをしたり，口争いをしたりするのではなく，平和を作り出す人になるように努めてください。」[9] 覚えておいてください。「自分から始めよう。人に親切。」

イエスは子供たちを愛し，腕に抱き，祝福されました。[10] 救い主のように，皆さんは優しさをもって，自分の弟や妹だけでなくすべての子供たちを祝福することができます。

皆さんは，自分の生活と模範が幼い子供たちに与える影響の大きさを理解していないかもしれません。最近，地元の高校で託児所を運営するある友人から手紙をもらいました。その高校には教会の会員である若い男性と若い女性が数人通っています。友人は次のような経験を紹介してくれました。「小さな子供たちと一緒に廊下を歩いていると，たくさんのロッカーの扉の内側にイエス様の絵がはってあるのに気づきます。それはすてきな光景です。一人の子供がある〔若い女性の〕ロッカーの開いた扉の内側にイエス様の絵を見つけ，『見て！ イエス様が学校にいるよ』と言いました。その生徒はかがんで子供を抱き締めながら，感動して涙を流しました。わたしは，その若い女性が周りの人々の良い模範となっていることに感謝しました。多くの青少年たちが，時折，世の騒音や過酷な状況に取り巻かれている困難なときにあっても真理と義を擁護し，御霊を生活に招くために自分のできることをしようと努めていることを知ると，心が高められます。教会にはすばらしい青少年たちがいます。」

まったく同感です。若い女性の皆さん，皆さんはイエス・キリストを中心に生活することにより，世界を変え，「主が望まれる者にな〔る〕」ことができます。[11]

皆さんが善意にあふれる生活を送っていることに感謝します。自分とは異なるタイプの人に対しても思いやりを示し，友人

やお年寄り，家族，幼い子供たちに親切にし，孤独な人や，困難や心痛を抱える人の隣人となってくれていることに感謝します。皆さんは慈善を通して「〔主の〕光へと人を導く」ことができます。[12] 皆さんが「自分から親切を始める」ことを心に留めていることに感謝します。

わたしはトーマス・S・モンソン大管長が神の預言者であることを知っています。わたしたちは慈善の模範である大管長の生涯から学ぶことができます。預言者に従いましょう。大管長の模範から学び，その言葉に耳を傾けましょう。わたしはイエス・キリストの福音を信じています。また，ジョセフ・スミスを通して神権が地上に回復されたことを知っています。

救い主が生きておられ，わたしたち一人一人を愛しておられることを知っています。主はすべての人のために命をささげてくださいました。わたしたちがイエス・キリストを中心に生活し，互いに愛し合い，仕え合うことによって「主の道に従〔う〕」ことができますように。[13] そうすることにより，世界をより良い場所にできると知っています。なぜなら，「わたしたちは……慈善……を信じる」からです。[14] イエス・キリストの御名により証します，アーメン。■

注

1. 信仰箇条1：13参照
2. *Oxford English Dictionary Online*，第2版（1989年），“benevolent”，oed.com参照
3. 「自分から始めよう」『子供の歌集』83
4. 「徳の守り手」『若人の強さ（メディア版）2011年——わたしたちは信じます』（DVD）lds.org/youth/video/youth-theme-2011-we-believeからも利用可能
5. ルカ10：25，27，29，30，33－35
6. ジェリー・アール・ジョンストン，“The Unity in a Ward's Uniqueness,” *Mormon Times*，2011年2月9日付，M1，M12
7. トーマス・S・モンソン「勇気を持てるように」『リアホナ』2009年5月号，124
8. 「徳の守り手」
9. 『若人の強さのために』（小冊子），10
10. マルコ10：16参照
11. 「徳の守り手」
12. 「徳の守り手」
13. 「徳の守り手」
14. 信仰箇条1：13

中央若い女性会長
イレイン・S・ダルトン

徳の守り手

主の聖なる神殿で皆さんを待つあらゆる祝福を受けるにふさわしくなれるように，今備えてください。

心に感じることを言葉では表現できないときがあります。皆さんが神の娘であり，永遠の責任を受けていることを，御霊（みたま）が皆さんの心に証（あかし）してくださるように祈ります。皆さんはイスラエルの希望です。愛に満ちた天の御父の，選ばれた，高貴な娘なのです。

先月，ある若い女性の神殿結婚に参列する機会がありました。彼女のことは生まれたときから知っています。わたしは結び固めの部屋に座り，神殿の光に輝く美しいシャンデリアを見ながら，赤ちゃんの彼女を初めて抱いた昔のことを思い出していました。お母さんに小さな白いドレスを着せてもらった彼女は，それまで見た中でも指折りの美しい赤ちゃんだと思いました。わたしが回想していると，彼女がまた白いドレスに身を包んで入って来ました。光り輝き，幸せそうな様子で部屋に入って来た彼女を見ながら，わたしは，すべての若い女性がこの瞬間を思い描いてほしい，そしてふさわしさを常に保てるように努力してほしい，と心から願いました。ふさわしさを保つのは，昇栄の祝福を享受できるよう，神聖な聖約を交わして守り，神殿の儀式を受けるためです。

二人は聖壇にひざまずき，人の理解を超えた約束を受けました。その約束は，この世の旅路にあって二人を祝福し，強め，助けてくれるものです。世界が二人のために静止し，天に大きな喜びがあった瞬間でした。結婚したばかりの二人が部屋の大きな鏡をのぞき込むと，だれかが新郎に何が見えるかと聞きました。彼は「わたしより前に生きたすべての先祖が見えます」と答えました。そして，二人で反対側の壁にかけられた大きな鏡をのぞき込むと，新婦が目に涙をいっぱいにためながら「わたしたちの後に続く人たちが見えるわ」と言いました。彼女は自分の将来の家族，自分の子孫を見たのです。彼女はそのとき純潔で徳高くあるべきことを信じることがどれほど大切かを改めて理解したに違いないと思います。ふさわしい備えをした男女が神殿の聖壇にともにひざまずいている姿ほど美しい光景はありません。

若い女性として過ごす年月を通して，皆さんは神殿に備えることができます。皆さんは神殿で，神の貴い娘に用意されている祝福を受けるでしょう。天の御父は皆さんを愛し，幸せになってほしいと望んでおられます。祝福を受け，幸せになるためには「徳の道を歩」[1] み，「交わした聖約を固く守」[2] らなければなりません。

若い女性の皆さんは，倫理観の乱れや悪を許容する考え，女性の搾取（訳注——不当な条件で女性を働かせたり，倫理的でない方法で女性を扱ったりすること），男女の役割に関するゆがんだ考えがますます蔓延する世界に住んでいます。そのような中で皆さんは自分自身や家族，そし

て皆さんにかかわるすべての人を守っていかなければなりません。徳の守り手となる必要があるのです。

徳とは，また守り手とは何でしょうか。「徳とは高い道徳的標準に基づいた思いと行いのパターンである。徳には純潔や清さが含まれる」[3]とあります。では，守り手とは何でしょう。守り手とは，守り，保護し，防御する人です。[4] 皆さんは徳の守り手として，道徳的な清さを守り，保護し，防御するのです。なぜなら，人の生命を創造する力は神聖で高貴な力なので，結婚するまで守っておかなければならないからです。また徳は，聖霊を伴侶（はんりょ）とし，その導きを受けるために必要な条件です。皆さんの住むこの世を立派に生き抜いていくためには，聖霊の導きが必要です。徳高くあることは，神殿に参入するために必要な条件です。救い主の御前（みまえ）にふさわしく立つためにも必要な条件です。皆さんはそのときのために今備えているのです。『成長するわたし』と『若人の強さのために』に書かれている標準は重要です。この二つの冊子に書かれている原則に従って生活するなら，皆さんは強められ，「み国にふさわしく」[5]なる助けが得られるでしょう。

昨年の夏，ユタ州アルパインの若い女性たちが「み国にふさわしく」なろうと決意しました。そして開拓者の一人だったジョン・ロー・モイルが歩いた距離に倣（なら）い，ユタ州のドレーパー神殿からソルトレーク神殿まで合計22マイル（約35キロ）の道のりを歩くことによって，神殿に心を向けようと決心したのです。石工だったモイル兄弟は，預言者ブリガム・ヤングからソルトレーク神殿の建設に取り組むよう召しを受けました。毎週彼は自宅から神殿まで22マイルの道のりを歩きました。彼の仕事の一つは，ソルトレーク神殿の東側に「聖（きよ）きを主に捧（ささ）ぐ」という言葉を刻むことでした。簡単な仕事ではなく，多くの障害を克服しなければなりませんでした。あるとき，飼っていた雌牛に足をけられ，それが完治しなかったために，足の切断を余儀なくされました。それでも彼は預言者との約束を守り，神殿建設の業に献身することをやめませんでした。木製の義足を自ら作り，何週間もたった後，再び神殿までの22マイルを歩いて自分が約束した務めを果たしたのです。[6]

シーダーヒルズ第6ワードの若い女性たちは，祖先の一人のために，また，神殿に入るにふさわしくありたいという気持ちを鼓舞してくれる人々のために，同じく22マイルの道のりを歩こうと決めました。毎週ミューチャルで訓練し，歩きながら自分たちが神殿について学んでいることや感じていることを語り合いました。

そして早朝，祈りをささげた後，神殿に向かって歩き始めました。出発するとわたしは彼女たちが自信にあふれていることに感銘を受けました。よく備えていましたし，彼女たち自身もそれを自覚していました。目標を一心に見詰めていました。彼女たちの一歩一歩は，今神殿に参入する備えをしている皆さんの歩みを象徴していました。皆さん個人の訓練は，日々の個人の祈りやモルモン書を毎日読むこと，また『成長するわたし』に取り組むことですでに始まっています。

若い女性たちが歩き続けた道中には注意をそらすものもありました。しかし彼女たちは目標から目を離しませんでした。足にまめができたり，ひざが痛くなったりした人もいましたが，それでも歩き続けました。皆さん一人一人にとっても，神殿へと向かう道には，注意をそらすものや，痛みや障害も数多くあるでしょう。でも皆さんも決意を固く保ち，歩み続けています。若い女性たちが歩いた道は，その道を歩いたり車で通ったりしたことのある指導者が示してくれた最も安全で最短の道のりでした。同じように皆さんの道も示され

ていますし，主御自身がそこを歩まれただけでなく，最後まで一歩一歩皆さんとともに歩んでくださるのです。

若い女性たちが神殿まで歩いた道の両わきで，両親やきょうだい，神権指導者が守り手の役割を果たしてくれました。彼らの仕事は，すべての若い女性が危険から安全に守られるようにすることでした。一人一人が確実にしっかり水分を取れるように，また，スタミナを保つために十分な栄養を補給できるようにしました。休憩し，水を飲めるように，神権指導者によってところどころに支援所が設置されていました。若い女性の皆さん，皆さんが神殿に向かって歩むときにも，父親や母親，ビショップ，そしてほかにもたくさんの人が皆さんの守り手となってくれることでしょう。注意を促し，道を示し，万が一皆さんがけがをしたり道を外れたりするようなことがあれば，助けの手を差し伸べてくれるでしょう。

神殿まで歩いた若い女性たちのコース最後の数キロには，きょうだいや，若い男性や友達が，この強い意志を持った若い女性たちを支援し，応援するために集まっていました。その様子にわたしは感動しました。両足に大きなまめができてしまった妹を背負って神殿までの最後の道のりを歩いた一人の兄の姿もありました。目的地に到着したこのすばらしい若い女性たちは，涙を流しながら神殿に触れ，いつも神殿に参入するのにふさわしくあろうという静かな決意を胸に抱いたのでした。

彼女たちの神殿までの歩みは，人生にたとえられます。両親と神権指導者は道の傍らで見守り，支援と助けを与えてくれました。若い女性たちは互いに守り合い，励まし合いました。若い男性たちは，若い女性たちの力，決意，スタミナを称賛しました。きょうだいはけがをした姉や妹を背負いました。家族は神殿にたどり着いた若い女性を無事家に連れて帰り，ともに喜びました。

神殿に続く道にとどまるには，自らの徳を守り，付き合う人々の徳を守らなければなりません。なぜでしょうか。モルモン書の中でモルモンは，徳と純潔は「あらゆるものに勝って最も大切で貴いもの」[7]であると教えています。

皆さん一人一人は，徳の守り手となるために何ができるでしょうか。まず，自分には良い結果を出すことができる，良い影響を及ぼすことができると信じることから始まります。決意することから始まるのです。わたしが若い女性のとき，決意の中には１度だけすればよいものがあると学びました。わたしは小さなノートに，いつも必ずすることと，決してしないことを書き出しました。その中には，知恵の言葉を守る，毎日祈る，什分（じゅうぶん）の一を納める，また決して教会を休まないことなどが含まれていました。わたしはこれらの決心を１度したので，選択するときには，何をするべきかはっきりと知っていました。なぜならあらかじめ決めていたからです。高校の友人から「少しくらいお酒を飲んでも，大丈夫よ」と言われたときも，わたしは笑って「12歳のとき，お酒は飲まないって決めたの」と答えました。あらかじめ決めておくことは，徳の守り手となるのに役立ちます。皆さん一人一人に，いつも必ずすることと決してしないことのリストを書いてほしいと思います。そしてそのリストに従って生活してください。

徳の守り手になるとは，服装だけでなく，言葉や行い，メディアの使い方についても常に慎み深くあることを意味します。徳の守り手になるとは，若い男性に御霊や神権の力を失わせるような言葉や映像を決してメールで送信しないことを意味します。自分の体が神の宮であり，結婚前に創造の神聖な力をみだりに使ってはならないことを理解したうえで，純潔の大切さを理解していることを意味します。皆さんは神聖な力を持ち，その力にはほかの霊を地上にもたらし永遠の霊を宿す肉体を受けられるようにするという神聖な責任を伴うことを理解しています。この力には皆さん以外の神聖な霊がかかわります。皆さんは「宝石よりも尊い」[8]ものの守り手です。忠実であってください。従順であってください。主の聖なる神殿で皆さんを待つあらゆる祝福を受けるにふさわしくなれるように，今備えてください。

今晩この話を聞いている母親の皆さん，皆さんは自分の娘にとって，慎み深さと徳の大切さを示す最も重要な模範です。皆さんに感謝します。自分は神の貴い娘であること，また，性的な魅力に基づいた価値観を持つべきではないことを娘たちに教えるのを決してためらわないでください。そして皆さんが信じることが皆さん自身の態度や身だしなみに正しく，一貫して反映されていることを見せるようにしてください。[9] 皆さんもまた，徳の守り手なのです。

今週わたしは再びエンサインピークに登りました。早朝，「主の家の山」であるソルトレーク神殿を山頂から見下ろしました。その日もよく晴れていました。開拓者はロッキー山脈の頂に来るために，持てるすべてをささげました。皆さんやわたしが神殿の祝福を受け，家族として永遠に結び固められるようにするためです。40年にわたって，犠牲を払い，骨の折れる仕事を続け，アルパインから神殿までの道のりを歩いたのです。なぜでしょう。それは彼らが，皆さんと同じように信じていたからです。預言者を信じ，預言者が神とイエス・キリストにまみえ，言葉を交わしたことを信じていたからです。救い主を信じ，モルモン書を信じていたからです。だからこそ彼らは「わたしたちはすべてのことを信じ，すべてのことを望む。わたしたちはすでに多くのことを堪え忍んできており，またすべてのことを堪え忍べるようにと望んでいる」[10] と言うことができたのです。 彼らが多くを堪え忍んだように，わたしたちにもきっとできます。信仰箇条の第13条をわたしたちが信じている理由は，そこに書かれている事柄に従うことによって，神殿に入り，いつの日か天の御父の御前に立つのにふさわしくなるために，試され，清められ，結び固められるからです。そのためには，「み国にふさわしく」なることが求められます。そして今備え，自分には困難な事柄を行うことができるという自信を増し加えていかなければなりません。

若い女性の皆さん，皆さんは偉大な業に携わっています。独りではありません。徳と純潔を守るなら，力が与えられます。交わした聖約を守るなら，聖霊が導き，守ってくださいます。皆さんは天から遣わされた天使の軍勢に取り囲まれるでしょう。トーマス・S・モンソン大管長はこう語りました。「この大いなる人生航路をわたしたちは独りで歩むのではないということを覚えておいてください。わたしたちには，主の助けを受ける権利があります。」[11] ふさわしい状態で主の神殿に来る日のために備えてください。神聖な聖約を交わす備えをしてください。徳の守り手として，皆さんは，主の聖なる宮で救い主を求めたいと思うことでしょう。

神が生きておられること，そして神の愛する御子，贖い主であるイエス・キリストが生きておられることを証します。主の限りない贖罪と恵みの力によって，皆さん一人一人が神殿への道にあって，そして神と御子のみもとに戻る道にあって，導かれ，守られるでしょう。皆さん一人一人が強められて，皆さんの最高の時間となる日を迎えられるように祈ります。黙示録に記された麗しい日のために生活してください。その日皆さんは「白い衣を着て，……歩み続ける」でしょう。「〔なぜなら皆さんは〕それにふさわしい者」[12] だからです。イエス・キリストの御名により，アーメン。■

注

1. 教義と聖約25：2
2. 教義と聖約25：13
3. 『若い女性 —— 成長するわたし』〔冊子〕70
4. thefreedictionary.com/guardian 参照
5. 「さらに聖くなお努めん」『賛美歌』74番
6. ディーター・F・ウークトドルフ「自分の立っている場所で持ち上げる」『リアホナ』2008年11月号，55参照
7. モロナイ9：9
8. 箴言3：15
9. M・ラッセル・バラード「母と娘」『リアホナ』2010年5月号，18－21参照
10. 信仰箇条1：13
11. トーマス・S・モンソン「大いなる遺産」（ヤングアダルトを対象とした教会教育システムファイヤサイド，2009年1月11日）http://lds.org/library/display/0,4945,538-1-4773-15,00.html
12. 黙示3：4

ブラジル・サンパウロ

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

生きた証

証は，信仰の祈りや，聖文に記された神の御言葉を求める強い望み，真理に従うことによって培う必要があります。

愛する若い姉妹の皆さん，皆さんは主の教会の明るい希望です。今晩，そのことを皆さんに確信してもらえるよう話します。その確信が神から受ける深い証となるならば，皆さんが日々，時々刻々何を選ぶかが定まってくるでしょう。そして皆さんにとっては一見ささいな選択を通して，主は皆さんが望む幸福へと導いてくださいます。皆さんの選択を通して，主は無数の人を祝福することがおできになります。

今晩この場に集うという選択は，大切な選択の一つに数えられます。100万人以上の若い女性と母親，指導者が招待されています。ほかのあらゆる選択肢の中から，皆さんはこの場に集うことを選びました。皆さんに確信があったから選んだのです。

皆さんは，イエス・キリストの福音を信じる人々です。皆さんはその信じていることのために，主の僕の声を聞こうとこの場に集まりました。その信仰のために，この場で聞く事柄や感じる事柄によって，生活が向上するよう願いました。皆さんは，イエス・キリストに従うことがさらに幸福になる方法であると心に感じました。

大事な選択をしたつもりはなかったかもしれません。友人や家族と一緒に過ごすことに魅力を感じたのかもしれません。誘ってくれた人の親切にこたえただけかもしれません。しかし，気づいていなかったとしても，皆さんは「わたしに従ってきなさい」と繰り返し招かれる救い主のかすかな声を感じていたはずです。[1]

ここに集っている間に，主は主を信じる皆さんの信仰を深め，証を強めてくださいました。皆さんが聞いたのは言葉や音楽以上のものです。皆さんは，地上における主の真の教会に生ける預言者がおり，幸福に至る道が主の王国にあるという御霊の証を心に感じました。この教会が今日地上における唯一まことの生ける教会であるという皆さんの証は強められました。

全員が同じことを感じたわけではありません。ある人は，トーマス・S・モンソン大管長が神の預言者だという御霊の証を感じたでしょう。またある人は，正直や徳，すべての人に善を行うことこそが救い主の特質だと感じたかもしれません。そして，主のようになりたいというさらに大きな望みを抱いたことでしょう。

皆さんはイエス・キリストの福音に対する証を強めたいと願っています。ブリガム・ヤング大管長は，はるか昔に皆さんの必要を予見していました。彼は神の預言者としての予見力により，142年前に皆さんと皆さんの必要を見たのです。ヤング大管長は愛にあふれた父親であり生ける預言者でした。

ヤング大管長はこの世の影響が自分自身の娘たちに襲いかかるのを見ることができました。この世の影響のために娘たちが幸福に至る主の道からそれているのを見ました。当時これらの影響が及ぶようになった一つの原因は，それまで隔絶され守られていた聖徒たちが大陸横断鉄道により一般社会と結ばれたことでした。

ヤング大管長は，今日の驚異的な科学技術により，手のひらに収まる機器を用いて全地の無数の考えや人々につながる選択ができる様子を見ることはなかったかもしれません。しかしヤング大管長は，自分の娘たちや皆さんにとって，愛にあふれた生ける神と，神の幸福の計画に対する力強い証に基づいて選択を行うことがいかに大切かを予見していました。

ヤング大管長が娘たちに与えた，預言者としての霊感あふれる次の勧告は，常に皆さんにも当てはまります。

この勧告こそ，わたしの今晩の話の中心となるものです。ヤング大管長がこれを語った場所は自宅の一室です。今このメッセージを全世界の国々に住む神の娘たちに向けて語っているこの場から1マイル（約1.6キロ）も離れていない所でした。大管長はこう述べたのです。「イスラエルの若い娘たちは真理に対する生きた証を得る必要があります。」[2]

その後ヤング大管長は若い女性の団体を創設しました。現在主の教会で「若い女性」と呼ばれている組織の前身です。大管長は，日曜日の晩に自宅の居間で開かれた集会でこの団体を創設したのですが，そのときに彼が選択した事柄のすばらしい影響の一端を，皆さんは今晩感じたことでしょう。

100年以上たった今，全世界のイスラエルの娘たちは真理に対する自分自身の生きた証を持ちたいと望んでいます。自分を強め，永遠の命に至る道を導いてくれる，その成長する生きた証を今から後ずっと持つ必要があります。そして，そのような証があれば，キリストの光を全世界のあらゆる世代の兄弟姉妹に届ける人となることができます。

皆さんは証がどのようなものであるか

経験から知っています。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は，証とは謙虚に真理を求める人に啓示により与えられる確固たる知識である，と教えました。スミス大管長は，その啓示を与えてくださる聖霊について，また証について次のように語っています。「聖霊が語られるときには，説得力が非常に強いため一切心に疑いが残りません。それは，イエスがキリストであられ主の福音が真実であることを心から知ることができる唯一の方法です。」[3]

皆さんもこのような霊感を感じたことがあるでしょう。今晩のわたしがそうであったように，福音のある一部を確認する霊感であったかもしれません。信仰箇条第13条の「正直，真実，純潔，慈善，徳高く」あるという言葉を聞いたとき，わたしはまるで主が語っておられるように感じました。それらが主の特質であることを再び感じたのです。ジョセフ・スミスは主の預言者であると感じていました。ですから，わたしにとっては単なる言葉ではなかったのです。

わたしの頭には，ユダヤのほこりっぽい道とゲツセマネの園の光景が浮かびました。そして，ジョセフがニューヨークの森の中で御父と御子の御前にひざまずいたときと同じような気持ちを少なくとも心に感じました。ジョセフが見たような太陽の輝きにも勝る光を心で見ることはできませんでしたが，証の温かさと不思議を感じました。

イエス・キリストの福音の全部の真理について少しずつ確認を受けるにつれて，証も少しずつ自分のものになっていきます。例えば，モルモン書を読み深く考えるときに，以前読んだ節が新鮮に見え，新たな考えが思い浮かぶことがあります。その考えが真実であるという確認が聖霊から与えられると，証の幅と深みが増します。生きた証は，聖文を研究し，祈り，深く考えることにより増し加えられます。

この生きた証を手に入れ維持する方法を最もよく説明しているとわたしが考える記述は，これまでにもよく引用されてきましたが，モルモン書のアルマ書第32章です。皆さんも何度も読んだことがあるかもしれません。わたしはこの箇所を読む度に新たな光を見いだします。今晩，この聖句の中で教えられている教訓を今一度おさらいしましょう。

霊感あふれるこの記述の中で，証を求めるにはまず「ごくわずかな信仰」と，大きくなってほしいという望みが必要だと教えられています。[4] 今晩，救い主の親切や正直に関する感動的な話，主の戒めと贖罪によりわたしたちが到達できる純粋さに関する心揺さぶる話を聞きながら，信仰とその望みを感じたことでしょう。

信仰の種はすでに皆さんの心の中に植えられました。さらには，アルマ書の中で約束されている，心の広がりを幾分か感じているかもしれません。わたしもそうでした。

しかし，生長する植物のように，証は養わなければしおれてしまいます。頻繁にささげる心からの信仰の祈りは，きわめて重要で必要な栄養です。受け入れた真理に従うことにより，証を維持し強めることができます。戒めに従うことは，証に与えなければならない栄養の一つです。

救い主のこの約束を覚えているでしょう。「神のみこころを行おうと思う者であれば，だれでも，わたしの語っているこの教が神からのものか，それとも，わたし自身から出たものか，わかるであろう。」[5]

この約束はわたしに対して果たされてきましたし，皆さんにも有効です。若いころにわたしが学んだ福音の教義の一つは，神のあらゆる賜物のうち最も大いなるものは永遠の命だということです。[6] 永遠の命の一つの側面は，家族とともに愛のうちに永遠に住むということであると，わた

しは学びました。
これらの真理を初めて聞き真実であるという確認を心に受けて以来，わたしは自分の家族と家庭の中で争いを避け平和を作り出すために，できる限り適切な選択をしなければならないと感じてきました。
この世が終わって初めて，すべての祝福の中で最も大いなる祝福である永遠の命を完全に享受することができます。しかし，わたしはこの世の試練の最中にも，天における自分の家族がどのようなものかをわずかながらかいま見たことがあります。それらの経験から，神殿で行使される結び固めの力が実在するというわたしの証ははぐくまれ，強められてきました。
二人の娘が先祖のために神殿でバプテスマを受ける姿を見て，わたしの心は娘たちと，名前が見つかったその先祖たちに向けられました。家族の心が互いに向けられるというエリヤの約束がわたしの家族の中で果たされました。[7] そして，アルマ書で約束されているように，わたしの信仰は確かな知識となりました。
救い主が地上での務めの後に霊界に来られたときに先祖が感じた喜びを，わたしはわずかながら感じたことがあります。教義と聖約にこのように記されています。
「そして，聖徒たちは彼らの贖（あがな）いを喜び，ひざまずき，神の御子を贖い主，および死と地獄の鎖からの解放者として受け入れた。
彼らの顔は光を放ち，主の前から発する輝きが彼らのうえにとどまった。そして，彼らは主の聖なる名を賛美した。」[8]
わたしが先祖の喜びを感じられたのは，永遠の命に関する主の約束が本物であるという自分の証に基づいて行動したためでした。救い主が約束されたとおり，証に従って行動することを選択することにより，その証が強められたのです。
主はまた，従順になることを選ぶことに加え，真理に対する証を祈り求めなければならないと教えられました。主は，モルモン書について祈るようにという戒めの中でそのことを教えられました。預言者モロナイを通じて次のように語っておられます。
「見よ，わたしはあなたがたに勧めたい。あなたがたにとってこの記録を読むことが，神の知恵にかなうようであれば，あなたがたはこれを読むときに，アダムが造られてからあなたがたがこれを受けるときまで，主が人の子らにどれほど憐（あわ）れみをかけてこられたかを思い起こし，それを心の中で深く考えてほしい。
また，この記録を受けるとき，これが真実かどうかキリストの名によって永遠の父なる神に問うように，あなたがたに勧めたい。もしキリストを信じながら，誠心誠意問うならば，神はこれが真実であることを，聖霊の力によってあなたがたに明らかにしてくださる。
そして聖霊の力によって，あなたがたはすべてのことの真理を知るであろう。」[9]
この約束が真実であることを，すべての皆さんがすでに自分自身で確かめているか，またはすぐに確かめることを願っています。答えは，一つの力強い霊的な経験により与えられるとは限りません。わたしの場合，答えは初め静かにやって来ました。しかし，モルモン書を読みそれについて祈る度に，いっそう強い答えを受けました。
わたしは過去の出来事に依存しません。モルモン書について生きた証を固く保つためにモロナイの約束を頻繁に受けるようにしています。わたしは証という祝福が，いつまでも有効な当たり前の権利だとは思いません。
証は，信仰の祈りや，聖文に記された神の御言葉を求める強い望み，受け入れた真理に従うことによって培う必要があります。祈りを怠るならば危険にさらされます。聖文をいいかげんに学んだり読んだりするならば証は危機に瀕（ひん）します。それらは証に必要な栄養です。
アルマの警告を覚えているでしょう。
「しかし，もしあなたがたがその木に構わず，養い育てることに心を配らなければ，見よ，それが根付くことはないであろう。そして，太陽の暑さが及んでその木を熱すると，その木はまったく根がないので枯れてしまうであろう。そこであなたがたは，その木を抜いて捨てる。
さてこれは，種が良くなかったからでもなければ，実が好ましいものでなかったからでもない。ただ，あなたがたの土地がやせているためである。あなたがたがその木に養いを与えようとしないので，実を得ることができないのである。」[10]
神の御言葉をよく味わい，心から祈り，主の戒めに従うことは，証をはぐくみ大きくするためにたゆまず継続的に行うべきことです。手に余る状況に直面していつもの聖文学習が妨げられることがだれにでもあります。何らかの理由で祈らないことを選ぶ時期があるかもしれません。しばらくの間無視することを選ぶ戒めがあるかもしれません。

しかし，アルマの警告と約束を忘れると，生ける証を得たいという望みはかなえられません。

「このように，もし信仰の目をもって実を期待しながら御言葉を養おうとしなければ，あなたがたは決して命の木の実を得ることができない。

しかし，あなたがたが御言葉に養いを与えようとすれば，つまり，その木が生長を始めるときに，非常な熱意と，忍耐を伴う信仰を働かせてその実を期待しながら養いを与えようとすれば，それは根付くであろう。そして見よ，それは生長して永遠の命をもたらす木になるであろう。

あなたがたは，御言葉が自分の中に根付くように，熱意と信仰と忍耐をもってそれを養うので，見よ，やがてその実を得るであろう。その実は最も価値があり，どんな甘いものよりも甘く，どんな白いものよりも白く，どんな清いものよりも清い。また，あなたがたは満ち足りるまでその実を食べて，もう飢えることも，渇くこともないであろう。

……そのときにあなたがたは，その木があなたがたのために実を結ぶのを待ちながら示した，あなたがたの信仰と熱意と忍耐と寛容の報いを刈り入れるのである。」[11]

「実を期待しながら」というこの聖句の言葉は，今晩皆さんに与えられた賢明な教えと結びついています。これこそ，皆さんの目が将来神殿で結び固めを受ける日に向けられた理由です。皆さんが結婚する，神の神殿の結び固めの部屋で，向き合った壁の鏡に映る一続きの果てしない光を心に描くよう促されたのも，このためです。

証から生まれた望みを十分に持ってそのような日を待ち望めるならば，皆さんは強められてこの世の誘惑を退けることができるでしょう。さらに救い主のように生活しようと努力することを選ぶ度に，証は強められます。やがて，主が世の光であられることを自分自身で知ることができるでしょう。

また，自分の生活の中で光が輝きを増しているのを感じるようになるでしょう。努力なしにその日は来ません。しかし，証が増し加えられ，その証をさらにはぐくむことを選ぶならば，その日が訪れます。教義と聖約には次のような約束が記されています。「神から出ているものは光である。光を受け，神のうちにいつもいる者は，さらに光を受ける。そして，その光はますます輝きを増してついには真昼となる。」[12]

証を人々と分かち合うときに，皆さんは世の光となります。皆さんは生活の中でキリストの光を人々の前に輝かすでしょう。皆さんの愛する人たちにその光が届くよう，主は方法を見いだしてくださいます。そして，神の娘たちの信仰と証が一つとなることを通して，神は神の王国と全世界の大勢の人々の生活に神の光を注がれます。

皆さんの証と選択には，教会の希望と，将来皆さんの模範に従う世代の希望があります。「わたしに従ってきなさい」という主の招きを聞いて受け入れるという模範です。主は皆さんを御存じであり，愛しておられます。

わたしの愛と証を残します。皆さんは，愛にあふれた生ける天の御父の娘です。復活された御子イエス・キリストが救い主であり世の光であられることをわたしは知っています。聖霊が今晩，皆さんの心に真理を確認するメッセージを送られたことを証します。トーマス・S・モンソン大管長は生ける神の預言者です。このことをイエス・キリストの聖なる御名（みな）により証します，アーメン。■

ジャマイカ・セントキャサリン

注

1. ルカ 18：22
2. ブリガム・ヤング，A Century of Sisterhood: Chronological Collage, 1869 － 1969（1969年），8
3. ジョセフ・フィールディング・スミス，Answers to Gospel Questions，ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア編，全5巻（1957 － 1966年），第3巻，31
4. アルマ 32：27 参照
5. ヨハネ 7：17
6. 教義と聖約 14：7 参照
7. マラキ 4：5 － 6；ジョセフ・スミス－歴史 1：38 － 39 参照
8. 教義と聖約 138：23 － 24
9. モロナイ 10：3 － 5
10. アルマ 32：38 － 39
11. アルマ 32：40 － 43
12. 教義と聖約 50：24

大会で話された実話や物語の索引

以下に総大会で話された経験談を幾つか選びました。個人の研究や家庭の夕べ，その他の教える機会に活用してください。
数字は説教の最初のページです。

話者	実話や物語
ジーン・A・スティーブンス	（10）子供たちが什分の一を納める模範を示す。 リアムが治療の間，父親の声を聞く。
ウォルター・F・ゴンサレス長老	（13）ある記者が，教会員が伴侶を大切にしているのはほんとうの姿か，それとも見せかけなのか知りたがる。
ケント・F・リチャーズ長老	（15）少女の目には病院にいる子供たちの周りに天使が見える。
クエンティン・L・クック長老	（18）ある若い女性の福音に添った生活が，バッグの中身に表れている。 トンガの姉妹が，若い兄弟たちを助ける方法を提案する。
ヘンリー・B・アイリング管長	（22）ティートンダムの決壊の後，地域社会が奉仕活動を行う。
ボイド・K・パッカー会長	（30）ステーク会長が，妻に先立たれた男性に「思い悩むのをやめなさい」と助言する。
ダリン・H・オークス長老	（42）レイ・コックス大尉が，兵士たちの安全を守り続けるために眠らずにいる。 アロン・ラルストンが生き延びるために勇気を奮う。
M・ラッセル・バラード長老	（46）金鉱採掘者が，金の粒の価値を学ぶ。
ニール・L・アンダーセン長老	（49）シドニー・ゴーイングが，ラグビーよりも伝道を選ぶ。
ラリー・M・ギブソン	（55）執事定員会の会長が，自分の義務を学ぶ。
ディーター・F・ウークトドルフ管長	（58）男が，豪華客船のチケット代に含まれていた特権に気づかない。
ヘンリー・B・アイリング管長	（62）定員会が，森の中で行方不明になった会員を捜す。 ヘンリー・B・アイリングが忠実な大祭司を訪問する。
トーマス・S・モンソン大管長	（66）トーマス・S・モンソンが，結び固めを見に行くよう夫婦を招く。
ポール・V・ジョンソン長老	（78）若い女性が，長い闘病生活の間に改心する。
H・デビッド・バートンビショップ	（81）ロバート・テーラー・バートンが，手車隊の救助を手伝う。
シルビア・H・オールレッド	（84）若い母親が，訪問教師から奉仕を受ける。
トーマス・S・モンソン大管長	（90）ブラジルの聖徒たちが，マナウスから神殿まで長距離の旅をする。 マウ・サム家族が，神殿に行くために犠牲を払う。 トーマス・S・モンソンが，イタリア・ローマ神殿の鍬入れ式に参加する。
リチャード・G・スコット長老	（94）リチャード・G・スコットが，洗濯機を修理するよりも子供たちと遊ぶように説得される。 ジェニーン・スコットが，愛のこもったメモを保管する。 リチャード・G・スコットが，心臓の病気を持った息子の世話をする。
D・トッド・クリストファーソン長老	（97）ヒュー・B・ブラウンが，スグリの木の枝を切り落とし，後に比喩的に自分自身の枝が切り落とされる。
カール・B・プラット長老	（101）フェッテン家族が，什分の一を納めて祝福を受ける。
C・スコット・グロー長老	（108）C・スコット・グローの弟が，誤った選択をした後で悔い改める。
アン・M・ディブ	（115）クリスティーが模範を示し，ジェンが真理を探すときにその模範を思い出す。
メアリー・N・クック	（118）子供が，学校のロッカーの内側にイエス様の絵を見る。 若い女性が，疑わしい映画を見に行かないことを選ぶ。
イレイン・S・ダルトン	（121）若い女性たちが，ユタ州ドレーパーからソルトレーク神殿まで歩く。

大会を生活に取り入れる

総大会の教えを生活に取り入れるために，以下の言葉，活動，質問を，家族で話し合ったり，独りで深く考えたりしてください。

総大会の説教はconference.lds.org.から視聴できます。

注——括弧内の番号は，説教の最初のページを表しています。

子供向け

● トーマス・S・モンソン大管長は，教会は3つの新しい神殿を建てることを発表しました。これで儀式を行っている神殿と，建設中の神殿と，発表された神殿の合計が160になりました。地図を見て，アメリカ合衆国アイダホ州メリディアン神殿，アメリカ合衆国コロラド州フォートコリンズ神殿，カナダ・マニトバ州ウィニペグ神殿，そしてあなたの家からいちばん近い神殿を見つけてください。モンソン大管長は，神殿に行くために大きな犠牲を払った忠実な会員たちのことを話しました（90ページ）。その話を読むか，その話のある部分をだれかに話してください。できるだけ早く神殿に行く目標を作ってください。または，神殿に入るふさわしさを保つ方法について話し合ってください。

● アダムとエバが地上で生活したとき，天のお父様を礼拝する方法の一つは，動物をささげることでした。L・トム・ペリー長老は，新しい礼拝の方法として聖餐（せいさん）を行うことを救い主が安息日に弟子たちにお教えになったと言いました。わたしたちは今でも安息日に聖餐を受けることを通して礼拝しています。ペリー長老のお話（6ページ）を復習しながら，日曜日のふさわしい服装や，聖餐と安息日を敬うそのほかの方法を家族で話し合いましょう。

● D・トッド・クリストファーソン長老は，わたしたちはイエス・キリストと天のお父様のようになるために努力しなければならないとイエス様から教えられていると言いました（97ページ）。天のお父様は時々御自分の子供たちを「しかる／懲らしめる」ことによって，子供たちがイエス様のようになれるように助けてください

スロベニア・リュブリャナ

メキシコ・コアツァコアルコス

ます。「しかる／懲らしめる」とはどういう意味か話し合いましょう。大きくなりすぎたスグリの木の話を読むか，だれかに話してあげましょう。失敗することから，もっと強く成長するための助けが得られることについて話してください。

● リチャード・J・メインズ長老は，家族は縄のようだと教えました（37ページ）。縄はたくさんの糸をより合わせてできています。その一本一本は弱いけれども，たくさん合わさることで強くなっています。同じように，家族みんなが正しいことを行い，助け合うならば，一人一人が強められ，一人ではできないようなこともできるのです。家族一人一人に1本の糸かひもを渡してください。家族が互いに奉仕し合い，強め合う方法について話します。それから，糸やひもがたくさん合わさることでどれほど強くなるかを見せてください。

青少年向け

● あなたのクラスや定員会は，最高に一致していますか。ヘンリー・B・アイリング管長の説教（62ページ）を復習し，あなたのグループがさらに一致できるようにあなたにできることのリストを作りましょう。

● ラッセル・M・ネルソン長老は「カフェテリア式」の従順について説教しました（34ページ）。家族，クラス，または定員会でその意味について，またなぜそれではうまくいかないかについて話し合ってください。

● M・ラッセル・バラード長老は，キリストの純粋な愛は，親切な行いと奉仕という簡単な行為で表されると教えました（46ページ）。あなたのクラスや定員会で，あなたのワードや支部や地域社会の中のだれかに愛を表す方法を計画し，その計画を実行しましょう。

● クエンティン・L・クック長老は，青少年のダンスパーティーの後で見つかった忘れもののバッグの話をしました（18ページ）。指導者たちがバッグの中身を見たときに，そのバッグの持ち主である若い女性についてどのようなことが分かったでしょうか。あなたのバッグや財布や学生かばんの中身は，あなたについて何を物語るでしょうか。もっと違う物をいつも持ち歩くようにしたいと思いますか。

● リン・G・ロビンズ長老は，もっと救い主のようになることについて説教しました（103ページ）。主から言われたことを*行う*だけでなく，イエス・キリストのように*なる*とは何を意味するか考えてください。それから，もっと救い主のようになるために，自分の生活の中で何を変えるべきかについて考えてください。

成人向け

● ディーター・F・ウークトドルフ管長（58ページ）は，自分に与えられた特権を生かさなかった男性の話をしました。その男性は豪華客船が提供したたくさんの活動や豪華な食事に行きませんでした。それらすべてが船のチケットの料金に含まれていることに気づかなかったからです。「神の神権を持つわたしたちに〔与えられている〕神聖な力，賜物，祝福という機会と権利」を生かす方法について，神権を持つ家族と一緒に考えてください。

● ボイド・K・パッカー会長は，赦しの力について説教しました（30ページ）。あなたには，赦さなければならない人がいますか。「思い悩むのをやめる」必要のある難しい経験がありますか。平安を見いだし，赦しの力を見いだせるように主の助けを求めてください。

● リチャード・G・スコット長老は，長老と妻のジェニーンが互いにメモを書くことで愛を示し合っていたことについて話しました（94ページ）。伴侶に対して自分がどれだけ愛し感謝しているかを伝えるメモを書くことについて考えてみてください。それを伴侶が見つけそうな場所に置いておきましょう。

● デビッド・A・ベドナー長老は，証を得ることについてのジョセフ・F・スミス大管長の経験を引用しました（87ページ）。その話を復習し，あなた自身の証を強めてくれた経験について考えてください。■

中央補助組織会長会

扶助協会

第一顧問
シルビア・H・オールレッド

会長
ジュリー・B・ベック

第二顧問
バーバラ・トンプソン

若い女性

第一顧問
メアリー・N・クック

会長
イレイン・S・ダルトン

第二顧問
アン・M・ディブ

初等協会

第一顧問
ジーン・A・スティーブンス

会長
ローズマリー・M・ウィクソム

第二顧問
チェリル・A・エスプリン

若い男性

第一顧問
ラリー・M・ギブソン

会長
デビッド・L・ベック

第二顧問
エードリアン・オチョア

日曜学校

第一顧問
デビッド・M・マッコンキー

会長
ラッセル・T・オスガソープ

第二顧問
マシュー・O・リチャードソン

わたしたちの時代のための教え

メルキゼデク神権と扶助協会の第4日曜日のレッスンは,「わたしたちの時代のための教え」を学ぶ時間です。各レッスンは,最新の総大会特集号の説教から一つまたは複数の説教を基に準備できます。ステーク会長および地方部会長は,レッスンに用いる説教を指定することができます。または,この責任をビショップおよび支部会長に委任することもできます。これらの指導者は,メルキゼデク神権者の兄弟と扶助協会の姉妹が同じ日曜日に同じ説教を学ぶことの大切さを強調するべきです。

第4日曜日の集会の出席者は,教会機関誌の,最新の総大会特集号をよく研究し,クラスに持参するよう奨励されています。

説教に基づいてレッスンを準備する際の提案

説教を研究し教えるに当たり,聖なる御霊(みたま)がともにあるよう祈ってください。教師はほかの資料を使ってレッスンを準備したいと思うことがあるかもしれませんが,大会説教は承認された教科課程用資料です。教師の務めは,人々が最新の総大会で教えられた福音を学び,それに従って生活できるよう助けることです。

クラスの生徒の必要に合った原則と教義を探しながら,説教の内容を検討してください。また,そのような真理を教えるのに役立つ説教から,物語や参照聖句,声明を探してください。

原則と教義をあなたがどのように教えるかを示す大まかな計画を立ててください。計画には,クラスの生徒が以下のことを行ううえで役立つ質問を取り入れてください。

- 説教に含まれる原則と教義を探す。
- その意味について考える。
- 理解したことや考え,経験,証(あかし)を分かち合う。
- それらの原則と教義を実生活に応用する。

月	第4日曜日のレッスン教材
2011年5月—2011年10月	『リアホナ』2011年5月号掲載の説教 *
2011年11月—2011年4月	『リアホナ』2011年11月号掲載の説教 *

*これらの説教は,conference.lds.org にアクセスすることにより,(多くの言語で)インターネット上で視聴および閲覧できます。(訳注——ldschurch.jp からもアクセスできます。「福音ライブラリ」「総大会」の順にクリックしてください。総大会号を閲覧するには「福音ライブラリ」「リアホナ」の順にクリックし,2011年5月号のアイコンをクリックしてください。)

教会の指導者たち，福祉を祝い，神殿を発表する

末日聖徒イエス・キリスト教会第181回年次総大会が，アメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで行われ，カンファレンスセンターでの5つの部会に10万人以上が出席した。さらに数百万人がテレビ，ラジオ，衛星，インターネットの放送を視聴した。

世界中の会員が93の言語で大会に参加した。大会の音声，映像，文字情報はすでに多くの言語でconference.lds.orgに掲載され，間もなくDVDとCDで入手できるようになる。

トーマス・S・モンソン大管長は，大会の冒頭で，アメリカ合衆国コロラド州フォートコリンズ，アメリカ合衆国アイダホ州メリディアン，カナダ・マニトバ州ウィニペグの3か所に新たに神殿が建設されることを発表した。これにより，発表された神殿と建設中の神殿の合計は26となる。現時点で儀式が行われている神殿は134である。

上――アメリカ合衆国カリフォルニア州マデラの教会所有のブドウ園でブドウを収穫する若い男性。このブドウは教会の福祉制度のためにレーズンに加工される。下左――ポルトガル・コインブラで総大会の衛星放送に参加する家族。

モンソン大管長は，伝道活動の大切さも強調した。「伝道活動は神の王国にとって欠かせないものです。」現在世界でおよそ5万2,000人の宣教師が340の伝道部で奉仕している。

土曜午後の部会で，10人の中央幹部と41人の地域七十人が支持された。その一方で，34人の地域七十人が解任された。さらに，七十人第二定員会のドン・R・クラーク長老が七十人第一定員会で奉仕するよう召された。2010年統計報告では，教会員数は現在1,400万人を超えると発表された。

2日に及ぶ大会で話された多くの説教が教会の福祉と教会の独特な福祉プログラムを中心テーマとし，福祉プログラムが2011年で75周年を迎えることが語られた。

土曜の部会で，大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長は，福祉プログラム75周年を祝うために，世界中の会員に1日の福祉活動に参加するよう呼びかけた。この奉仕の日は，ワードまたはステーク単位で今年中に設定されるべきである。地元の指導者がそれぞれのプロジェクトの詳細を決めるべきであり，会員たちはふさわしければ人々を招くように奨励されている。

モンソン大管長は大会を閉じるに当たり，キリストに関する復活祭の証（あかし）を述べた。「最後の瞬間，主は背を向けることもおできになりました。しかし，そうはなさいませんでした。主は万物を救うことができるように，万物の下に身を落とされたのです。それにより現世を越えてわたしたちに命を与えてくださいました。」■

ホセ・L・アロンソ長老

七十人

教会員になる前でさえ，ホセ・ルイス・アロンソ・トレホ長老は，祈りの力について証を持っていました。「11歳のとき，わたしはもう少しで死ぬところでした。医師たちがわたしを見放したと話しているのを聞きました。わたしは何度も何度も主に祈りました。すると，主はわたしを癒してくださいました。

後にジョセフ・スミスの経験を聞いたとき，たった14歳の少年がどのように神と話したか知り，それがほんとうの出来事だと分かりました。神が祈りにこたえてくださること，神がわたしたちを御存じであることをわたしは知っていました。」

アロンソ長老は，モルモン書を研究したときにも，そのような平安に導かれました。「祈りとこの書物のおかげで，イエスがキリストであられることに確信を持っています。」

アロンソ長老は1958年11月，メキシコ・メキシコシティーにおいて，ルイス・アロンソ，ルース・アロンソ夫妻の間に生まれました。10代のころ，メキシコ・クアウトラに引っ越し，そこで教会員になりました。ミューチャルに参加することで，しっかりした青少年たちと知り合いました。彼らのフェローシップのおかげで，そこが第2の家のように感じました。また，ミューチャルに出席していたときに，将来の妻となる女性，レベッカ・サラサール姉妹に出会いました。

アロンソ長老は19歳になったとき，メキシコ・ヘルモシロ伝道部で専任宣教師として奉仕しました。伝道の後，アロンソ長老とレベッカは1981年2月24日にアリゾナ州メサ神殿で結婚しました。彼らには二人の子供がいます。

教会教育システムのインスティテュートディレクターとして働くことに加えて，アロンソ長老は，小児発達学の医学学位を持ち，内科医および外科医として働きました。長老の職歴は，病気だった子供時代に主が祝福してくださったように，人々に仕え祝福したいという長年にわたる願いを表しています。「人々への奉仕は，一致と兄弟愛を築き，生活に主の力を招くことができます。」

七十人第一定員会の召しを受ける前，アロンソ長老はビショップ，ステーク伝道部会長，ステーク会長，伝道部会長会顧問，メキシコ・ティフアナ伝道部会長，地域七十人として奉仕しました。■

イアン・S・アルデルン長老

七十人

電話がかかってきたとき，ドアをノックする音が聞こえたとき，イアン・シドニー・アルデルン長老の口から出てくる最初の言葉は，たいていこうです。「どのようにお助けしましょうか。」

1954年，ニュージーランドのテアロハでハリー・ウィルトシャー，グラディス・マクビカー・ウィルトシャー夫妻の間に生まれたアルデルン長老は，一見小さな奉仕が，与える人と受ける人の生活に大きな変化をもたらすことがよくあると語りました。「奉仕はいつも簡単にできるわけではありません。でも，奉仕はいつも生活に祝福をもたらします」とアルデルン長老は言います。

アルデルン長老夫妻はニュージーランドのチャーチカレッジに通っていたころに出会い，1976年1月17日にニュージーランド・ハミルトン神殿で結婚しました。4人の子供は，愛をもって互いを気遣い，福音の原則を理解しそれに従って生活することを優先する家庭で育てられました。「子供がそれぞれ家庭を持つようになり，この優先順位が受け継がれているのを見ることができて祝福だと感じています」とアルデルン長老は述べました。

主はその子供たちに多くを期待しておられます。そして主は子供たちがその期待にこたえる方法を用意しておられます。「わたしたちの家族が主に従えるように助けてくださった方々に心から感謝しています」とアルデルン長老は語ります。

預言者の教えに家庭で従うことはアルデルン家族が最も大切にしてきたことです。毎日聖文を研究することは習慣になりました。聖文研究が確実にできるように小さな子供たちがしてくれたのです。その日読んだことを示す赤いシールをカレンダーに交替ではりたかったからです。「小さな簡単なことで，良い習慣が築けるのです」とアルデルン姉妹は言います。

七十人第一定員会に召される前，アルデルン長老は，フランスとベルギーでの宣教師，ステーク若い男性会長，高等評議員，ビショップリック顧問，ビショップ，ステーク会長会顧問，フィジー・スバ伝道部会長，地域七十人として教会で奉仕してきました。

アルデルン長老は，ニュージーランドのワイカト大学で教育学の学士号と修士号を取得しています。職歴としては，教会教育システムで教師，ディレクター，ニュージーランドのセミナリーコーディネーター，ニュージーランドのチャーチカレッジの校長など，多くの職務を果たしました。■

カール・B・クック長老

七十人

ドイツ・ハンブルクに行くのに備えて言語訓練伝道部(宣教師訓練センターの前身)に入所していた若い宣教師のとき,カール・バート・クック長老はドイツ語と格闘していました。彼が簡単な単語を何とか覚えようとしている横で,同じディストリクト(グループ)の皆は早々と,もっと高度な内容に移っていました。

順調に上達しないことを悩んだクック長老は,神権の祝福と祈りを通して天の助けを願い求めました。あるとき心から祈った後で,特別な答えを受けました。「主はドイツ語を習得させるためにあなたを召されたのではありません。心と思いと力を尽くして仕えるために召されたのです。」

「その瞬間,『わたしにはできる』と思いました」と先日七十人第一定員会会員に召されたクック長老は語ります。「『心と思いと力を尽くして仕えることなら,わたしにもできる。』わたしは立ち上がり,救われた気持ちになりました。すると突然,わたしの物差しが『同僚やディストリクトの皆はどれくらいできるだろうか』から『主はわたしの努力をどのように感じておられるだろうか』に変わりました。」

その経験の後,言葉をもっと速く覚えられるようになったというわけではなかったものの,主が望まれることをしていると自覚したので,以前の悩みは解消したとクック長老は述べています。この教訓は,その後受けてきたすべての召し——ビショップ,ステーク会長会顧問,ステーク会長,ニュージーランド・オークランド伝道部会長,地域七十人,そして現在の召し——において大切なものとなりました。

クック長老はウィーバー州立大学からビジネスマーケティングの学士号を,ユタ州立大学から経営管理学の修士号を取得しました。不動産開発の分野で職歴を積んできました。

クック長老は1957年10月,アメリカ合衆国ユタ州オグデンで,父ラモナ・クック・ベーカーと亡き母バート・E・クック夫妻の間に生まれました。1979年12月14日,ユタ州オグデン神殿においてリネット・ハンセン姉妹と結婚しました。クック夫妻には5人の子供がいます。■

リグランド・R・カーティス・ジュニア長老

七十人

リグランド・レーン・カーティス・ジュニア長老は「主は心と進んで行う精神とを求め」られることを知っています(教義と聖約64:34)。

「彼は教会で奉仕することが大好きです。しかも喜んで,熱心に奉仕します。」1974年1月4日にソルトレーク神殿で結婚した妻のジェーン・コワン・カーティス姉妹はそう述べました。「奉仕することが彼の最大の望みなのです。」

カーティス長老は1952年8月,アメリカ合衆国ユタ州オグデンで,リグランド・R・カーティス,パトリシア・グレーデ・カーティス夫妻の間に生まれました。父親は後に七十人第二定員会の会員になりました(1990−1995年)。

七十人第一定員会に召される前,カーティス・ジュニア長老はイタリア北伝道部で,また,ビショップ,高等評議員,ステーク会長,イタリア・パドバ伝道部会長,そして地域七十人として奉仕しました。第一定員会に召されたときには,七十人第五定員会の会員としてユタ州ソルトレーク・シティー地域で奉仕していました。

カーティス長老は,ブリガム・ヤング大学から経済学の学位を得て卒業し,ミシガン大学から法務博士の学位を取得しました。召しを受けたとき,法務事務所の弁護士兼共同経営者として働いていました。勉学と仕事に加えて,カーティス長老夫妻は5人の子供を育てました。

2001年から2011年まで地域七十人として奉仕した後,カーティス長老は中央幹部とともに働く機会に感謝しました。「教会の特別な指導者たちとともに働くことから祝福を受けてきました。彼らを見て,彼らから学ぶことは大きな特権です。」

カーティス姉妹は,カーティス長老について,いつも心から進んで手を貸す人だと述べています。「夫はいつも『わたしがしましょう』という姿勢です」とカーティス姉妹は言います。

教義と聖約第64章34節は次の言葉で終わっています。「進んで行う従順な者は,この終わりの時にシオンの地の良いものを食べるであろう。」カーティス兄弟姉妹は,主に仕えることによって,自身も子供も孫も特別に祝福されてきたと述べています。■

W・クリストファー・ワデル長老

七十人

ウェイン・クリストファー・ワデル長老の家族の中に常に存在してきた不文律は「主を信頼する」です。

ワデル長老は人生の予期せぬ変化についてこう語ります。「主を信頼していれば，大きな変化を恐れる必要はありません。主はわたしたちにとって何が最も益となるかを御存じなので，未来には祝福が待っているのです。」

ワデル長老は，1959年6月にアメリカ合衆国カリフォルニア州マンハッタンビーチで，ウェイン・ワデル，ジョアン・ワデル夫妻の息子として生まれました。サンディエゴ州立大学から法律学の学士号を得ました。在学中はバレーボールの選手でした。職業人としては国際投資会社で多くの役職を務めてきました。

ワデル長老は，1984年6月7日，カリフォルニア州ロサンゼルス神殿でキャロル・スタンセル姉妹と結婚しました。4人の子供がいます。一致がワデル家族のモットーです。一致があるからこそ，家庭で救い主の福音に従う努力ができるのだと彼らは語ります。家族の活動も大切にしています。例えば，近くの浜辺で一緒に過ごしたり，家族でスポーツイベントに参加したりしています。

七十人第一定員会に召される前，ワデル長老は，スペインでの専任宣教師，ビショップ，高等評議員，伝道部会長会顧問，ステーク会長，スペイン・バルセロナ伝道部会長，地域七十人として奉仕しました。

ワデル長老は，一つ一つの経験が積み重なって「証という宝」が築かれてきたこと，そしてその証の宝に頼って人生の試練に立ち向かっていることを話してくれました。

この新しい召しへの備えについて語ったとき，ワデル長老は神殿について話しました。

「わたしたちはどのようにしてこの召しに備えてきたでしょうか。初めて神殿に行って聖約を交わしたとき，主から求められることは何でも喜んで行うことを決意しました。たとえ簡単なことではないとしても，です」と彼は言います。「神殿に行くこと，伝道すること，聖約を交わすこと，主の御手を見て主がどのように業を導いておられるかを知ること，必要なのはそれだけです。わたしたちは何も特別なことはしていません。ちょうど皆さんと同じように，交わした聖約を守っているだけです。」■

山下和彦長老

七十人

何年も前に日本の福岡で若いビショップになって以来，山下和彦長老は先輩の指導者たちの模範や態度から学んできました。

山下長老は妻の田代田鶴子姉妹と結婚した後すぐに，東京から福岡に転居しました。そこで山下長老は20代後半でビショップに召されました。

「わたしと家族にとって大変なことでした」と山下長老は言います。「当時3人の子供はまだ幼く，しかもわたしたちはその地域に移ったばかりでした。でも，同時にわたしにとって教え学ぶ大変良い経験で，わたしの証と信仰は強くなっていきました。

もちろん大変な時期でした。子供たちは幼かったですし，わたしは教会の指導者として仕えた経験がそれほどありませんでした」と山下長老は言います。「先輩の指導者たちは良い模範で，彼らの態度や振る舞いからたくさんのことを学びました。」

山下姉妹は，夫が多くの召しを受け，召しに関連する試練を通してすばらしい父親になり，すばらしい霊の指導者になるのを見てきたと語っています。山下長老が変わり，もっと優しく，もっと愛情深い父親，夫になっていく様子を長年にわたって見てきました。家族は毎年車で長距離旅行をするなど，ともに過ごすことを楽しんでいます。

山下長老は1953年9月に，山下潔，貞枝夫妻の間に生まれました。東京で育ち，1971年にエキスポ70（万国博覧会）を通じて教会を知りました。

山下長老は，埼玉大学から教育学の学士号を，筑波大学からスポーツ科学の修士号を取得しました。また，ブリガム・ヤング大学でスポーツ哲学を学びました。幾つかの大学の講師と教授を務め，多くの科学団体，地域社会団体，スポーツ団体で奉仕してきました。

山下長老夫妻は1980年3月29日に結婚し，日本東京神殿が完成した後の1980年12月に結び固められました。夫妻には6人の子供がいます。

七十人第一定員会に召される前，山下長老はビショップ，高等評議員，ステーク伝道部会長，ステーク会長，地域七十人として奉仕しました。■

ランドール・K・ベネット長老

七十人

矯正歯科医として順風満帆に歩んでいたときのことでした。ランドール・ケイ・ベネット長老と妻シェリーは，伝道に出る準備をするよう「はっきりした印象」を受けました。すぐに家を売らなければならなくなるという意味でした。

その印象を受けた理由はすぐには明らかになりませんでした。家を売るのに3年かかりました。それは「とても忍耐を要する」経験でした。そして，「わたしたちの決意が本物であることを主に示す」必要がありました，とベネット長老は言います。「主を信頼し続け，頻繁に神殿に参入すること，日々の聖文研究，祈り，断食，奉仕を通して主に近くある努力をしました。」

ついに家が売れました。そのすぐ後に，ベネット長老はプロボ宣教師訓練センターで奉仕するよう召されました。それから，ロシア・サマラ伝道部会長として召されました。

「すばらしいことでした。そして，謙遜（けんそん）になる機会でした。主がわたしたちのことを気にかけて，備えさせてくださっていたと分かったのですから」とベネット長老は述べました。「主はわたしたちが頭で考えていることや，心で感じていることを御存じであることが分かってきました。主はわたしたち以上によく御存じで，わたしたち以上に多くを御存じで，わたしたちを愛しておられ，その御方を信頼するべきであることを学びました。」

七十人第二定員会の会員および伝道部会長としての召しに加えて，ベネット長老はプロボ宣教師訓練センターの支部会長および顧問，ステーク高等評議会会員，ビショップリック顧問，ワード若い男性会長，そのほか様々な召しを果たし，フランス・パリおよびフランス・トゥールーズ伝道部の宣教師として奉仕してきました。

ベネット長老は，アルバータ大学（カナダ）から口腔外科の博士号を，そしてアメリカ合衆国南カリフォルニアのロマ・リンダ大学から矯正歯科学の修士号を取得しています。

ベネット長老は1955年6月にカナダ・アルバータ州マグラスで生まれました。両親はドナルド・ケイ・ベネット，アン・ダーレーン・ロング夫妻です。1977年4月23日にシェリー・ダイアン・ワッチマン姉妹とアルバータ州カードストン神殿で結婚しました。夫妻には4人の子供がいます。■

J・デビン・コーニッシュ長老

七十人

ジョン・デビン・コーニッシュ長老は，教会のすべての会員とすべての召しが大切であることを知っています。

「教会の召しについて考えるときに，飛行機のどこに座るかは重要ではなく，重要なのは飛行機に乗っていることなのだということを覚えておくことが大切です」と彼は言います。「自分が業に加わっていることは永遠に重要です。どの役割を果たしているかは，まったくと言ってよいほど大切ではありません。」

グアテマラ・エルサルバドル伝道部で奉仕する召しから，最も新しい七十人第二定員会の召しに至るまで，コーニッシュ長老は教会の召しを熱心に果たしてきました。これまで果たしてきた召しには，ワード若い男性会長，長老定員会会長，ワード幹部書記，大祭司グループリーダー，高等評議員，ビショップ，ステーク会長，ドミニカ共和国サンティアゴ伝道部会長，地域七十人が含まれます。

1951年4月にアメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーにおいて，ジョージ・コーニッシュ，ナオミ・コーニッシュ夫妻の間に生まれたコーニッシュ長老は，アメリカ合衆国ユタ州，ジョージア州，バージニア州で育ち，その後大学生としてユタ州に戻りました。

プロボで生活しているときに，ヤングシングルアダルトの活動でエレーン・シモンズ姉妹に出会いました。二人は1973年8月にユタ州マンタイ神殿で結婚しました。

妻とともに6人の子供を育てる間，コーニッシュ長老は合衆国空軍の医療部隊で働き，ジョンズ・ホプキンス大学から学士号と医学の学位を取得しました。その後ハーバード・メディカルスクール，ボストン小児病院で小児科の研修医として勤めました。

アメリカ合衆国アイダホ州，テキサス州，カリフォルニア州，ジョージア州での教育と仕事のため，家族は長年にわたり何度も引っ越しましたが，どこに住んでも家族の皆は教会で奉仕することが大好きでしたと，コーニッシュ長老夫妻は語ります。

「この業は世界中で発展しています。どこにいても主の子供たちに仕えることができるのは，大きな祝福です」とコーニッシュ長老は言います。

この七十人の召しは「教会のすべての召しと同じように，主の業の一部に加わる新たな機会となるでしょう」とコーニッシュ長老は語ります。「わたしたちはその特権に感謝しています。」

■

O・ビンセント・ハレック長老

七十人

オットー・ビンセント・ハレック長老は，幼いころから什分の一を納め，断食し，聖文を研究しました。それから宣教師に会い，バプテスマを受けました。

ハレック長老の母親は教会員でしたが，何年もの間教会に行っていませんでした。父親は教会員ではありませんでした。それでも家族は什分の一を納め，毎週断食をし，毎日聖書を読んで，困っている人に自分たちのものを与えていました。ハレック長老はそのような信仰を受け継いでいます。

ハレック長老は1949年1月にアメリカ領サモアで生まれました。父オットーと母ドロシーはアメリカ合衆国カリフォルニア州の学校に彼を送りました。17歳のとき，生徒会の友人の何人かがほかの生徒と違うことに気づきました。「ミューチャルに誘われました。その後どうなったかは話すまでもないでしょう」とハレック長老は言います。

ハレック長老はブリガム・ヤング大学から広告とマーケティングの学士号を取得しました。アメリカ領サモアに多くのビジネスを所有し，慈善事業にも関与しています。ハレック長老と妻ペギー・アン・キャメロン姉妹は1972年6月29日にユタ州プロボ神殿で結婚しました。3人の子供がいます。

結局，ハレック長老の家族全員が福音を受け入れました。ハレック長老は80歳の父親にバプテスマを施して，母親が結婚50年目にして教会に再び活発になる姿を見るという特権を得ました。

七十人第二定員会に召される前，ハレック長老はサモア・アピア伝道部の専任宣教師，ビショップ，ステーク高等評議員，祝福師，ステーク会長，そして最近までサモア・アピア伝道部会長として奉仕しました。

ハレック長老は，人生のすべての経験が現在の自分になるように導いてくれたと信じています。「人生を振り返ると，主の御手があったと言うことができます」とハレック長老は言います。「主がわたしたちを信頼してくださることに感謝と誇りを感じます。わたしは主を愛しています。そして，良い道具として主に使われる者になりたいと望んでいます。主が助けてくださることを知っています。」■

ラリー・Y・ウィルソン長老

七十人

仕事，教会，家族の責任のバランスを取ることは，ラリー・ヤング・ウィルソン長老にとって大変なことでした。しかし自分にとって家族がどれほど大切であるかを，家族がはっきり理解できるようにしてきました。

「この人生で最も成長させてくれた経験は，夫となり，父親となることでした」とウィルソン長老は言います。「子供の運動会や音楽発表会などの行事を，ほとんど欠かさず見に行きました。夜には，子供の寝る時間に本を読み聞かせ，一緒に祈って，それから布団をかけてやりました。『そこにいる』ということはとても大切です。」

人生のあらゆる面で指導的な役割を果たす人に求められる事柄について，ウィルソン長老はよく知っています。長老は1949年12月にアメリカ合衆国ユタ州ソルトレーク・シティーで，ジョージ・ウィルソンとアイダ・ウィルソン夫妻の間に生まれ，アメリカ合衆国アイダホ州ポカテロで育ちました。ハーバード大学から英語学とアメリカ文学の学士号を取得し，後にスタンフォードビジネス大学院から経営管理学の修士号を取得しました。

ウィルソン長老は，ヘルスケア産業でコンサルタントおよび会社役員として働いてきました。仕事は大変忙しいものでしたが，ウィルソン長老は仕事に振り回されないようにしてきました。

「仕事生活に境界線を引く必要があります」と彼は言います。「そうしなければ，仕事はすべてをのみ込んでしまいます。現実的に言って，仕事，教会，家族の時間は，順番に保留にしなければなりません。導きを求めて祈れば，その日に何を優先するべきかが分かります。」

ウィルソン長老は，七十人第二定員会に召される前に，ブラジル中央伝道部の宣教師，ビショップ，ステーク会長，地域七十人として熱心に奉仕しました。

ウィルソン長老がすべての奉仕の中で大切なバランスを見いだすことができるように助けているのが，妻リンダ・マッケイ・ウィルソン姉妹です。二人は1974年7月10日にユタ州ローガン神殿で結婚しました。ウィルソン夫妻は4人の子供を育てました。

ウィルソン長老は言います。「わたしが教会の集会に行くときには，いつも妻が『行ってらっしゃい，あなた。主に仕えてきてね』と言います。彼女は子供たちに，わたしの奉仕のより深い意味を教えていたのです。やがて子供たちからこう言われるようになりました。『行ってらっしゃい，お父さん。主に仕えてきてね。』」■

1940年にウェルフェアスクウェアを訪問した大管長会のデビッド・O・マッケイ管長，ヒーバー・J・グラント大管長，J・ルーベン・クラーク・ジュニア管長（左から右）。

教会福祉の75周年を祝う

ヘザー・リングリー
教会機関誌

教会の第181回年次総大会の幾つかの説教では，75周年を迎える教会の福祉プログラムを記念することについて中心的に述べられた。

プログラムが開始された1936年のその日，当時大管長会の顧問だったデビッド・O・マッケイ管長は，教会福祉計画が天の導きを受けたプログラムであることを断言した。「〔福祉プログラムは〕神の啓示によって定められたもので，これほど教会員の福利に役立つものはほかにありません。」[1]

あれから75年が過ぎ去った。経済周期は一周して再び元に戻った。世界は社会的，文化的に大きく変わり，教会は途方もない発展を遂げた。

しかし，1936年のあの日に神の導きを受けた教会の福祉計画について語られた言葉は，当時と同じように今日（こんにち）も真実である。

福祉の原則

1929年に合州国は，株価が暴落し，巨大な経済損失を経験した。1932年にはユタ州の失業率は35.8パーセントに上った。

教会には倉の制度や会員が仕事を見つけるのを助けるプログラムなど，福祉の原則を体現するものがあったが，大勢の会員は政府の援助に頼った。

「返済する意思もなく合衆国政府の援助を受ける風潮が民の間に蔓延（まんえん）しています」と，この時期にヒーバー・J・グラント大管長（1856－1945年）は述べた。[2]

教会の指導者たちは，怠惰や「援助を受けて当然という意識」を助長させずに，困窮している会員たちを助けたいと願っていた。目標は，人々が自立できるように助けることであった。

1933年に大管長会は発表した。「五体満足な教会員は，単なる施しを受けるような事態に陥ることがないようにしてください。施しは最後の手段です。……救済活動を指揮する教会役員は，困っている教会員が受けた援助の代わりに何らかの奉仕ができるよう策を講じなければなりません。」[3]

この原則が実践され，聖徒たちが信仰を働かせることにより，個々の教会ユニットも教会全体としても，縫製クラスや缶詰作りクラスを組織し，作業プロジェクトを調整し，農園を取得し，義にかなった，つましく，自立した生活を強調した。

教会福祉計画

教会保全計画（1938年に教会福祉計画に改名）が組織されて，人々は自分が受けた支援に対して，能力の範囲で仕事をする機会が与えられた。この計画は，物をもらうために手を伸ばすのではなく，手を上げて働く意思を示すことを教えた。

「わたしたちの第一の目的は……忌まわしい怠惰を打破し，施しのもたらす悪弊を除去し，独立心，勤勉，倹約，自尊心を再びわたしたちの間に確立する体制を築くことである」とグラント大管長は1936年10月の総大会で述べた。「勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければならない。」[4]

長年にわたって教会の福祉制度は多くのプログラムを実施してきた。それには社会福祉部門（現在のLDSファミリーサービス），LDS慈善事業団，人道支援部門，緊急対策部門などが含まれる。これらやそのほかのプログラムは，教会員であるなしを問わず，何千何百もの人々の生活を祝福してきた。

世界へ出て行く

第二次世界大戦の勃発（ぼっぱつ）により大恐慌が終わりを告げた後も，大管長会第二顧問のJ・ルーベン・クラーク・ジュニア管長は，賢明にも，福祉プログラムを継続するよう主張した。1945年10月，ハリー・S・トルーマン合衆国大統領は，教会の大管長であるジョージ・アルバート・スミス（1870－1951年）に，戦後荒廃した

パン作り（上左），ブドウ栽培（上右），そのほかの方法で助けながら，教会福祉プログラムは，イエス・キリストへの信仰を通じて個人の自立を目指す。

ヨーロッパ各地にいつどのように物資を供給できるか見積もりを提出するように求めた。トルーマン大統領が驚いたことに，教会指導者からの回答は，食糧と衣料品などの救援物資の調達はすでに終え，配送の準備が整っているとのことだった。

長年にわたって，教会はもっと多くの必要な分野に，もっと広い地域に対応できるように，福祉施設と福祉プログラムを拡張してきた。1970年代には，教会の福祉プロジェクトと福祉生産は，メキシコ，イングランド，および太平洋諸島に拡張された。それに続く10年間に，アルゼンチン，チリ，パラグアイ，ウルグアイにおいて，教会の職業センターが開かれた。合州国以外で開設されたのはそれが初めてである。

1985年に教会人道支援部門が設立されると，教会の国際福祉事業は大幅に進歩した。貧困や災害に応じて世界中に届けるために，衣料品やそのほかの必需品が分類された。

今日，世界中で，特に発展途上国で教会員が増加していることにより，新たな課題が生じ，福祉プログラムはそれらに対応するために調整している。

今日のために啓示された計画

福祉の基本原則，すなわち自立と勤労の原則は，主がアダムに命じられたときから今日に至るまで，変わらずに続いている。「あなたは顔に汗してパンを食べ……る。」（創世3：19）

末日において主は宣言された。「倉は教会員の奉献によって維持しなければならない。そして，やもめと孤児を扶養しなければならない。貧しい者も同様である。」（教義と聖約83：6）それから，次のことを思い出させてくださっている。「しかしそれは，わたし自身の方法で行われなければならない。」（教義と聖約104：16）

福祉の原則は，世界中の会員が生活の中で各家庭の日々の原則として実践している。

「この教会の強さ，主のほんとうの倉は，主の民の家庭と心の中にあるのです」と十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は言った。[5]

イエス・キリストへの信仰を通じて個人が自立するにつれて，このプログラムの長期目標が果たされていく。クラーク管長は福祉計画の目標についてこのように定義した。「与える側と受ける側双方の教会員の人格を築き，人の心の奥深くに眠っている最も優れたものをすべて解き放ち，内に秘められた豊かな精神を開花結実させることである。これは結局，この教会の使命と目的であり，また存在理由でもある。」[6] ■

注

1. デビッド・O・マッケイの言葉，ヘンリー・D・テーラー，*The Church Welfare Plan*，未刊の原稿，ソルトレーク・シティー（1984年），26－27
2. ヒーバー・J・グラント，Conference Report，1933年10月，5
3. ジェームズ・R・クラーク編，*Messages of the First Presidency of The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints*，全6巻，（1965－1975年）第5巻，332－334
4. ヒーバー・J・グラント，Conference Report，1936年10月，3
5. ロバート・D・ヘイルズ「私たちの生活を導く福祉の原則――人の幸福のための永遠の計画」『聖徒の道』1986年7月号，29
6. J・ルーベン・クラーク・ジュニア，ステーク会長のための特別集会，1936年10月2日

霊感されたプログラムに関する霊感された言葉——福祉についての話者の言葉

教会の第181回年次総大会の幾つかの説教では，75周年を迎える教会の福祉プログラムを記念することについて中心的に述べられた。

以下は，主が御自分の子供たちが自助努力をするためにお定めになった福祉プログラムと福祉の原則に焦点を当てた説教からの抜粋である。

トーマス・S・モンソン大管長

「末日聖徒イエス・キリスト教会の福祉プログラムは全能の神の霊感によって実施されていることを宣言します。」（「聖なる神殿——世界に輝くかがり火」90ページ参照）

大管長会第一顧問
ヘンリー・B・アイリング管長

「わたしたちの時代に，天の御父の子供たちが物質的に大いに困窮する時が再びやって来ました。それはいつの時代も同じでしたし，これからも同じでしょう。教会福祉プログラムの根底にある原則は，一つの時代や場所に限定されない普遍的なものです。

主がわたしたちに勧め，命じておられるのは，助けの必要な人を鼓舞するという主の業に参加することです。わたしたちはバプテスマの水の中で，そして聖なる神の神殿の中で，そのように行うと聖約します。わたしたちは日曜日に聖餐を受けるときに，その聖約を更新します。」（「善を行う機会」22ページ参照）

管理ビショップ
H・デビッド・バートンビショップ

「預言者の指導の下で展開されている福祉計画は教会歴史における一つの小さな出来事ではありません。福祉計画が基としている原則はわたしたちがどのような民となるべきかを示しています。それは，救い主であり模範であるイエス・キリストの弟子の本質です。

この神聖な業は苦しんでいる人や助けを必要としている人に恵みと祝福をもたらすだけではないのです。神の息子娘として，わたしたちは地上にいる間に互いを心から思いやることがなければ，永遠の命を受けることができません。なぜなら，犠牲と自身を惜しみなくささげるという慈善の心に富んだ行いの過程で，犠牲と奉献という日の栄えの原則を学ぶからです。

これは救い主が御自身の弟子たちに求めておられる神聖な業です。主が地上におられたとき，好んで行われた業です。わたしはもし主が今ここにおられるとしたら，この業を行っておられることを確信しています。」（「福祉という聖めの業」81ページ参照）

中央扶助協会会長会第一顧問
シルビア・H・オールレッド

「今日教会の男女は，助けを必要としている人を世話する務めに一緒に取り組んでいます。……愛の原則を指針として人の世話をするならば，わたしたちは奉仕を通して福音を実践していることになります。これこそが福音の真髄であり，清く汚れのない信心なのです。」（「主の弟子に不可欠なこと」84ページ）■

永代教育基金，預言者の約束を成就する

ナターシャ・ギャレット
教会機関誌

10年前，ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910－2008年）は，発展途上国に住む多くの帰還宣教師などふさわしい若者たちが貧困から抜け出せずにいるという問題について語り，その解決策として永代教育基金（PEF）を提示した。PEFは教会の会員や教会に好意的な人々の寄付を元手に回転資金を作り，若者が教育ローンを組んで地元での有利な就職に備え，ローンを返済してほかの若者も同じような機会を持てるようにする。教会はこれを成功させるために，ボランティアと教会にすでにある手段に頼ると，ヒンクレー大管長は述べた。

奇跡がもたらされた

ヒンクレー大管長が2001年3月31日に壇上に立って，教会の神権者に向かって永代教育基金のビジョンを説明したとき，多くの人は主の預言者が導きを受けたことをはっきりと理解した。

写真／ブライアン・ウィルコックス

10年前に開始された永代教育基金は，4万7,000人以上の利用者を助けてきた。

ヒンクレー大管長の指示に従って2001年の秋までに急いでローンを開始するために，新たに指名されたPEFの指導者たちは，失敗するかもしれないという不安を感じていたかもしれない。預言者の霊感されたアウトライン以外には，事業計画や詳細な提案は何もなかった。プログラムはヒンクレー大管長の大会説教を憲章として用いながら組織された。ディレクターたちが召され，プログラムの基本構造が形を成そうとしつつあった段階で，早くも何百通ものローン申込書が教会本部に押し寄せていた。

しかし奇跡はすでに起こっていた。最初の年に数百万ドルもの寄付が集まった。PEFの仕事にまさにふさわしい経歴を持つ人たちが，すぐにボランティアのディレクターとして奉仕できるようになった。PEFを世界的にサポートするのに必要な基盤は，すでに教会教育システムのインスティテュートプログラムと教会職業支援センターに設けられていた。必要なものは何でもすぐに調達され，ヒンクレー大管長は2002年4月の報告の中で，プログラムは「堅固な基盤」[1]の上に運営されていると述べた。

現在PEFで訓練と連絡調整を担当しているボランティアディレクターのレックス・アレン兄弟はこう語った。「昔，モーセは紅海に杖（つえ）をかざし，海を二つに分けました。ヒンクレー大管長はまったく同じ信仰をもって，貧困の暗い海に預言者の外套（がいとう）をかざし，PEFを始めました。」

「これは奇跡です」とヒンクレー大管長は何度も言った。

あれから10年が過ぎたが，さらに大きな奇跡が始まりつつあるようだ。

「ヒンクレー大管長の呼びかけによって，〔PEFを利用して〕生活を向上させている人々も，PEFに寄付する人々も，同じように，救い主に近づくよう助けられているのです。」
――ジョン・K・カーマック長老

約束の成就

PEFについて発表したときやその後の説教の中で，ヒンクレー大管長はPEFから幾つかの祝福がもたらされると約束した。PEFを利用して卒業した人々がローンを返済するにつれて，一つ一つの約束がさらに勢いを増して成就している。

機会と就職

「〔彼らは〕良質な教育を受けられるよ

うになるでしょう。その結果，彼らは……貧困の淵(ふち)から救われるでしょう」とヒンクレー大管長は述べた。[2]

2011年2月現在，学業や訓練を終えて仕事を探した人の90パーセント近くが就職先を見つけることができた。現在勤めている人の約78パーセントが，教育や訓練を受ける前よりも良い仕事に就いていると言っている。PEFを利用して学業や訓練を終えた人々の平均収入は，それ以前の3倍から4倍に上がり，経済状況が大きく改善されたことを示している。

家族と地域社会

「〔彼らは〕結婚し，生計を立て，社会に貢献できる地位に就けるような技能を身に付けることができるでしょう」とヒンクレー大管長は宣言した。[3] PEFを利用した人々の3分の1を少し超えるくらいの人々がすでに結婚している。

PEFの管理ディレクターを務めるジョン・K・カーマック長老はこう述べている。「これまでのところPEFの最もすばらしい成果の一つは，若い人々がもっと希望を抱くようになったことです。その希望のおかげで，彼らは結婚して人生を前向きに生きる勇気を得ているのです。」

そのような中で育っていく彼らの家族は，さらに明るい未来を期待している。

教会と指導力

「彼らは忠実な教会員として，什分(じゅうぶん)の一と断食献金を納めるでしょう。そして，彼らの影響力により，彼らの住む地域の教会はさらに強くなるでしょう。」[4]

過去数年にわたってPEFが運営されてきたある地域では，現在，教会指導者の10から15パーセントを，PEFを利用した人々が占めています。

「利用者は，ほかの若者たちにPEFのローンを利用して貧困から抜け出すように勧めています」とレックス・アレン兄弟は言いました。「10年が過ぎ，祝福を受けた人がほかの人にその祝福を分かち合い，希望の輪が広がる様子を目にしています。」

多くの人の生活に表れた効果

「若い男女，彼らが将来養う家族，強力な地元の指導者が養成されるために祝福される会員など，そのおかげで生活が潤うすべての人にとって〔PEFは〕祝福となるでしょう」とヒンクレー大管長は約束した。[5]

2001年の秋以来，4万7,000人以上がPEFを利用して恩恵を受けてきた。しかし，PEFを利用した家族によって養われ霊感を受けてきた親族や，奉仕し貢献する能力を伸ばした会員によって祝福されたワードや支部，有能な労働者を必要とする地元経済を含めば，恩恵を受けた人の数はさらに増えるであろう。

アレン兄弟はこう語った。「影響を受けたすべての人について考えてみてください。その影響はPEFに寄付した人々，つまり資金を提供した人，その家族，彼らのワードや支部，このような人々皆が彼らの貢献によって祝福されます。」

カーマック長老はこう語った。「ほとんどの末日聖徒は，この基金やそのほかのふさわしい活動に定期的に何かを提供する能力があります。ヒンクレー大管長の呼びかけによって，〔PEFを利用して〕生活を向上させている人々も，PEFに寄付する人々も，同じように，救い主に近づくよう助けられているのです。」

発展を続ける

永代教育基金に対するヒンクレー大管長の預言者としてのビジョンは成就してきた。この霊感されたプログラムの影響は世界に広がり続けている。これからもそのビジョンはさらに多くの人たちに成就し続けるだろう。寄付は集まり続け，ローンは返済され，それによって新しい世代の利用者は自分自身と自分の状況を改善できるのである。

永代教育基金についての詳しい情報はpef.lds.org〔英語〕に掲載されている。■

注

1. ゴードン・B・ヒンクレー「教会は前進する」『リアホナ』2002年7月号，6；*Ensign*，2002年5月号，6
2. ゴードン・B・ヒンクレー『リアホナ』2002年7月号，6；*Ensign*，2002年5月号，6
3. ゴードン・B・ヒンクレー『リアホナ』2002年7月号，6；*Ensign*，2002年5月号，6
4. ゴードン・B・ヒンクレー「永代教育基金」『リアホナ』2001年7月号，62；*Ensign*，2001年5月号，52
5. ゴードン・B・ヒンクレー『リアホナ』2001年7月号，62；*Ensign*，2001年5月号，52

アンケートにご協力ください

『リアホナ』または*Ensign*，そしてこれらの機関誌のメッセージを読んでいる何百万もの人々を感化したいと思ったことが一度でもある人にとってまたとない機会です。編集部では毎年，世界中の会員の中から，意見や感想を書いて，短い簡単なオンラインアンケートに答えてくださる方を探しています。ご協力いただける方は，liahona@ldschurch.orgあるいはensign@ldschurch.orgに電子メールをお送りください。件名には“Magazine Evaluation”とお書きください。ご協力いただける方は，インターネットにアクセスでき，英語，ポルトガル語，またはスペイン語でコミュニケーションができる必要があります。あなたの意見で，機関誌は世界中の読者の必要をさらによく満たせるようになるでしょう。■

© IRI

400年前に翻訳された欽定訳聖書は，今日の教会員にも影響を与え続けている。

400周年を迎える聖書を祝う最善の方法はもっと研究すること，使徒たちの提案

「今日(こんにち)わたしたちが聖書を持っているのは偶然によるものではありません。」十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老はそう語った。[1] バラード長老は，聖書が存在するのは，義にかなった人々が神聖な出来事と教えを記録するようにという促しに従ったおかげであり，また翻訳者や，後の時代に聖書を「守り，保存する」ために多くの犠牲を払った人々の信仰と勇気のおかげであると説明した。

2011年5月2日は欽定訳聖書の初版が発行されてから400年目に当たる。聖書の発行を記念するため，世界中ですでにシンポジウムや式典，コンサート，弁論大会など様々な行事が行われている。十二使徒定員会の会員は，この記念すべき日を別の方法で祝うことを提案している。救い主の生涯と務めを研究したり，古代の預言者や使徒たちの言葉を学んだりすることを通して，聖書への愛を深めることによって祝うのである。

「わたしたちは聖書にどれほど感謝するべきでしょう」とバラード長老は語った。「わたしは聖書を愛しています。その教えと教訓，聖書に宿る御霊(みたま)を愛しています。……聖書を読むことから得られる物の見方と平安を愛しています。」[2]

十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老も同じように述べている。「わたしたちは聖書を愛し，敬っています。……聖書は……わたしたちの『標準聖典』において常に筆頭に挙げられています。」[3] ホランド長老は，福音が回復されたのは，ジョセフ・スミスが聖書を研究し，神は祈りにこたえてくださるというヤコブの手紙第1章5節の約束を信じたからであることを思い起こさせた。

回復に通じる道を備えた出来事に触れながら，十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は，聖書の翻訳と出版を可能にしたすべての人に対する感謝を込めて語った。彼らの努力のおかげで，だれでも欽定訳聖書を読めるようになったのであり，それを読むことのできたジョセフ・スミスのおかげで，真実の教会が地上に回復された。「今日，末日聖徒イエス・キリスト教会が承認している英語版の聖書が欽定訳であることに，驚くことがあるでしょうか。」[4]

バラード長老は述べている。「聖書の力を知っていた無数の殉教者を決して忘れてはなりません。わたしたちが聖書の言葉を読み，天の御父の王国における永遠の幸福と平安へ通じる道を見いだせるように，彼らは命をささげてくれたのです。」[5]

十二使徒定員会のボイド・K・パッカー会長は，何百年も引き継がれた家庭用聖書を開いて見たときの経験を語った。そのタイトルページに次のような言葉が記されていた。「聖書から最高の感銘を受けると，読者はそれを心に深く刻み込む。」[6] それからパッカー会長はこの聖句を読んだ。「わたしたちの推薦状は，あなたがたなのである。それは，わたしたちの心にしるされていて，すべての人に知られ，かつ読まれている。」（2コリント3：2）

聖書とその中に記されている神聖な文章を知り，愛することによって，福音の回復という祝福に感謝を示し，その祝福を味わうことができる。

D・トッド・クリストファーソン長老は語った。「聖書に加え，モルモン書，教義と聖約，高価な真珠など900ページにも上る聖文を与えられていることがどれほど大きな祝福か考えてください。」[7] ■

注

1. M・ラッセル・バラード「聖書という奇跡」『リアホナ』および *Ensign*，2007年5月号，80
2. M・ラッセル・バラード『リアホナ』および *Ensign*，2007年5月号，81
3. ジェフリー・R・ホランド「わたしの言葉〔は〕……決して絶えることがない」『リアホナ』および *Ensign*，2008年5月号，92
4. ロバート・D・ヘイルズ「回復と再臨の備え――『わたしの手はあなたのうえにある』」『リアホナ』および *Ensign*，2005年11月号，90
5. M・ラッセル・バラード『リアホナ』および *Ensign*，2007年5月号，80
6. ボイド・K・パッカー「モルモン書――イエス・キリストについてのもう一つの証」『リアホナ』2002年1月号，73；*Ensign*，2001年11月号，63
7. D・トッド・クリストファーソン「聖文の祝福」『リアホナ』および *Ensign*，2010年5月号，35

イタリア・ローマ神殿の完成図

*「すべての神殿は神の宮であって，同じ機能を果たし，同じ祝福と儀式が授けられています」と，
トーマス・S・モンソン大管長は日曜午前の部会で述べた。
「世界で歴史的に最も由緒ある地の一つであり，古代の使徒ペテロとパウロが
キリストの福音を宣べ伝え……た都市に建てられるという意味で，イタリア・ローマ神殿はほかに類を見ません。
……やがて，この『永遠の都』の忠実な人々は神の聖なる宮で永遠の儀式を受けることでしょう。」*

2011年5月20日発行（毎月1回20日発行） 第13巻第5号 昭和42年12月18日第3種郵便物認可 ISSN 1344-8595

「救い主と，主のわたしたちへの偉大な贖（あがな）いの犠牲に対する愛をお伝えします。……キリストがゲツセマネにおいて全人類のためにしてくださったことの重要性を，完全に理解できる人はいないでしょう。それでもわたしは，わたしたちのための主の贖いの犠牲に日々感謝しています」と，トーマス・S・モンソン大管長は第181回年次総大会の閉会に当たって述べた。「主は万物を救うことができるように，万物の下に身を落とされたのです。それにより現世を越えてわたしたちに命を与えてくださいました。アダムの堕落からわたしたちを引き上げてくださいました。わたしは心の底から主に感謝しています。主はどのように生きたらよいかを教えてくださいました。どのように命をささげることができるか教えてくださいました。そして救いを約束してくださったのです。」

0 402096 853001 09685 300